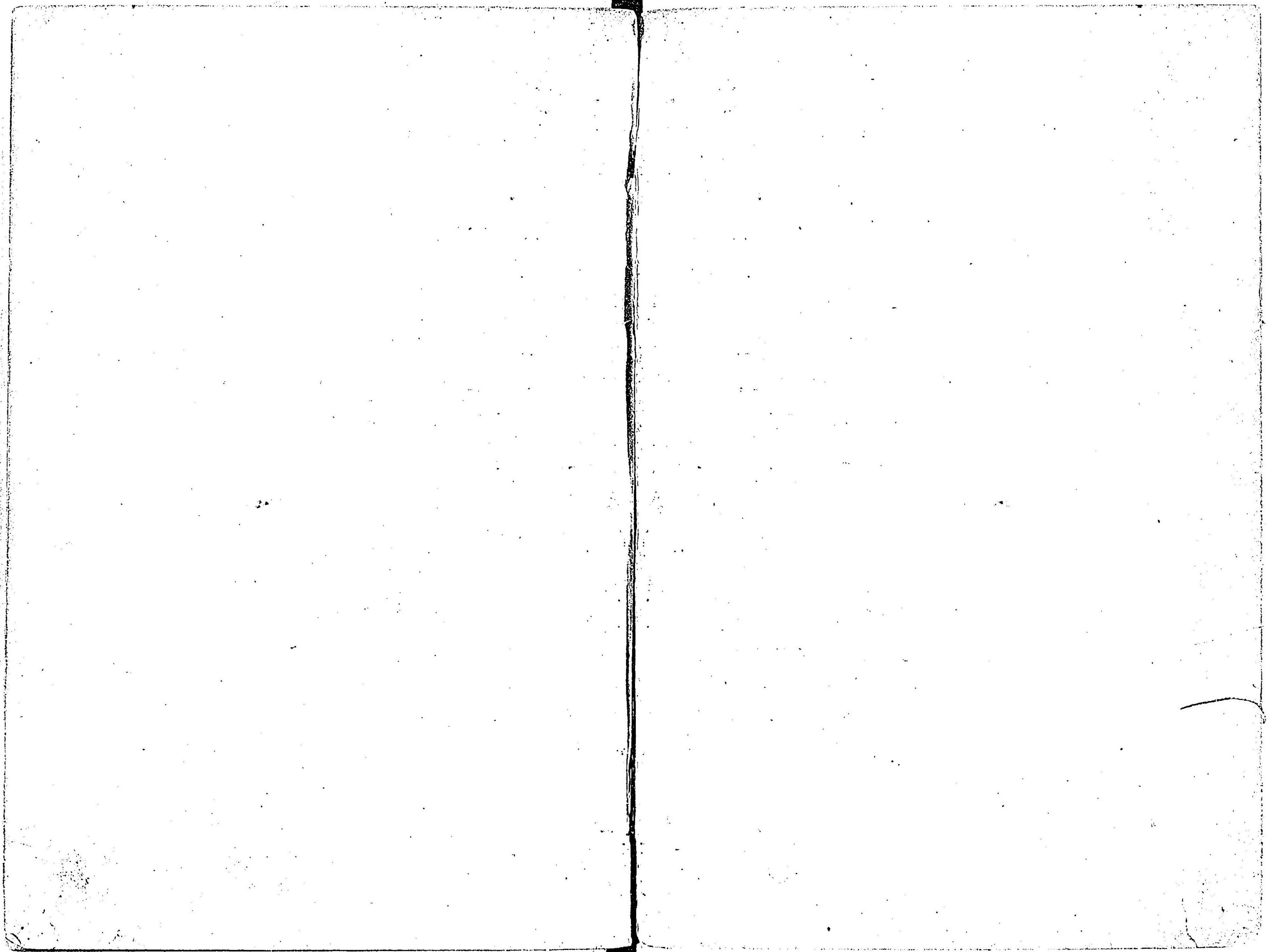


60  
173

笹原新一郎纂著

救急醫術教科書

商船學校



笹原新一郎纂著

救急醫術教科書

商船學校

明治  
27 22  
丙交

60-173

# 救急醫術教科書

## 序言

余明治三十四年四月救急醫術ノ講座ヲ  
擔任シ教授スルニ際シ曩ニ救急法ヲ編  
シ人體ノ構造及ヒ生理的作用ノ概要ヨ  
リ損傷其他ノ急變ニ依リ災害ヲ蒙リタ  
ルトキ施スヘキ救護ノ簡法ヲ述ヘタリ

シカ爾來學生ニ教授スル茲ニ四年其欠  
ヲ補ヒ嶄新ナル治療法及ヒ必要ナル損  
害等ヲ遺漏ナク口述セリ而シテ船長機  
關長ノ職豈損傷ノ救護ノミナランヤ船  
中ニ發起シタル急患ヲモ速ニ適當ノ治  
ヲ加ヘ救フヘキノ任ヲ有スルニアラス  
ヤ故ニ今ヤ進ミテ内科藥物科ノ要ヲ摘  
載シ且ツ詳說細示稍々高尚ナル術式ヲ

授ケ以テ完全ヲ期セントス業ヲ受クル  
モノ之ニ熟セハ直接事ニ當リテ裨益シ  
間接國家ノ進運ヲ扶クルコト蓋シ尠少  
ナラサルヘキナリ

本書ハ素ヨリ學生ノ備忘録ニシテ敢テ  
高尚ナル學說及ヒ術式ヲ詳說セス普通  
行ヒ得ヘキ方法ノミナリト雖世上ニ普  
及スル救急書トハ稍々其趣旨ヲ異ニセ

リ之レ他ナシ專ラ海員ニ適スルカ如ク  
編シタレハナリ

明治三十七年九月

述者識

救急醫術教科書目次

身體ノ構造及ヒ生理的作用ノ概略……………一

骨……………一

筋肉……………七

神經系統……………九

血行器……………一二

呼吸器……………一六

消化器……………一八

泌尿器……………二三

皮膚……………二四

五管……………二六

損傷論……………二九

創傷治療……………三〇

第一期癒合	三二
第二期癒合	三二
救急ニ要スル藥品繙帶材料及ヒ器械	三三
器械的作用ニ因ル損傷	三三
挫傷	三四
挫創	三六
裂創	三八
切創	三九
刺創	四四
溫熱的作用ニ因ル損傷	四七
火傷又熱傷	四七
凍傷	五二
凍瘡	五三
化學的作用ニ因ル損傷	五四

酸類ニ因ル者	五四
亞爾加里ニ因ル者	五五
昆虫及ヒ毒虫螫傷	五五
蚊刺傷	五五
蚤刺傷	五六
床虫刺傷	五六
蜘蛛咬傷	五六
蠍刺傷	五六
狗蠅咬傷	五七
百足虫ノ咬傷	五七
蜂螫螫傷	五七
蛇咬傷	五九
附毒矢ノ刺傷	六一
魚類ノ刺傷	六二

犬咬傷	六二
鼠咬傷	六四
銃創及ヒ砲創	六五
出血	六七
動脈出血	六八
靜脈出血	六八
毛細管出血	六九
止血法	七一
屈曲法	七二
壓迫法	七二
止血器ノ應用	七六
脈管ノ壓迫スヘキ主要ノ部位	七八
結紮法	八一
止血藥	八三

大出血時ノ處置	八四
骨折	八四
單純骨折	八四
複雜骨折	八五
長骨骨折	八九
下顎骨折	九〇
鎖骨骨折	九〇
脊椎骨傷	九一
骨盤骨折	九一
肋骨骨折	九一
頭蓋骨拆	九二
關節脫臼	九三
骨折ト脱臼トノ區別	九四
下顎脱臼	九六



鎖骨脱臼	九八
肩胛關節脱臼又上膊脱臼	九九
肘關節脱臼	一〇三
腕關節脱臼	一〇五
指節關節脱臼	一〇六
股關節脱臼	一〇六
膝關節脱臼	一〇九
足關節脱臼	一一一
跗前骨脱臼	一一二
趾脱臼	一一三
關節ノ轉捩(捻挫)	一一三
凍死	一一三
溺死	一一六
救助法	一一一

窒息	一二四
硬塞ニ因ル者	一二五
有毒瓦斯ニ因ル者	一二五
絞縊	一二七
昏倒	一二八
中毒	一二九
腐蝕毒	一二九
麻醉毒	一三一
中暑	一三四
人工呼吸法	一三五
シルウエスタト氏法	一三五
ホワート氏法	一三七
ラポテ氏ノ法	一三九
マルシャル、ホール氏法	一三九

シユルレル氏法.....一四一

運搬法.....一四一

擔架ヲ以テ運搬スル法.....一四二

一人ニテ運搬スル法.....一四八

二人ニテ運搬スル法.....一四八

運搬車船楫ニテ運搬スル法.....一五一

縋帶術.....一五三

三角巾ノ用法.....一五四

卷軸帶ノ用法.....一六〇

縋帶解除ノ注意.....一六四

身體各部ニ於ケル縋帶術式.....一六五

異物除去法.....一七五

眼ノ異物.....一七五

耳ノ異物.....一七五

鼻ノ異物.....一七六

皮下ノ異物.....一七六

爪下ノ異物.....一七七

指環ノ箝頓.....一七七

「カテ」テル使用法.....一七七

内科

傳染病

猩紅熱.....一八二

發疹室扶斯.....一八三

痘瘡.....一八三

「ペスト」.....一八四

腸室扶斯.....一八五

赤痢.....一八六

虎列刺.....	一八八
實扶的里.....	一九一
黃熱.....	一九一
丹毒.....	一九二
流行性感冒.....	一九三
急性肺炎.....	一九四
淋病.....	一九五
軟性下疳.....	一九七
梅毒.....	一七八
腳氣.....	二〇〇
間歇熱.....	二〇一
<b>呼吸器病</b> .....	二〇三
鼻腔出血.....	二〇三
急性鼻加答兒.....	二〇四

急性喉頭加答兒.....	二〇五
急性氣管枝加答兒.....	二〇六
喘息.....	二〇七
咯血.....	二〇八
肋膜炎.....	二一〇
<b>消化器病</b> .....	二一一
加答兒性口內炎.....	二一一
急性咽頭加答兒.....	二一二
扁桃腺炎.....	二二三
吐血.....	二二四
消化不良.....	二二五
急性胃加答兒.....	二二六
胃痛.....	二二八
盲腸炎.....	二二八

痔核	二二〇
疝痛又腹痛	二二一
下痢	二二二
便秘	二二四
蛔虫	二二五
黄胆	二二七
胆石疝	二二九
全身病	二三〇
急性關節痲痺質斯	二三〇
筋痲質斯	二三一
失苟兒倍屈	二三一
神經系病	二三二
腦充血	二三三

腦貧血	二三四
腦出血	二三四
神經痛	二三六
破傷風	二三七
癩痢	二三八
神經性心悸亢進	二三九
船暈	二四〇
藥物	二四一
第一章 藥品	二四一
薄荷油	二四一
蓖麻子油	二四一
亞麻仁油	二四一
「カルロン」油	二四二

阿列布油	二四二
肝油	二四三
稀鹽酸	二四三
沃度丁幾	二四三
阿片丁幾	二四四
依的兒性鐵丁幾	二四五
苦味丁幾	二四五
薑根丁幾	二四五
芳香安母尼亞精	二四六
甘硝石精	二四六
礮亞精	二四六
「コロ、ホルム」精	二四七
民埤列兒精	二四七
依的兒精	二四七

重碳酸曹達	二四八
明礬	二四八
骨楸巴拔爾撒母	二四八
酒石英	二四九
瀉利鹽	二四九
「サルチル」酸曹達	二五〇
酒石酸	二五〇
鹽酸加留謨	二五〇
臭素加里	二五一
沃度加里	二五一
硫酸亞鉛	二五二
甘汞	二五二
沈降硫黃	二五三
ドール氏散	二五四

樟腦	二五四
硝酸銀	二五四
安知必林	二五五
次硝酸蒼鉛	二五五
堯菁	二五六
芥子末	二五七
醋酸鉛	二五七
吐根	二五八
攝涅瓦根	二五八
沃度仿謨	二五八
石炭酸	二五九
結麗阿曹篤	二六〇
「イヒチヲール」	二六〇
水銀軟膏	二六一

單軟膏	二六一
硫黃軟膏	二六一
華攝林	二六一
第一章 調劑法	二六二
秤量器	二六二
液量硝子	二六三
乳鉢	二六三
木葉匙	二六三
筥	二六三
瓦爾謨氏夕比較表	二六四
重量比較表	二六四
病床檢溫法	二六五
虛脫溫	二六六
常溫	二六六

熱性温.....二六六

灌腸法.....二六七

點眼法.....二六八

吸入法.....二六八

含嗽法.....二六八

冷卷法.....二六九

温卷法.....二六九

軟膏用法.....二七〇

糊紙ノ折方.....二七〇

救急醫術教科書目次終

救急醫術教科書

笹原新一郎纂著

身體ノ構造及ヒ生理的作用ノ概略

人身體ハ骨其基礎ヲナシ靱帶筋肉之ニ附着シ血管神經及ヒ内臟諸器ヲ藏シ毛爪ヲ存スル皮膚ニ依リテ被ハル、モノナリ

人身ヲ大別シテ頭部、軀幹及ヒ四肢トナス

頭部ヲ分テ頭蓋及ヒ顔面トナシ軀幹ヲ頸部、腹部、背部、腰部ニ分チ四肢トハ上肢及ヒ下肢ヲ云フナリ而シテ上肢ト軀幹ト連ル所ノ下際凹窩ヲナス處ヲ腋窩ト云ヒ腹部ノ下肢ト連接スル部ヲ鼠蹊ト云フ

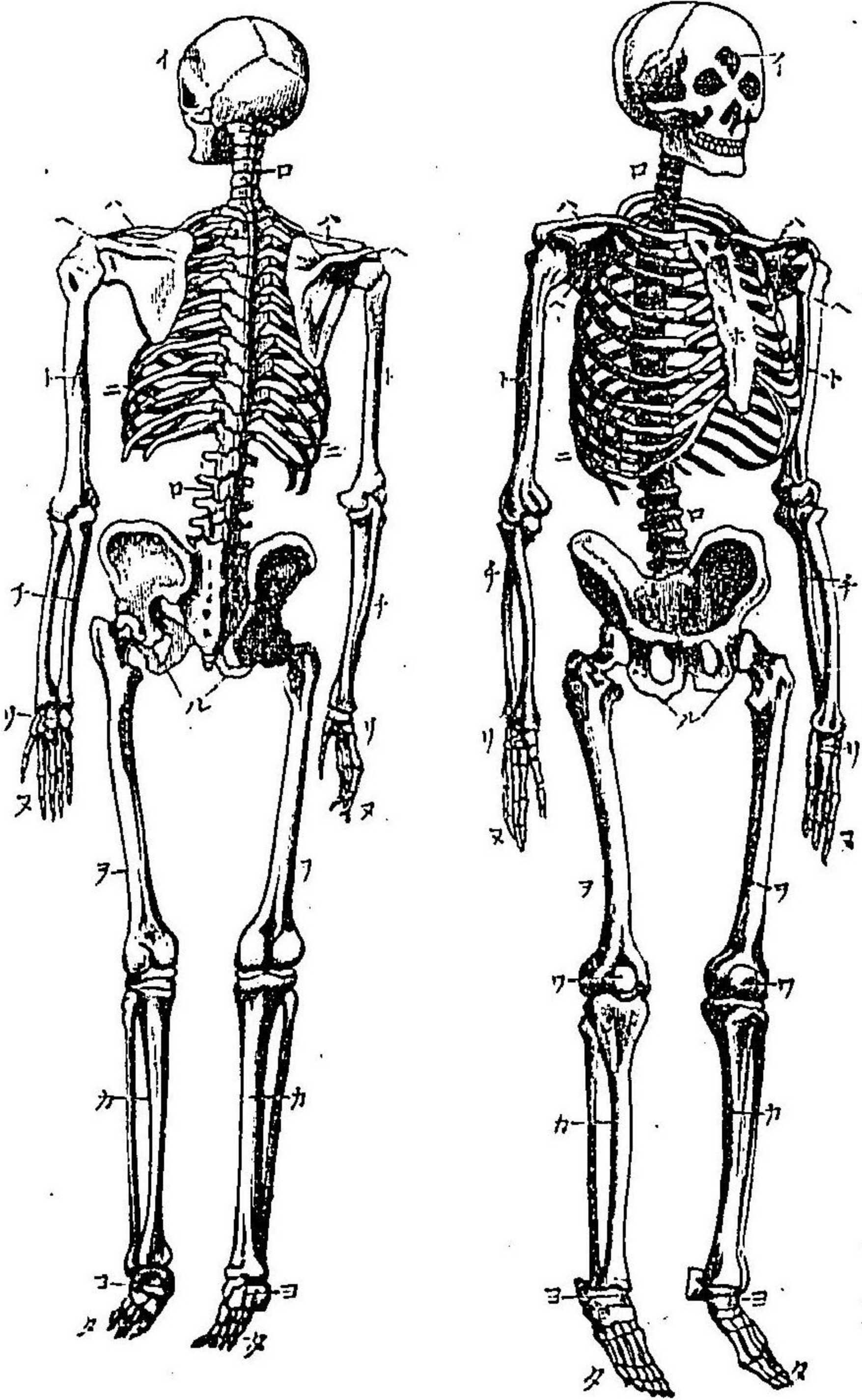
骨

骨ハ其形狀ニ依リ長骨、短骨、扁骨ノ三種ニ區別ス長骨ハ又々管狀骨ト稱ヘ四肢骨ノ如キ之レナリ短骨ハ脊推腕骨、跗骨ノ如キモノヲ云

身體ノ構造及ヒ生理的作用ノ概略

ヒ扁骨トハ顛頂骨、肩胛骨、骨盤骨ノ如キモノヲ云フ  
 骨ハ有機無機ノ兩成分ヨリ成リ其比例一ト二ノ如シ生活體ニアリテ  
 ハ強固ナルモノナレトモ又タ破粹シ易キモノナリ而シテ其色黃白ヲ  
 帶ヒ弾力性ヲ有シ不朽ノ性ヲ具フ老人ニ至レハ漸々有機性成分欠乏  
 スルカ故ニ弾力性ヲ減シ破粹シ易キニ至ルモノナリ  
 骨ノ營養ハ骨膜及ヒ骨髓ニ依リ主宰セラル骨膜ハ強靱ナル結締織ノ  
 膜ニシテ血管ニ富ミ骨ノ外面ヲ被フ骨髓ハ柔軟ニシテ血管、神經、脂肪  
 ニ富ミ髓腔及ヒ海綿質ノ空隙ヲ充盈ス  
 齒牙 齒牙ハ全數三十二枚(門齒、切齒、犬齒、角齒、四個、小白齒、八個、大  
 臼齒、十二個)ニシテ冠、頸、根ノ三部ヲ有シ食物ヲ攝取、咀嚼スルノ要具ナ  
 リ而シテ食物ヲ攝取スルモノハ尖銳、咀嚼ノ用ヲナスモノハ臼狀面ヲ  
 呈ス  
 構造ハ象牙質、琺瑯質、白堊質ヨリ成ル  
 骨格トハ骨ノ連接シテ人身ノ形ヲ組ミ立テタルモノヲ云フ第一圖ノ

第一圖



(圖ノ格骨)

イ 頭蓋骨  
 ホ 胸骨  
 リ 腕骨  
 ソ 膝蓋骨

ロ 脊椎柱  
 ヘ 肩胛骨  
 ヌ 指骨  
 カ 下腿骨(脛骨及腓骨)  
 ハ 鎖骨  
 ト 上脛骨  
 ル 骨盤  
 コ 跗骨

ニ 肋骨  
 チ 前脛骨(脛骨及尺骨)  
 ナ 大腿骨  
 タ 趾骨



如シ

頭蓋 頭蓋ハ八個ノ骨前頭骨一、顛頂骨二、後頭骨一、額顛骨二、蝴蝶骨一、篩骨一、相接合シ中空ヲナシ高尙ナル精神機能ト知覺運動ヲ主宰スル

腦髓ヲ藏ス第二圖ノ如シ

顔面 顔面ハ十四個ノ骨鼻骨、

淚骨、顴骨、上顎骨、下甲介骨各二、

鋤骨、下顎骨各一ヨリ成リ下顎

骨ノミ顛顛骨ト可動關節ニヨ

リ連接スルノ他ハ悉ク互ニ接

合スルモノナリ

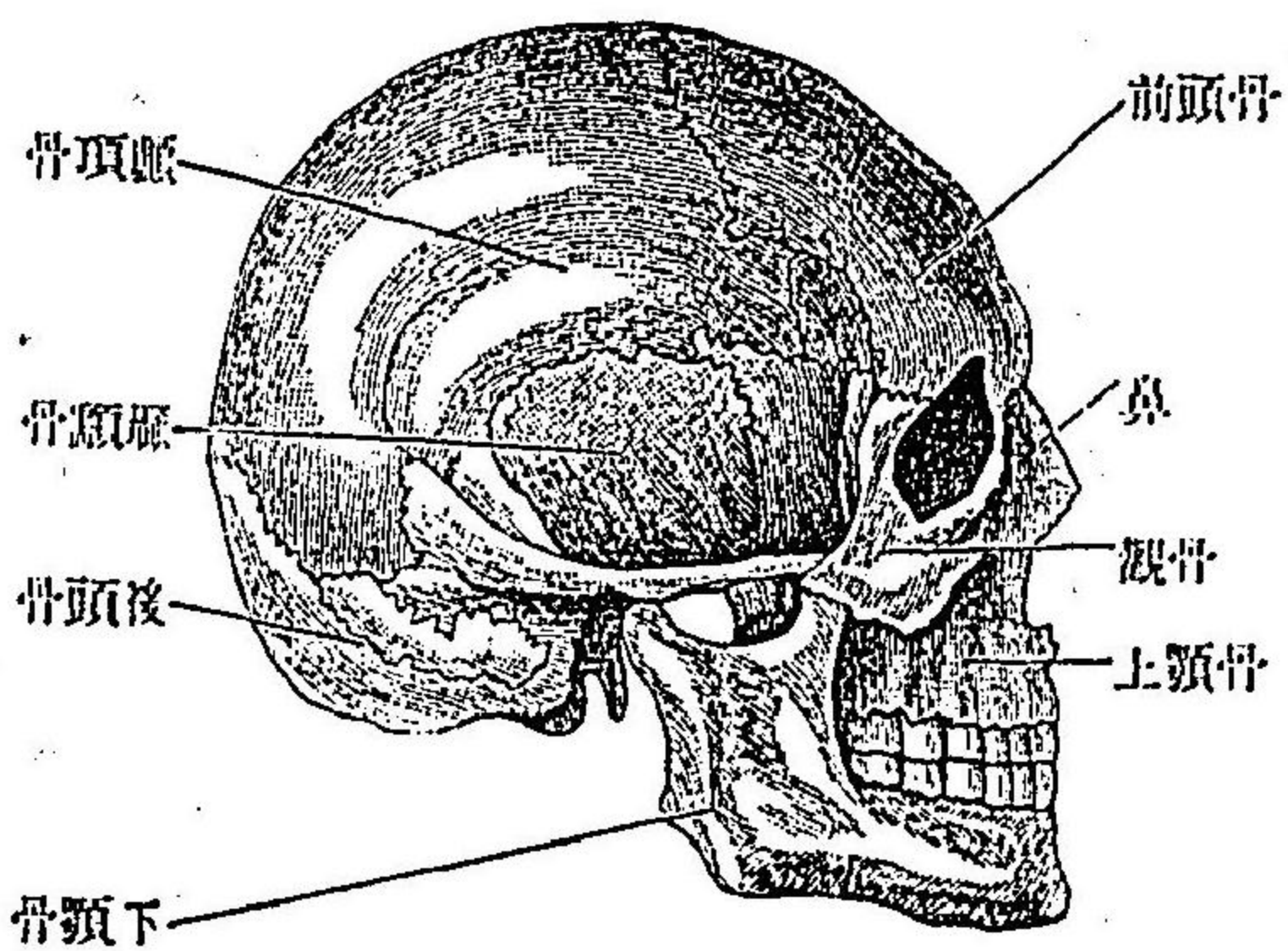
脊柱 脊柱ハ頸推七個、胸推十

二個、腰椎五個並ニ薦骨尾閏骨

ヨリ成リ各推間ニハ軟骨アリ

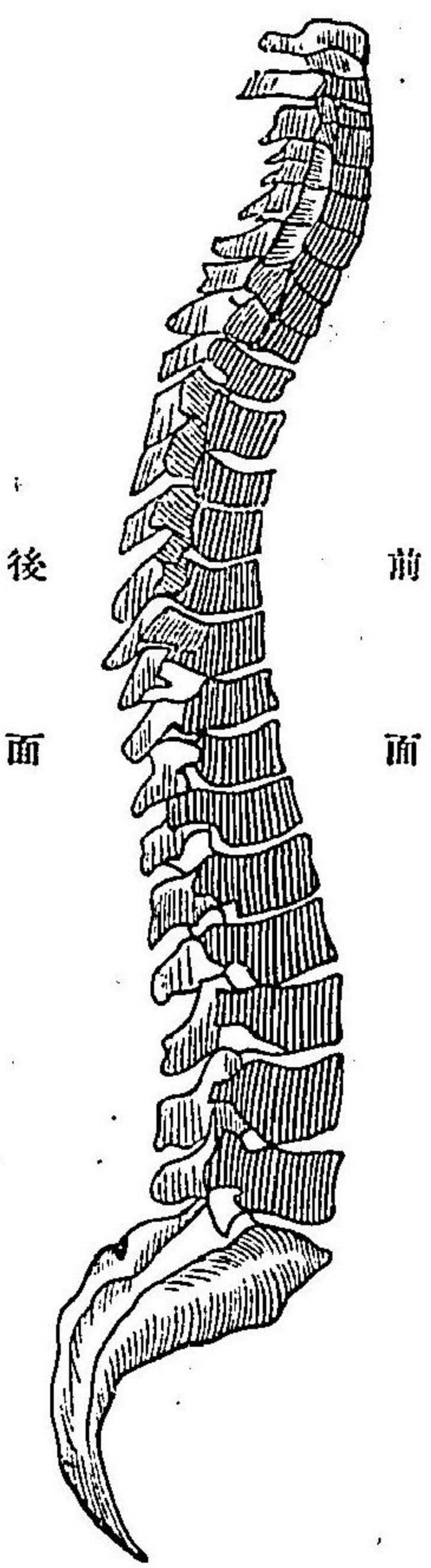
テ互ニ重疊連接シ且強キ韌帶

圖 二 第



(圖ノ蓋頭)

圖 三 第



(圖ノ柱脊)

ニ連絡セラレ軀幹ノ後部ニアリ前後ニ彎曲セル骨柱ヲナシ内ニ一管

ヲ通シ貴重ナル脊髓ヲ藏ス第

三圖ノ如シ

胸廓 胸廓ハ前中央ニ胸骨後

ハ胸推兩側部ハ肋骨ヨリ構成

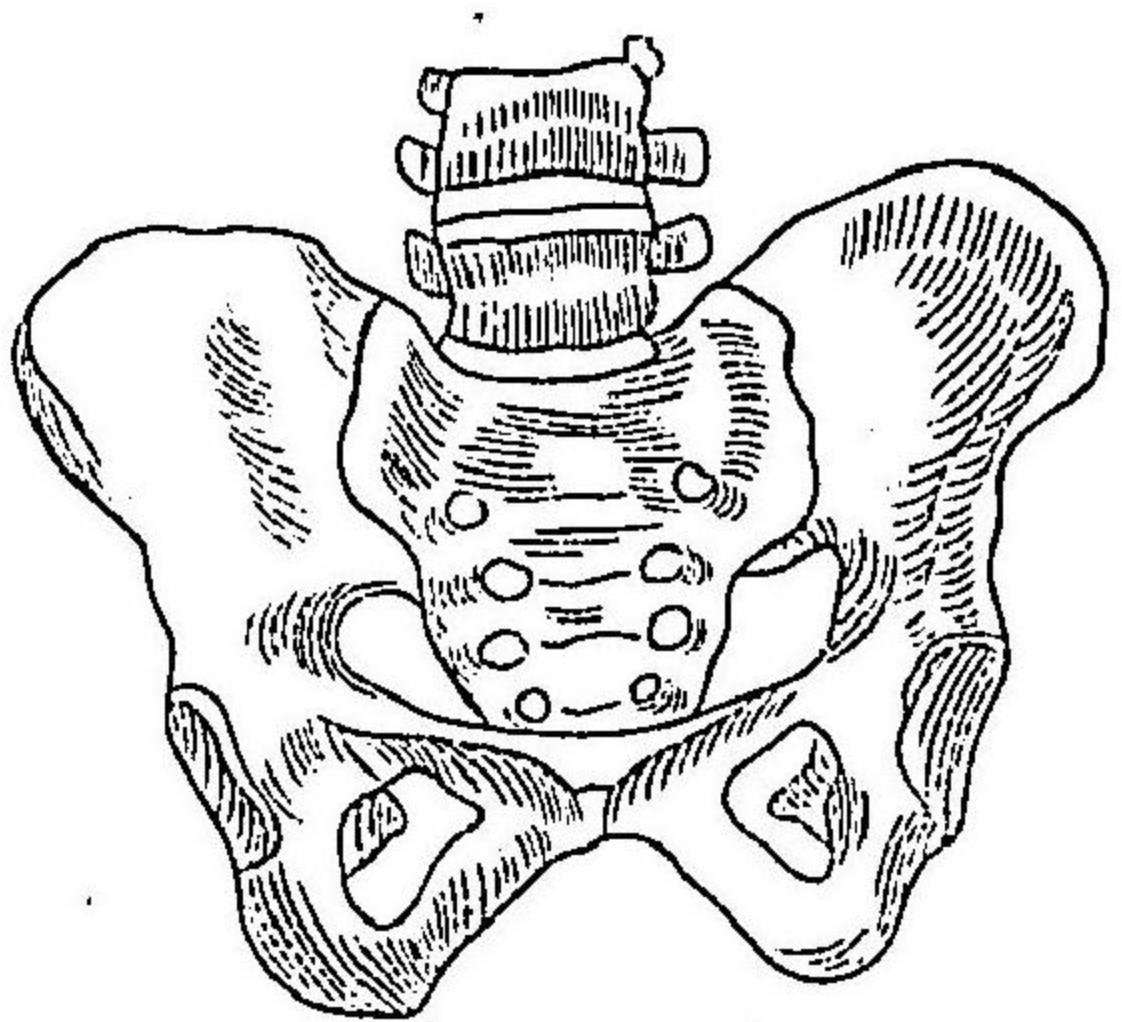
シ心臟及肺臟ヲ包蔵シ下部ハ

横隔膜ニヨリテ腹腔ト界ス

骨盤 骨盤ハ最下腰椎、薦骨、尾

閏骨及ヒ骨盤骨ヨリ成リ骨盤

圖 四 第



(圖ノ盤骨)

骨ノ外面ニハ一ノ關節窩アリ之ヲ髌臼ト云フ此ニ大腿骨ノ上端陥入シテ關節ヲ形成ス第四圖ノ如シ

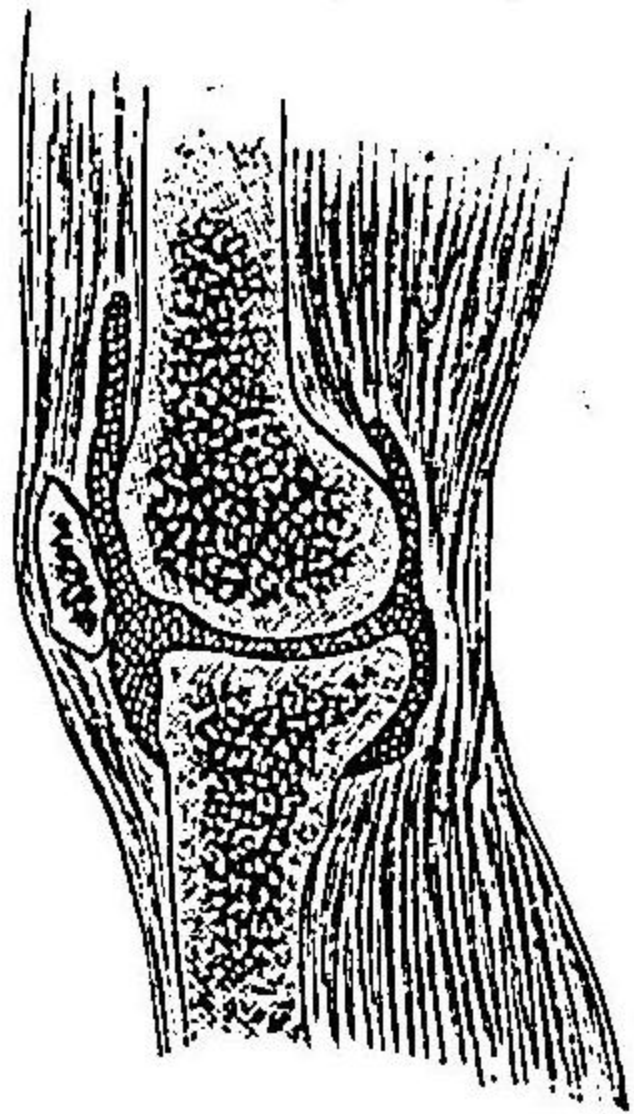
腹腔 腹腔ハ胸廓ト骨盤ノ間ニアリ後ハ腰部及骨盤骨ノ上部ヨリ成リ前及ヒ側部ハ筋肉ヨリ成ル而シテ上ハ橫隔膜ニヨリテ胸腔ニ界シ内ニ消化器及泌尿生殖器ヲ藏ス

上肢ハ上膊骨ノ上端ナル球狀ノ頭肩胛骨ノ皿ニ類シタル關節窩ト關節シ所謂肩胛關節ヲ形リ軀幹ニ附着ス而シテ上肢骨ヲ分チテ上膊骨前膊骨(橈骨尺骨ノ二骨)手骨(腕骨掌骨指骨)トス

下肢ハ髌臼ト大腿骨頭ト關節シテ軀幹ト連續スルモノナリ之ヲ股關節ト云フ下肢骨ヲ分チテ大腿骨下腿骨(脛骨腓骨)足骨(跗骨蹠骨趾骨)トナス其他膝關節即チ大腿骨ト下腿骨ト連接スル軟骨ニ栗子狀ヲ呈スル膝蓋骨アリ

關節 關節トハ二骨或ハ數骨ノ軟骨ニ覆ハレタル接合面ヲ以テ互ニ聯接スルモノニシテ關節骨頭ハ多クハ球狀ヲナシ之ヲ容ル、部ハ陷

第五圖



(關節ノ圖)

ニハ無色粘稠ノ液所謂關節液アリ關節面ヲ常ニ滑潤ナラシムルノ用ヲナス第五圖ノ如シ

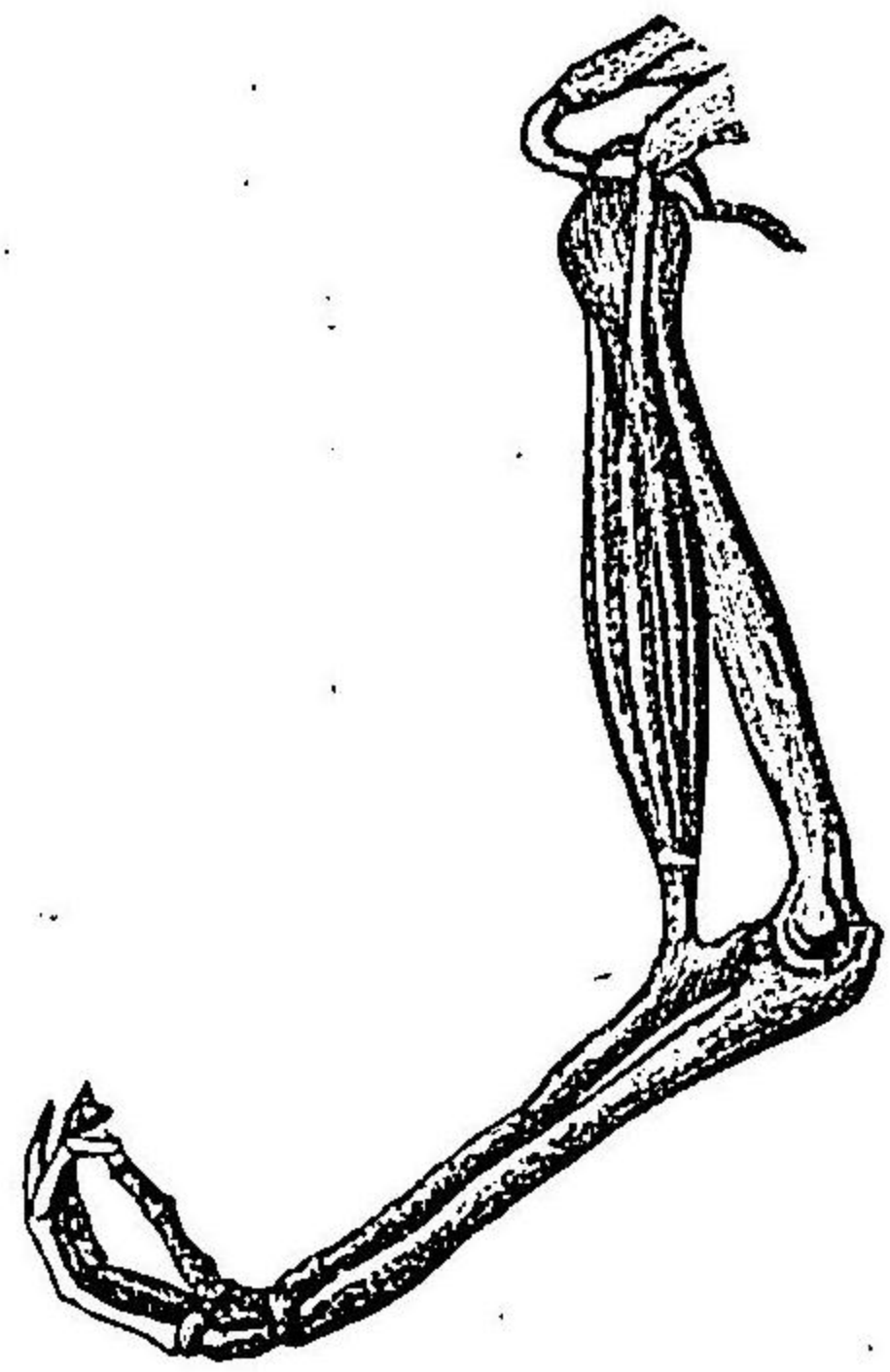
筋肉

筋肉ハ數多ノ纖細ナル毛色ノ纖維ノ集合シタルモノニシテ伸縮シ得ヘク以テ自在ニ運動セシムルモノナリ而シテ其收縮スルヤ其部膨大ス第六圖及第七圖ノ如シ其骨ニ附着スルヤ腱ト稱スル極メテ彈力強キモノトナリテ接着ス又タ筋肉ハ使用スルニ從ヒ益々増厚スルモノナリ彼ノ鍛工ノ膂米搗者ノ脚ニ於ケルカ如シ

凹スルモノナリ

各關節ニハ關節囊ト名クル白色ニシテ絹様ノ光輝アル被膜アリテ各骨端ヲ被包スルモノナリ其他猶關節ヲ堅強ナラシムル爲ニ關節靱帶アリ關節内

圖 六 第



(況狀ノ肉筋キトルダシ伸展ヲ肢上)

圖 七 第



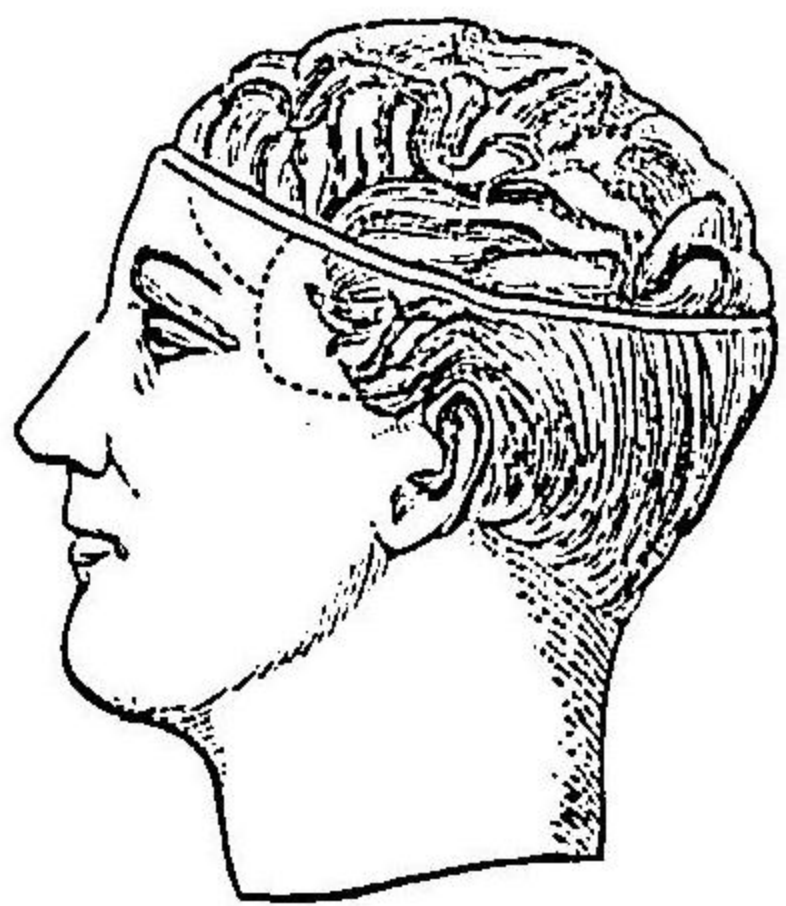
(況狀ノ肉筋ノキトルダシ曲風ヲ肢上)

筋ノ伸縮  
意識ニ從  
フモノヲ  
隨意筋ト  
云ヒ意識  
ニ從ハス  
シテ働ク  
モノ之ヲ  
不隨意筋  
ト云フ心  
臟及ヒ胃  
腸ノ筋ノ  
如キ之レ  
ナリ

神經系統

神經系統 神經系統トハ腦髓脊髓及ヒ末梢神經ノ總稱ニシテ靈妙ナル機能知覺運動精神作用ノ如キ皆之ニ依リテ營爲スルモノナリ  
腦髓 腦髓ハ頭蓋腔内ニアリテ三膜ニ被覆セラレ其質柔軟ニシテ灰

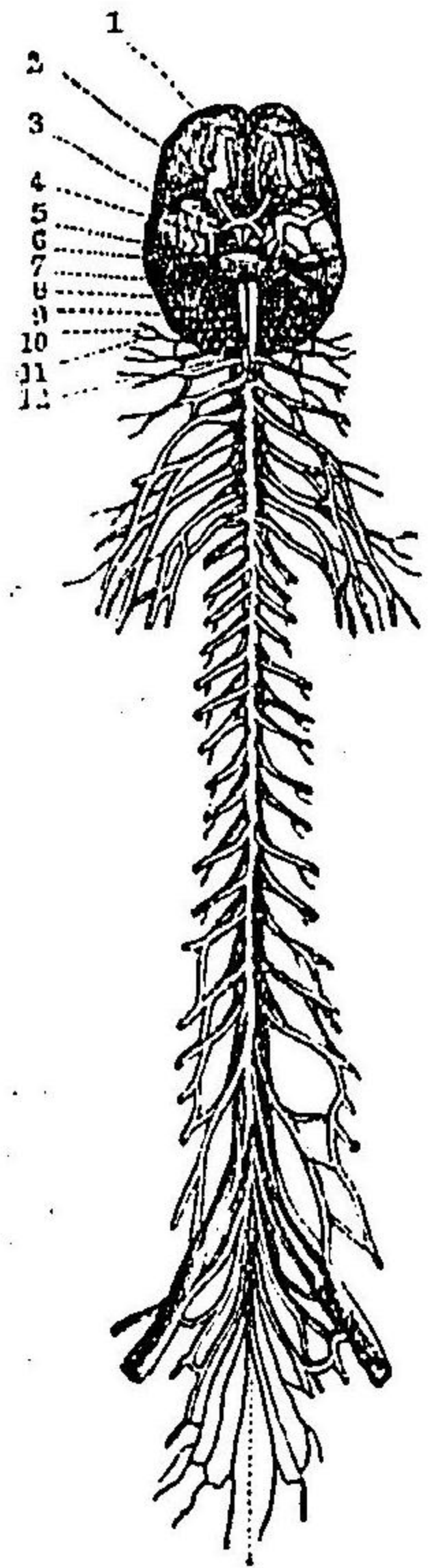
圖 八 第



(ス示テ面表ノ髓腦キ除キ部一ノ骨蓋頭)

依ルト而シテ人ノ腦髓ハ體重ノ約四十分ノ一ノ重量ヲ有ス  
脊髓 脊髓ハ脊椎ノ中管内ニアリ腦髓ト連絡シ灰白色ニシテ柔軟ナ

圖九第



(圖ノ髓脊腦)

(リナ經神腦ハ迄12リヨ1)

ル神經質ニ依リテ成ル神經ヲ發ス(第九圖ノ如シ)即チ前根ハ運動後根

ハ知覺ヲ司トルモノナリ(第十圖)

神經 神經ハ白色光澤ヲ有スル纖維ニシテ末

稍ニ至ルニ從ヒ細小トナリ終ニハ肉眼ヲ以テ

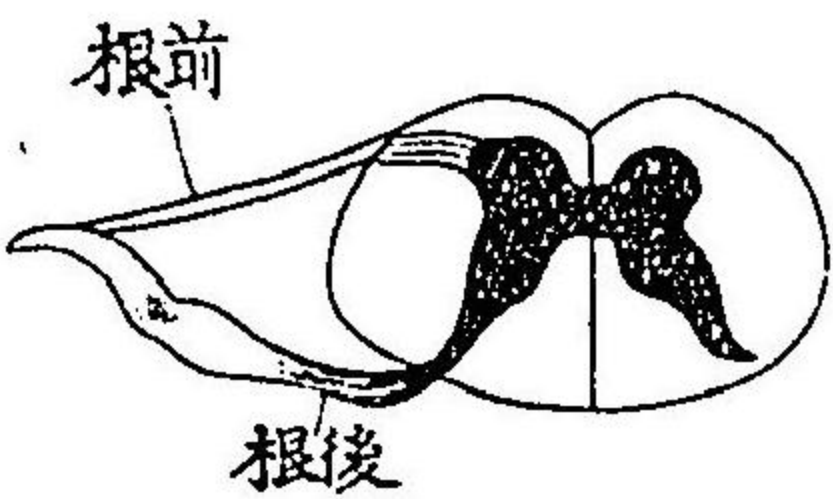
見ル能ハサルニ至ル(第十一圖ノ如シ)而シテ運

動知覺營養ヲ司トスルモノ、三種アリ運動神

經ノ作用止メハ麻痺ヲ來シ興奮スレハ痙攣ヲ

發ス知覺神經ノ機能減退スレハ知覺鈍麻若シ

圖十第



(面斷横ノ髓脊)

クハ脱失シ其機能興奮スルトキハ知覺過敏或ハ疼痛ヲ發ス營養神經

ノ働ヲ失フ

トキハ其分

布區内組織

ノ痙縮ヲ招

來スルモノ

ナリ

五官ノ神經

ハ腦脊髓ヨ

リ發出スル

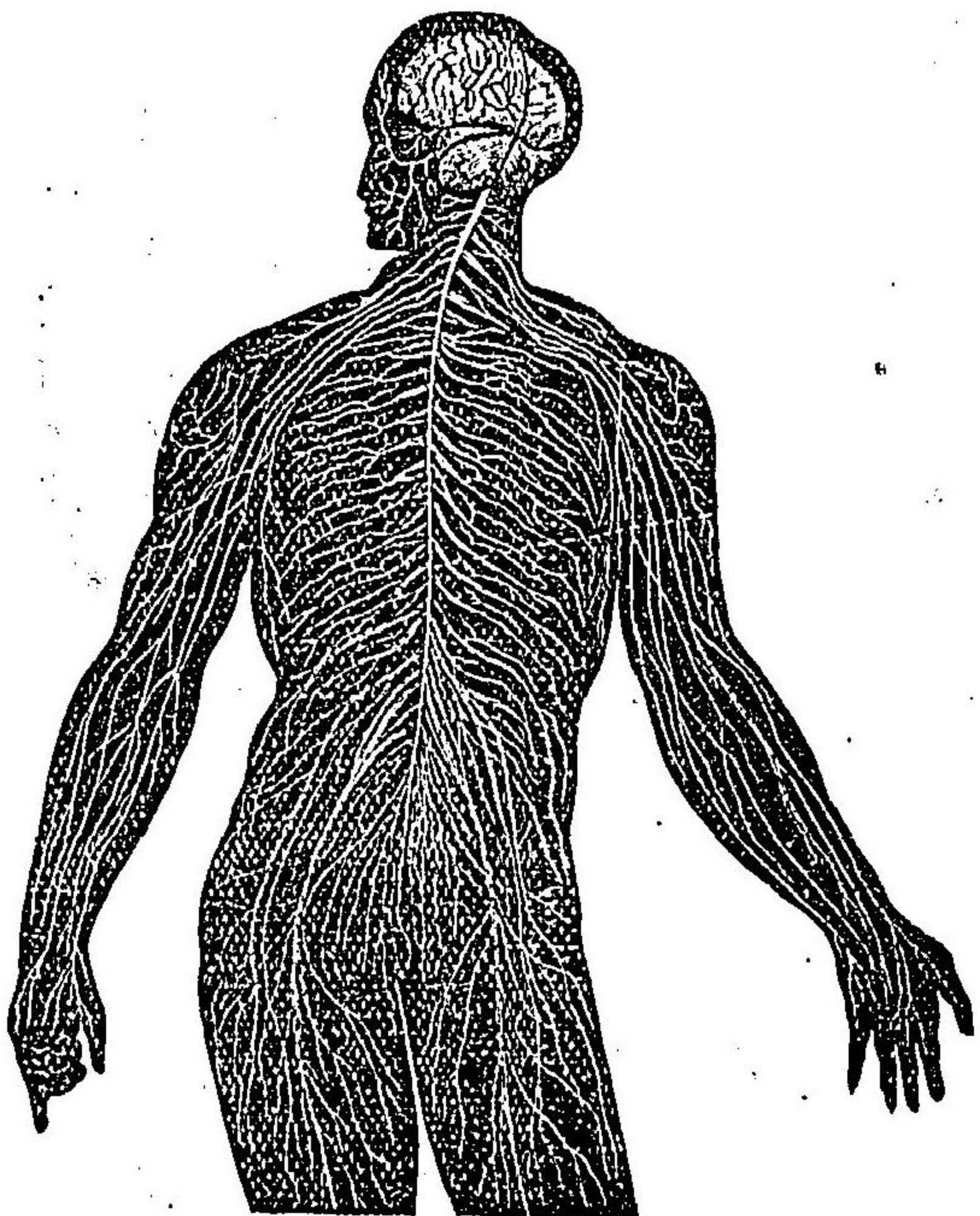
モノニシテ

若シ之等ノ

神經經路ニ

於テ斷絶スルトキハ其種ニヨリ或ハ盲トナリ或ハ聾トナリ若シクハ

圖一十第



(況狀ノ布分經神)

於テ斷絶スルトキハ其種ニヨリ或ハ盲トナリ或ハ聾トナリ若シクハ

嗅味ヲ辨スルコト能ハス或ハ觸覺痛痒寒熱等ヲ感セサルニ至ル  
 交感神經 交感神經ハ前記神經系統外ニシテ脊推ノ兩側ヲ下行シ諸  
 處ニ節ヲ有スル微細ノ線條ヲ血行器呼吸器營養器分泌器等ニ分布シ  
 其運動ヲ主トスルモノニシテ此運動ハ意識ニヨリ制止スルコト能ハ  
 サルモノナリ例ハ睡眠失神ノ際ト雖モ能ク其運動ヲ營爲スルカ如シ

血行器

血液ハ赤色溫暖ナル液ニシテ血管系統ヲ大ナル速力ヲ以テ循環スル

モノナリ而シテ之カ原動

力ハ心臟ニアリ

心臟 心臟ハ内空ナル筋

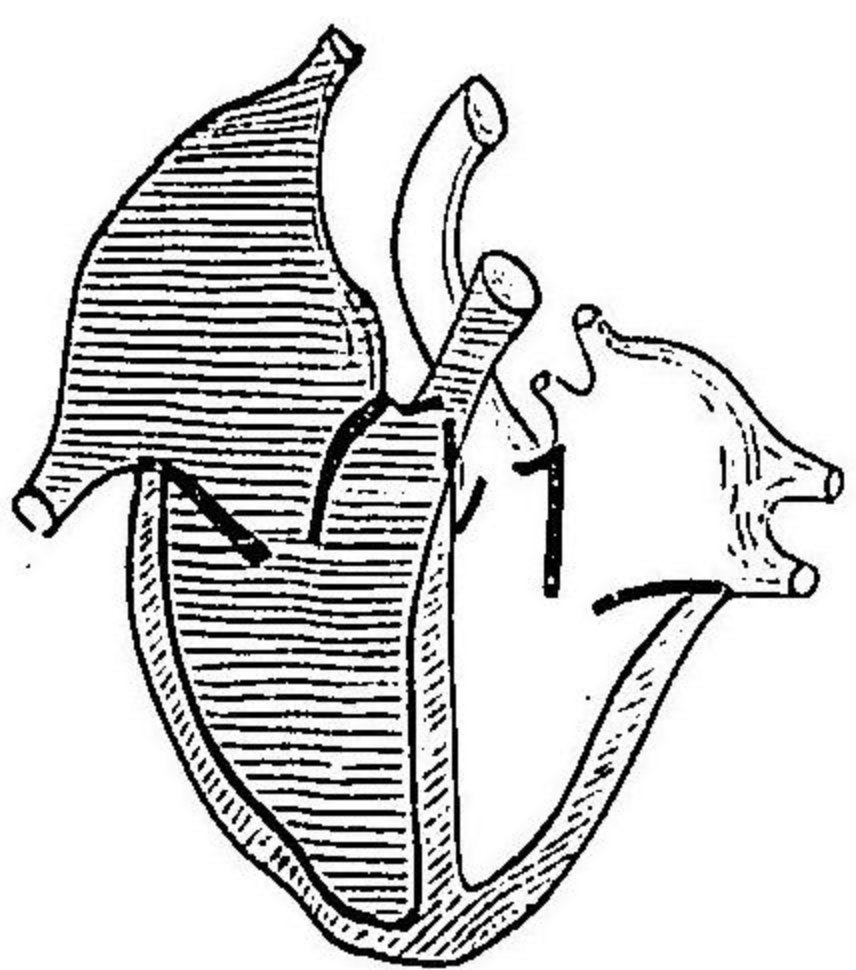
肉ヨリ成リ其大サ各自拳

大ニシテ兩肺ノ間ニアリ

テ横隔膜ニ駕シ中隔ニヨ

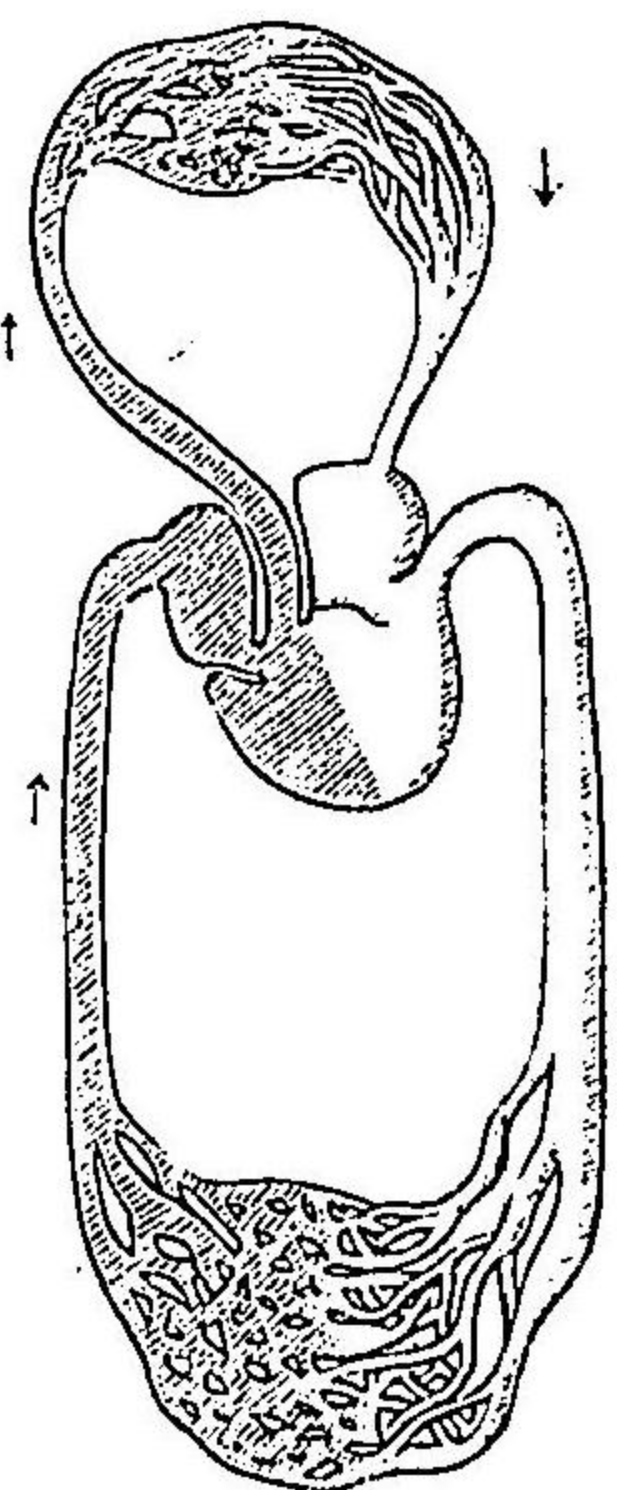
リ左右ノ二室ニ分レ各室

圖二十第



心臟ノ縱断面ニシ  
 テ心室及ヒ辨ヲ示  
 ス  
 白色部左心  
 黑色部右心  
 太キ黒線ハ辨膜

圖三十第



(圖ノ環循液血)

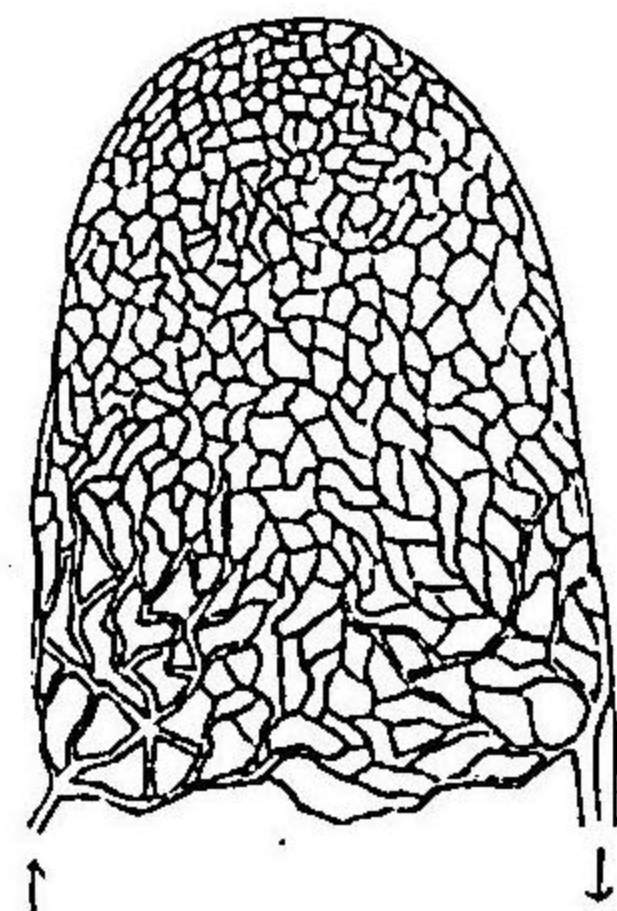
白色部動脈血  
 黑色部靜脈血  
 其中間ノ網ハ毛  
 細血管ヲ示ス

心室ヨリ發  
 シテ肺ニ分  
 佈ズ又肺ヨ  
 リ起リテ左  
 上房ニ入ル  
 血管ヲ肺靜

脈ト云ヒ全身諸部ノ靜脈ヲ合シ右上房ニ入ルモノヲ大靜脈ト云フ  
 動脈 動脈ハ恰カモ樹枝ノ如ク中心ヲ距ルニ從ヒ分枝シテ愈細小ト  
 ナリ終ニハ肉眼ヲ以テ見ルヘカラサルニ至ル之ヲ毛細管ト名ク此毛  
 細管ハ彼是互ニ吻合シテ網狀トナリ又漸々合シテ大トナリ所謂靜脈  
 ニ變ス故ニ靜脈ハ動脈ト反シ漸々大トナルモノナリ即チ毛細管ノ網

更ニ分レテ上房及下室トナル房室ノ間ニ一大孔アリ瓣膜ヲ以テ開閉  
 ス其右ニアルヲ三尖瓣ト名ケ左ニアルヲ二尖瓣又僧帽瓣ト云フ(第十  
 二圖ノ如シ)大動脈ハ左心室ヨリ起リ鮮血ヲ全身ニ分配ス肺動脈ハ右

圖四十第



(狀況ノ管細毛頭指)

ヲ己レニ取り静脈ニ歸ル故ニ静脈ハ廢血ヲ有スルモノトス然レトモ肺動脈ハ之ニ反シテ廢血ヲ有シテ肺ニ入り其毛細管トナルヤ酸素ヲ得テ炭酸ヲ排泄シ暗紅色ノ静脈血ハ鮮紅ナル動脈血トナリ肺静脈ヨリ左上房ニ歸ル即チ肺静脈ハ組織營養ノ血液ヲ有スルナリ

動脈ハ其壁厚ク心ノ收縮ト共ニ脈動ス之ヲ脈搏ト云フ静脈ハ其壁薄ク且ツ搏動ナシ

血液循環 血液循環ノ原動力タル心臟ハ其動作スルヤ正規的ニシテ收縮擴張整然トシテ亂レス其作用恰モ精巧ナル唧筒ノ如ク一分時間

狀ヲナス所ハ動脈ノ終リニシテ静脈ノ始メナリ(第十三圖及ヒ第十四圖ノ如シ)

身體動脈ハ諸組織ヲ營養スヘキ血液ヲ運行シ毛細管ニ於テ養分ヲ組織ニ與ヘ組織ノ老廢物ハ之

大約七十回縮張ス

心臟ノ運動スルヤ左右上房收縮セル時ハ左右ノ下室ハ擴張スルモノニシテ左右ノ上房擴張セル時ハ左右ノ下室ハ共ニ收縮スルモノナリ

今下室收縮スルトキハ房室口ハ僧帽瓣及三尖瓣ノ翻轉スルニヨリテ閉鎖セラレ血液ハ動脈内ニ驅出セラレ上房ハ擴張シテ血液ヲ静脈ヨリ受ク次ニ下室擴張スレハ房室口開キ上房ハ收縮シテ血液下室ニ流入ス而シテ動脈ニ驅出シタル血液ハ動脈根部ニアル瓣膜ノ翻轉閉鎖スルニヨリテ下室内ニ逆流スルコトナシ

血液ノ循環スルヤ先ツ左下室ヨリ大動脈ニ出テ毛細管ヲ經過シテ静脈血トナリ漸々合シテ大静脈トナリ右上房ニ入り右下室ニ下リ肺動脈ヲ通シテ肺ニ至リ肺毛細管トナリ酸素ヲ得テ炭酸ヲ排出シ暗紅色ノ静脈血ハ茲ニ變シテ鮮紅色ノ動脈血トナリ肺静脈ニヨリテ左上房ニ入り左下室ニ入り再ヒ前ノ如ク循環ス

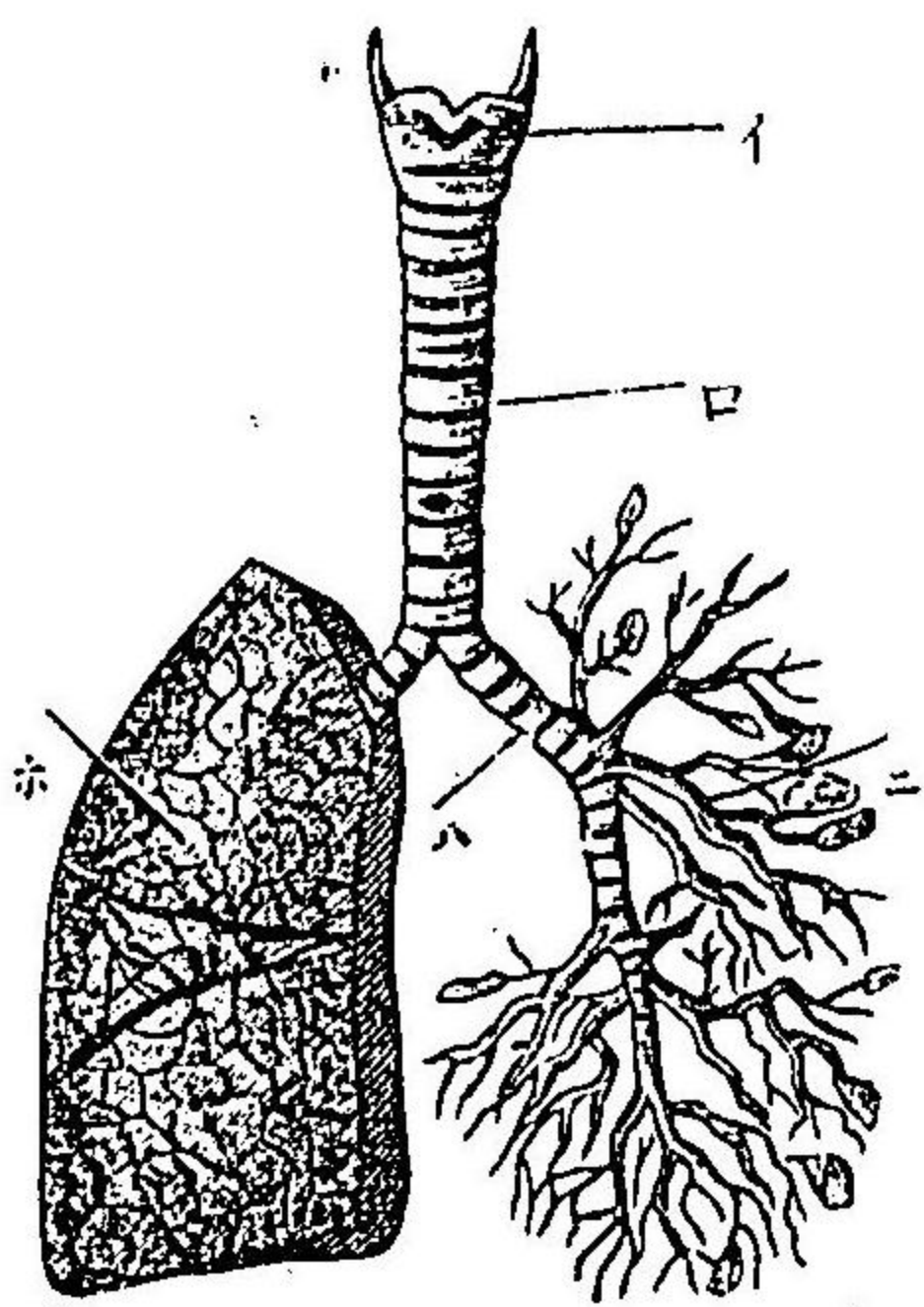
血液ハ赤血球白血球及血漿ヨリ成リ其紅キハ赤血球ノ存スルニ依ル

而シテ其一立方、ミリメートル中ニ含有スル數ハ男子ニアリテハ五百萬女子ニアリテハ三百五十萬ヲ算シ白血球ハ赤血球千ニ對シ一ノ比例ニアルモノトス

### 呼吸器

呼吸器トハ鼻、喉頭、氣管、氣管枝及肺臟ヲ云フモノニシテ大氣ヲ肺中ニ吸引シ其酸素ヲ肺毛細管ノ血液ニ與ヘ其血液中ノ炭酸ヲ排出スルノ作用ヲ營ム器

第十圖



(呼吸器ノ圖)

- イ 喉頭
- ロ 氣管
- ハ 大氣管枝
- ニ 小氣管枝ニシテ肺實中ニ分岐スルノ狀
- ホ 肺臟ノ外面
- 出スルノ作用ヲ營ム器
- 管ナリトス第十五圖ノ如シ
- 鼻 鼻ハ五官ノ一ナル嗅官ヲ主ト

ルモノニシテ軟骨及硬骨ヨリ構成シタル空洞ニシテ中隔アリテ二分セラレ且空洞ハ各前後ニ開孔シ後ハ咽頭ニ通ス即チ鼻腔ハ呼吸器ノ最外表ニアルモノナリ

喉頭 喉頭ハ四個ノ軟骨ヨリ成リ靱帶筋及纖維膜ニヨリテ互ニ聯接セラレ空洞ヲナス而シテ上ハ口腔及鼻腔ニ接シ下ハ氣管ニ連ル

氣管 氣管ハ上ハ喉頭ニ連リ脊推ノ前面ニ沿フテ下行シ第三胸推ノ部ニ於テ分岐シテ左右二個ノ氣管枝トナル而シテ其末端更ニ分岐シテ微細ナル氣管枝トナリ肺氣胞ニ通ス

肺臟 肺臟ハ血液ニテ充盈スル海綿狀ノ囊ニシテ胸腔内ニアリ縦隔膜ニ依リ左右ノ兩肺ニ分タレ外面ハ助膜ト名クル滑澤ニシテ菲薄ナル膜ニヨリ包マル、モノナリ而シテ肺ハ氣胞ヨリ成リ胞膜ニハ血管ノ末稍密布シ此ニ於テ炭酸排炭ノ作用ヲ營ムモノトス

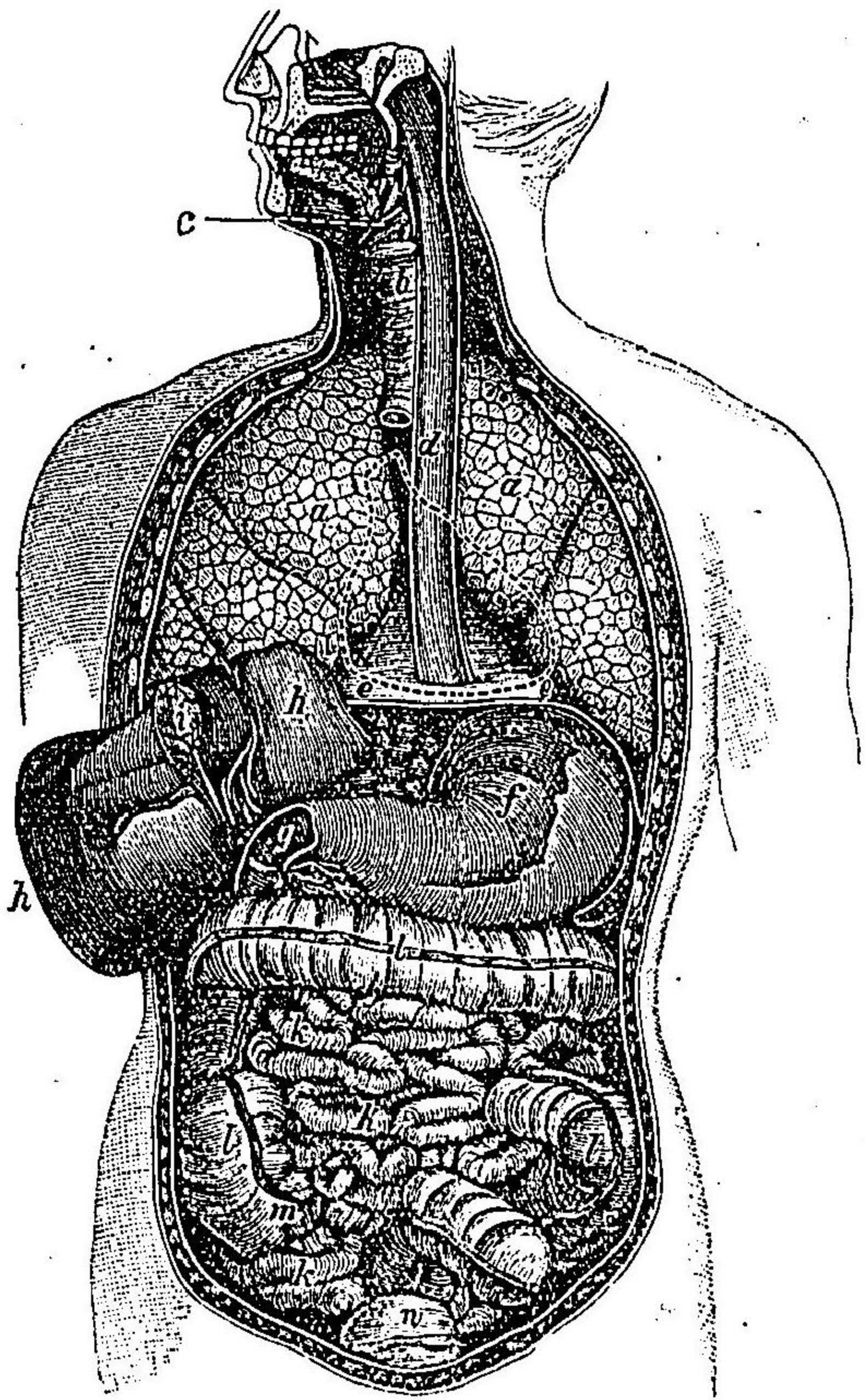
呼吸ハ胸廓及横隔膜ノ運動ニ依リ營爲スルモノニシテ胸廓擴張シ横隔膜下降スレハ肺臟ハ之ニ從ヒテ擴張シ大氣ハ鼻、喉頭、氣管、氣管枝ヲ

經テ肺ニ入ル之ヲ吸氣ト云フ次ニ胸廓縮小スレハ肺モ從テ收縮シ其中ノ空氣ヲ驅出ス之ヲ呼氣ト云フ  
 此ノ如キ呼吸運動ハ一分時間十八至ヲ通常トス  
 過劇ノ勞働精神ノ激發或ハ熱性病ノ爲ニ增多シ二倍以上ニ至ルコトアリ

### 消化器

消化器トハ營養消耗ヲ補給スルカ爲ニ攝取シタル飲食物ヲ消化吸収スル器管ニシテ口腔、食道、胃腸、及肝臟、脾臟ヲ云フ第十六圖ノ如シ  
 口腔 口腔ハ上顎骨、口蓋骨ト下顎骨ノ間ニアリ咀嚼ニ必要ナル齒牙ト消化ニ主要ナル唾液腺ヲ有ス而シテ後ハ咽頭ヨリ食道ニ連接ス  
 食道又胃管ハ氣管ノ後頸推胸推ノ前側ヲ下リ横隔膜ヲ穿チテ腹腔ニ入り胃ニ連ルモノナリ  
 胃 胃ハ大膜囊ニシテ上腹部所謂胃窩俗ニみづをちニ位ス其性驚クヘク擴張シ得ルモノニシテ又空虚ナルトキハ再ヒ元形ニ收縮ス而シ

第十六圖



(圖ノ器化消)

テ其上方食道ニ接スル部ヲ噴門ト云ヒ下方小腸ニ移ル部ヲ幽門ト稱

- a 肺臟
- b 氣管
- c 喉頭
- d 食道
- e 心臓
- f 胃
- g 幽門
- h 肝臟
- i 膽囊
- kl 小腸
- l 大腸
- m 盲腸
- n 膀胱



ス茲ニ括約筋アリ食物ノ消化シタル後ニアラサレハ腸ニ下降セサラシムルノ用ヲナス

胃ノ内壁ハ粘膜ニヨリテ掩ハレ酸性ノ胃液ヲ分泌シ食物ヲ消化ス而シテ食物ノ胃内ヲ辭シ去ルハ五六時間ヲ要スルモノナリ

腸 腸ハ甚タ長キ膜管ニシテ上ハ胃ノ幽門ニ始マリ下ハ肛門ニ終リ其長サ約身長ニ六倍シ小腸及ヒ大腸ノ二大部トナス

小腸ノ上部約十二指横徑ノ部ヲ十二指腸ト云フ胆汁及胰液ノ注ク所ナリ其以下ヲ空腸次ヲ回腸ト云フ

大腸ヲ分チテ盲腸結腸直腸ノ三部トナス盲腸ハ大腸ノ始部ニシテ右腸骨窩部ニアリ盲囊狀ヲナシ囊底ニ細長ノ延長物アリ蟲様垂ト名ク又盲腸ト回腸ノ間ニ一ノ瓣膜アリ之ヲ廻盲腸瓣ト云フ

結腸ハ更ニ三部ニ分ツ即チ盲腸ニ始マリ腸内ノ右側ヲ上昇スル部ヲ上行結腸ト云ヒ次ニ胃ノ下部ヲ横過スル部ヲ横行結腸ト云ヒ之ヨリ下降シテ直腸ニ移ル間ヲ下行結腸ト云フ

直腸ハ薦骨ノ前面ニ沿ヒテ下行シ肛門ニ終ル爰ニ内外ノ二括約筋アリテ緊ク之ヲ閉鎖ス

腸ノ内壁ニモ腺アリ消化ニ必要ナル液ヲ分泌ス

肝臟 肝臟ハ身體中最大ナル腺體ニシテ右上腹部ニアリテ横隔膜ノ下面ニ接ス而シテ厚ク且ツ大ナル右葉ト薄ク且ツ小ナル左葉ノ二部ニ分ル

肝臟ハ飲食ノ消化殊ニ脂肪ノ消化ニ必要ナル苦味暗綠色ノ胆汁ヲ分泌スルモノナリ胆汁ハ肝ノ下面ニアル胆囊中ニ貯溜シ更ニ輸胆管ト名クル小管ニ依リテ十二指腸ニ灌クモノナリ故ニ若シ胆汁ノ十二指腸ニ灌クコト能ハサルトキニ於テ脂肪ハ消化吸收セラル、コトナク且ツ胆汁色素ハ血液中ニ吸收セラレ所謂黃胆症ヲ發ス

脾臟 脾臟ハ胃ノ後部ニ位シ長扁平ノ腺體ニシテ殆ト唾液ト同作用ヲ有スル液即チ脾液ヲ分泌シ十二指腸ニ灌キ消化ヲ助クルモノナリ脾臟 脾臟ハ胃ノ後下部ニアリ扁平長圓形ヲ呈シ其質網狀ヲナシ多

量ノ血液ヲ有シ暗赤色ヲ呈ス之レ消化作用ヲ營爲スルモノニアラスト雖トモ身體營養ニ欠クヘカラサル赤血球ノ製造所ナリ又々腹腔内ニハ内臟諸器ヲ被包聯繫シ且ツ其位置ヲ保タシムル膜アリ之ヲ腸間膜ト云フ又々胃及結腸ノ部ヨリ小腸ノ前面ニ下垂スル前垂レノ如キ大膜ヲ腹網膜ト云フ食物ノ口腔ニ入ルヤ咀嚼粉碎セラレ唾液ト混シ糜粥狀ノ塊所謂食塊トナリテ嚥下セラレ食管ヲ經テ胃中ニ入ル此ニ於テ胃ハ蠕動運動ヲ起シ胃液ヲ分泌シ食物ト密混シテ消化ヲ助ケ一部ノ營養分ハ吸收セラレテ身體ニ入り他ハ漸次幽門ヨリ腸ニ下ル腸モ亦蠕動運動ヲ起シテ之ヲ漸々下方ニ送り且ツ胆汁及胰液ト混シ消化ヲ助ケ營養分ハ多ク茲ニ於テ吸收セラレ殘渣ハ糞トナリ肛門ヨリ排泄セラル、モノナリ

唾液ハ主トシテ澱粉ノ消化ニ要シ胃液ハ蛋白質ヲ消化シ膽汁ハ脂肪ノ消化ニ要用ナルモノナリ而シテ胰液ハ其作用、唾液ニ類シ糞尿ノ黃

褐色ハ膽汁色素ノ爲ニ附與セラル、ナリ此ノ如ク消化液ト混和シタル飲食物ハ糜粥狀ヲ呈シ其養分ノ一分ハ胃腸壁ノ血管ヨリ吸收セラレ多分ハ腸壁ニ網狀ニ分佈シテ開口スル所ノ乳糜管ヨリ吸收セラル、モノトス而シテ其血管ヨリスルモノハ一タヒ肝臓内ヲ通過シテ身體血行ニ入り乳糜管ヨリスルモノハ漸々綜合シテ下大靜脈ニ入り後チ身體血行ニ移ルモノナリ

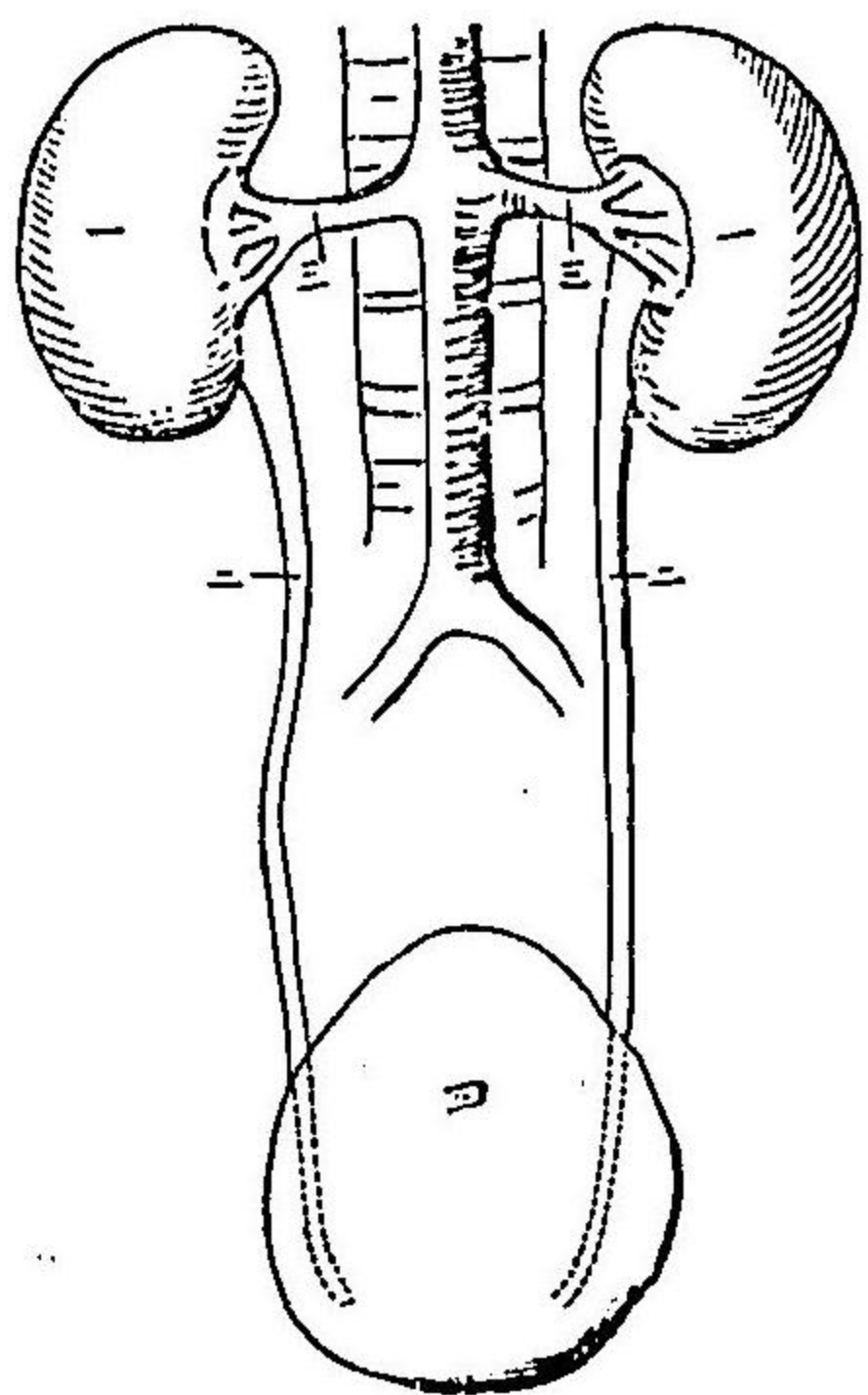
### 泌尿器

泌尿器トハ尿ヲ泌別シ之ヲ排泄スルノ器管ニシテ腎臟、輸尿管、膀胱及ヒ尿道ヲ總稱ス第十七圖ノ如シ

尿ハ身體新陳代謝ノ產物ニシテ腎臟内ニ於テ泌別シタル澄明琥珀黃色ノ液ナリ而シテ其腎臟内ニ於テ分泌スルヤ漸次輸尿管ヲ經テ膀胱ニ入り一定量ニ達スルトキハ尿意ヲ喚起シ尿道始部ニ了ル括約筋ヲ弛緩シ之ヲ排泄スルモノトス

腎臟 腎臟ハ第二乃至第四腰椎ノ兩側ニアリテ蠶豆形ヲ呈シ下ハ輸

第十 七 圖



(圖ノ器尿泌)

- 一 腎臟
- 二 輸尿管
- 三 膀胱
- 四 尿道

尿管ニヨリ  
膀胱ニ聯ル  
モノナリ  
輸尿管 輸  
尿管ハ腎臟  
ニ於テ分泌  
シタル尿ヲ

膀胱ニ送ル細キ膜管ニシテ上ハ腎臟ニ連リ下ハ膀胱ノ後下壁ニ開口ス

膀胱ハ骨盤内耻骨縫際ノ後ニアリ尿ヲ貯溜スル要ヲナス

尿道ハ膀胱内ノ尿ヲ排出スル道路ニシテ之亦一ノ膜管ナリ而シテ男女ニ於テ各其長サヲ異ニシ男子ニアリテハ長クシテ龜頭ニ開口シ女子ニ於テハ短クシテ前庭ニ開口ス

皮膚

皮膚ハ全身ノ外表ヲ被包シ在下ノ軟部組織ヲ保護シ且ツ新陳代謝産物ノ排泄及ヒ温調節ノ用ヲ主スルモノニシテ真皮及ヒ表皮ノ二層ヨリナルナリ

表皮 表皮ハ外表ニアリ菲薄透明ニシテ感覺ヲ有セス常ハ外表ヨリ剝離シ内方ヨリ新生スルモノナリ

真皮 真皮ハ表皮下ニアリ強靱ニシテ彈力ニ富ミ數多ノ乳頭ヲ有シ知覺神經ノ末端爰ニ終リテ觸覺ヲ司トルモノナリ

又皮膚ニハ汗腺及ヒ皮脂腺ヲ有シ汗腺ヨリハ汗ヲ分泌シ皮脂腺ヨリハ皮脂ヲ分泌シ表皮ヲ滑潤ナラシムルモノナリ

毛 毛ハ手掌足蹠ヲ除クノ他全表皮ニアリ其部位ニヨリテ其要用ヲ異ニス

爪 爪ハ指趾末節ノ背面ニアリ其尖端ヲ保護シ搔握及歩行ニ便ナラシム

皮膚ノ身體外部ニ開口スル各孔隙ニ移ル部ニ於テハ自カラ粘液膜ニ

變ス  
皮膚ハ結締織ニヨリテ皮下組織ニ固着シ結締織ノ網眼中ニハ脂肪ヲ貯フ

### 五官

知覺神經ノ末端ニ一種ノ形器ヲ有ス外界ノ刺戟ヲ受ケ之ヲ各中樞ニ送致シ各特異ノ感覺ヲ起ス之ヲ五官ト云フ即チ觸官味官嗅官聽官視官之ナリ

觸官 觸官ハ皮膚ニ存ス即チ其乳頭中ニハ觸體ト名クル無數ノ神經末端裝置ヲ有ス而シテ觸覺ノ銳鈍ハ部位ニ依リテ異ナリ指尖舌尖ノ如キハ最モ銳敏ニシテ背部臀部ノ如キハ最モ鈍ナルモノトス

味官 味官ハ主トシテ舌ニ存シ其背面ニハ味蕾ト稱スル無數ノ小乳嘴様ノ裝置アリ神經ノ末端爰ニ終リ食物ノ刺戟ヲ受ケ味覺ヲ發スルモノナリ

嗅官 嗅官ハ鼻腔ニアリ即チ其粘膜炎ニ分布スル嗅神經末端ノ刺戟セ

ラル、ニ依リ起ルモノニシテ味官ト親密ノ關係ヲ有シ且ツ其部位近接スルニヨリ大ニ味官ヲ補助スルモノナリ

聽官 聽官ハ耳ノ内部ニ舍ル耳ハ頭蓋ノ兩側ニアリテ其貴要部ハ顚顚骨内ニアリ而シテ外耳、中耳、及ヒ内耳ノ三部ニ區分ス

外耳 外耳ハ耳輪、外聽道ヨリ成リ鼓膜ヲ以テ底トナス外聽道ニハ細毛及ヒ耑腺アリ此腺ヨリハ耑腺ヲ分泌シ小蟲及ヒ塵埃ノ耳中ニ入ルヲ防ク

中耳即チ鼓室内ニ三個ノ小骨アリ互ニ聯接シ一端ハ鼓膜ニ接シ他端ハ内耳ノ卵圓窓ニ接ス今音響耳内ニ達シ鼓膜振動スレハ此小骨モ共ニ振動シテ内耳ニ傳達ス又鼓室ニハ一管アリ咽頭ニ通ス之ヲ、ヨウスタク氏管ト云フ之レ即チ鼓膜内外ニ於テ大氣ノ壓力ヲ平均ナラシメ且中耳内ノ分泌物ヲ排除スルノ用ヲナス

内耳 内耳一名迷路ハ前庭、蝸牛殼、三半規管ノ三部ヨリ成リ聽覺ヲ司トル聽神經末端ノ分布スル所ナリ

視官 視官ハ眼球ヲ主部トナシ其周圍ニハ眼筋、淚腺、眼瞼之ニ生スル睫毛及ヒ眉毛等アリテ之ヲ保護シ且ツ其作用ヲ補助スルモノナリ

眼球 眼球ハ眼窩腔内ニアリテ數層ノ膜ト數種ノ液ヨリ成ル其膜ハ鞏膜(一名白膜)角膜(一名透明膜)即チ前面中央ノ透明部、脈絡膜、網膜之レナリ

鞏膜ハ最外ノ白色硬靱ノ膜ニシテ脈絡膜ハ其下ニアリ其内面ハ黒キ一層ヲ以テ被ハル網膜ハ實ニ視覺ヲ司トル所ニシテ視神經末端ノ分布スル所ナリ

此諸膜内ニハ硝子體ヲ藏ス其質透明無色粘膠ニシテ恰カモ球狀ヲナシ其前部ノミ稍陷凹シ薄膜ニ依リテ包マル

水晶體ハ硝子體ノ前面ニアリ兩凸面、レンスノ形ヲナシ全ク無色透明ニシテ水晶囊ト名クル薄膜ヲ以テ包マル水晶體ノ前面ト角膜後面ノ間ニ空房アリ無色透明水様ノ液ヲ容レ虹彩ニヨリテ前後ノ二房ニ分タル虹彩ハ車輪狀ニシテ色素ヲ有シ人種ノ異ナルニヨリ黒褐色、褐色

青色等ノ別アリ其中央ニハ一孔アリ瞳孔ト云フ

瞳孔ハ眼中ニ入ル光線ヲ通過セシムル孔ニシテ若シ其刺戟強キニ過クルトキハ縮小シテ之ヲ制減ス而シテ其散大或ハ縮小スルハ此虹彩ノ縮張スルニ依ルモノナリ

### 損傷論

損傷トハ外來ノ刺戟若シクハ體內器官ノ劇動ニヨリテ身體ノ一部カ毀傷セララル、ヲ云フ其毀傷セララル、ヤ單ニ皮膚ノミ傷ケラル、アリ或ハ皮膚ト共ニ深部組織ノ破ル、アリ或ハ皮膚哆開セスシテ却テ深部組織ノ損傷セララル、コトアリ皮膚ノ哆開スルモノハ微菌浸入ノ門戸トナルヲ以テ注意セサルヘカラス若シ又深部ニ達スル損傷ノ爲メニ大ナル血管ノ破綻スルトキハ直ニ死ニ陥ルコトアリ

損傷ノ原因ハ器械的、溫熱的、及化學的ノ三作用ニ區別ス器械的作用ニ依ルモノハ挫創、切創、刺創等ニシテ溫熱作用ニヨルモノハ火傷、凍傷、凍瘡ヲ生シ化學的作用ニ依リテハ腐蝕セララル、モノナリ

損傷ニハ左ノ症候ヲ呈ス

- (一) 疼痛ハ其部知覺神經分佈ノ多寡ニ依リテ差アルモノナリ
- (二) 血管ハ其部血管ノ多少及ヒ種類ノ如何ニ關シテ差アリ又皮膚ノ損傷スルト否トニ依リ外表ニ現ハル、ト現ハレサルトノ別アリ若シ出血身體空洞内ニ滯留スルトキハ外表ニ流出スルコト少キモノナリ
- (三) 機能障害ハ損傷セラレ、器官ニ依リテ差アリ例ハ腦、心臟等ノ貴要ナル器官ニアリテハ直ニ死ニ陥ルコトアルモ四肢ノ損傷ニアリテハ稍大ナルモ生命ニ關スルコトナキカ如シ

### 創傷治癒

諸種ノ創傷ノ治癒ニ第一期癒創第二期癒創ノ別アリ(甲)ハ最モ良ナルモノニシテ僅少ノ日子ニテ治癒シ且ツ創痕醜形ヲ呈スルコトナシト雖トモ(第十八圖ノ如ク)(乙)ニアリテハ痕痕ヲ以テ治癒スルモノナレハ醜形ヲ呈スルコト多シ(第十九圖ノ如シ)

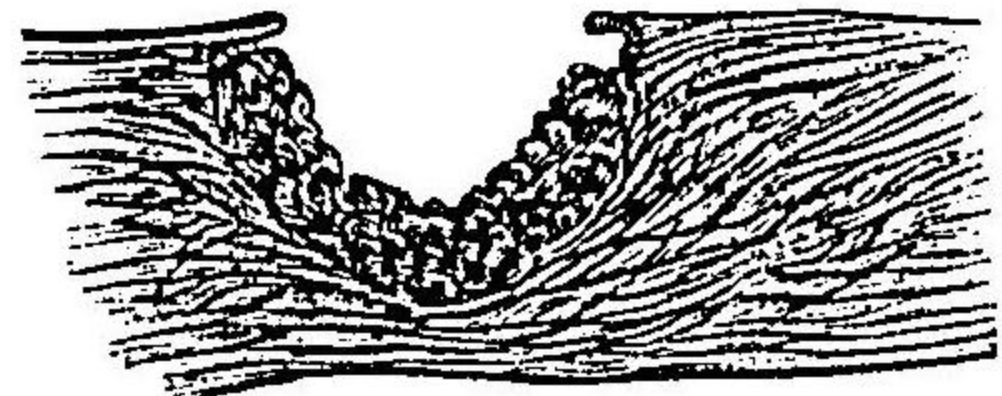
第一期癒創ハ左ノ場合ニ於テ望ムヘシ

圖八十第



(圖ノ合癒期一第)

圖九十第



(圖ノ合癒期二第)

- (一) 創縁整正ニシテ密着シ得ルトキ
- (二) 創傷内ニ不潔物竄入セサルトキ
- (三) 創傷部外來ノ刺戟ヲ受ケス安靜ニ保持シ得ルトキ

第二期癒創ハ左ノ場合ニ於テ望ムモノナリ(第

一期癒創ニ適セサルモノナリ)

- (一) 創縁不整ニシテ密着シ得サルトキ又ハ創縁挫滅シテ生活機能充分ナラサルトキ
- (二) 創傷不潔物ノ爲ニ汚染セラレタルトキ
- (三) 創傷外來ノ刺戟ヲ避ケ難ク又ハ安靜ニ保チ難キトキ

第一期癒創ニ適スル創傷ニシテ不潔物ノ浸入ニヨリテ第二期癒創ヲナスコトアリ是等ハ皆

ナ小機生體ノ附着ニヨルモノニシテ膿ヲ醸シ又タ熱ヲ發ス彼ノ恐ルヘキ破傷風ノ如キハ一種ノ微菌ノ浸入スルニヨリ起ルモノニシテ土塊朽木片等ノ爲ニ創傷ノ汚サレタルトキニ於テ發スルコトアリ又丹毒ノ如キモ特異微菌ヨリ起ルモノナリ故ニ創傷ヲ被ムルトキハ縦介小ナリト雖モ決シテ等閑ニ附スルコトナク是等有害物ノ浸入ヲ防カサルヘカラス即チ清潔ナル布片或ハ綿花ニ防腐液例ハ五十倍石炭酸水若ハ千倍ノ昇汞水ヲ浸シ創面ニ貼シ油紙等ヲ以テ其上ヲ被ヒ後綑帶ヲ施スヘシ消毒綿紗アルトキハ單ニ之ヲ貼シ綑帶スルヲ可トス皮膚剝離シタルカ如キ小ナル創傷ニアリテハ絆創膏ヲ適當ノ大サニ切リ貼附スルヲ以テ足レリトス普通防腐藥トシテ用ユルモノハ五十倍石炭酸水千倍昇汞水昇汞ハ劇毒ナルヲ以テ着色スルカ又ハ容器ニ赤色ノ紙ヲ貼シテ誤リナカラシムヘシ又金屬ハ之カ爲ニ浸蝕セラル、ヲ以テ用フヘカラス民間ニテ使用スルハ危險ナルコトアレハ注意ヲ要スヘキモノナリ)五十倍硼酸水等ナリトス若シ新創傷ヲ清潔ニ保タ

ント欲セハ一旦煮沸シタル水ヲ以テ洗滌シ綑帶ヲ施シ置クヘシ或ハ食鹽水燒酎ヲ水ニ溶和シタルモノヲ用フルモ可ナリ

**救急ニ要スル藥品綑帶材料及ヒ器械**

石炭酸 凡ソ五十倍トナシ創傷ノ洗滌卷法ヲ施スニ用フ  
昇汞 千倍トナシ創傷洗滌ニ用フ

硼酸 五十倍トナシ眼及ヒ口ノ洗滌並ニ卷法ヲ施スニ用フ  
沃度仿謨 創傷ニ撒布ス

安母尼亞水 失神者ニ興奮劑刺劑トシテ嗅カシム  
絆創膏 小創ニ貼シ又ハ他ノ綑帶品ヲ固定ス

昇汞綿紗 石炭酸綿紗 脫脂綿紗ハ創傷ニ貼用ス  
亞麻仁油紙 創面及ヒ患部ニ貼シタル綿紗上ヲ被フ

脫脂綿花 卷軸帶 三角巾ノ用法ハ後述セリ  
器械トシテハ止血用護謨管、鉗、鑷子、金盞水銃、護謨球、止針等ヲ要ス

**器械的作用ニ因ル損傷**

### 挫傷

原因 挫傷ハ通例鈍體ノ侵襲例ハ打撲、衝突、墜落等ニ際シ軟部ノ挫壓セラル、ニ依リテ生シ皮膚ノ分裂セサルモノヲ云フ

症候 挫傷ハ局部組織ノ挫摧セラレタル程度ニ依リテ其ノ症候ヲ異ニス即チ打腫、血腫、打班ヲ生スルカ如シ局部ハ腫脹、疼痛ヲ訴ヘ運動障害アリ若シ夫レ貴要器官ニ波及スルトキハ内出血ヲ起スカ或ハ震盪症ヲ發シ危險ニ陥ルコトアリ

結締織内ニアル細小血管ハ他ノ組織ヨリ抗抵力弱キカ故ニ容易ニ破損セラレ出血シ血腫ヲ造ルモノナリ其層下ニ動脈アルトキハ其搏動ヲ認ム又溢血ノ皮下ニアルモノハ何人モ之ヲ知ルヲ得ヘシ最初ハ藍色ヲ呈シ漸次ニ褐色、綠色、黃色ニ變ス殊ニ黃色ハ數月間ニ亘ルコトアリ故ニ其負傷シタル時日ノ大略ヲ診知スルヲ得ヘシ

胸壁ノ打撲、衝突ハ肺臟ヲ傷ケテ咯血ヲ來シ腹部ニアリテハ肝臟、脾臟、消食管等ノ破裂ヲ起スコトアリ内出血ノ多量ナルトキハ全身蒼白厥

冷シ脈搏幽微呼吸淺表不正トナリ四肢暗黒耳鳴ヲ訴ヘ無慾ノ狀ヲ呈シ屢々呻吟シ遂ニ死ニ陥ルアリ又消食管破裂シ其内容物腹腔内ニ漏出スルトキハ腹膜炎ヲ起シ殆ト救フヘカラサルニ至ルコトアリ

震盪症ヲ起ストキハ眩暈、嘔吐、細脈、呼吸淺表、顔面蒼白、人事不省等ノ症候ヲ呈スルモノナリ

處置 局部ニ冷卷法或ハ氷卷法ヲ施シ時トシテハ醋酸鉛液、硼砂精溶液、樟腦精、亞爾簡保兒、石炭酸水ノ濕布ヲ貼シ適度ノ壓迫繃帶ヲ施シ且ツ可及的高位安靜ニ保ツヘシ

溢血久シク吸收セラレサルトキハ五分乃至十五分時間輕ク按摩法(手指ヲ以テ求心的摩擦及ヒ按摸)ヲ行ヒタル後局部ノ運動ヲ試ミ、フランネル又ハ亞麻布ノ繃帶ヲ施行スルヲ良トス然レトモ皮膚ニ強度ノ傷害アルモノ或ハ大ナル血管破裂セルモノ著大ナル軟部創傷ノ傍ラ骨折アルモノニハ却テ有害ナルヲ以テ按摩法ヲ行フヘカラス

挫傷部既ニ發炎シ化膿スルトキハ其ノ最低部ヲ撰ヒテ切開シ防腐繃



帶ヲ施スヘシ若シ夫レ腐敗性液ヲ滯留スルトキハ一層ノ注意ヲ加ヘ  
 排泄ヲ充分ナラシメテ重ニ防腐繃帶ヲ施サ、ルヘカラス  
 内出血或ハ震盪症ノ徵候ヲ呈スルトキハ之ニ對スル應急處置ヲ取ラ  
 サルヘカラス其ノ法後條ニ詳説セルヲ以テ茲ニ載セス

挫創

原因 挫創ハ總テ鈍體ノ打撲衝突ニ起因スルモノニシテ槌棍棒車輪  
 工業的器械ノ鈍體等ニヨリ軟部組織ノ分裂セラレタル創傷ナリ  
 症候 挫創ハ創縁多クハ不正ニシテ腫脹シ時トシテ變色スルコトア  
 リ出血ハ比較的僅少ナリト雖トモ疼痛ハ一般ニ劇甚ナリ然レトモ其  
 ノ人ノ性質ト身體部位ノ異ナルニ依リ之ヲ感スルノ輕重アリ  
 挫滅セラレタル部分ノ外觀ハ一樣ナラスト雖トモ類青色、青色、暗青紫  
 藍色ニ稍々赤色ヲ帶フルカ如キ狀ヲ呈ス時トシテハ冷感純白トナリ  
 感覺ヲ失フコトアリ  
 強度ノ挫創ニアリテハ創縁及ヒ被傷部ハ斷片狀ニ分裂シ其ノ創害ノ

骨ニ及フモノアリ此ノ如キモノハ軟部組織ハ糜爛狀ニ糜爛シ筋筋膜  
 腱、神經、血管等ハ斷片狀ニ破壊セラレ骨ハ多數ノ碎片トナルノミナラ  
 ス周圍ノ組織亦營養及ヒ生存機能ヲ妨害セラル、モノナリ  
 挫創ニ於テ出血ノ比較的少量ナルハ破損血管ノ瘀塞轉振セラル、ト  
 或ハ震盪症ヲ起シテ心臟ノ機能衰弱シ動脈系統ハ收縮シ血壓沈降ス  
 ルニ依ル然レトモ時日ヲ經テ震盪症快復シ心臟機能振作スルニ至レ  
 ハ所謂後出血ヲ來シ危險ニ陥ルコトアルヲ忘ルヘカラス此ノ時ニ當  
 リ適切ナル救濟法ヲ施サ、レハ往々死ニ至ルコトアルカ故ニ此ノ如  
 キ負傷者ニ就テハ細心注意之ヲ取扱フヲ要ス  
 處置 創傷内ニ異物ノ存否ヲ檢シ若シ發見スルトキハ之ヲ除キ防腐  
 藥ヲ以テ充分洗滌シ沃度仿謨、デルマトール等ヲ撒布シ濕消毒綿紗ヲ  
 貼シ繃帶ヲ施シ局部ハ高位安靜ニ保持スヘシ且ツ時トシテ氷巻法ヲ  
 要スルコトアリ蓋シ挫創ハ切創ニ比スレハ化膿シ易キモノナルヲ以  
 テ一層防腐的處置ヲ嚴ニスルヲ要ス

挫創ハ自然ノ治癒ヲ待タサルヘカラサルヲ以テ單ニ防腐繃帶ヲ施スヘシト雖トモ時トシテ創縁ヲ近接セシムルノ目的ヲ以テ縫合スルコトアリ此ノ時ニ於テ其兩縁ヲ悉ク密接セシメサルヲ可トス何トナレハ創縁及ヒ創底ハ多ク挫滅セラレ該部ハ生活機能ヲ失ヒ縦合密接スルモ第一期癒合ヲ營ムコト能ハサレハナリ

強度ノ挫創ニシテ四肢ノ挫壓粉塵セラレテ治癒ノ目的ナキモノ或ハ治癒後局部ノ使用ニ堪ユル目的ナク却テ妨害トナルヘキモノニアリテハ切斷術ヲ施スノ要アリ若シ其時期ヲ失フトキハ之レカ爲メ却テ危険ニ陥ルコトアリ

道路上ニ於テ不潔ノ車輪等ノ爲メニ肢節ヲ轆傷セラレタルトキ又ハ不潔ノ衣服或ハ手指等ニヨリテ創傷ヲ汚染セラレタルトキハ腐敗性蜂窩織炎ヲ起シ終ニ死ニ歸スルコトアリ此ノ如キモノニアリテハ一層防腐的處置ヲ嚴確ニ行フヘシ

### 裂創

原因 裂創ハ機械銃丸又ハ砲彈ニヨリテ組織ノ裂損セラレタルモノニシテ主トシテ挫創ニ類スル現象ヲ呈ス墜落衝突ニ依リテモ此ノ如キ損傷ヲ生スルモノナリ

症候 大ナル挫創ト殆ト同一ナリ

處置 切創及ヒ挫創ノ條下ニ記載セル方法ヲ適宜ニ應用スヘシ

### 切創

原因 切創ハ總テ銳利ノ器物例ハ刀劍斧鉞硝子又ハ陶器ノ破片等ノ類ニ依リテ生スル創傷ナリ然レトモ頭部脛骨前緣部ノ如キ部分ニアリテハ鈍器ニ依リテモ殆ト切創ニ等シキ損傷ヲ被ムルモノナリ

症候 切創ハ創縁正整ニシテ創口哆開シ創面ハ平滑ナリ出血ハ多シト雖トモ疼痛ハ比較的輕少ナルヲ常トス創縁ノ正整ナルト疼痛ノ輕微ナルハ銳利ナル刃ヲ以テ軟部組織ヲ一齊ニ切截スルカ爲メニシテ創口ノ哆開スルコト大ナルモ亦同一ノ理由ニ因ル而シテ疼痛ハ其人ノ性質ト身體部位ノ異ナルニヨリテ之レヲ感スルコト一様ナルモ

ノニアラス神経過敏ナルモノハ總テ之ヲ感スルコト甚シク又手指鼻唇外陰部等ハ疼痛ヲ感スルコト強シ然レトモ之レヲ挫創等ニ比スルニ輕微ナルハ上述ノ理由ニ存ス又創口ハ其ノ縱軸ニ併行シテ受ル切創ニアリテハ哆開スルコト少シト雖トモ横徑ニ受クルモノハ總テ哆開スルコト大ナリ

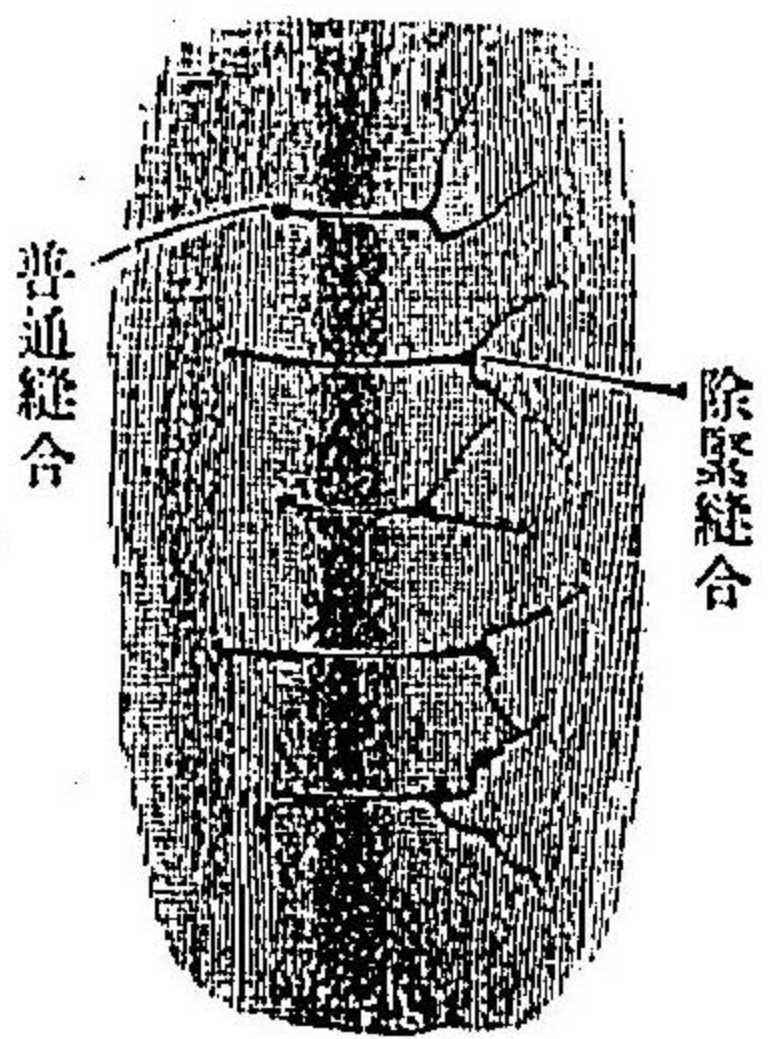
出血ノ多量ナルハ脉管壁迅速ニ截斷セラレ血餅ヲ形成スルコト比較的遅キニ依ルナリ

切創ハ皆同一ノ状態ヲ呈スルモノニアラス其襲來スル利器ノ方向ニ依リテ辨創失肉創ヲ形成スルコトアリ

創底ノ淺キモノハ危險ナルコト稀ナリト雖トモ貴要機官ヲ損傷スルカ或ハ出血多量ナルトキハ死ニ陥ルコトアリ

處置 淺小ナル切創ト雖トモ嚴重ナル制腐的準備ノ下ニ處置シ決シテ輕忽ノ行爲アルヘカラス先ツ創傷内ヲ精檢シ異物ノ竄入シアルヤ或ハ神經血管髓等ノ離斷セラレタルヤ或ハ又創底ノ關節腔體腔内ニ

第十二圖



(縫合ノ圖)

通スルヤ否ヤヲ確ムヘシ

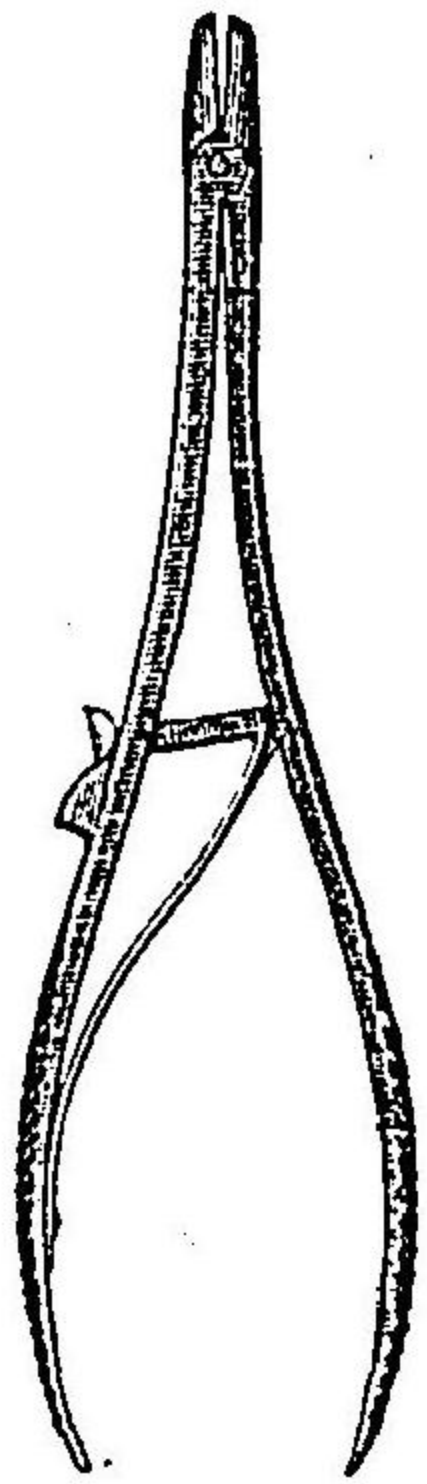
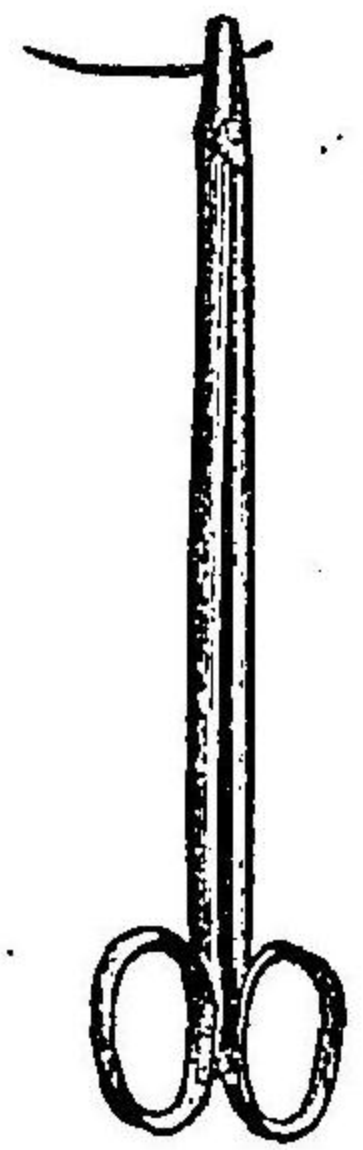
汚染セラレタル切創ニアリテハ之ヲ清洗シタル後創縁ヲ密接セシメ制腐綑帶ヲ施スヘシ單純ナル淺表ノ皮創ハ絆創膏ヲ貼スルヲ以テ足レリトス若シ古魯胃膜ヲ其上ニ塗布スルトキハ能ク耐持スルコトヲ得ルナリ

砂土硝子片器械ノ尖端又ハ諸種ノ物質即チ異物ノ竄入シアルモノハ細心注意シテ除去スヘシ若シ異物創底ニ密着シテ密易ニ除キ難キモノ或ハ血管壁等ニ固着シテ之ヲ摘出スルトキハ大出血ヲ來スカ如キ疑ヒアルモノハ濫リニ手ヲ下スコトナク制腐綑帶ヲ施スヘシ

稍々大ナル切創ニシテ創縁哆開シ密接セサルモノハ創内ヲ清淨ナラシメタル後之ヲ縫合第二十圖セサルヘカラス

縫合スルニハ直針又ハ彎針等其

局部ニ適スルモノヲ撰ヒ其針孔ニ豫シメ消毒シテ蓄ヘ置キタル絹糸  
又ハ鴈線長サ二十二センチメートル乃至二十六センチメートル許リ



圖一十二第

(圖ノ器針把)

離ノ部分ニ出シテ後チ之ヲ二重ニ結節スヘシ其縫合スヘキ數ハ創傷  
ノ大小身體部位ニヨリテ多少アリト雖トモ第二ノ縫合ハ第一ノ縫合  
ヲ距ルコト凡ソ一二センチメートルヲ通例トス蓋シ顔面頭部手腕等  
ニアリテハ其間ヲ短縮シ細カニ縫合スルモノトス若シ創口哆開スル  
コト大ニ且ツ緊張甚シキトキハ除緊縫合(第二十圖)トシテ先ツ創縁ヲ

ニ切リタルモノヲ  
貫キ把針器第二十  
一圖ニ裝シ創縁ヲ  
距ルコト三ミリメ  
ートルノ部分ヨリ  
刺入シ創底ヲ經テ  
對側創縁ノ同一距

距ル一センチメートル半乃至二センチメートルノ部分ヨリ刺入シ他  
側ノ同一部分ニ出シテ縫合ヲ施シタル後更ニ普通ノ縫合ヲ行フコト  
アリ既ニ縫合終リタルトキハ其結節シタル糸ノ殘端ヲ約五ミリメー  
テルニシテ切除スヘシ而シテ局部ヲ清拭シ沃度訪謨ヲ撒布シ消毒綿  
紗ヲ置キ法ニ從ヒテ繃帶ヲ高位安靜ニ保ツヘシ  
此ノ如ク處置シタル後ハ異狀ノ症狀ヲ呈セサル限リハ數日間繃帶交  
換ヲ要セス其創傷面ハ四五日ノ後癒合スルモノナルヲ以テ此ノ時ニ  
至リ繃帶ヲ去リ創傷ヲ檢シ癒合完全ナルトキハ縫合糸ヲ拔除スヘシ  
若シ緊張強クシテ再ヒ離開スルノ虞アルトキハ各一糸ヲ隔テ、拔去  
スルヲ良トス不潔ノ切創ニアリテハ膿腫スルノ虞アルヲ以テ輕忽ニ  
縫合スルコトナク自然ノ治癒ヲ待ツヘシ然レトモ創口ノ大ナルモノ  
ハ最低下部一二針ノ部分ヲ除キ縫合ヲ試ムルコトアリ之レ創縁ヲ密  
接セシムル目的ニアラスシテ可及的近接シ置クノ要アレハナリ  
縫合スルニ先タチ稍々大ナル血管等ノ切離セラレタルモノハ後條ニ

述フル止血法ヲ行ヒタル後ニ於テ處置スヘシ  
 體腔關節腔ニ穿通シタルモノ又ハ大ナル血管神經腱等ヲ毀損シタル  
 モノハ専門ノ施術ヲ要スヘキモノナレハ濫リニ手ヲ下スコトナク必  
 ス丁寧ニ制腐綑帶ヲ施シ置キ而シテ後便宜ノ治療所ニ送致スヘシ  
 辨創ニアリテハ其辨狀ノ部分ヲ翻轉シテ其ノ内部ヲ清淨ナラシメ後  
 チ其ノ創面ニ覆ヒ密接セシメ綑帶ヲ施スヘシ時トシテ辨縁ニ於テ縫  
 合ヲ施スヲ可トスルコトアリ  
 失肉創ニ於テハ自然的治癒ヲ待ツノ他良策ナキヲ以テ單ニ能ク制腐  
 綑帶ヲ施シ置クヘシ  
 切創ノ密接シ得ルモノハ三四日ニシテ能ク癒合スルモノナレハ瘻痕  
 ヲ形成スルコトナシト雖不潔ノ切創又ハ失肉創ニアリテハ自然ノ治  
 癒ヲ待タサル可ラサルヲ以テ其症ニ應シテ多少ノ瘻痕ヲ殘留スルヲ  
 免レス然レトモ之ヲ挫創ニ比スレハ小口數ヲ以テ治癒スルモノトス

刺創

原因 刺創ハ總テ銳尖性或ハ鈍尖性ノ器物即チ鎗銃劍劍ノ尖端小刀  
 鉞針釘又ハ竹木片硝子碎片等ノ如キ尖體ノ襲來ニヨリテ生スル創傷  
 ナリ  
 症候 總テ刺創ハ襲來物ノ形態ニ一致スル創傷ヲ形成スルモノニシ  
 テ創口ハ切創ノ如ク哆開セス其深サハ口徑ニ比シテ大ナルモノナリ  
 而シテ銳尖端ニヨル刺創ハ創縁平坦ナレトモ鈍尖體ニ依ルモノハ挫  
 摧セラル、コト多シ又稍々大ナル動靜脈ヲ損傷スルモ外表ニ出血ス  
 ルコト比較的少量ナルコトアリ刺創ノ貴要器官ニ達セサルモノハ治  
 癒スルコト速カナリト雖トモ頭蓋腔胸腔腹腔等ニ通スルモノハ豫後  
 多クハ不良ナルノミナラス時トシテ即死ヲ免レス又血管神經關節等  
 ヲ損傷スルモノモ危險ニ陥ルコトナキニアラス殊ニ出血夥シキトキ  
 ハ一層危險ナリトス  
 前ニ述ヘタルカ如ク稍々大ナル動靜脈管ノ損傷アルモ外表ニ逸血ス  
 ルコト少キハ(一)ハ血管壁彈力ノ爲メニ直ニ收縮スルト(二)ハ刺入部筋

肉ノ接着スルト(三)ハ其出血近接部内ニ浸潤スルニ依ル故ニ此ノ如キ創傷モ決シテ輕忽ニスヘカラス

處置 創内ニ刺入物ノ尖端ノ折片或ハ刺入物ニ附着シテ共ニ侵入シタル不潔物或ハ又被服等ノ破片創内ニ殘留シアルヤ否ヲ檢シ其貴重器官ニ通達セサル創内ニアリテ容易ニ除キ得ヘキモノハ之ヲ除去シ制腐綳帶ヲ施スヘシ然レトモ若シ異物深部ニアリテ抽出シ難キカ或ハ貴重器官ニ近接シテ存スルモノハ特別ノ施術ヲ要スルモノナレハ濫リニ摘出ヲ試ムルコトナク治療所ニ送ルヘシ

異物ノ創内ニ殘留セサルモノト雖トモ口孔狹小ニシテ創液滯留シ癒合ヲ妨クルノ虞アルモノハ之ヲ切開シテ創口ヲ潤クシ以テ創液ノ排泄ヲ良ナラシムルノ要アリ清潔ナル細針ニヨル刺創ノ如キハ單ニ絆創膏ヲ貼付スルヲ以テ足レリトス

受傷時ニ於テ外氣中ノ發炎性物質即チ分裂細菌ノ侵入シタルモノハ例ヒ小ナル鋭刺ト雖トモ之カ爲メニ腐敗性蜂窩織炎ヲ起シ危險ノ症

狀ヲ發スルコトアリ又往々表部既ニ癒合スルモ深部ニ炎症或ハ化膿ヲ起スコトアリ

鏽蝕セル金屬又ハ腐朽セル竹木片ニ依リテ被ムル刺創ヨリ破傷風ヲ惹起スルコトアルカ故ニ此ノ如キ創傷ニ對シテハ最モ嚴ニ制腐的處置ヲ施スヲ忘ルヘカラス

溫熱的作用ニ因ル損傷

火傷又熱傷

原因 火傷ハ熱湯熱蒸氣熔融シタル金屬赤熾セル金屬若クハ火焰火藥燈用瓦斯坑氣爆裂等ニ依リ之レニ罹ル熱度極メテ高ク之ヲ受クル時間益々長久ナルニ從ヒ重症ヲ呈スルモノトス

症候 火傷ノ局所的現象ニヨリ三度ニ區別ス

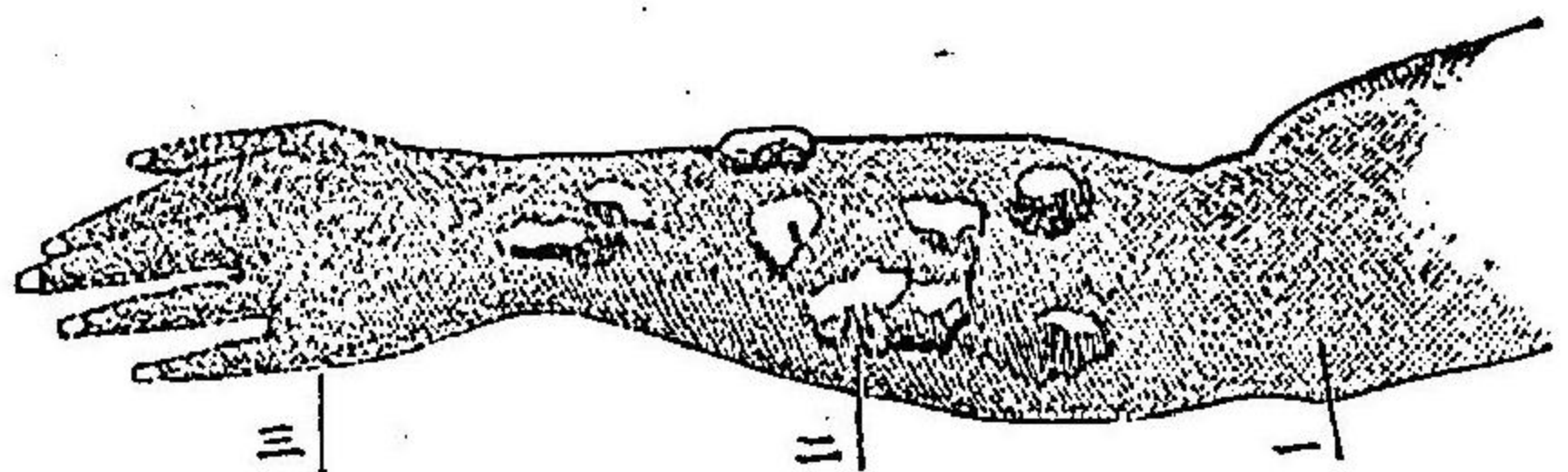
第一度ノ火傷ハ皮膚紅色ヲ呈シテ腫脹シ灼熱様疼痛著シキモ未タ水泡ヲ生スルニ至ラサルモノナリ

第二度ノ火傷ハ皮膚ノ發赤腫脹ニ兼テ透明水様若シクハ稍淡黄色ノ

液カ或ハ時トシテ血液ヲ混スル液ヲ充テタル水泡ヲ生シ所々ニ皮膚ノ剝離ヲ見ル外第一度ニ比スレハ腫脹疼痛共ニ強劇ナルヲ常トス

第三度ノ火傷ハ強劇ナル熱作用ニヨリテ起ルモノナレハ真皮ノ破潰ヨリ炭化ニ至ル迄ノ火傷ヲ包括スルモノナリ熱作用ノ結果トシテ灰色褐色黄色又ハ黑色ナル痂皮ヲ形成スルノミナラス局部組織ハ炭化セラレテ壞死シ其附近ハ發炎シテ疼痛甚シキモノトス(第二十二圖ノ如シ)  
大ナル火傷ニ於テハ局部ニ前記ノ症候ヲ發スルノミナラス悲泣叫喚シ霎時ニシテ不穩ノ狀ヲ呈シ展轉苦悶シ終ニ無慾狀トナリ譫語瘧癎ヲ發シ脈搏弱小不正トナリ呼吸淺表體溫不降甚シキハ二度乃至三度

第二十二圖



(火傷ノ圖)

減少シシ遂ニ死ニ至ル又タ稍々輕キモノニアリテハ數日ノ後チ衰弱狀態ニ陥リテ斃レ又タ時トシテ良徵ヲ得タルモノト雖トモ五六日ノ後チ突然死亡スルコトアリ主トシテ火傷ノ輕重ハ局部ノ深淺ニアラスシテ廣狹ニ依リテ豫後ノ如何ヲトスルモノナリ全身ノ三分ノ一火傷ニアリテハ大抵死ニ陥ルヲ免レス

處置 第一度ノ火傷ニアリテハ單ニ冷卷法又ハ氷卷法ヲ施スカ若クハ軟性ノ脂肪類又ハカロン油(オレーフ油ト石灰水ト等分混合シタルモノ)又ハ軟膏ヲ塗布シタル後チ綿花ニテ被包シ安靜高位ニ支持スルヲ可トス

第二度ノ火傷ニアリテ能ク其廣狹ヲ檢シ皮膚ノ剝離ヲ招カサル様靜カニ處置スヘシ即チ水泡ハ消毒(石炭酸水若シクハ熱湯ニ入レ)シタル細針ニテ其側部(下部)ヲ撰ムヘシヲ穿刺シテ水液ヲ漏シ胞膜ヲ破潰スルコトナク下層ニ密接セシメタル後チ弱石炭酸水又ハ昇汞水又ハ酢ト水トヲ等分シタルモノヲ以テ冷卷法ヲ施シ若シクハ緩和ノ油類

胡麻油ノ如キモノ又ハ硼酸軟膏ヲ塗布シ或ハ又ター一旦冷水又ハ制腐水ニテ洗滌シタル後チ麵粉、酸化亜鉛、次硝酸蒼鉛、沃度仿謨、硼酸末、デルマトールヲ撒布スルカ又ハ馬齡薯、人參等ノ擦屑ヲ塗布シ輕ク繃帶ヲ行ヒ局部ヲ高位安靜ニ保ツヘシ

第三度ノ火傷ニアリテハ石炭酸水又ハ硼酸水ノ冷卷法ヲ施シ安靜ニ保持シ炎症ノ増進ヲ防クヘシ繃帶交換ハ數次之ヲ行ハサルヲ可トス而シテ繃帶ヲ行フニハ總テ制腐法ヲ嚴守セサルヘカラス

口腔内ニ熱キ飲食物等ニ因リテ火傷ヲ起ストキハ冷水ヲ以テ頻々含嗽セシムヘシ

若シ衣服ニ火焰ノ移リタルトキハ決シテ狼狽スルコトナク直チニ地上ニ轉輾スルヲ可トス又タ他人ノ此ノ如キヲ見レハ直チニ地上ニ倒シ火焰ノ消ユル迄回轉セシムルカ又ハ毛布、布團、帆布、粗氈、厚衣、机案掛ノ類ヲ以テ被ヒ或ハ自己ノ上衣ヲ脱キテ之ヲ纏ヒ火焰ヲ消滅セシムルコトヲ力メ又一方ニハ頭部ヨリ足部ニ至ル迄水ヲ注キ冷却シタ

ルトキハ躊躇スルコトナク傷者ヲ毛布ニテ包圍溫保スヘシ若シ即時準備スルコトヲ得レハ微溫浴ヲ行ハシム然ル後チ皮膚ノ剝離セサル様細心注意シテ脱衣セシムヘシ裸出シタル局部ハ溫毛布ヲ以テ被覆シ順次他部ニ及フヘシ第届ナル衣服ヲ着スルモノニアリテハ小刀或ハ鉋剪ヲ以テ截斷シテ脱セシメ皮膚ニ密着スル部分ハ切り殘シ決シテ粗暴ノ行爲アルヘカラス此ノ如キ處置ヲ行フニ際シテハ濃厚ノ茶咖啡、ブランデー、溫湯等ヲ與フヘシ

極メテ廣大ナル火傷ニ對シテハ全身ノ状態ヲ治療ノ主眼トス虛脫症狀ヲ呈スルトキハ興奮劑ヲ與ヘ心氣ヲ鼓舞スヘシ

豫防策トシテ火力アル近傍又ハ日没後ニ於テ火ノ移リ易キ油類ヲ取扱フコトヲ止メ容易ニ燃ヘ得ヘキ輕キ毛製布ハ硫酸、アンモニア、水ニ浸漬シタル後チ能ク乾燥精理シテ用ユルヲ可トス常ニ火竈ノ業ニ従事スルモノニハ石絨綿ヲ以テ組織シタルモノヲ着用スルトキハ最モ安全ナリ



### 凍傷

原因 永ク寒冷ノ侵襲ヲ受クルトキハ凍傷ヲ生ス而シテ血液循環ノ悪シキ部分即チ手指、趾尖、鼻尖、耳輪等ハ侵サレ易ク又運動スルコトナク一處ニ停立スルカ若シクハ酩酊シタルトキハ之ヲ發スルコト容易ナルモノナリ

症候 凍傷モ亦火傷ニ於ケルカ如ク其輕重ニヨリテ三度ニ區別ス

第一度ノ凍傷ハ初メ皮膚ニ赤色ヲ呈シ暫時ノ後冷却シテ僅カニ強硬トナリ知覺鈍麻シ終ニ白色ニ變ス

第二度ノ凍傷ハ皮膚ニ水泡ヲ生シ處々ニ糜爛ヲ呈ス

第三度ノ凍傷ハ局部ノ壞死スルモノナリ

處置 第一度ノ凍傷ニアリテハ雪水ニ浸シタル布片ヲ以テ摩擦シ温氣ヲ生スルニ至リ乾布ヲ以テ能ク拭ヒ濕潤ヲ去リ乾布片ニテ被包スヘシ或ハ又タ温浴ヲ取ラシムルモ可ナリ

第二度ノ凍傷ニアリテハ火傷ニ於ケルカ如ク泡膜ヲ穿刺シ水液ヲ漏

シ乾燥シタル消毒綿紗ヲ以テ之レヲ被ヒ繃帶ヲ施スヘシ

第三度ノ凍傷ニアリテハ直チニ消毒綿紗ヲ以テ乾燥繃帶ヲ施スヘシ概シテ凍傷ハ火傷ニ比スレハ侵襲セラル、時間長キヲ以テ深部ニ達シ治療緩慢ナレハ隨テ豫後不良ナリトス豫防法トシテ五寒地ニアリテハ耳輪ノ如キ凍傷ヲ發シ易キ部ハ之ヲ被包セサルヘカラス足趾ハ殊ニ注意シ襪ハ時々清潔ナルモノト交換スヘシ濕潤シタルトキハ凍傷ニ罹リ易シ又甚タシク冷却シタル部ヲ急速ニ温ムルハ最モ不可ナリ獸脂ヲ塗布スルトキハ豫防ノ効アリ

### 凍瘡

原因 凍瘡ハ手指足趾等ニ反覆スル輕度ノ凍傷ヨリ發起スルモノニシテ温處ト冷處ニ頻々交換スル人ハ殊ニ罹リ易ク又有色人種ヲ冒スコト多シト云フ

症候 凍瘡ハ殊ニ手指足趾ノ伸展側ニ暗赤又ハ青赤ノ腫脹ヲ起シ潰瘍ヲ形成スルノ傾キアルモノナリ而シテ凍冷ノ候ヨリ温暖ノ候ニ移

ルノ際又ハ夏季又ハ收床温覆スルトキハ苦痒焮灼ヲ發セシムルモノナリ

處置 局部ハ雪水、氷水等ヲ以テ摩擦シ氷罨法ヲ行フ其他古魯胃護トラウマチン、膠質、沃度丁幾等ヲ塗布シ絆創膏ノ包纏法ヲ行フカ又ハ濕布繻帶ヲ施行スヘシ

外皮ノ剝離セルモノニハ沃度仿護粉末ヲ撒布スルカ又ハヘフラ氏軟膏又ハ硼酸軟膏ヲ貼用ス

豫防法トシテ寒冷ノ季節ニハ手足ヲ温覆シ體質虚弱ナルモノニハ滋養強壯劑ヲ與フヘシ

### 化學的作用ニ因ル損傷

強烈ナル酸類若シクハ濃強ナル亞兒加里類ニヨルモノハ其狀態殆ント火傷ニ比スヘキモノトス而シテ之レヲ發スルトキハ可及的速ニ猶ホ殘留スル藥物ノ浸害ヲ除去スルコトヲ勉ムヘシ  
強酸類即チ硫酸、硝酸、鹽酸等ニヨルモノハ直ニ冷水ヲ以テ洗滌シ後チ

白堊、木灰、炭酸曹達等ヲ撒布シ若クハ石灰水乳汁、石鹼水ニテ洗ヒ後チ濕布繻帶ヲ施スヘシ

強亞兒加里即チ苛性加里曹達等ニヨルモノハ水ヲ注キ稀酸類例ハ稀醋等ニテ洗ヒ後チ卷法繻帶ヲ行フ若シ酸類ノ供給シ難キトキハ橙果、橄欖果等ノ類ヲ壓搾シテ中和セシムヘシ

### 昆虫及毒虫螫傷

昆虫及ヒ毒虫ノ螫傷ハ蚊、床虫、蜘蛛、蠍、狗蠅、百足虫、蜂、蟻等ノ刺傷ニシテ刺戟性物質ノ爲メ局所ノ皮膚ハ赤變シ毒麻疹狀トナリ焮灼苦痒ヲ兼ルモノナリ

蚊ノ刺傷ヲ受クルハ多ク露出部ニシテ前頭部、顔面、手足部ノ如キハ最モ多シ

處置 局部冷罨法ヲ行ヒ露出部ニハ豫防法トシテ石炭酸、阿列布油、石炭酸一〇、阿列布油二〇、〇ヲ塗布シテ其襲來ヲ防クヘシ又除虫菊花ヲ燻燒スルトキハ最モ効アリ

蚤 蚤ノ刺傷ハ多ク衣服ニヨリテ被覆セラル、部分ヲ襲ハル、モノニシテ蚊ノ刺傷ト殆ント同一様ナリ

處置 蚊ト同一ナリ

床虫 床虫ノ刺傷部ハ寢衣ヲ以テ被覆セラレサル部分頸圍手足ニ多ク局部ハ腫起赤色トナリ燒灼様痒痛ヲ覺ヘ往々膿潰シ困難ヲ極ムルコトアリ

處置 刺傷部ニ強アンモニア水ヲ點滴スルカ又ハ明礬ノ粉末ヲ撒布シ或ハ樟腦油等ヲ塗布スヘシ

豫防トシテ室内ニ點燈シ隙間等ニハ除虫菊粉末ヲ撒布シ置クトキハ其刺蝥ヲ免ルヘシ

蜘蛛 蜘蛛ノ咬傷ヲ受クルモ敢テ甚タシキ疼痛ヲ起ササルモノナレトモ、タラシテルン南方ノ諸邦ニ産スルニ肺屬ノ蜘蛛カツチホト(ニユジ)ラントニ産スト稱スル毒蜘蛛ノ咬傷ヲ受クルヤ局部腫脹發炎シ數週ヲ經サレハ治癒セサルモノナリ又時トシテ虚脱様症狀ヲ呈ス

ルコトアリ

處置 局部ノ刺傷點ニ暗母尼亞水ヲ塗布シ濕布繃帶ヲ行フ虚脱様症狀ヲ呈スルトキハ、ブランデー濃厚ノ茶咖啡等ノ興奮劑ヲ與フヘシ

蠍 該虫ノ刺傷ヲ受クルヤ局部疼痛劇甚ニシテ失神嘔吐ヲ起シ危険ノ症狀ヲ呈スコトアリ其刺スヤ尾尖ヲ以テス

狗蠅 狗蠅ハ皮膚下ニ寄生シ痒痒甚タシキモノナリ熱帶地方及ヒ赤道亞弗利加ニ殊ニ多ク産生ス

百足虫 百足虫ノ咬傷ヲ受クルトキハ疼痛甚シキモ蠍ノ如キコトナシ

處置 局部ニ暗母尼亞水ヲ貼附スルヲ以テ足ル若シ炎症ヲ起サハ濕布繃帶ヲ行フヘシ

蜂及蟻 此等ノ刺傷ハ殊ニ頭部顔面手指等ニ多シ刺傷部ハ赤色ヲ呈シ浮腫狀ニ腫脹シ疼痛灼熱ノ感アリテ大抵三四時間ヲ經レハ輕快スルヲ常トス然レトモ蜂蟻ニ襲ハレ多クノ蝥傷ヲ受クルトキハ腫脹一

層甚シク疼痛ニ堪ヘス大ニ發熱シ小時ニシテ死スルコトアリ身體ノ特異質ニヨリテ一層鋭敏ノ性ヲ有ス普通ハ局部ノ症狀速ニ消散スレトモ小靜脈又ハ淋尿管ノ直上ヲ刺傷セラレタルトキハ虛脱狀ノ全身症狀ヲ呈シ皮膚厥冷冷汗ヲ流シ脈膊細小不正トナリ時トシテ昏睡ニ陥ルコトアリ予カ實驗ニ徵スルニ一男子齡五十蜂ノ刺傷ヲ受ルコト前後三回毎回人事不省トナリタルモノヲ見又一小兒ノ全身蕁麻疹樣ヲ呈スルモノアリキ

刺傷ハ蜂蠅ノ尾部ニアル管狀刺螫ヲ以テスルモノナレハ時トシテ刺入點ニ其螫尖ノ折レテ殘留スルヲ見ルコトアリ

眼瞼部舌部等ノ螫傷ハ腫脹一層甚タシク其面貌ヲ異ニスルモノナリ處置 刺部ヲ檢シ刺螫ノ殘留ヲ見ルトキハ之ヲ除キ暗母尼亞水ヲ貼附シ炭酸曹達水又ハ醋酸鉛水ノ灑法ヲ行フヘシ

虛脱狀ノ全身症ヲ發スルトキハ興奮劑ヲ投與シ頭部ノ充血甚タシキハ頭部ニ冷罨法又ハ氷罨法ヲ行ヒ嚙下シ難キモノハ樟腦油依的兒等

ノ半筒乃至一筒ヲ皮下ニ注射スヘシ注射器ハ「ブラワット」氏ノ注射器ヲ用ユルヲ良トス(樟腦油ハ精製樟腦一分阿列布油四分混和スタル者)蜂刺ノ拮抗藥トシテ蠟ノ一二尾ヲ阿列布油ニ浸漬シタルモノヲ施用スルコトヲ稱フル人アリ

### 蛇咬傷

蛇咬傷ハ其ノ蛇類ニ依リテ毫モ害ナキモノアリ又甚タシキ危險ナルモノアリ茲ニハ專ラ毒蛇咬傷ノミヲ掲ク我邦ニ産スル毒蛇ハ蝮蛇(飯匙倩<sup>エラフロナキ</sup>海蛇魚ノ三種トス蝮蛇ハ到ル所ニアリ飯匙倩ハ沖繩並ニ鹿兒島縣大島ニ多ク殊ニ乾燥セル土地ニ住シ海蛇魚ハ南海ニ産ス

歐洲ニハ「ウキヘラペエルス」「ウキヘラレチイ」「ウキヘラアスヒス」(犀蛇)我邦ノ蝮蛇之ニ屬ス(亞米利加ノ響蛇亞細亞及及ヒ亞弗利加ニ産スルコト)我邦ノ飯匙倩之ニ屬ス(等アリ印度北亞米利加等ニ産スル海蛇ハ其ノ害少シ咬傷部ニ●●ノ如キ二ツノ刺入點ヲ見ルモノハ陸住ノ毒蛇ニシテ●●●●ノ如キ刺狀ヲ呈スルモノハ毒蛇ニアラサルナリ蛇咬傷ヲ

受クルトキハ直チニ劇痛ヲ發シ其部發赤シ次第ニ周邊ニ及ヒ甚クシ  
 キハ局部又ハ全身ノ淋巴腺發炎シ創口ハ漸次腐敗シテ黑色又ハ紫色  
 ヲ呈スル膿胞ヲ形成シ惡臭ヲ放テ同時ニ全身不安ノ狀ヲ呈シ四肢倦  
 怠胸内苦悶ヲ覺ヘ呼吸促進脈搏細少不正トナリ嘔吐吃逆ヲ發シ腹痛  
 下痢ス又尿分泌減少シ冷汗ヲ流シ筋肉痙攣ヲ發シ次テ心臟麻痺シテ  
 死ニ陥ルモノナリ

顔面軀幹ノ咬傷ハ手足ノ咬傷ニ比スレハ劇烈ナルノミナラス最モ危  
 險ナリトス

處置 蛇咬傷ヲ受タルトキハ直ニ其上部ヲ緊縛シテ血行ヲ絶チ同時  
 ニ口ヲ以テ創口ヲ吸吮スルヲ最良トス(口内創傷アルトキハ危險ナル  
 ヲ以テ爲スヘカラス)而シテ昇汞水、石炭酸水、強亞兒箇兒ヲ以テ創傷ヲ  
 洗滌シ濃厚ノ腐蝕藥液即チ苛性加里、硝酸銀、石炭酸ノ溶液ヲ以テ腐蝕  
 スルカ又ハ火箸ヲ紅熾シテ貼スルカ又ハ咬傷部ヲ十字形ニ切開シテ  
 充分ニ瀉血シ或ハ其部分ヲ切除シタル後チ卷法繃帶ヲ行フ内服藥ト

シテ安母尼亞水(安母尼亞一、〇水二、〇乃至三、〇ノ和液)ヲ一日數回十滴  
 乃至十二滴ヲ與ヘ且ツ局所ニ一筒ヲ注射スヘシ

全身療法トシテ興奮劑、ブランテ、ウキスキ、燒酎、咖啡濃厚ノ茶ヲ與  
 ヘテ心神ヲ鼓舞シ呼吸不正(遲徐困難)ニシテ運動絶ヘントスル狀況ア  
 ラハ人工呼吸ヲ行フヘシ

總テ蛇咬傷ヲ受クルヤ甚シク驚怖スルモノナレハ務メテ精神ヲ安慰  
 ナラシメテ安靜ニ保護シ且ツ溫保スルヲ要スヘキモノナリ

附 毒矢ノ刺傷

往古ヨリ我邦ノ北海道土人ノ使用スル毒矢又ハ亞米利加土人ノ毒矢  
 等ニ依リテ生スル一ノ創傷中毒ナリ

毒矢ニ用ユル矢尖ハ鐵、矽石、骨、硝子、木材ヲ以テ造リ之ニ塗附スル物質  
 ハ動物性又ハ植物性品ニテ造リ最モ秘密ニシテ其巧ナルコト實ニ驚  
 クヘキモノアリ此矢ヲ以テ狩獵シ又ハ實戰ニ用ユルナリ其製作ノ注  
 意周到ナルト發射ノ妙ナル能ク百メートルノ距離ニ命中シテ過アラ

サルト云フ

處置 毒蛇咬傷ノ處置ニ同シ

### 魚類ノ刺傷

魚類ノ鱗尾腮等ニ觸レテ被ムル一ノ刺傷ニシテ殊ニ熱帶地方ニ産スル猫魚海華躑魚章魚等ノ如キハ毒性ヲ有スルモノトス其魚類ヲ捕ヘントスル際カ又ハ淺瀬ヲ渡渉スルトキニ其刺傷ヲ受クルコトアリ  
症候 其刺傷ヲ受クルヤ局部發炎腫脹シ疼痛ヲ發シ時トシテ全身症  
狀ヲ現呈スルコトアリ

處置 石炭酸水昇汞水又ハ過滿俺酸加里水ヲ以テ洗滌シ細帶ヲ施スヘシ全身症狀ヲ呈スレハ興奮劑ヲ與フ

### 犬咬傷

狂犬病又ハ恐水病ハ主トシテ狂犬ノ咬傷ニヨリテ發起スルモノナレトモ稀レニハ猫狼狐ノ咬傷ニヨリテモ發起スルコトアリ其咬傷ヲ受ケ其當時著シキ障害ヲ呈セサルモ一ヶ月以内ヨリ數月ニ亘ル潜伏期

ヲ有ス短キハ十八日乃至六十日ヨリ長キハ三ヶ月乃至六ヶ月トス然レトモ六ヶ月以上ニ過ルモノハ殆ント稀有ナリ

症候 最初心神違和食慾亡失シ次テ嚙下痙攣ヲ起シ飲液スル能ハス水液ヲ見ルトキハ呼吸咽頭痙攣ヲ發スルノミナラス全身痙攣強迫ヲ來ス總テ患者ハ不穩ニシテ瞬時モ安靜ナラス唾液分泌増加シ音響隙風等ノ些少ノ刺戟ニモ鋭敏トナリ胸内苦悶ヲ訴ヘ躁狂狀トナリ體温ハ僅ニ昇騰スルモ稀ニ高熱ヲ呈スルコトアリ脈搏ハ最初充實ナルモ漸次微弱頻細トナル上記ノ症狀一二三日間持續シタル後全身衰弱ヲ來シ終ニ死ニ陥ルモノナリ此病症ヲ發スルトキハ皆ナ死ニ歸シ治癒スルモノナシ咬傷部ノ癰痕ハ腫脹炎症ヲ發シ焮灼苦痛ヲ訴フルモノヲ見ルコトアリ

處置 極メテ敏速ニ其咬傷部ノ上部ヲ緊縛シ一%昇汞酒精溶液五百倍昇汞水又ハ五%石炭酸水ヲ以テ洗ヒ次テ石炭酸硫酸硝酸苛性加里等ヲ似テ腐蝕スルカ又ハ赤熱シタル火著ヲ貼スルカ又ハ火藥ノ一少

片ヲ爆發セシムルカ又ハ咬傷部ヲ十字形ニ切り充分ニ瀉血シ捲法細帶ヲ施スヘシ

咬ミタル犬ハ果シテ狂犬ナリヤ否ヤヲ檢スル要アレハ直ニ撲殺スヘカラス若シ狂犬ナルコトヲ知ラハ直ニ豫防注射法ヲ施行スヘシ發病後ニ於テ其法ヲ行フモ更ニ効ナキモノナリ

民間ニ於テハ好ンテ局部ニ枸櫞汁ヲ稱用スルコトアリ

### 鼠咬傷

症候 咬傷ヲ受クルヤ局部疼痛發赤腫脹シ次テ淋泄管及ヒ淋泄腺炎ヲ起スカ又ハ蜂窩織炎ヲ惹起スルコトアリ上記ノ症狀減退スルノ後チ全身違和食氣不振氣力衰へ全身蒼白惡液症狀ヲ呈ス甚シキニ至レハ水腫ヲ發ス然レトモ何レノ咬傷ニ於テモ必發スルモノニ非スシテ或ル地ニ産スル鼠族ハ極メテ有毒ノモノアリト言フ窮鼠ノ咬傷ヲ受クルトキハ一層甚シ

處置 直チニ瀉血法ヲ行ヒ硝酸銀棍又ハ苛性加里ヲ以テ腐蝕シタル

後チ制腐細帶ヲ行フ

### 銃創及ヒ砲創

銃創及ヒ砲創ハ器質欠損スル挫創又ハ裂創ト見做スヘキモノナリト雖トモ骨傷及ヒ出血ヲ伴フコト多ク一種特異ナルモノナリ

原因 銃創ハ小銃拳銃短銃ニヨリテ發ス

症狀 銃創ハ疼痛輕微ニシテ出血アルヲ見テ初メテ負傷シタルヲ知得スルコト屢々アリ深在部脈管ノ稍大ナルモノ損傷セラハ、モ出血スルコト僅少ナリ然レトモ頸動脈股動脈ヲ貫通セラル、トキ又ハ頭部胸心臟ヲ貫通スルトキハ即死ヲ免レサルモノナリ

總テ銃創ハ其直後ニ於テ比較的出血少ナク疼痛モ甚シカラサルモノナレトモ時ヲ經テ大出血ヲ來シ危險ニ陥ルヲ見ルコトアリ宜ク注意スヘキナリ

射擊距離彈丸ノ勢力射入ノ角度及身體組織ノ異ナルニヨリテ創狀ニ差異アルヲ見ルモノナリ

強熱ノ小銃彈丸ハ組織ノ硬軟ニ關セス飛來スル方向ヲ取リテ体内ヲ貫通スルモノナリ此ノ如キモノヲ貫通銃創ト云フ而シテ其射入口ノ形狀ハ多クハ圓ク彈丸ノ徑ニ一致シ過縁ハ少シク挫傷ス近距離ノ銃創ニアリテハ皮膚燒焦シ火藥ノ粉粒ノ癒着スルヲ以テ局部ハ灰黑色ヲ呈スルコトアリ射出口ハ射入口ヨリ大ニシテ破裂狀ヲナス時トシテ數多ノ射出口ヲ認ム之レ破裂骨片ニ因スルモノナリ

弱熱ノ小銃彈丸ハ体内ヲ貫通スルコトナク殘留スルコトアリ之ヲ盲管銃創ト云フ又軟部ノミヲ穿通シ骨ニ當リ之レヲ穿透スルコトナク他ニ方向ヲ轉スルコトアリ又勢力最モ弱キモノハ體內ニ穿入スルコトナク單ニ挫創ヲ起スモノナリ

若シ小銃彈丸身體ノ表面ニ沿フテ擦過スルモノハ擦過銃創ト云ヒ溝狀ヲナスモノヲ半管狀銃創ト云フ

總テ銃創ノ壁ハ炎症ヲ起シ汚穢液ヲ排泄シ被服ノ破片又ハ銃丸等ノ異物殘存スルトキハ刺戟症狀ヲ發起ス

銃創者ハ時トシテ震盪症ヲ起シ死ニ至ルコトアリ

砲彈ニヨルモノハ砲創ニシテ銃創ニ比スレハ局部組織ヲ滅却セラレハコト甚シク慘憺タル狀態ヲ呈スルモノナリ

處置 淺表面ニアリテハ容易ニ除キ得ヘキ銃丸又ハ異物ハ之レヲ除去スヘシト雖トモ決シテ濫リニ創内ヲ探クルコトナク創傷及ヒ其周邊ヲ石炭酸水昇汞水ニテ洗滌シ沃度仿謨未ヲ撒布シ消毒綿紗ヲ貼シ壓迫繃帶ヲ施シ安靜ニ支持シ若シ骨傷又ハ關節ノ銃創ニアリテハ更ニ副木ヲ貼シテ之ヲ固定シ大出血ヲ兼ルモノハ止血法ヲ施ス頭部ノ銃創ニハ頭髮ヲ短クシ氷罨法又ハ冷罨法ヲ行ヒ震盪症ヲ起シタルモノニハ興奮劑ヲ與フル等特別ノ處置ヲ要スルハ勿論ナリトス

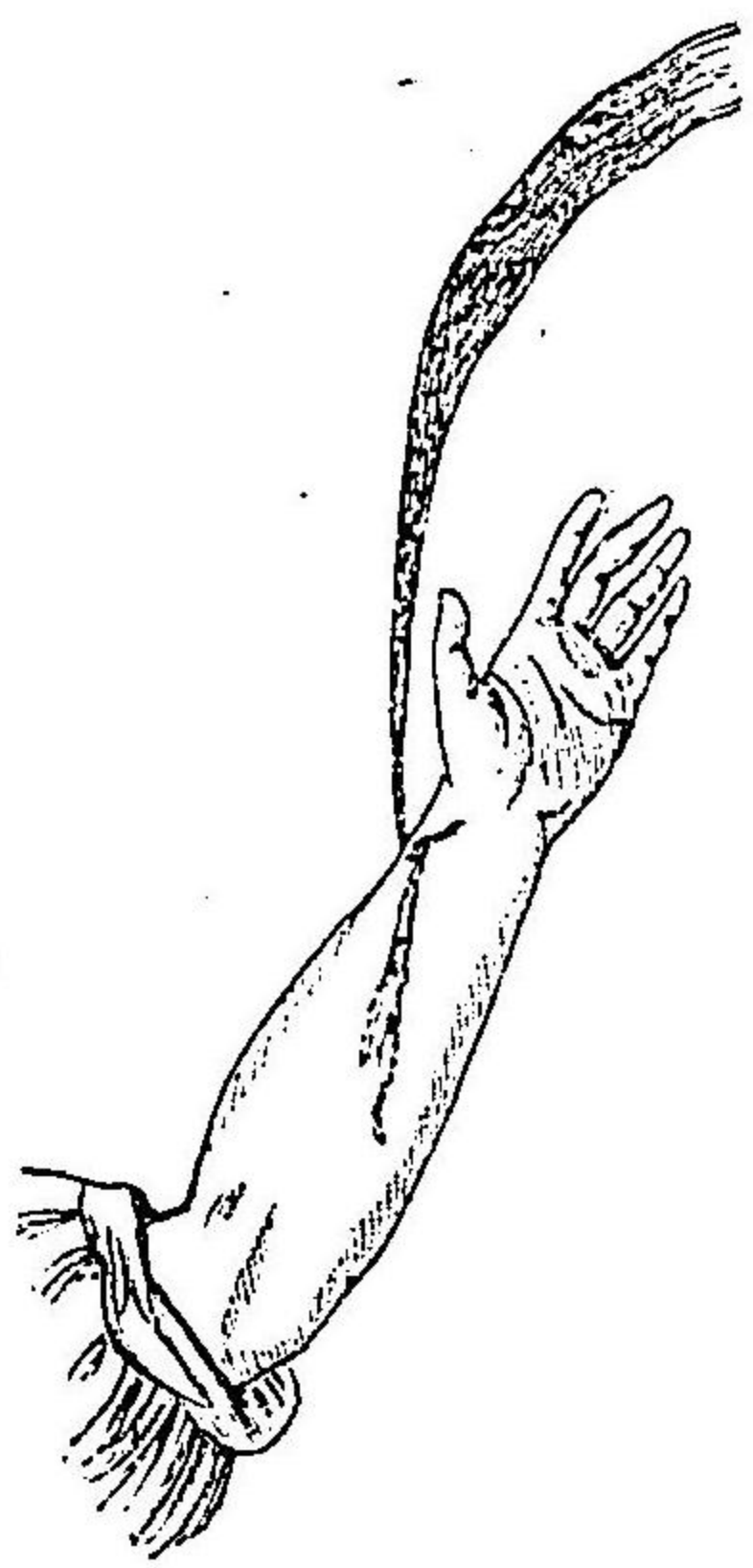
**出血**

人身體內ノ血液ハ脈管系統中ニアリテ瞬時モ停止スルコトナク一定ノ速力ヲ以テ全身ヲ循環スルモノナリ若シ其脈管ノ一部ニ創傷破綻ヲ受クルトキハ血液ハ直チニ脈管外ニ逸出ス破綻セラレタル脈管ノ



種類ニヨリテ其出血ノ狀況ヲ異ニシ隨ツテ危險ナルコトアルト又否  
 ラサルトアリ其出血ヲ動脈出血、靜脈出血、毛細管出血ニ區別ス  
 動脈出血 動脈管ヲ破綻セラレタルトキノ出血ニシテ其色鮮紅ナリ

圖三十二第

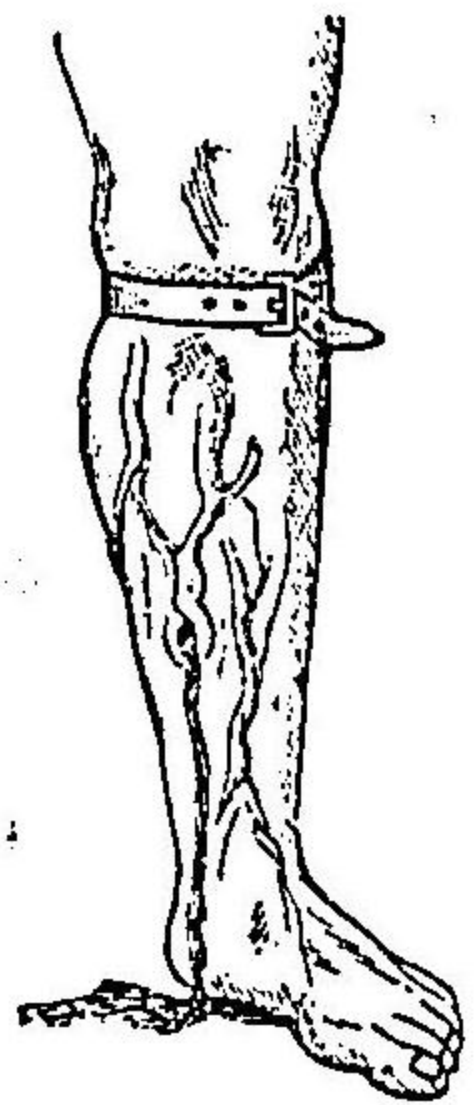


(圖ノ血出脈動)

稍々大ナル脈管ヨ  
 リノ出血ニアリテ  
 ハ一張一弛心動脈  
 搏ト一致シテ噴出  
 シ其量多キヲ常ト  
 ス(第廿三圖ノ如シ)

靜脈出血

圖四十二第



(圖ノ血出脈靜)

且ツ心動ト一致シテ噴出スル  
 コトナク平等ニ流出ス其量比  
 較的多カラサルモノナリ(第  
 十四圖ノ如シ)

毛細管出血 創傷内ニ起ル出血ニシテ赤色ヲ呈ス健康体ニ於テハ自  
 然ニ止血スルモノナリ然レトモ氣候ノ溫暖ナルトキ又ハ先天性出血  
 素因アルモノ病後ノ衰弱壞血病等アルモノハ容易ニ止血セスシテ危  
 險ニ陥ルコトアリ

動脈出血、靜脈出血、毛細管出血ノ症狀ハ凡ソ前記ノ如シト雖トモ動脈  
 出血ニアリテモ窒息ニ陥リタル者ノ出血ハ暗黒色ナリ又靜脈出血ニ  
 於テモ其血液カ長ク空氣ニ觸ル、トキハ鮮紅色トナリ又稍々大ナル  
 動脈ニ隣接スル靜脈ノ出血ハ時トシテ心動ノ波及ニ依リ一張一弛噴  
 出スルコトアリ又刺創ノ如キ其創底深キニアルモノハ明視スルコト  
 難ク且ツ容易ニ動脈出血ナリヤ又靜脈出血ナルヤヲ區別スル能ハサ  
 ルコトアリ若シ出血脈管口ノ中心部(上部)ヲ壓迫スルニ依リテ出血ノ  
 量減少スルモノハ動脈出血ニシテ之ニ反スルモノハ靜脈出血ナリト  
 ス動脈出血ハ其血液ヲ失フコト多ク從テ最モ危險ナルモノナリ靜脈  
 出血ニアリテハ其量多カラサレハ危險ナラサルモノナレトモ頸靜脈

ノ如キ筋肉ノ薄キ部分ノ出血ニアリテハ直チニ空氣ノ竄入ニヨリ忽チ心動停止シ致命スルコトアリ

毛細管ノ出血ハ前記ノ如キ疾病アルモノニシテ如露ノ孔ヨリ水ノ漏出スルカ如キ狀ヲナシテ出血スルモノハ危險ナルコトアリ

大出血ニアリテハ一種特異ノ症狀ヲ呈スルモノニシテ即チ顔面次第ニ蒼白トナリ口唇藍青色ヲ呈シ眼窩陷没シ鼻梁高ク聳ヘ耳鳴アリ四顧暗黒ナルヲ訴ヘ卒倒シテ起ツコト能ハス手掌ヲ以テ心動ヲ抑ヘ胸内苦悶ニ堪ヘサルモノ、如ク且ツ時々欠伸シ呼吸淺表、脈搏細數ニシシ力ナク全身厥冷シ遂ニ失神ニ陥リ幽微ノ痙攣ヲ發シ冷汗全身ヲ潤シ喘鳴呻吟シテ終ニ死ニ至ル

挫創ニアリテハ血管毀損セララル、モ切創ニ比スレハ出血少ク止血スルコト速ナリ之レ血管ノ挫滅セラレテ血管ノ口徑狹小トナリ凝血ニヨリテ閉塞シ易キニ依ルカ爲メナリ刺創ニアリテハ創底深ク出血ノ根源ヲ探知スルコト難ク殊ニ体腔ニ通スルモノ、如キハ不知不識ノ

間ニ多量ノ失血ヲ來シ死ニ陥ルヲ見ルコトアリ

### 止血法

自然ニ止血スルハ其切截セラレタル脈管壁及ヒ其周圍組織ノ縮小スルト血餅ノ生スルニ因ルモノナリ出血ニ對シテハ頗ル注意ヲ要スヘキモノニシテ敏活ニ適當ノ止血法ヲ施サ、レハ一命ヲ失フコトアリ殊ニ初生兒、虛弱ノ人、老年者ハ一層注意スヘキモノニシテ等閑ニ附スル等ノコトアラハ不測ノ災害ヲ受ルモノニシテ危險極リナキモノナリ

止血法トシテ安靜、高位、屈曲、壓迫、結紮、止血藥等ノ貼用等ナリト雖トモ普通廣ク應用セララル、モノハ壓迫法ニシテ強屈、安靜、高位、之レニ併セ行フモノナリ止血藥ノ貼用ハ却テ不測ノ災害ヲ招クコトアレハ深ク注意スヘキモノニシテ現今之レヲ用ユルモノナシ

小出血ニアリテハ其局部ヲ安靜ニシ高位ニ保ツトキハ血液脈管口部ニ凝着シ自ラ止血スルモノナレトモ稍々大ナル血管ニアリテハ血壓

ノ爲メニ排除セラレ出血止マス故ニ壓迫法ヲ行ヒ且ツ強屈法ヲ併施セハ止血スルモノナリ但シ他ノ血管ト多ク吻合スルモノハ其効確實ナラス

強屈法 前搏ノ出血ニハ肘關節壓枕ヲ置キヲ屈曲シ又下腿ノ出血ニ

アリテハ膝關節ニ壓枕ヲ

置キテ強屈ス(第二十五圖

ノ如シ)

壓迫法 強屈法ヨリモ其

効確實ニシテ且ツ應用シ

得ルコト多シ蓋シ出血ノ

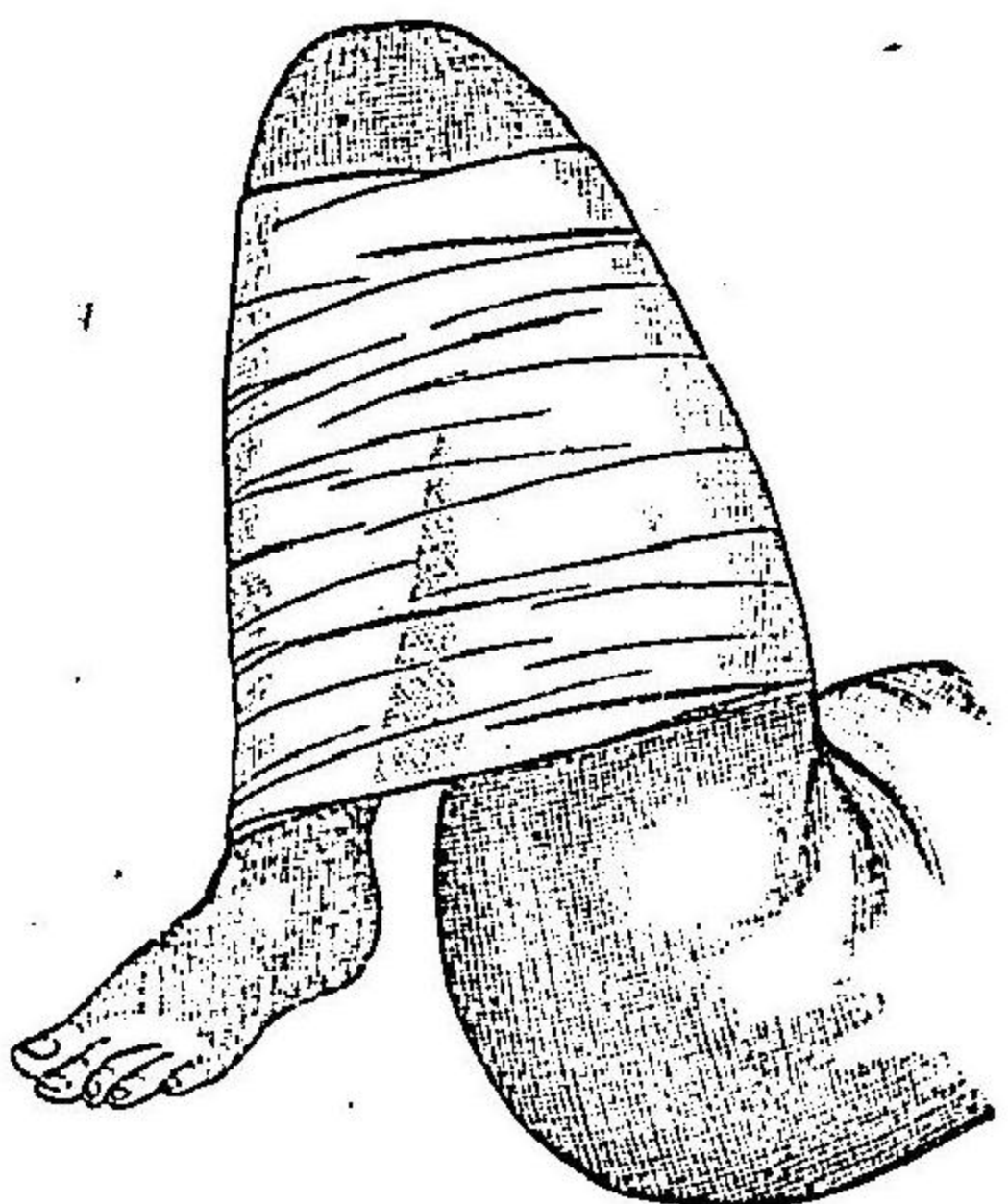
部位ニ依リ強屈法ヲ併用

シ得ルトキハ更ニ効アル

モノトス

壓迫法ヲ直達壓迫法ト介達壓迫法トニ區別ス甲ハ創傷部ニ於テ直チ

圖 五 十 二 第

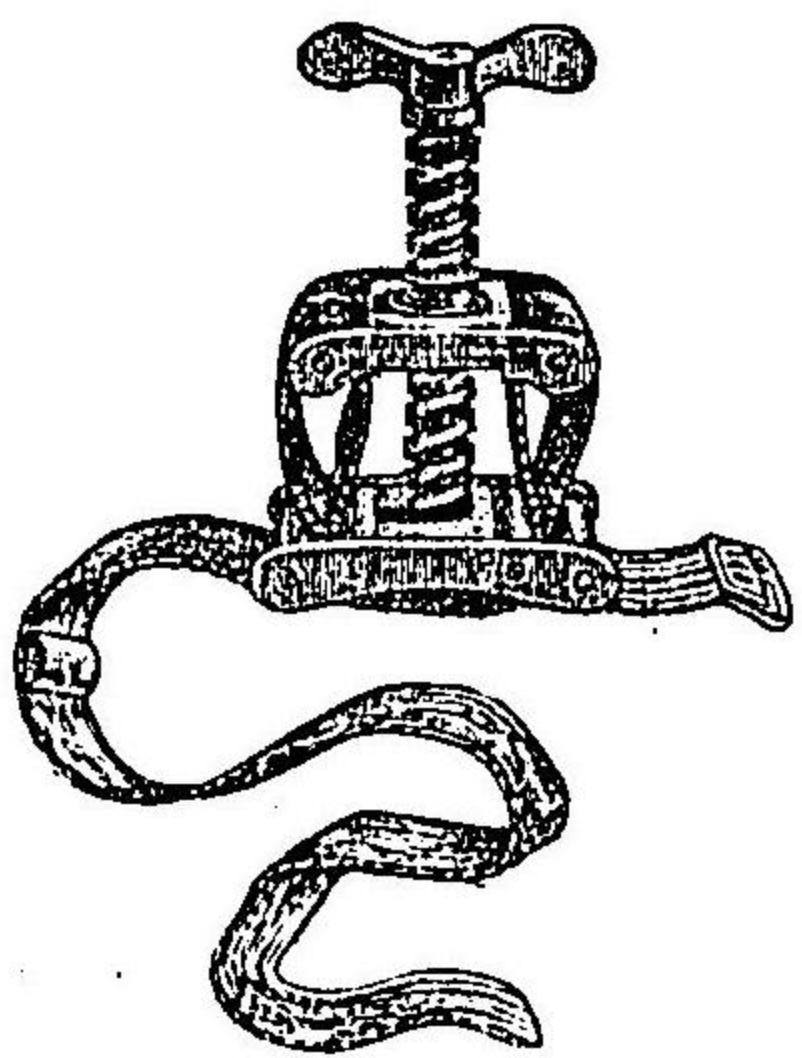


(圖ノ法血止屈強)

ニ血管端ヲ壓迫スルモノヲ云ヒ乙ハ遠隔ノ部位ニ於テ動脈ノ中心部ヲ適宜ノ所ニ於テ壓迫スルモノヲ云フナリ  
直達壓迫法ヲ施スニハ創傷部ヲ目撃スルヲ要ス而シテ消毒綿紗或ハ綿花ヲ適宜ニ重疊シテ壓定巾トナシ血管部ニ當テ緊ク壓迫シテ繃帶ヲ行ヒ可及的安靜且ツ高位ニ保持スヘシ  
介達壓迫法ハ創傷部ヨリ遠隔シタル部分ニ行フモノニシテ專ラ直達壓迫法ノ奏効ナキトキ又ハ創傷ノ狀況ニ依リ直達壓迫法ヲ行フコト能ハサルカ又ハ繃帶材料不充分ナルトキニ於テ施行スヘキモノナリ  
此ノ介達壓迫法ハ骨面ニ向ヒテ壓迫スルモノニシテ隨所行ヒ得ヘキモノニアラス故ニ豫メ其部血管分佈ノ狀態ヲ知ラサルヘカラス又之レヲ行フニハ必ス先ツ手指ヲ以テ壓迫シ其奏効ノ如何ヲ檢シタル後チ止血器ヲ貼スルカ又ハ其他ノ適宜ノモノヲ代用シテ壓迫ヲ加フヘキモノナリ  
手壓法ハ決シテ組織ヲ毀損スルコトナク出血ノ狀況ニ依リテ適宜ニ

壓力ヲ増減スルコトヲ得ヘク極メテ良法ナリト雖モ手指疲勞シ長キニ堪ヘ難ク且ツ負傷者ヲ運搬スルニ當リテハ全ク應用スルコト能ハサルモノナリ此時ニ於テ止血器ヲ貼スルカ若シクハ之レニ代用シ得ヘキ他ノ物品ヲ求メサルヘカラス「エスマルヒ」氏止血護謨管其他「ブチ

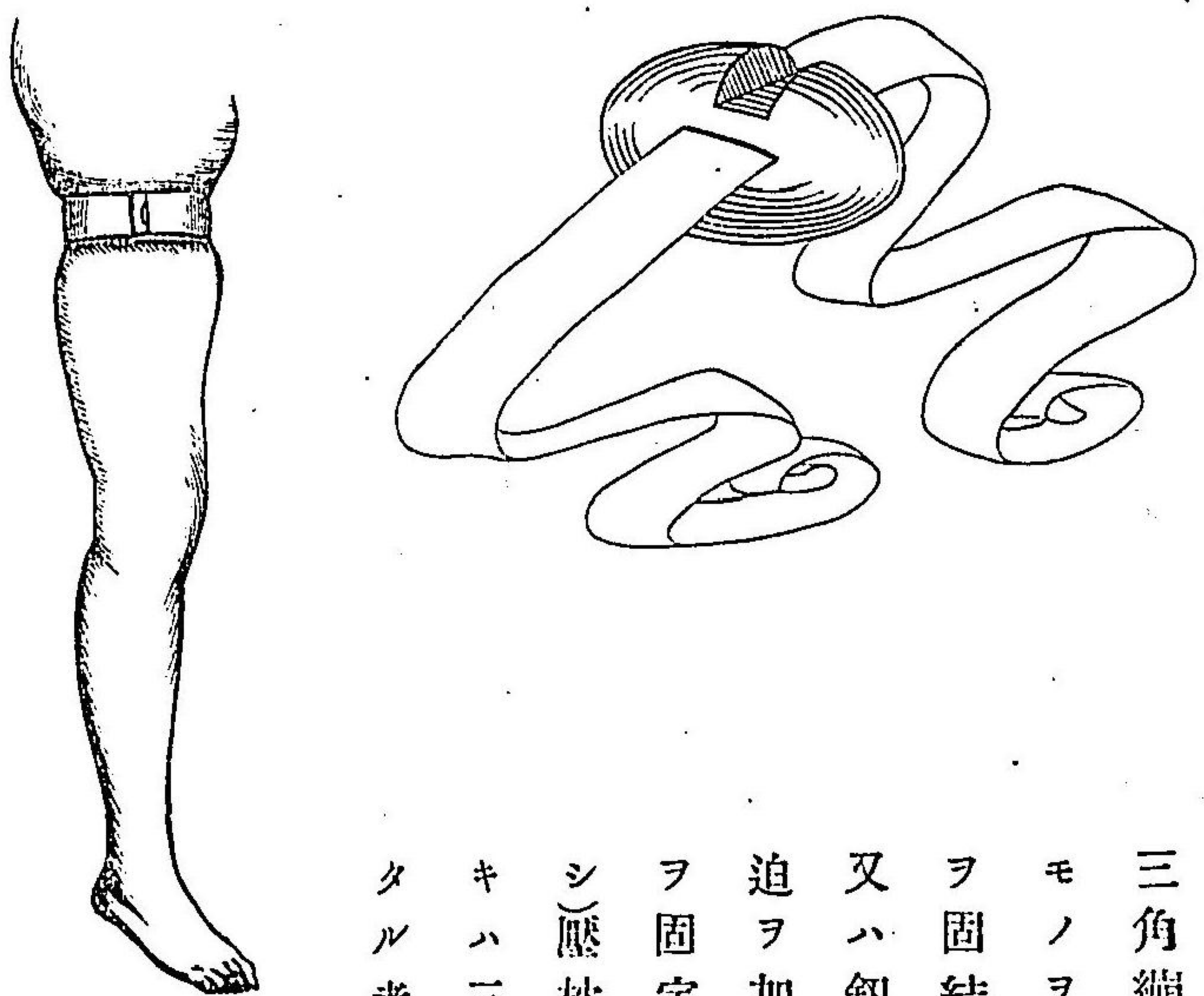
圖六十二第



(圖ノ器壓絞旋螺)

イ氏ノ螺旋絞壓器(第二十六圖)又ハ我海軍ニ用フル野戰止血器又ハ二十七圖ノ如キ楕圓形ノ木球ニ布帶ヲ貫通シタルモノ又ハ護謨帶彈力性ズボン鈞等ヲ用ユト雖トモ護謨管ハ壓迫ヲ確實ニナシ得ヘク又何レノ所ニモ應用スルヲ得ルノ便益アリ殊ニ「エスマルヒ」氏止血護謨管(第二十八圖)ヲ最良トス本校及ヒ練習船ノ救急箱ニ納メアリ又固ク卷キタル繃帶又ハ圓滑ナル小石木片「コルク」等ヲ清潔ナル布片ニ包ミタルモノヲ壓枕トシテ先ツ之レヲ動脈上ニ

圖七十二第

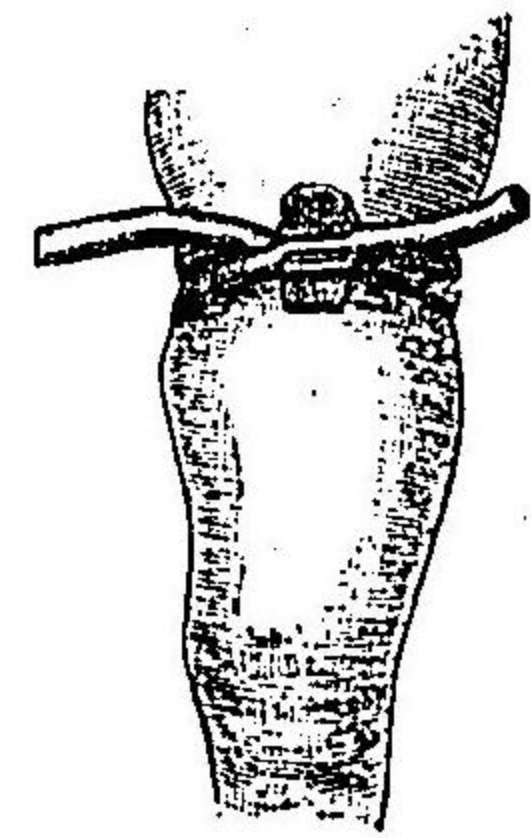


護謨管ヲ以テ止血法ヲ行ヒタルノ圖

節ヲ作り之ヲ壓枕トシ同一ノ法ヲ行フモ可ナリ

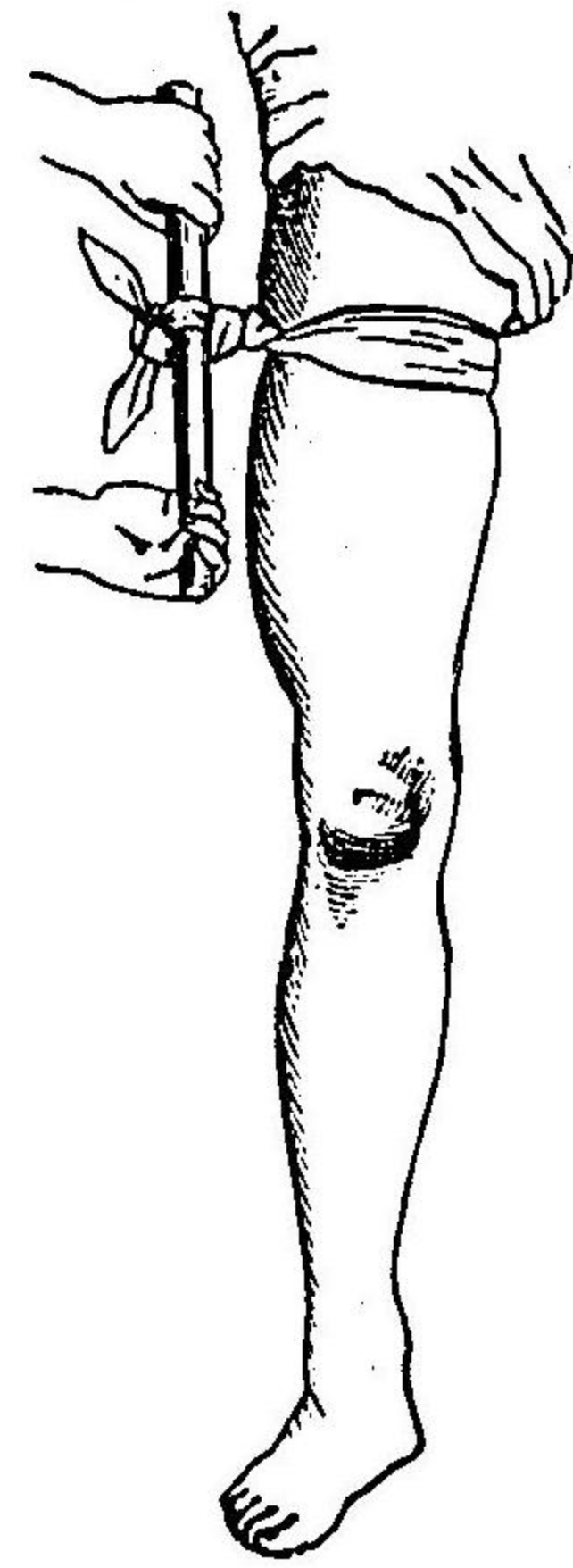
當テ緊ク環行帶ヲ施スカ又ハ三角繃帶ヲ頸巾狀ニ疊ミタルモノヲ以テ其上ヲ纏ヒ其尖尾ヲ固結シ其下ニ木棍又ハ短鈞又ハ鈞鞘等ヲ通シ廻轉シテ壓迫ヲ加ヘ止血スルニ及ヒ木棍ヲ固定スヘシ(第二十九圖)ノ如シ(壓枕トナスヘキモノナキトキハ三角繃帶ヲ頸巾狀トナシタル者ノ中央ヲ索狀トナシ結節ヲ作り之ヲ壓枕トシ同一ノ法ヲ行フモ可ナリ

圖八十二第



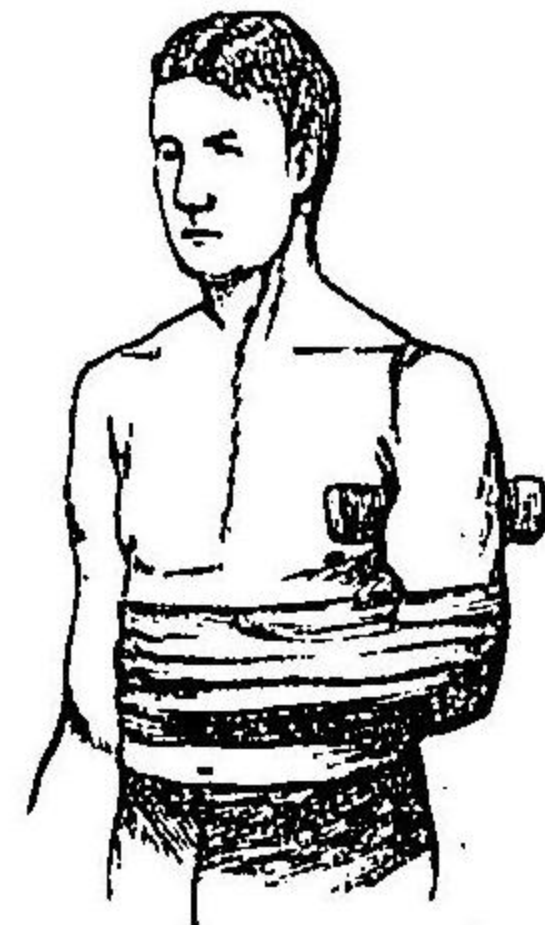
(圖ノ管護止血氏ヒルマスエ)

圖九十二第



(圖ノ用應器血止杆用)

圖十三第

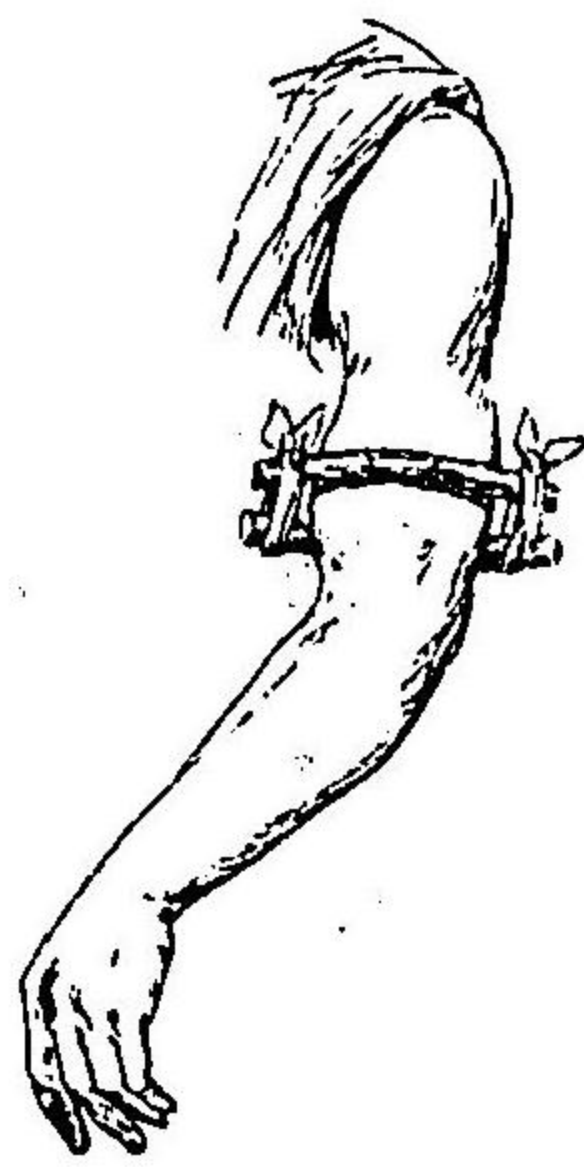


(圖ノ法血止桿挿)

ノ止血法第三十一圖ノ如シ)

上肢ノ出血ニハ腋下ニ木棍ヲ挿入シ上搏ヲ胸壁ニ緊縛スルカ(腋下挿  
桿止血法第三十圖ノ如シ)又ハ長サ  
八吋位ナル二個ノ木桿ヲ採リ一個  
ヲ内側ニ一個ヲ外側ニ當テ其兩端  
ヲ頸巾狀ノ三角巾又ハ卷軸帶ヲ以  
テ結縛スルモ可ナリ(ツエルケル氏

圖一十三第



(圖ノ法血止氏ルケルエウ)

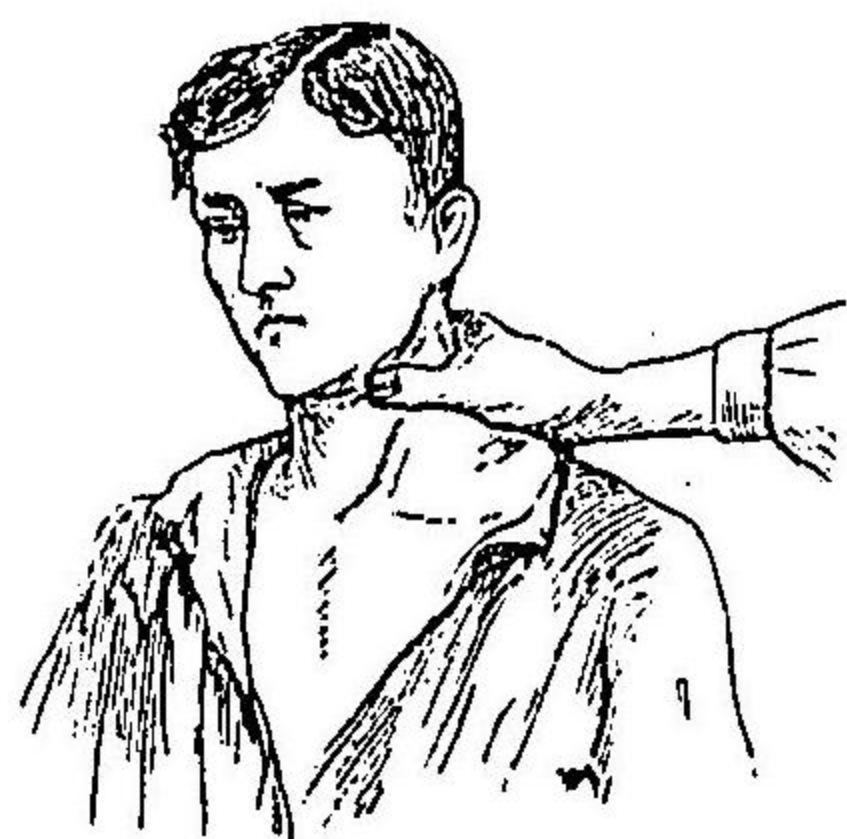
蒼卒ニ止血法ヲ行フトキハ其緊縛度ニ過キ皮膚ヲ破損スルコトアレ  
ハ宜シク注意スヘキモノナリ  
又壓迫強度ニ過クレハ靜脈血  
ノ歸流ヲ妨ケ却テ害アリ又長  
時間放置スルトキハ末梢部壞  
疽ニ陥ルモノナリ故ニ二三時  
間以上ニ亘ルヘカラス此法ニ於テ小動脈ノ出血ニ効ヲ奏スヘシト雖

モ其大ナル動脈管ノ出血ニハ一時ノ姑息法ニ過キス故ニ如此場合ニハ直チニ血管端ノ結紮法ヲ行フヘシ  
 出血一時閉止シタルモノ時ヲ經タル後チ再ヒ出血スルコトアリ之レ反應期ニ於テ血行旺盛ニナリタルトキ又ハ動靜脈端ノ壊死シタルトキ等ニ見ルモノナリ之レ等ヲ稱シテ後出血ト云フ若シ此ノ如キコトアラハ適宜ノ止血法ヲ行フヘシ

脈管ノ壓迫スヘキ主要ナル部分凡ソ左ノ如シ

- (一) 頭蓋前部ノ出血 耳前觀骨弓ノ根部ニ於テ顳顬動脈ヲ壓迫スヘシ
- (二) 顔面及頸部ノ出血 先ツ患側ノ下顎隅角ニ指橫徑前ノ下緣部ニ於テ外顎動脈ヲ壓迫スヘシ若シ一側ノ壓迫ノミニテ止血セサルトキハ兩側ヲ同時ニ壓迫スルヲ良トス(但シ口唇及ヒ頰部ノ出血ニハ拇指ヲ以ツテ口内ト口外部ヨリ指間ニ壓迫スレハ容易ニ止血スヘシ)

圖二十三第



(圖ノ迫壓脈動頸)

圖三十三第



(圖ノ迫壓脈動下骨鎖)

(三) 頸上部ノ出血 胸鎖乳嘴筋ト甲状軟骨下ノ水平線ニ於テ頸推ニ向

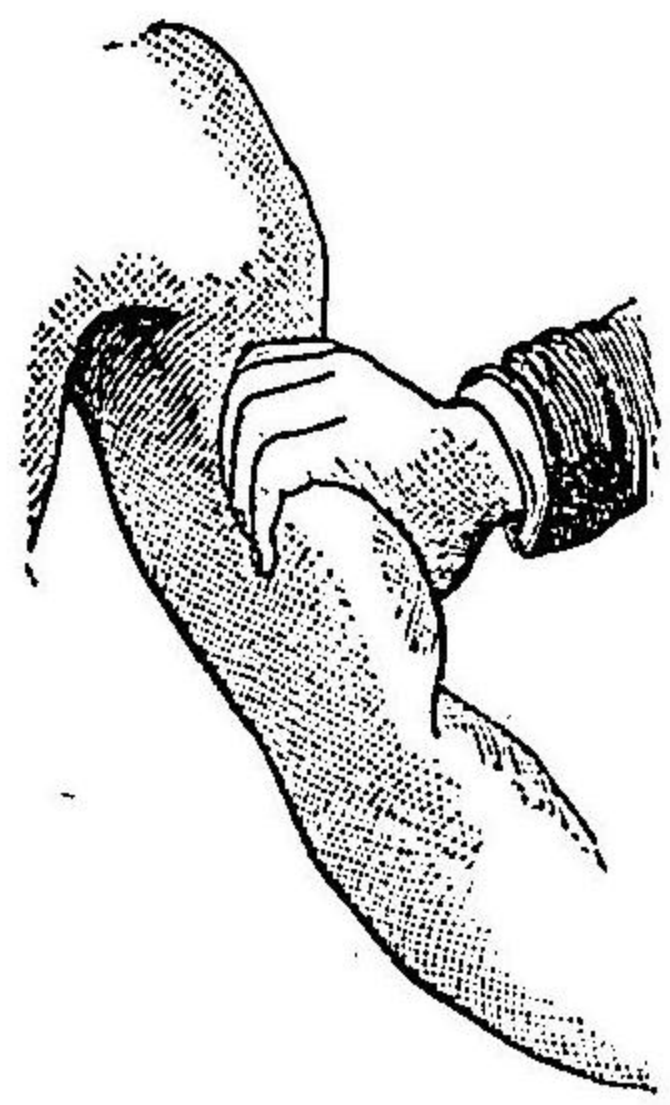
テ總頸動脈ヲ後内方ニ強壓スヘシ(第三十二圖ノ如ク)(但シ頭面部ノ出血ニモ此ノ部ノ壓迫ヲ行フコトアリ)

(四) 腋窩及ヒ上肢上部ノ出血 鎖骨下動脈ヲ胸鎖乳嘴筋ノ外緣ニ於テ鎖骨上部ヨリ内下方ニ向ヒ拇指ヲ以テ深ク押壓スヘシ(第三十三圖ノ如シ)

(五) 上膊下部及ヒ前膊ノ出血 上膊動脈ヲ上膊ノ内面ノ淺溝ヲナス部即チ二頭膊筋ノ内緣ニ四指ヲ當テ上膊骨ニ向ヒテ壓迫スヘシ(第

三十四圖

(六) 手掌ノ出血 腕關節上際ニ於テ橈骨動脈及ヒ尺骨動脈ヲ壓迫スヘシ



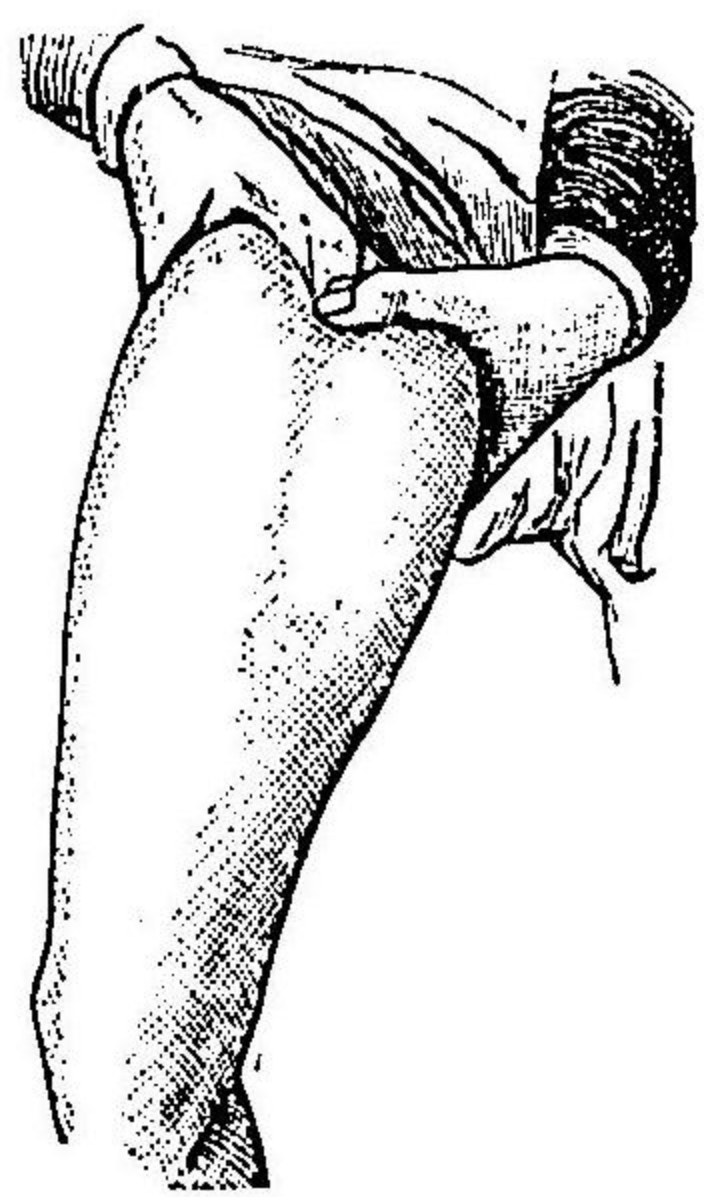
(圖ノ迫壓脈動膊上)

(七) 手指ノ出血 指根部ノ内

外両側ヲ拇指ト示指又ハ中指トノ間ニ摘ミ壓迫スヘシ

圖四十三第

前膊以下ノ出血ニハ前ニ述タル如ク肘關節部ニ壓枕ヲ置キ強屈法ヲ行フモ可ナリ



圖五十三第

(圖ノ迫壓脈動股)

(八) 下肢ノ出血 股動脈ヲ鼠蹊

部ニ於テ腸骨前上棘ト耻骨縫際トノ中間ヲ骨盤縁ニ向ヒ兩手ノ拇指ヲ以テ押壓スヘシ此際股ハ少シク屈曲外

轉ノ位置ニ在ラシムルヲ良トス(但シ此ノ點ヨリ内髁ニ一直線ヲ畫

ケハ其垂線ハ股動脈ノ徑路ト知ルヘシ

(九) 足部ノ出血 足背ノ出血ニハ足關節前ノ中央部ニ於テ前脛骨動脈

ノ末梢部ヲ壓迫シ足蹠ノ出血ニハ脛骨内髁ト跟骨結節トノ中間ニ於テ後脛骨動脈ノ末梢部ヲ壓迫スヘシ

膝關節以下ノ出血ニハ前膊以下ノ出血ノ如ク膝關節ニ壓枕ヲ置キ強屈法ヲ行フモ可ナリ(第二十五圖ノ如シ)

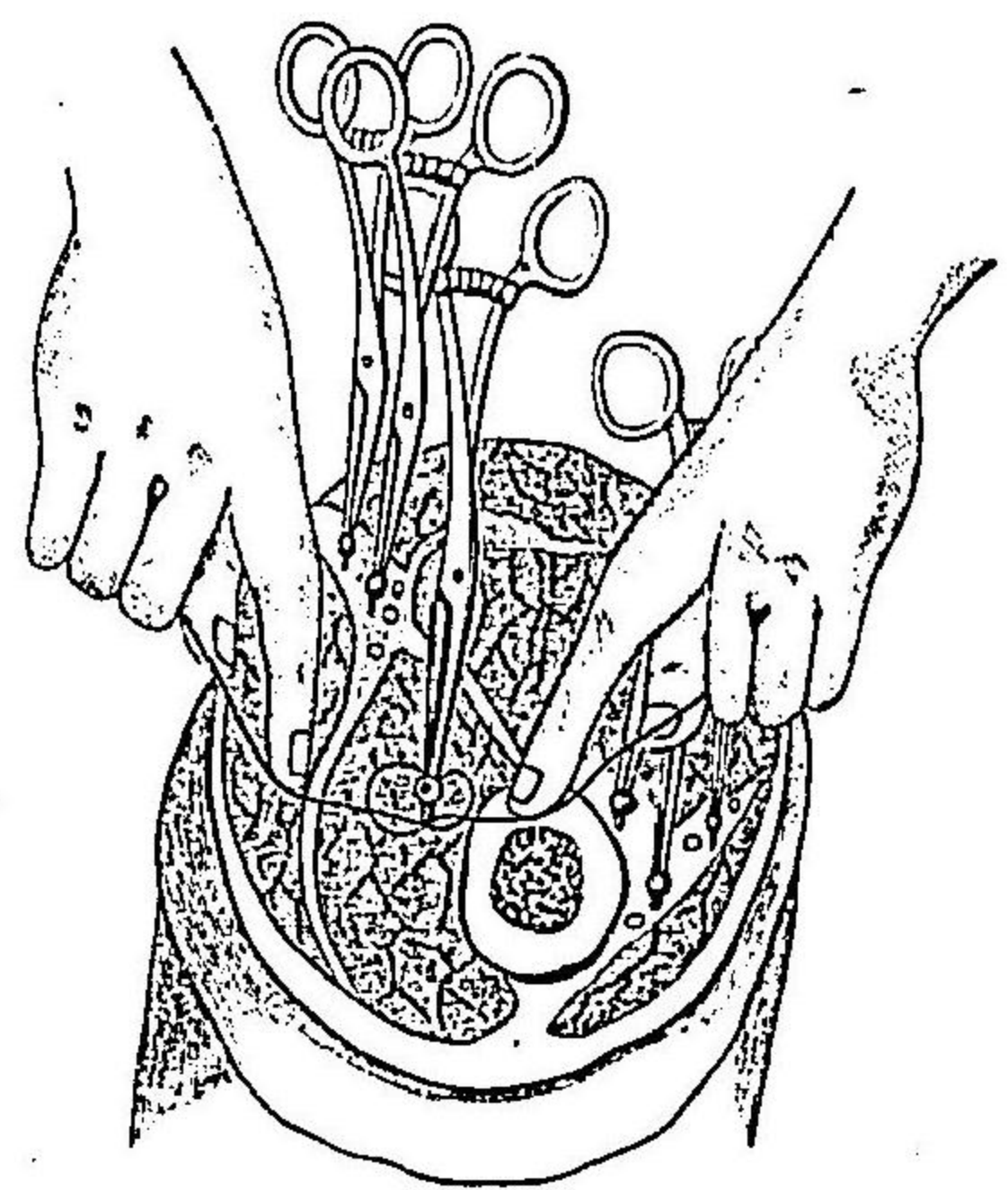
靜脈出血 四肢ノ靜脈出血ニテハ下部ヲ壓迫スレハ止血スルモノナレトモ頸部ノ靜脈出血ニテハ上部ヲ壓迫スヘシ普通ハ創内又ハ創上ニ消毒綿紗ヲ置キ適宜ノ壓迫繃帶ヲ施シ止血シ得ルモノナリ

下肢腓腸部ノ血管腫(靜脈病)ノ潰瘍ヨリ多量ノ靜脈出血ヲ來スコトヲ見ルコトアリ此ノ如キ患者ハ直チニ平臥セシメ下禪襪紐等ヲ速ニ除去シ前記ノ壓迫繃帶ヲ施スヘシ

毛細管出血 防腐性ノ海綿又ハ拭子ヲ以テ瞬時壓抵スレハ止血スル

モノナリ又冷水ト酒精ノ合劑ヲ以テ出血部ニ濕布綑帶ヲ施スカ或ハ  
 創縁ヲ密接シテ縫合スルカ或ハ消毒綿紗ヲ置キ適宜ノ壓迫綑帶ヲ行  
 フヘシ之レ臨機孰レカヲ應用シテ可ナリ

結紮法 血管端ノ結紮ヲ行フニハ結紮鉗子ヲ以テ創内ニ開放セル血  
 管ヲ把捉シ(箇箇單獨ニ)タ  
 ル後チ鉗子ノ後方ヨリ消  
 毒シタル絹糸ヲ送達シ之  
 レヲ緊密ニ結紮スヘシ(第  
 三十六圖)小動脈ニハ一ノ  
 結節ヲ以テ足レリト雖ト  
 モ大ナル動脈ニハ二重ノ  
 結節ヲ造リ能ク確保シテ  
 滑脱スルコトナキ様注意



(圖ノ紮結管血)

シ其糸ノ末端ヲ切除スヘシ若シ血管ヲ直チニ結紮スルコト能ハサル

圖六十三第



(圖ノ紮結合集)

事情アルトキハ縫合針ニ消毒シタ  
 ル絹糸ヲ付シ血管及ヒ周圍組織ヲ  
 匝リテ集合結紮ヲ行フヘシ(第三十  
 七圖ノ如シ)

止血藥 一半格魯兒鐵液 鞣酸 醋酸  
 フコトアリ

明礬又ハ艾蜘蛛網等ヲ用ユルコトアレトモ却テ害ヲ招クコトアルヲ  
 以テ現今殆ト使用スルモノナシ何トナレハ一半格魯兒鐵液ノ如キモ  
 ノ、爲メニ遠達血栓ヲ起スコトアリ又艾蜘蛛網ノ如キモノニテ腐敗  
 性蜂窩織炎ヲ起シ危險ナルコトアルノミナラス何レモ第一期癒合ヲ  
 妨クルモノナリ

總テ出血患者ヲ處置スルニハ決シテ粗暴ノコトナキヲ要ス必ス靜ニ  
 之レヲ取扱フヘシ

圖七十三第

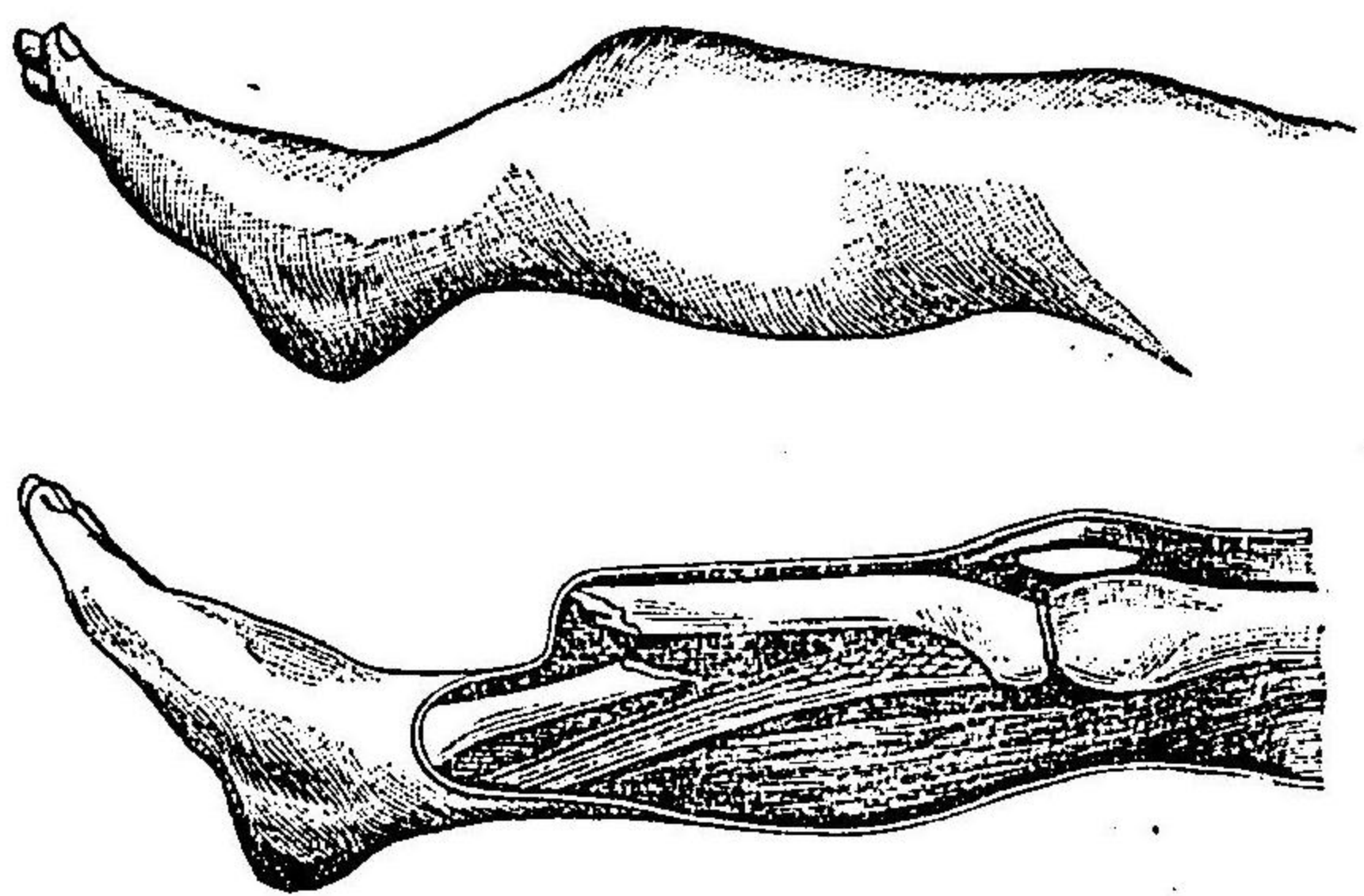


大出血ノ症候ヲ呈スルトキハ直チニ頭部ヲ低クシ仰臥セシメ四肢ヲ  
 纏絡シテ末梢部ノ血液ヲ心臟部ニ集合セシメ強キ興奮劑ヲ與ヘ若シ  
 嚙下シ得サルトキハ樟腦油依的兒等ノ皮下注射ヲ行ヒ身體ヲ温包シ  
 最モ安靜ナラシムヘシ此ノ如キ負傷者ヲシテ忽然動搖セシムルトキ  
 ハ腦貧血ヲ起シ死スルコトアリ

### 骨折

骨折ハ器械的作用ニ依ルモノニシテ打撲衝突轢傷墜落等ノ如キ外襲  
 力ニ依ルモノ最モ多シ然シテ該部直接ニ骨折ヲ蒙ルモノ又ハ間接ニ  
 骨折ヲ起スモノアリ或ハ又稀ニ筋肉其者ノ劇シキ收縮ニ依リテ骨折  
 ヲ發起スルコトアリ例ハ投擲運動ニ依リテ上膊骨折ヲ起シ又步趨ヲ  
 抑止セントスルニ際シ大腿骨ノ骨折ヲ起スコトアルカ如シ而シテ骨  
 折ハ上下肢ノ長骨ニ最モ多シ  
 骨折ノ特リ骨質ノミ折傷シ他ノ組織殊ニ皮膚破開セサルモノヲ單純  
 骨折ト云ヒ(第三十八圖ノ如シ)軟部組織殊ニ皮膚ノ破開ヲ伴フモノヲ

第三十八圖

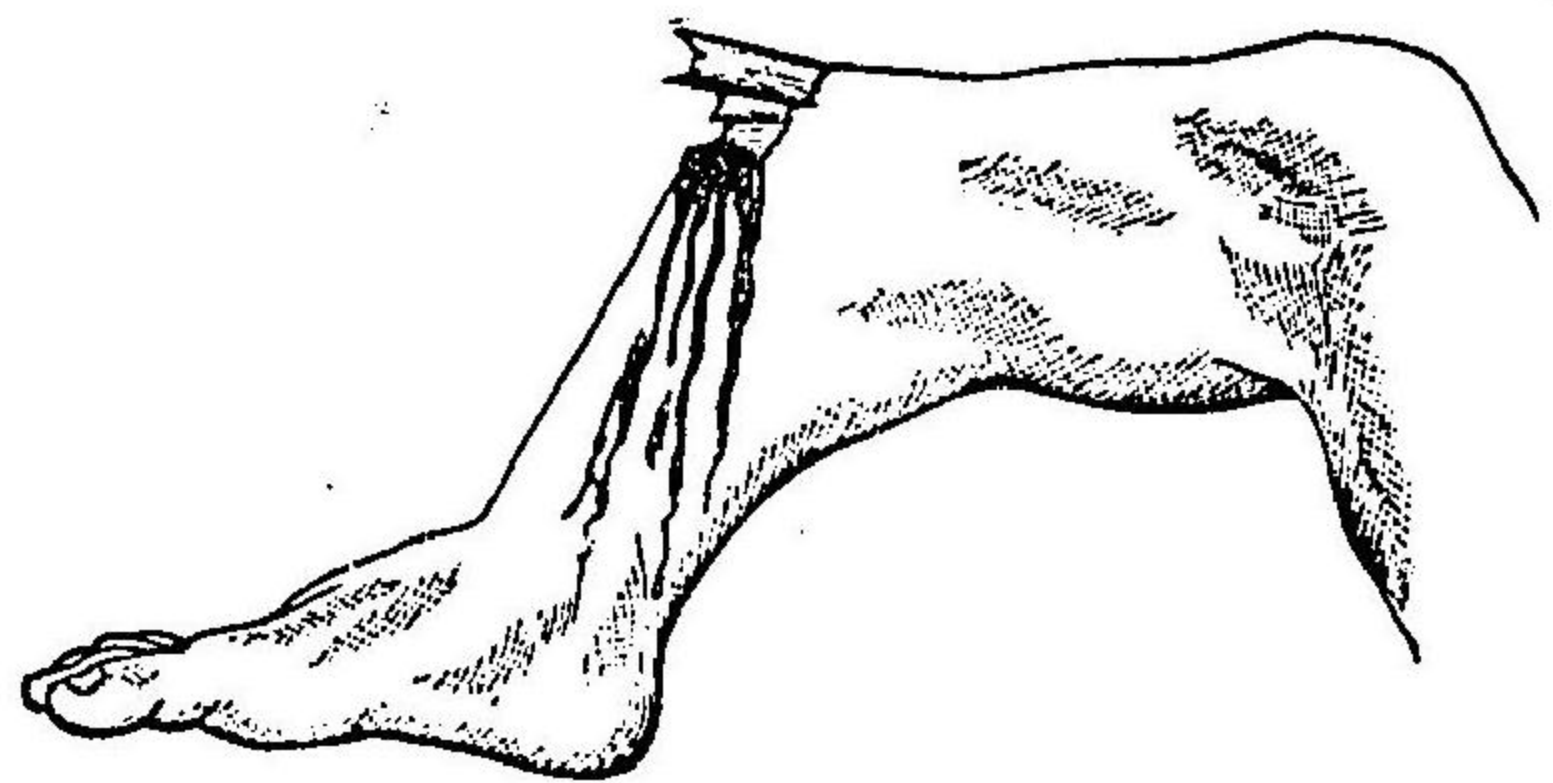


(圖ノ折骨純單)

アリテ最モ顯著ナルモノニシテ例ハ大腿骨ニ在リテハ一足モ歩行  
 スルコト能ハサルカ如シ然レトモ四肢ノ他ニアリテハ此障害著シ

複雑骨折ト云フ(第三十九圖  
 ノ如シ)而シテ此ノ軟部ノ創  
 傷ハ骨折ノ原因タル外力ノ  
 爲ニ起ルコトアリ或ハ尖銳  
 ナル骨折端カ内部ヨリ皮開  
 ヲ貫クニ依ルコトアリ又骨  
 折一個處ノミナルカ或ハ數  
 個ニ粉塵スルコトアリ其他  
 全ク折斷スルモノト僅ニ屈  
 折スルモノ等アリ骨折ニハ  
 左ノ症候ヲ現呈ス  
 (一)官能障害 四肢ノ長骨ニ

第三十九圖



(圖ノ折骨雜複)

接セサルトキハ之レヲ知ル能ハス其他兩骨折端ノ間隙ヲ觸知シ得ルコトアリ

(四) 疼痛 骨折部ニ必發スル症候ニシテ其部ヲ按壓スルトキニ劇烈ナ

カラサルコトアリ殊ニ全ク折斷セラレサルモノニ於テ然リトス

(二) 骨折部ニ於ケル異常ノ屈伸及ヒ短縮 四肢ノ長骨ニ於テ著シキモ短

骨ニ在リテハ不明ナリ短縮ハ筋ノ

收縮ニ依ルモノニシテ骨傷部全ク

斷離セサルトキハ之レヲ見ルコト

ナシ

(三) 叩軋音 兩骨折斷端ヲ近接セシメ

摩擦スル時ニ於テ聽取シ又觸覺シ

得ルモノナリ然レトモ兩骨折端觸

ル疼痛ヲ發ス

其他局部ニ溢血ヲ呈シ且ツ腫脹スルモノアリ之レ直達骨折ニ於テ

現ハル、症候ナレトモ間接骨折ニ於テハ此ノ如キコト著シカラス

以上記載シタル處ニ依レハ骨折ヲ判知スル容易ナルカ如シト雖モ傷

者肥滿スルモノ或ハ炎症腫脹著シキモノ等ニアリテハ之レヲ診定ス

ルコト能ハサルモノアリ故ニ若シ疑似決シ難キモノハ骨折トシテ處

置スヘシ

處置 骨折ヲ治スルニハ兩骨折端ヲ相互ニ接合セシメ然ル後チ之レ

ヲ適宜ノ位置ニ固持スルニアリ故ニ骨傷者ノ被服靴等ヲ脱セシムル

トキ又ハ他ニ(居所病院治療所)ニ運搬スルニ最モ注意シテ骨折端ノ移

轉セサル様努ムヘシ何トナレハ時トシテ骨折ノ尖端ニヨリ動靜脈神

經等ヲ毀損スルカ又ハ單純骨折ヲシテ複雜骨折トナスカ如キ不測ノ

害ヲ招クコトアレハナリ

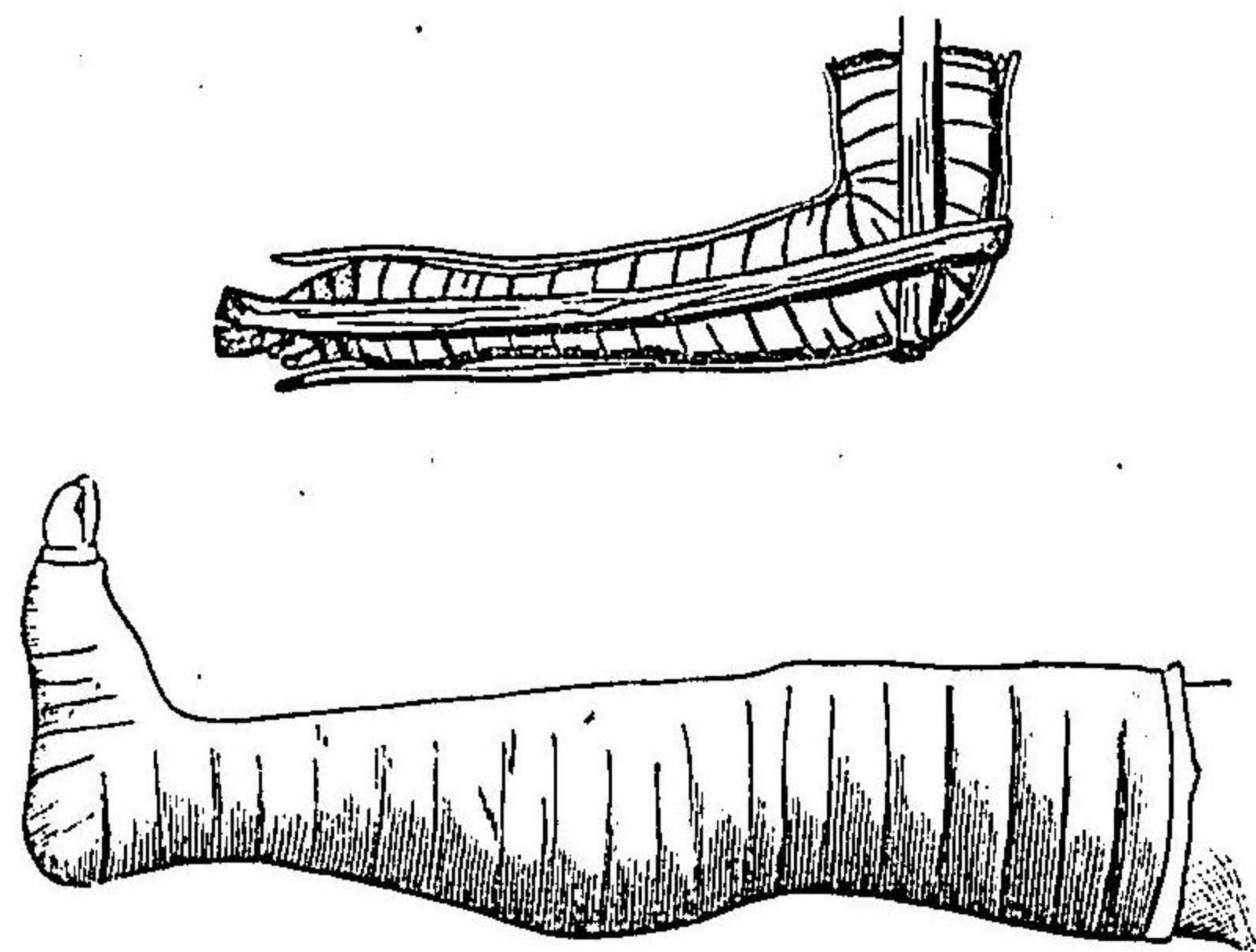
骨折端ヲ整復スルニハ骨折上部ヲ左手ニテ固持シ右手ヲ以テ其下部

ヲ持シ下方ニ牽引シテ其ノ位置ニ復セシムルモノナリ然レトモ其際  
 濫リニ牽引シテ軟部組織及ヒ貴要器官ノ損傷ヲ招カサル様注意スヘ  
 シ

骨折部ニハ冷卷法ヲ施シタル後適宜ノ木板等ヲ副木トナシテ之レヲ  
 支持固定スヘシ迅速ニ副木トナスヘキ木板等ヲ得難キトキハ其居室  
 ニアルト原野戰場ニアルトヲ問ハス身邊ニアリテ直チニ得易キモノ  
 ヲ用ユヘシ例ハ竹尺厚紙火箸藁束小樹枝銃劔劔鞘小銃等ヲ便宜使用  
 スヘシ

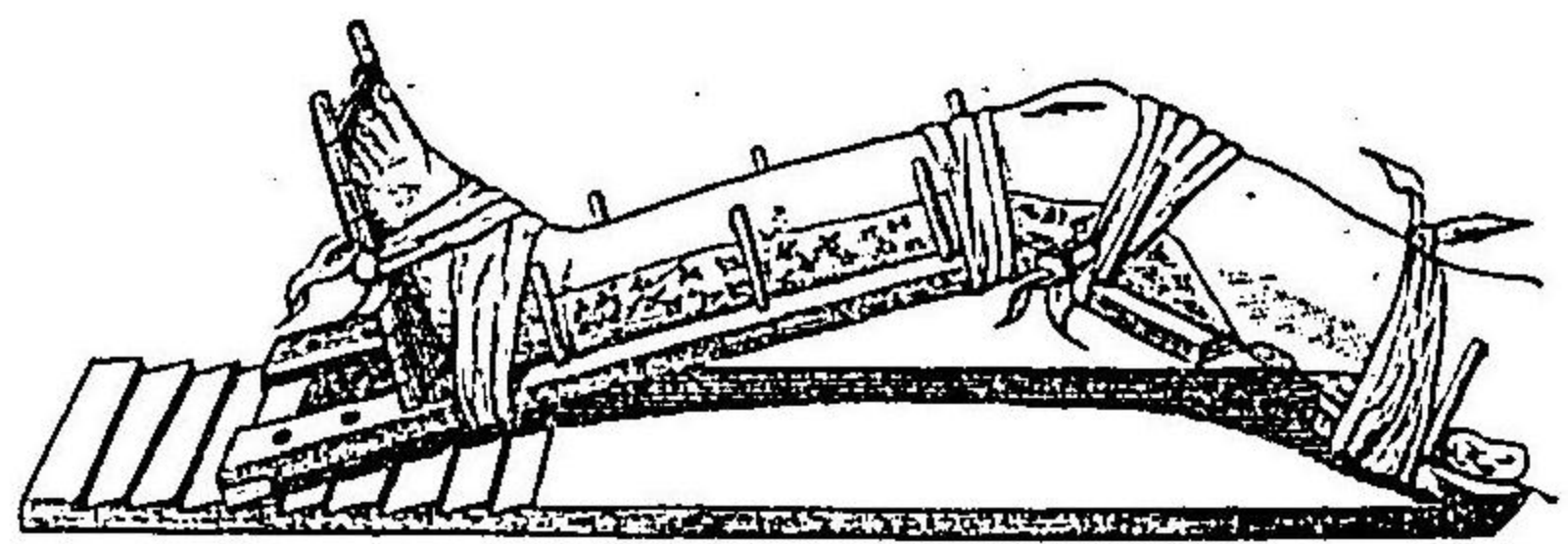
副木縛帶ヲ施スニハ前條ニ記載セシ如ク創傷部ヲ處置シタル後副木  
 ヲ以テ身體ヲ傷ケサランカ爲メ綿花又ハ布片ニテ之レヲ包ミ創傷ノ  
 兩側前前又ハ後面ニ創傷アルモノハ左右ニ左右ニアルモノハ前後ニ  
 當ルヲ法トスニ當テ頸巾狀ニ疊ミタル三角巾又ハ卷軸帶ニテ纏絡ス  
 ルモノトス上肢ノ骨折ニハ擔布ヲ以テ肩ニ掛ケ下肢ノ骨折ニアリテ  
 ハ兩足ヲ固定スルモ可ナリ而シテ又義布斯固形縛帶ヲ施スカ(第四十

圖十四第



(圖ノ帶縛形固斯布義)

圖一十四第



(圖ノ面斜復重)

圖ノ如シ又ハエスマル氏ノ重複斜面第四十一圖ヲ用ユルカ又ハ上肢

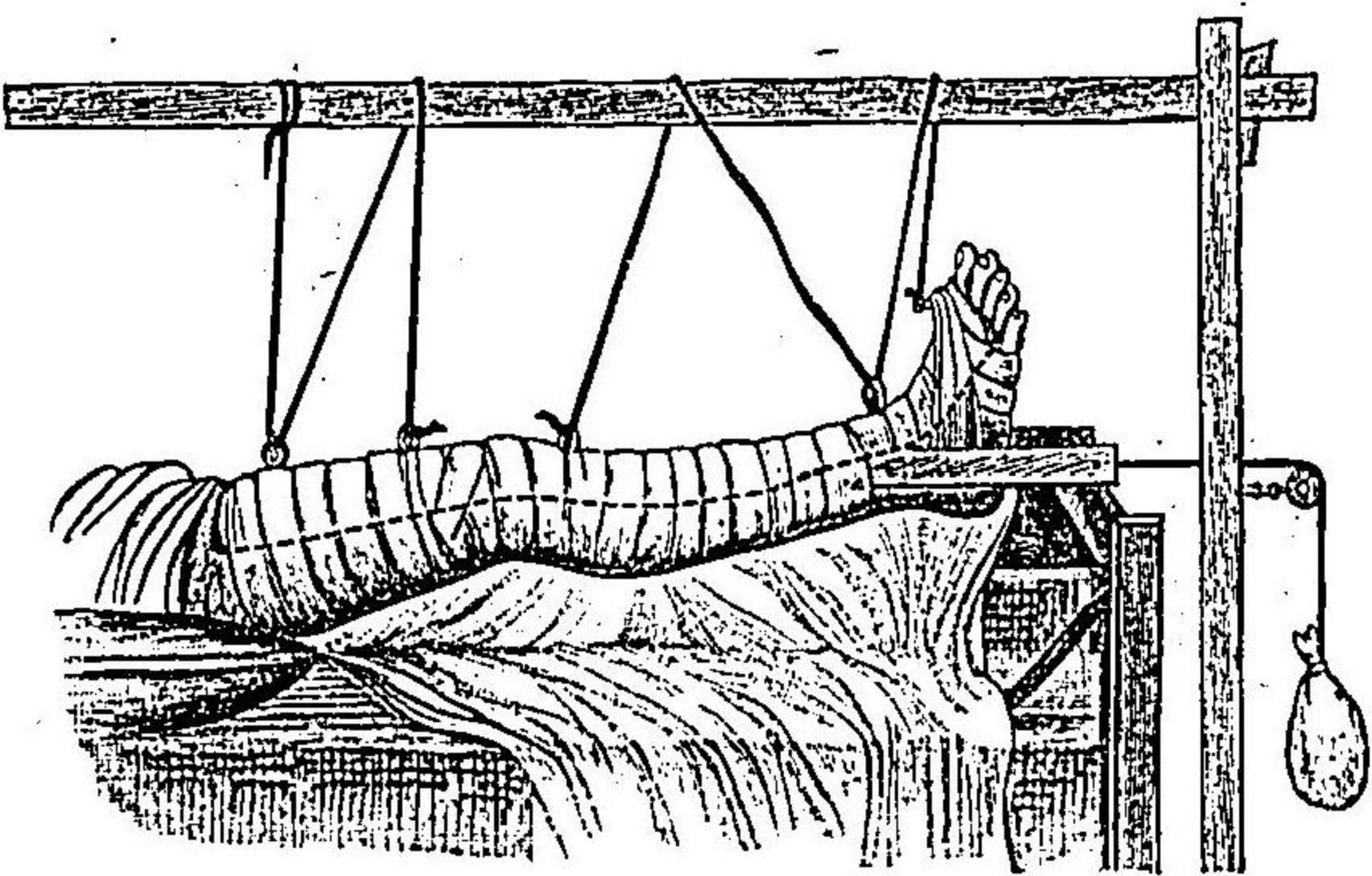
テ珐瑪又ハ砂袋ヲ用ユルモノナリ(第四十二圖ノ如シ)

上肢ノ  
 骨折ニ  
 在リテ  
 ハ寢臺  
 ニ滑車  
 ヲ裝置  
 シ重垂  
 ヲ掛ケ  
 牽引ス  
 ルコト  
 アリ重  
 垂トシ

以上ハ專ラ四肢ノ骨折ニ施スモノナレトモ尙ホ特別ノ注意ヲ要スル

モノヲ述ヘン

圖二十四第



(法展伸兼吊懸)

モノナリ此時ニ於テハ大布片ヲ以テ傷肢ヲ支ヘ健側ノ肩ニ擔保スル

下顎骨折ニアリテハ二枚ノ三角巾ヲ取り顎巾狀ニ疊ミ一ハ顎下ヨリ兩頰ヲ經テ頭蓋ニテ交通シ更ニ顎下ヨリ來リテ固結シ他ノ一ハ顎ノ前面ヨリ項部ニ至リテ結締固定スヘシ(第四十三圖ノ如シ)

鎖骨骨折ニアリテハ骨折端多クハ上方ニ向ヒテ突出シ患側ノ肩胛骨ハ下方ニ傾キ自ラ患肢ヲ舉上スルコト能ハサル

圖三十四第

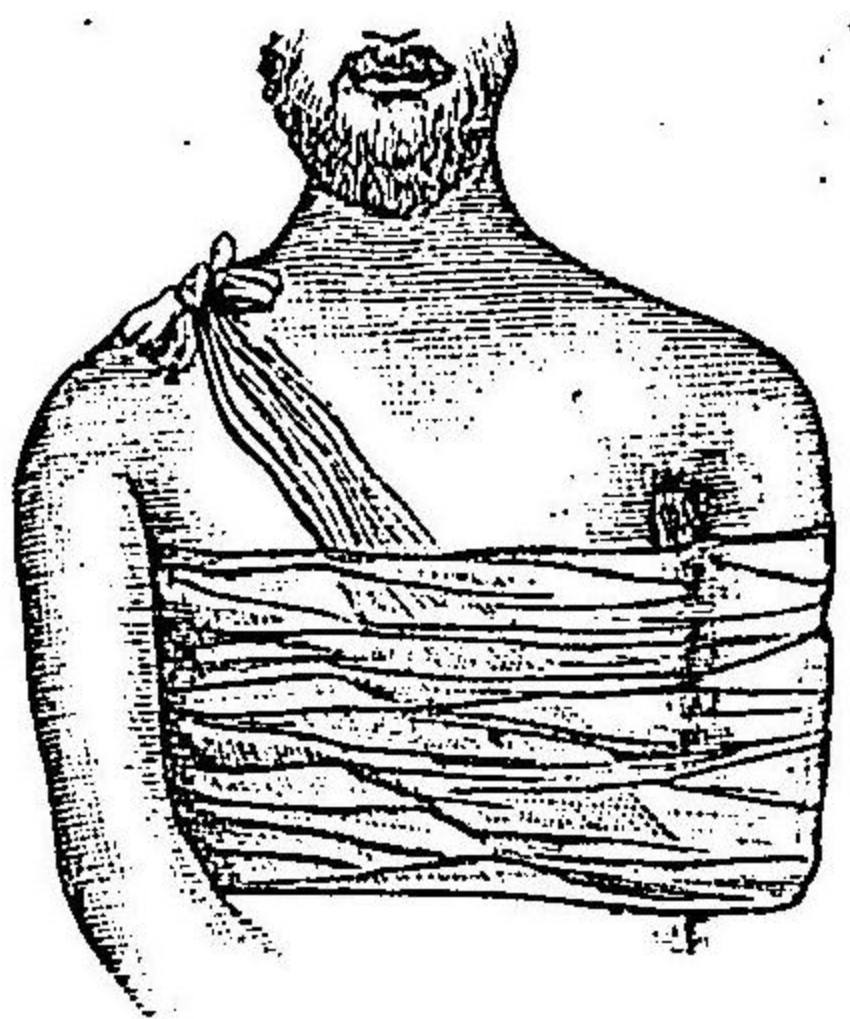


(帶纏ニ折骨頸下  
圖ルタシ施テ)

トキハ斷離セル骨折端ハ自ラ正位ニ復スルモノトス然ル後チ患肢側

ノ上肢ヲ胸壁ニ接シテ卷軸帶ヲ纏絡シ固定スルトキハ更ニ確實ナルモノトス(第四十四圖ノ如シ)

圖四十四第



(圖ルタシ施テ帶纏ニ折骨鎖)

脊推骨ノ骨傷ハ極メテ危険ナルモノニシテ被傷部以下ノ神經分佈區ニ於テ麻痺ヲ來スモノトス之ヲ處置スルニハ最モ注意シテ可及的安靜ナラシメ冷卷法ヲ施スヘシ  
骨盤骨骨折ノ處置モ亦同一ナリトス

肋骨骨折ハ呼吸運動談話噴嚏咳嗽等ニヨリテ刺痛ヲ發シ又骨折尖端

内部ニ突入シテ肺臟ヲ傷クルコトアリ然ルトキハ咯血ヲ來ス此ノ如キ傷者ニハ仰臥セシムルヲ最良トス且ツ少シク患側ニ屈セシメ冷卷法ヲ施シ可及的緊縛スルヲ可トス

頭蓋骨骨折 頭蓋穹窿部ノ骨折全層ヲ貫通スルモノ又ハ内板(硝子板)ノミノ骨折ヲ起スモノアリ或ハ又氷裂骨折ナルモノアリ

頭蓋基底部骨折ハ多ク間接性骨折ナリ

頭蓋穹窿部骨折ノ症候ハ五管及ヒ意識障害(頭重昏睡嗜眠譫語眩暈頭痛惡心嘔吐シ體溫ハ或ハ昇騰スルカ又ハ低下スルコトアリ

處置 局部ニ氷囊ヲ貼スルカ又ハ冷卷法ヲ行ヒ最モ安靜ナラシメ殊ニ運搬スルトキハ一層ノ注意ヲ加ヘ動搖ヲ避ルコトヲ努ムヘシ

頭蓋基底骨折ノ症狀ハ耳鼻孔ヨリ出血スルカ又ハ乳頭突起部眼窩内咽頭ヨリ出血スルノミナラス血液ト腦脊髓液ノ流出ヲ來スコトアリ

次ニ腦ノ官能障害ト基底部ニ於ケル腦神經ノ官能障害ナリトス

本症ハ穹窿部骨折ヨリ一層危險ナルモノナリ

處置 出血部ニ防腐療法ヲ行ヒ安靜ナラシムヘシ

骨折ノ治癒日數 小兒ニアリテハ大人ヨリ治癒迅速ナルヲ常トス然レトモ骨ノ異ナルニヨリ一樣ナラス上膊骨、腓骨、脛骨、六週乃至八週前膊骨ハ五週、大腿骨ハ十週乃至十二週、掌骨、蹠骨、肋骨ハ三週、鎖骨ハ四週、指趾骨ハ二週トス

關節脫臼

原因 關節脫臼ハ外來ノ暴力ニヨリテ發起シ或ハ又稀ニ筋ノ働作ニ依リテ起ルコトアリト雖トモ最モ多ク發見スルモノハ間接的ニ起ルモノ(損打運動)ニシテ直達的ノ暴力ニ依リテ脫臼ヲ來スモノハ稀ナリ

其脫臼スルヤ關節頭、關節窩ヲ脱シ互ニ轉位スルモノニシテ即チ二骨面連續ヲ脱シ關節韌帶及ヒ關節囊、韌帶斷裂スルモノニシテ關節頭全ク關節窩ヲ脱シタルモノヲ全脫臼ト稱シ其頭末々窩縁ヲ脱出セサルモノヲ不全脫臼ト云フ

症狀 (一)關節ノ運動廢絶シ(二)關節ニ疼痛アリ且ツ患肢ニ麻痺ヲ來ス

(三)患肢ノ位置方向變ス(四)患肢ノ延長又ハ短縮ヲ來ス(五)關節變形シ骨頭轉位ス

骨折ト脱臼トハ左ノ各項ニ依リ區別スルヲ得

骨折

脱臼

- 一 異常ノ運動アリ
- 二 疼痛劇烈殊ニ局部ヲ壓迫スルトキニ甚タシ

- 一 異常ノ位置ニ固定セラル
- 二 運動時ノミ疼痛ヲ訴フ

三 關節頭正位ニアリ

三 關節頭轉位ス

四 轉位ハ正シ易ク復タ發シ易シ

四 轉位ハ正シ難ク一旦整復スレハ再發セス

五 骨ノ連續絶ス

五 骨ニ異狀ナシ

六 叩軋音アリ

六 叩軋音ナシ

以上ノ症狀ヲ呈スルヲ以テ診斷容易ナルカ如シト雖トモ診査ノ際能ク健側ノ關節ト比較精細ニ檢スヘシ既ニ患部ノ腫脹スルモノ又ハ筋肉肥大セルモノニアリテハ往々診定ニ苦シムコトアリ

脱臼ノ併發症 (一)關節部ノ皮膚皮下軟部ノ損傷若シクハ断裂(二)骨折ノ併存(三)貴重器官(神經動脈)ノ断裂(四)内部器官ノ損傷等ナリ

軟部組織ノ断裂シテ關節頭ノ露出スルカ如キハ稀ナリト雖トモ骨折ヲ來スコト往々見ル處ナリ又大ナル血管神經ノ断裂ヨリモ却テ伸展挫壓ハ間々不適當ノ整復術ヲ行フトキニ之レヲ發起スルコトアレハ宜シク注意ヲ要スヘキモノトス

内部器官ノ損傷ハ脊推脱臼ニアリテハ脊髓損傷股關節脱臼ニ於テハ腸膀胱鎖骨及ヒ胸骨ノ脱臼ニアリテハ氣管食道ニ壓迫症ヲ發スルコトアリ

處置 濫リニ整復ヲ試ルトキハ却テ轉位ヲ來シ又ハ損傷ヲ來スコトアレハ最モ注意ヲ要スヘキモノトス即チ筋ノ收縮關節囊ノ狹隘又ハ其位置不良ナルカ又ハ關節囊腿筋骨片ノ嵌挿等ノ爲メニ容易ニ還納セサルコトアリ此ノ如キ際ニ於テハ決シテ暴力ヲ加フヘカラス能ク其關節ノ生理運動ヲ知得スルハ最モ必要ナルモノニシテ實ニ關節部

損傷ノ原因ノ大小ヨリハ寧ロ其關節運動及ヒ解剖的狀態ノ知得ノ如何ニアリトス故ニ適宜ニ回轉屈曲伸展外轉内轉等ノ運動ヲ試ミ或ハ又關節頭ニ直接ノ壓迫ヲ加ヘ其窩ニ滑動セシムヘシ

整復シタルトキハ正當ノ外形ト其ノ關節ノ官能ヲ營爲シ得ルモノナリ

整復シタル後ハ其關節ヲ安護スル目的ノ爲メニ一定ノ繃帶ヲ施スヘシ而シテ八日乃至十四日(其關節ノ種類ニヨリテ同一ナラス)ヲ經テ被發運動ヲ試ムヘシ

關節脫臼ト同時ニ大ナル局部損傷ヲ併發スルモノハ專ラ防癒的處置ヲ嚴確ニ併セ行フヘキモノトス

各關節脫臼ハ其症狀同一ナラスシテ又處置(整復術)異ナレハ順次之レヲ述ヘン

(一) 下顎脫臼 兩側同時ニ發スルモノト一側ノミナルモノアリト雖トモ兩側脫臼ヲ多シトス

圖五十四第



(圖ノ臼脫側兩顎下)

原因 過度ノ欠伸及ヒ嘔吐又ハ過大ナル食物ヲ喫スルトキハ發起スルモノナレトモ時トシテ筋ノ痙攣又ハ開口時ノ打撲衝突ニヨリテ生スルモノナリ

症狀 下顎縁ハ上顎縁前ニ向テ轉移シテ開口ノ狀態ニアリテ閉ツルコト能ハサルカ故ニ口内ヨリ流涎シ頰部ハ延長シ咀嚼筋ハ隆起シ關節窩ハ空虚ナルヲ觸知スルモノナリ(第四十五圖ノ如シ)

偏側ノ脫臼ハ兩側脫臼ニ比スレハ著シカラスト雖トモ患側ノ關節窩空虚トナリ顎ハ健側ニ少シク傾向スルモノナリ

處置 先ツ助手ヲシテ頭部ヲ固定セシメ術者ハ兩手ノ拇指ニ布片ヲ纏ヒテ後臼齒上ニ當テ他ノ四指ハ下顎ノ外面ニ送リテ下顎ヲ把握シ

タル後チ拇指ニカヲ加ヘテ下前方ニ牽引シテ後チ後上方ニ舉上スレハ整復スルモノナリ

鎖骨脱臼 鎖骨ノ胸骨端脱臼ニシテ之レヲ前方後方上方脱臼ニ區別ス

(一)前脱臼(即チ胸骨ノ前方ニ脱臼スルモノ)

原因 外力ノ背部ニ被ルト同時ニ肩胛ヲ後方ニ向ヒテ牽引セラレ、カ如キ状態アルトキ又ハ肩胛部ヲ前方ヨリ後方ニ向テ壓迫スルトキニ起ルモノナリ

症狀 胸骨ノ關節窩ハ空虚トナリ其直前ニ於テ皮下ニ骨頭ヲ觸知スルモノナリ

處置 肩胛ヲ外方ニ牽引スルト同時ニ骨頭ヲ後方ニ壓迫スヘシ復脱ヲ豫防スルニハ鎖骨骨折ノ條ニ述ヘタルカ如ク繃帶ヲ行フヲ良トス

(二)後脱臼(即チ胸骨ノ後方ニ脱臼スルモノ)

原因 鎖骨頭ヲ直接ニ前方ヨリ後方ニ衝突スルカ又ハ衝突跌倒ニ際

シ肩胛ヲ前方ニ壓迫スルトキニ起ルモノナリ

症狀 胸骨ノ關節窩ハ空虚トナリ骨頭ハ胸骨後方ニ移轉ス鎖骨上窩及ヒ下窩ハ常形ヲ失シ平坦トナル其後脱ノ爲メニ胸内器官ノ壓迫症ヲ生スルコトアリ

處置 兩肩胛ヲ外方ト後方トニ牽引シテ整復スヘシ復脱ヲ防クニハ前ト同一ノ方法ヲ行フ(但シ肩胛ヲ後外方ニ牽引スルカ如クナスヘシ)  
(三)上方脱臼 胸骨ノ上際ニ骨頭ヲ認メ關節窩ハ空虚トナリ肩胛ハ稍々下方ニ轉ス

處置 肩胛ヲ外方ニ牽引シ骨頭ヲ下方ニ向ケ壓迫スヘシ復脱ヲ防ク繃帶式ハ前ト同一ナリ

肩胛關節脱臼(一名上膊脱臼)ハ前方脱臼後方脱臼ノ二トス此關節ハ身體中最モ多ク脱臼ヲ發起スルモノニシテ脱臼ノ二四、五%ハ此種ニ屬スルモノナリ其脱臼シ易キ所以ハ左ノ如シ

(い) 上肢(槓杆)ノ長キト



(ろ) 身體中突出スルカ故ニ容易ニ諸般ノ外傷ヲ受ケ易キト

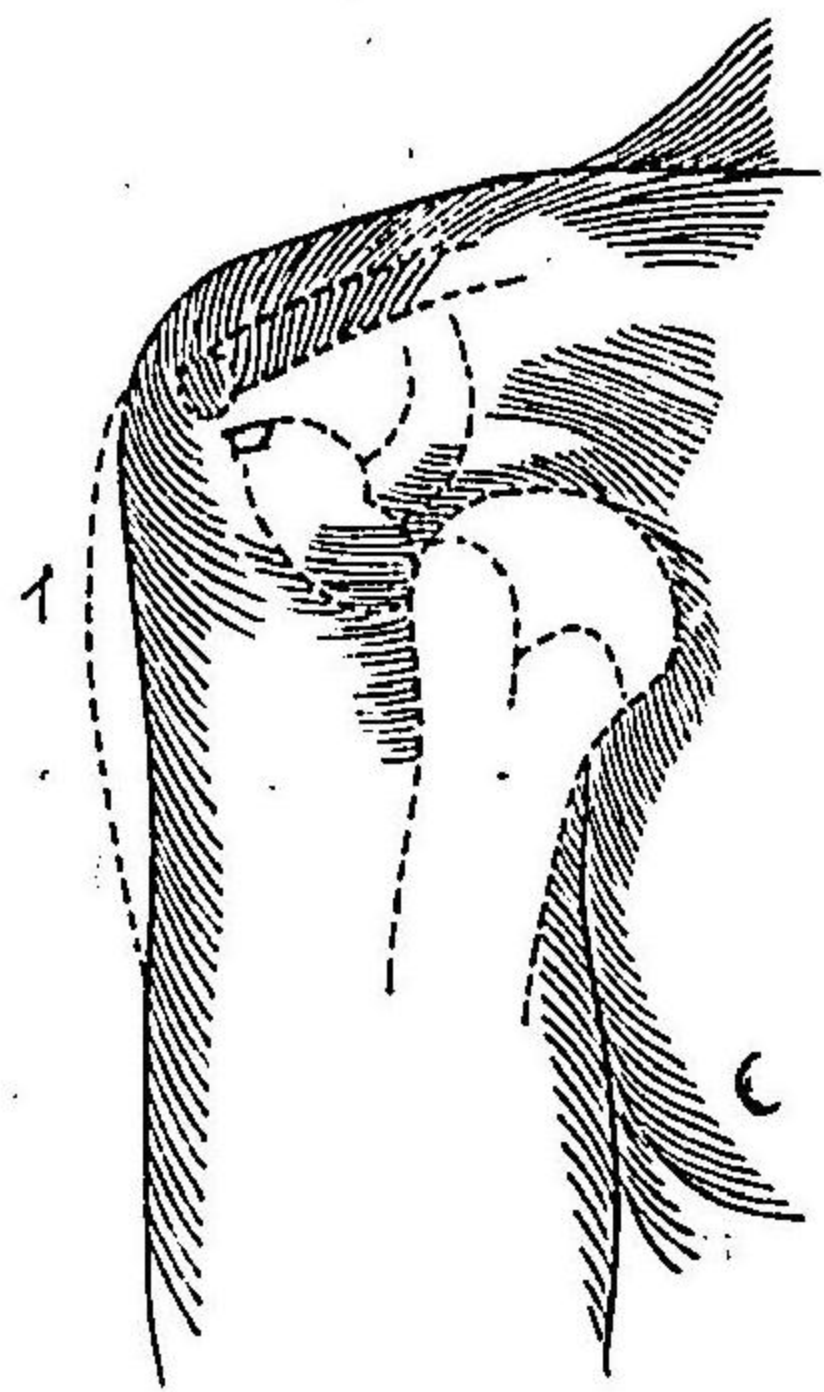
(は) 囊韌帶廣濶ナルコト

(に) 自由ニ運動スル關節ナルヲ以テナリ

(一) 前方脱臼

原因 直接ノ打撲衝突ニヨリテ發スルモノナレトモ多クハ間接ニ起ルモノナリ例ハ上肢ヲ延シテ地上ニ手ヲ衝着スルカ又ハ屈曲セシ肘部ノ衝突ニ因ルカ又ハ骨頭ヲ墜落跌倒ニ際シ打撲スルトキノ如シ  
症狀 肩ハ扁平トナリ豊圓ナル常形ヲ失ヒ骨頭ハ腋下ニ觸知シ關節窩ハ空虚トナリ肩峰突起ハ著シク突出ス(第四十六圖ノ如シ)  
其他上膊骨頭ノ肩胛關節緣ヲ離レテ腋下ニ脱臼スルモノヲ腋下脱臼

圖六十四第



(圖ノ白脱方前)

窩ハ空虚トナリ肩峰突起ハ著シク突出ス(第四十六圖ノ如シ)  
其他上膊骨頭ノ肩胛關節緣ヲ離レテ腋下ニ脱臼スルモノヲ腋下脱臼

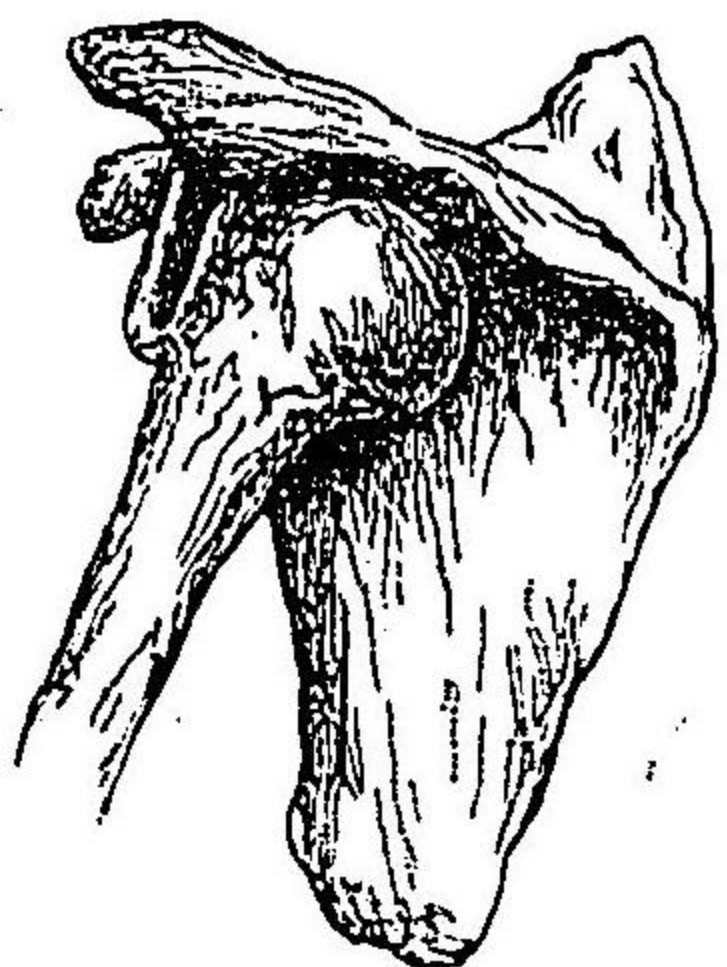
ト云フ

此ノ種ニ屬スルモノ、症狀ハ肘關節軀幹ヲ著ク離レタル位置トナリ腋下ニ骨頭ヲ認ムルモノナリ之レヲ關節下脱臼及ヒ鳥喙突起下脱臼トニ區別ス

(二) 後方脱臼

原因 劇烈ナル肘關節ノ打撲衝突ニ依リ發起スルモノナリ例ヘハ肘ヲ軀體ヨリ離スカ又ハ前方ニ延シテ跌落シタルトキノ如シ

圖七十四第



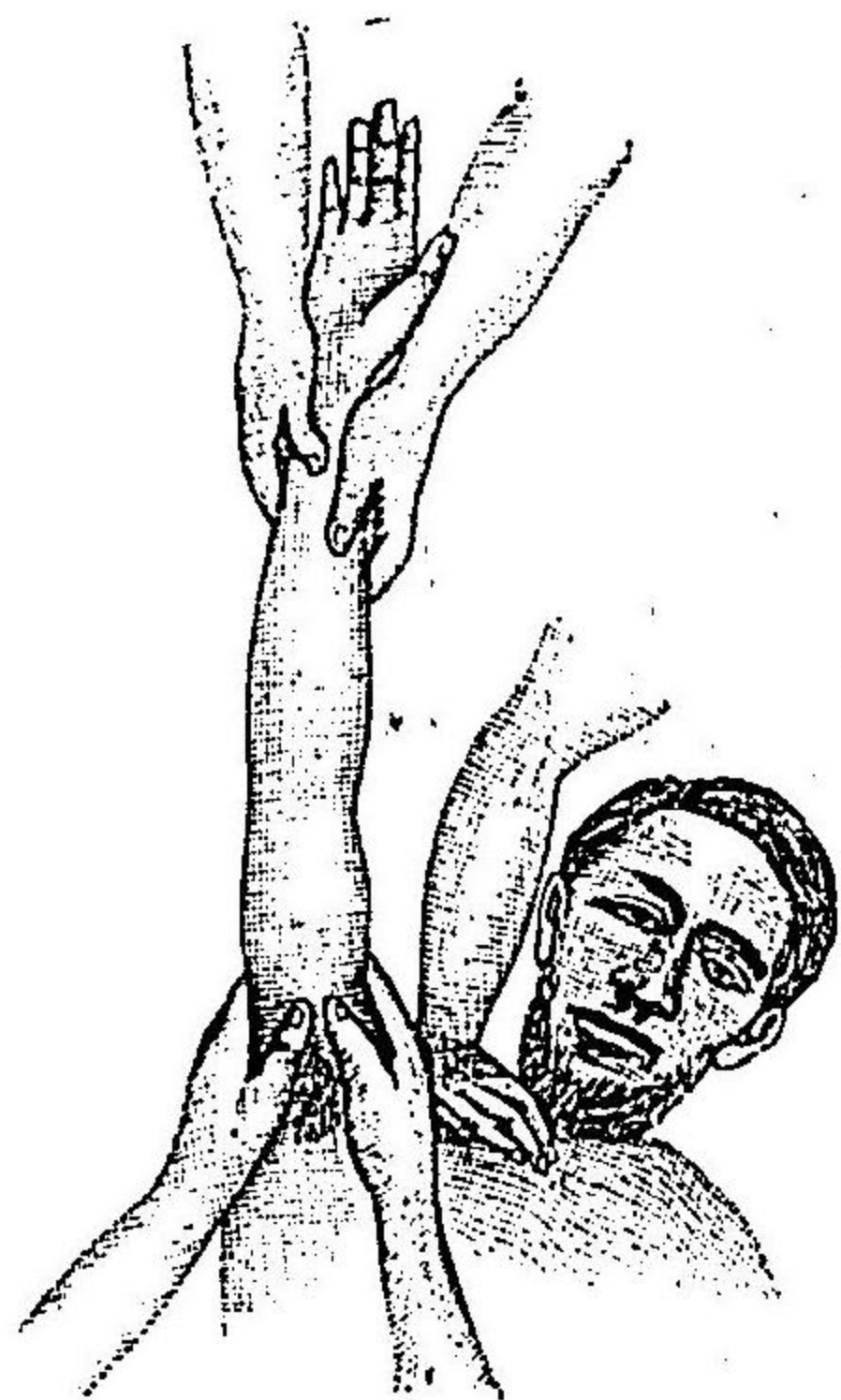
(圖ノ白脱方後)

リ兩手ヲ延ハシ病側ノ肩胛ニ至リ左右兩指ヲ交叉シテ肩胛部ヲ固定

症狀 肩胛ハ扁平ニシテ稍陷没シ肩峰突起根下ニ骨頭ヲ觸知シ肩峰突起緣及ヒ其關節部ヲ觸ルモノナリ(第四十七圖ノ如シ)  
處置 (一) 高舉法 患者ニ坐位又ハ横臥セシメ甲ノ助手ハ健側ヨ

シ乙ノ助手ハ患肢ヲ把リ徐々ニ牽引シツ、高舉セシメ腋下ニ鈍角ヲ作リタル時ニ於テ強力ヲ以テ更ニ牽引シ骨頭ヲ關節窩ニ向ハシメ此

圖八十四第

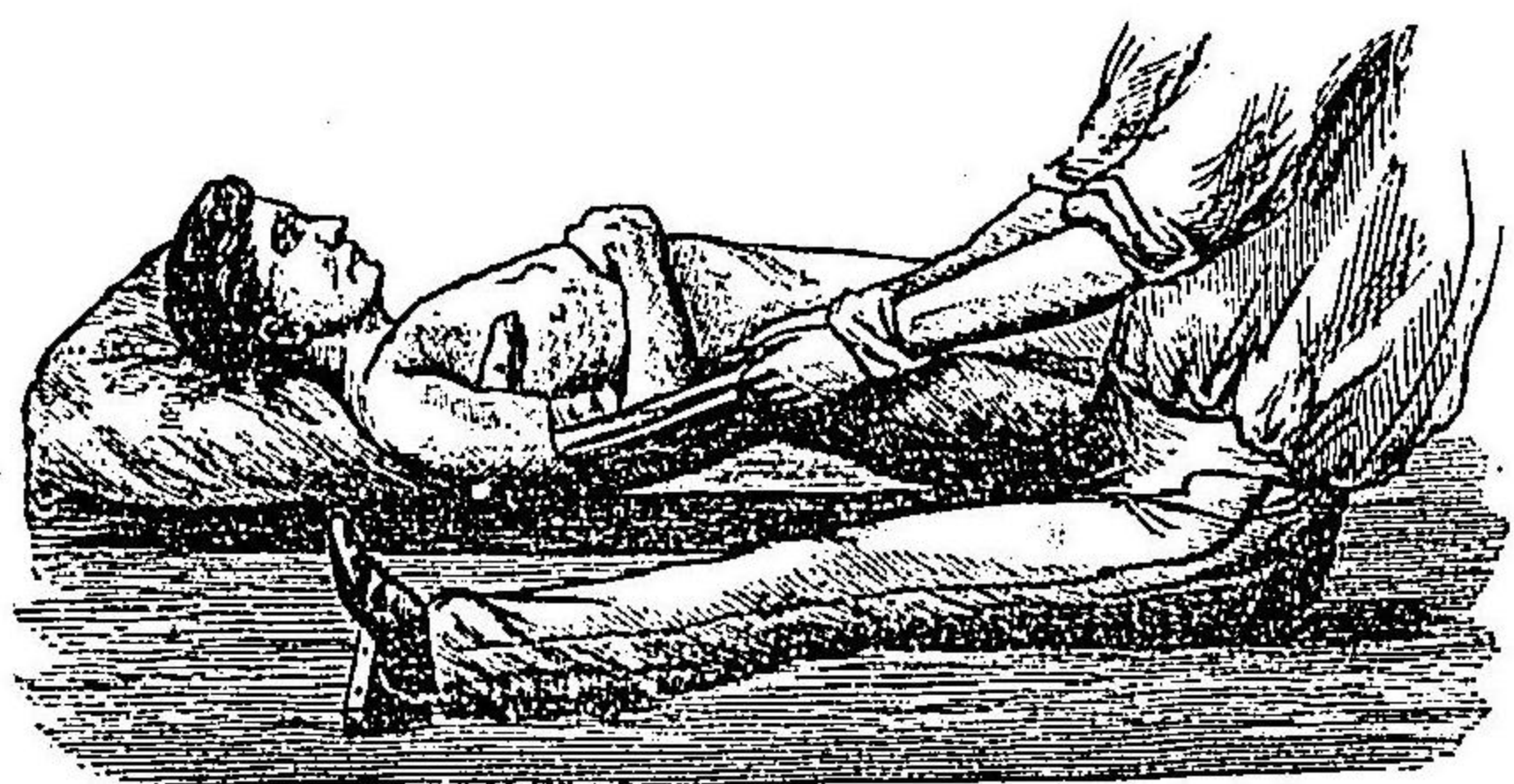


(圖ノ法舉高)

際術者ハ拇指ヲ骨頭ニ當テ上方ヨリ押壓シ關節窩ニ至ルニ及ヒテ急速ニ上膊ヲ低下ス復脱ヲ防ク爲ニ胸側ニ接シテ繃帶ヲ行フヘシ(第四十八圖

(三)牽引法 患者ニ前ノ如キ位置ヲ與ヘ腋下ニ綿花又タハ他ノ壓枕ヲ置キ甲ノ助手ハ厚クシテ廣キ布帶ヲ患側ノ腋下ヨリ胸背ヲ經テ健側ノ方向ニ掛ケテ牽引シ又乙ノ助手ニハ他ノ布帶ヲ以テ腋下ヨリ斜メニ肩峯突起及ヒ鎖骨ヲ踰ヘ胸背ニ沿フテ健側ニ牽引シ丙ノ助手ニハ患肢ノ上膊下端ニ稍々狹キ布帶ヲ纏縛シタルモノヲ前ノ反對方ニ向

圖九十四第



(圖ノ法引牽)

肘關節脱臼一名前膊脱臼

ケテ牽引セシメ此際粗暴ノコトナク一齊ニ徐々ニ強力ヲ加ヘ牽引スヘキモノナリ而シテ術者ハ兩手ヲ肩峯及ヒ腋下ニ當テ脱臼セシ骨頭ヲ復納セシムヘシ又ハ足踵ヲ患者ノ腋窩ニ當テ前膊及ヒ腕關節ヲ把握シテ下方ニ牽引スルカ又ハ上膊下端ニ布帶ヲ纏縛シテ之レヲ牽引シ此際助手ヲシテ上述ノ如ク肩胛ト胸壁ヲ保セシメ以テ還納セシム而シテ整復シタル後チハ胸側ニ接シ軀幹ト共ニ環行帶ヲ行フカ又ハ三角擔布帶ヲ以テ安保スレハ可ナリ(第四十九圖ノ如シ)

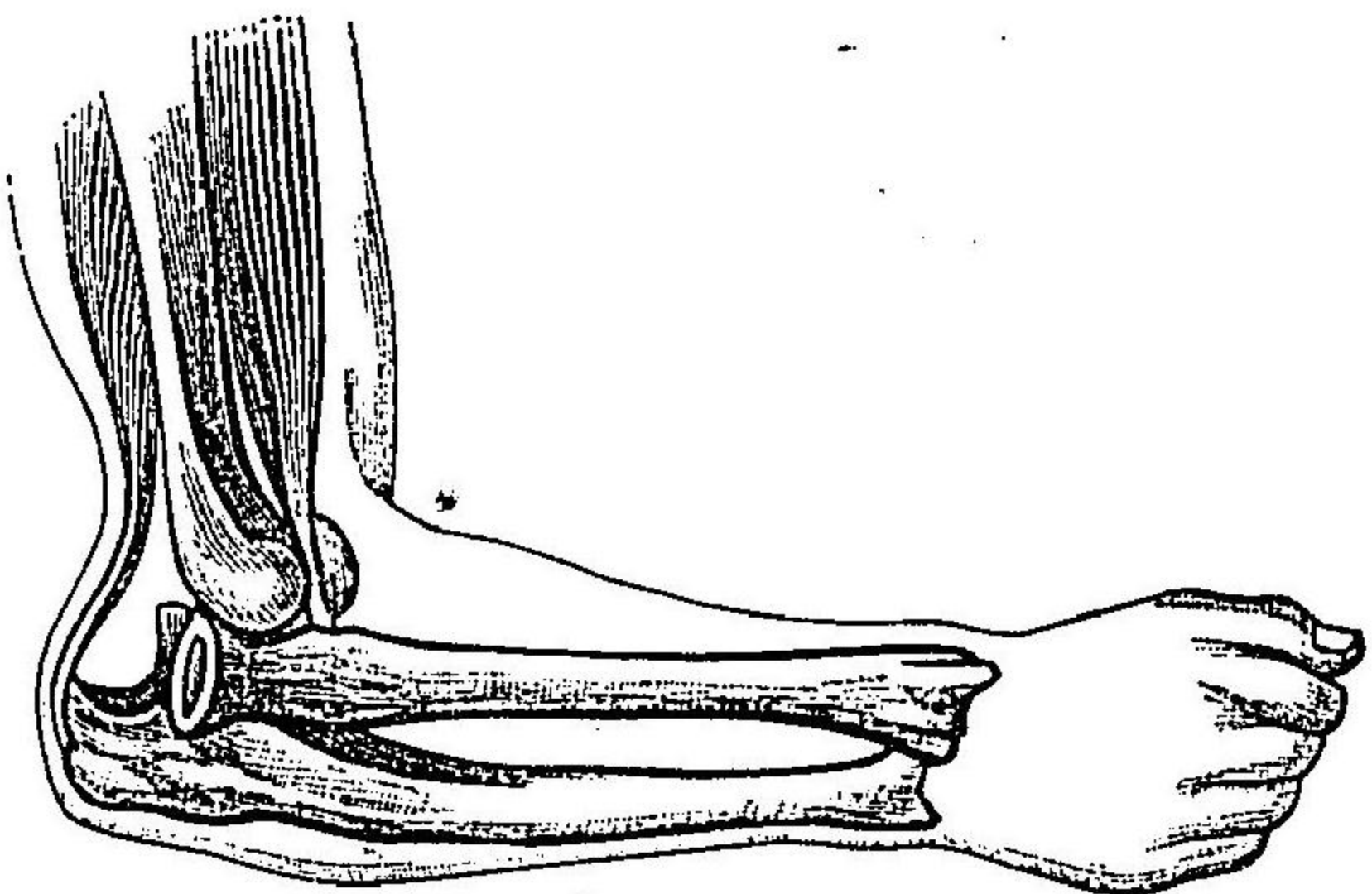
此ノ關節ノ脱臼ハ肩關節脱臼ニ次テ多ク發起スルモノニシテ後脱臼

外轉脱臼前脱臼トス

(一)後脱臼 前膊ヲ強ク伸展スルニ依リテ發起スルモノニシテ橈骨ノ突起ハ後上方ニ隆起シテ高位ニ轉移ス滑車窩及ヒ橈骨頭(外側ニ)ヲ觸知シ得ルモノナリ(第五十圖ノ如シ)

處置 (一)甲ノ助手ヲシテ肘關節上部ヲ把握セシメ乙ノ助手ハ前膊ヲ把テ長軸ニ沿フテ相反對ノ方向ニ牽引シテ鳥嘴突起ヲ後上方ヨリ前下方ニ押壓

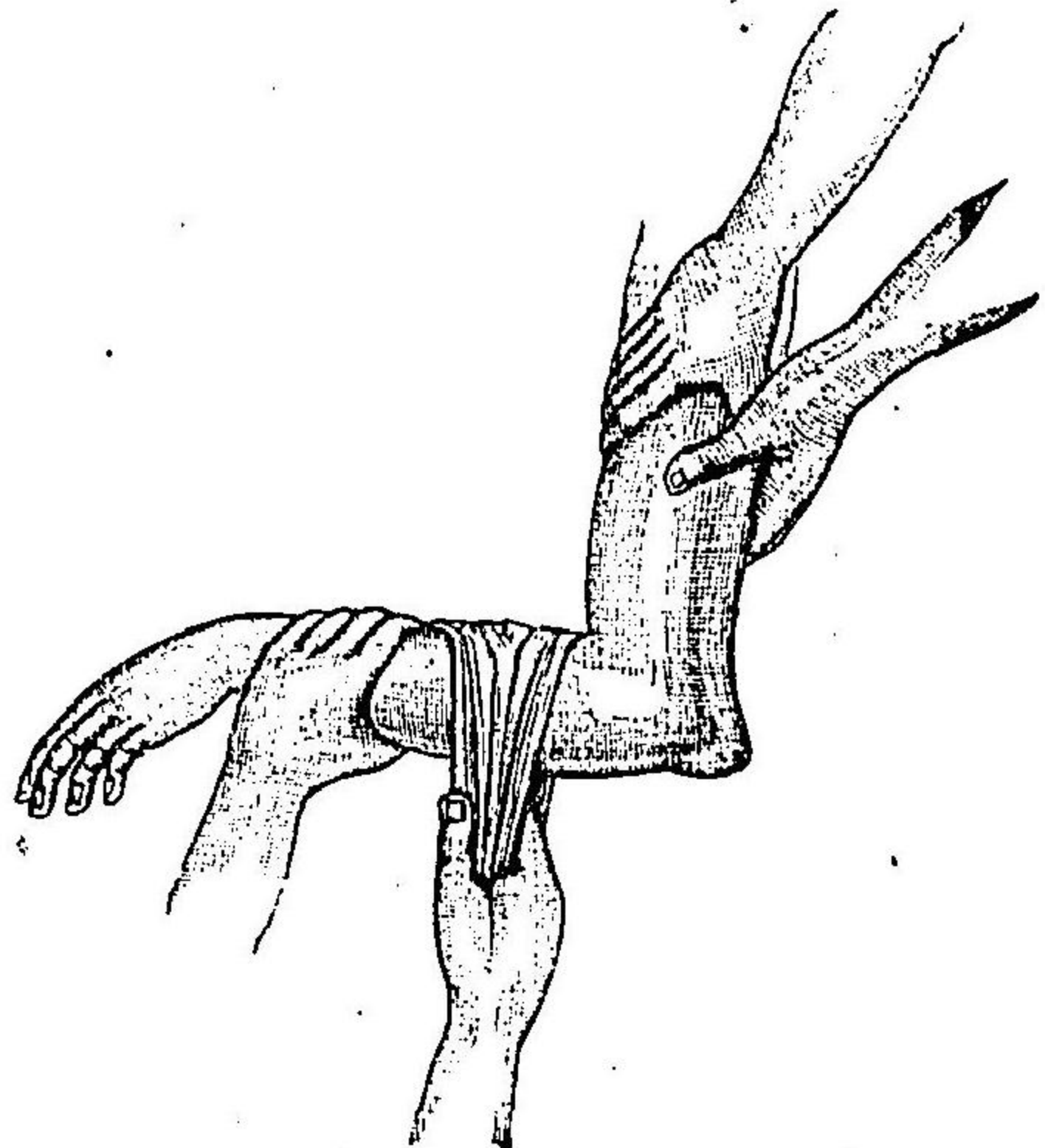
第五十圖



(圖ノ脱臼後)

シテ還納セシムヘシ

第五十一圖



(圖ノ術復整)

(二)甲ノ助手ハ上膊ヲ兩手ニテ把握シ乙ノ助手ハ一手ヲ以テ前膊下端ヲ握リ直角ニ(上膊ト前膊ニ)至ル迄回轉セシメ前膊ノ上部ニ布帶ヲ纏縛シ其末端ヲ持ツ下方ニ牽引シテ整復セシム還納シタル後ハ擔布帶ヲ施シ置クヘシ(第五十一圖ノ如シ)

(三)前脱臼 過度ノ屈ニ依リテ發起スルモノナレトモ極メテ稀ナリ腕關節脱臼 背側脱臼 掌側脱臼ノ二トス此脱臼ハ多クハ背側脱臼ニシテ此ノ症狀ハ尺骨橈骨ノ錐狀突起掌側ニ轉移シテ著明ニ觸知シ得

ルモノナリ

處置 甲ノ助手ヲシテ前膊下部ヲ把握セシメ術者ハ腕部ヲ把持シテ反對ノ方向ニ牽引スヘシ整復後ハ副木ヲ貼シ適宜ノ繃帶ヲ行フヘシ指節關節脫臼 拇指ト腕前骨關節脫臼最モ多ク殊ニ背側脫臼ニシテ背側ニ強屈スルトキニ發起スルモノナリ

處置 諸關節脫臼ノ處置ニ比較スレハ極メテ困難ナルモノナリ伸展法ニ依リテ整復セサルトキハ最初脫臼セシ方向ノ位置ニ劇シク背側ニ伸展シ次ニ屈曲セシムヘシ

股關節脫臼 外脫臼内脫臼ノ二トス

(甲)外脫臼ヲ又々外側脫臼一名腸骨脫臼ト坐骨脫臼ノ二ニ區別ス

(一)外側脫臼一名腸骨脫臼

原因 屈曲セル脚ニ打撲ヲ受ケ關節頭内方ニ廻轉セルトキニ發起スルモノナリ

症狀 患脚ハ内方ニ轉シ關節頭ハ髌臼ノ後側ニ觸知シ跗趾ハ仰臥ノ

位置ニ於テ健側ノ跗趾又ハ跗背部ト交叉ス

處置 患者ヲ仰臥セシメ助手ヲシテ骨盤ヲ固定シ術者ハ内轉セル位置ニ於テ兩手ヲ以テ牽引スルト同時ニ内方ニ廻轉セシメ併セテ關節頭ヲ押壓シテ整復セシムルカ又ハ大腿ニ大布帶ヲ纏縛シテ之レヲ徐徐ニ下方ニ向テ牽引スルト同時ニ前ノ如ク内方ニ廻轉セシメ術者ハ兩手ヲ以テ關節頭ヲ押壓シテ髌臼ニ滑動セシムヘシ

(二)坐骨脫臼

原因 屈曲セル脚ニ打撲ヲ受ケ骨頭下外方ニ向テ壓迫セララルトキニ發起スルモノナリ

症狀 骨頭ハ髌臼下ニアリテ患脚ハ内轉シテ著シク屈曲ノ位置ニアルモノナリ

處置 前記ノ腸骨脫臼ノ處置ト殆ト同一ナリト雖トモ屈曲セル脚ヲ一層強屈セシメ(正角ヲ越ヘシ迄)テ外方ニ廻轉スヘシ

(乙)内脫臼ヲ又々内脫臼一名卵圓脫臼耻骨脫臼ノ二トス

(一) 内脱臼一名卵圓脱臼ハ關節頭ノ内下方ニ向テ脱臼スルヲ云フモノナリ

原因 強度ノ外轉ヲナセシトキ又ハ外側ノ衝突打撲ニヨリテ發起スルモノナリ

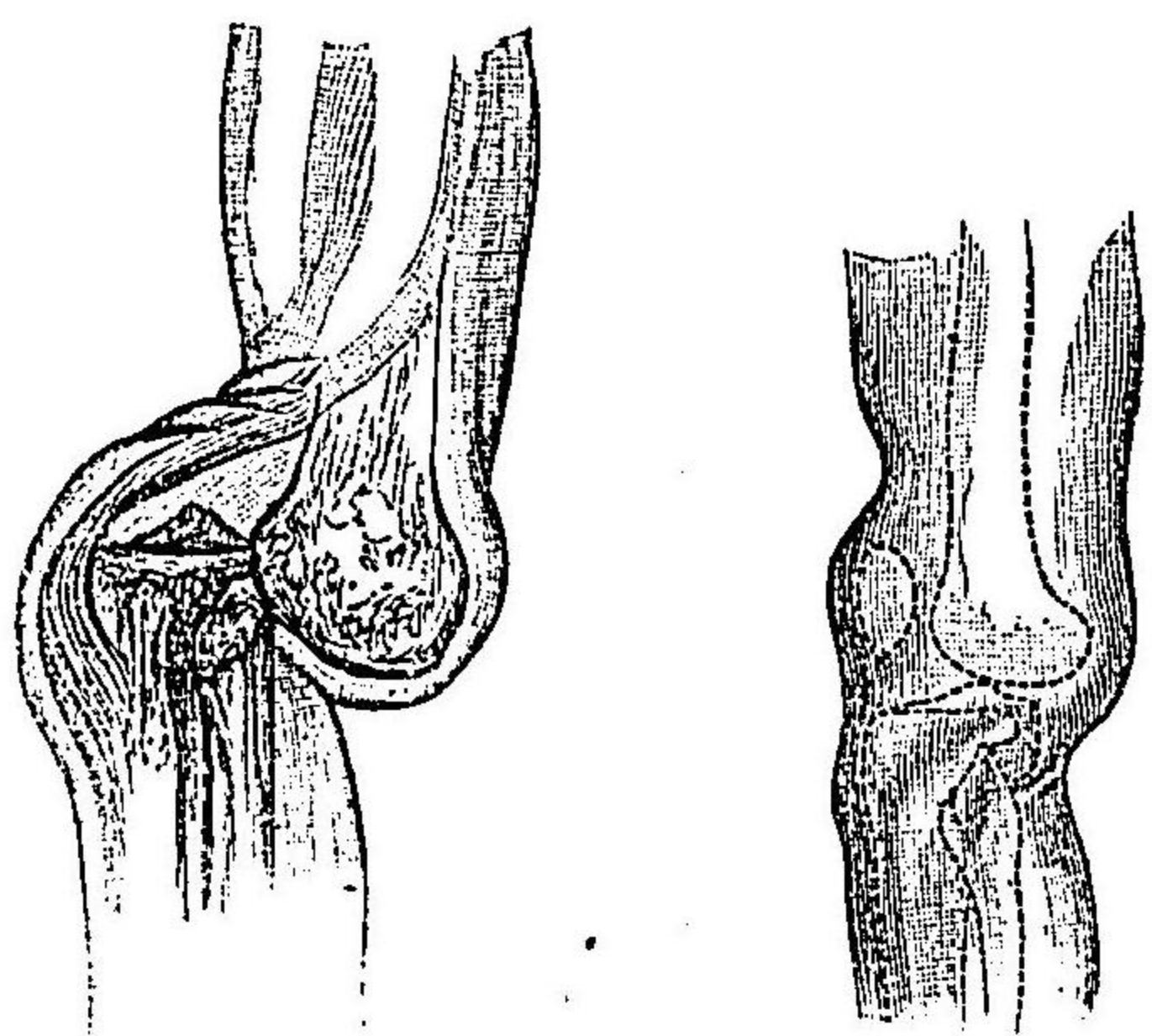
症狀 患脚ハ屈曲外轉ノ位置ニアリ歩行シ得ルモノハ脚ヲ外轉屈曲シテ跟骨部ハ床ニ接セス且ツ足尖ハ外轉スルモノナリ

處置 先ツ屈曲ノ位置ニ於テ患脚ヲ外轉シ次テ轉シ次テ縱軸ニ沿フテ内轉スヘシ或ハ又タ大腿ニ大布帶ヲ纏縛シ之ヲ外上方ニ牽引セシメ術者ハ兩手ヲ以テ骨頭ヲ内方ヨリ外方ニ壓迫整復セシムルモ可ナリ

(二) 趾骨脱臼 之レ内方ニ脱臼スルモノニシテ患脚ハ屈曲外轉ノ位置ニアリテ稍々短縮スルモノトス

處置 先ツ患脚ヲ外轉シ次テ縱軸ニ沿フテ内轉シ且ツ骨頭ヲ内上方ヨリ下外方ニ壓迫スヘシ

圖二十五第



(圖ノ臼脱前)

此ノ種ノ脱臼ニ於テ股動脈股靜脈坐骨神經等ハ脱臼セル骨頭上ニ緊張スルカ故ニ最モ注意シテ毀損セシムルコトナカレ

膝關節脱臼 前脱臼後脱臼ノ二トス

此ノ關節ハ強硬ニシテ關節面廣キカ故ニ容易ニ脱臼スルモノニアラス

(一) 前脱臼

原因 過度ニ伸展スルト同時ニ過度ノ外轉又ハ廻轉運動ヲナストキニ發起スルモノニシテ此ノ關節脱臼中最モ多ク現ルモノナリ

症狀 上脛ト下脚ノ連接ノ變狀著明ニシテ前方ニ脛骨頭ヲ觸知シ後方ニ大腿下端

ヲ突出ス膝膕動脈及ヒ坐骨神經ヲ壓迫スルモノナリ(第五十二圖ノ如シ)

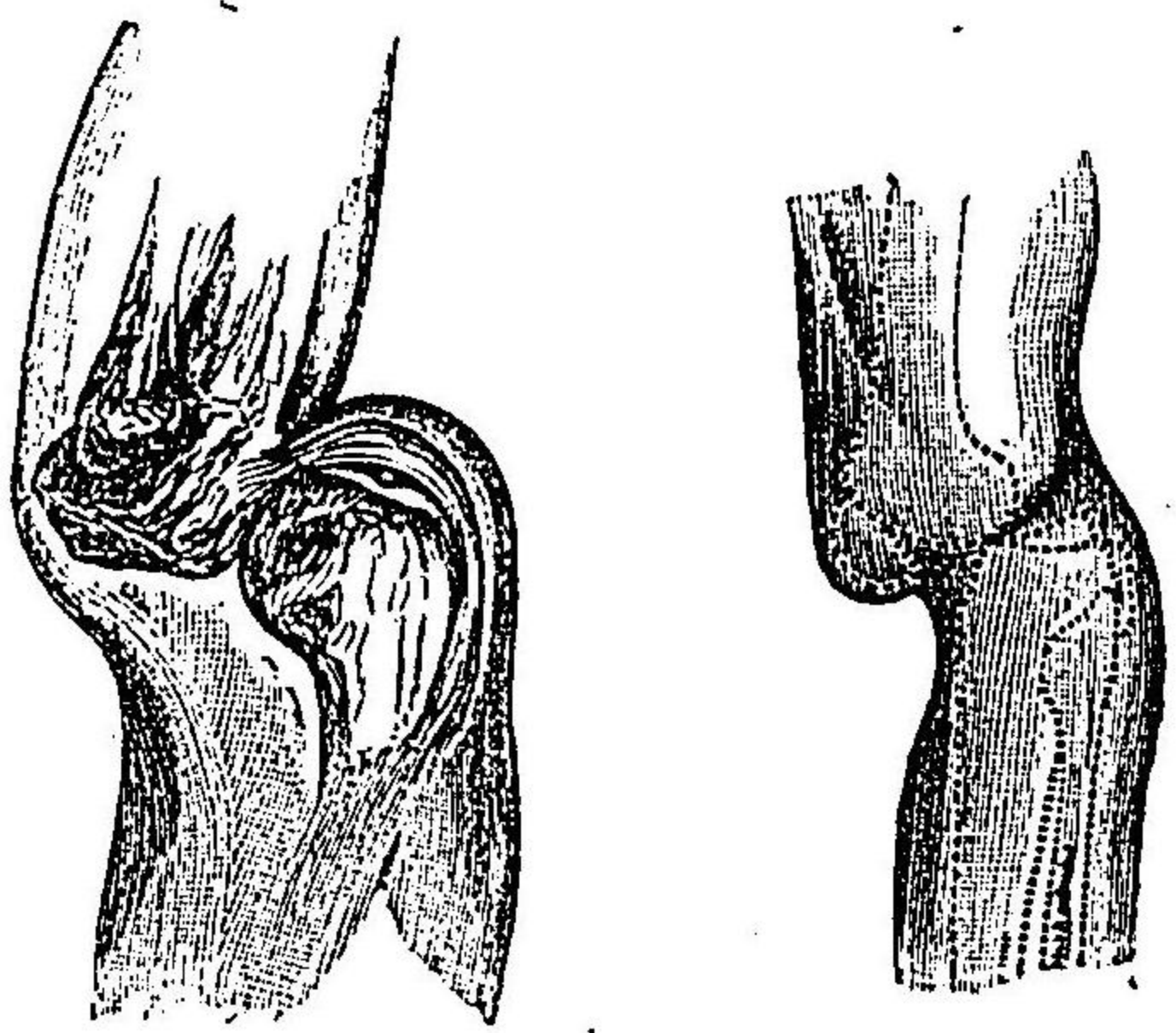
處置 先ツ患脚ヲ把握シ反對ニ牽引シ前方ニアル脛骨頭ヲ後方ニ直接ニ押壓スヘシ此際動脈神經ヲ毀損スルコトナキヲ要ス

(二) 後脱臼

原因 脚ヲ坐屈若クハ全屈ノ位置ニ於テ膝關節ニ直接ノ暴力ヲ蒙ルトキニ發起スルモノニシテ最も稀ニ見ル處ノモノナリ

症狀 總テ前脱臼ニ反スル症狀ヲ現呈スルモノニシテ前方ニ大腿下端及ヒ膝蓋骨ヲ觸知シ膝膕ニハ脛骨頭突出ス而シ

圖三十五第



(圖ノ白脱後)

テ伸展自動スルコト能ハス不全脱臼ニ於テハ其症狀著明ナラス(第五十三圖ノ如シ)

處置 大腿ヲ固持シ下脚ヲ牽引シ關節端ヲ直ニ押壓スレハ整復スルヲ得ヘシ

膝蓋脱臼 内側又ハ外側ニ脱臼スルモノ多シト雖トモ直下ニ脱臼スルモノアリ

處置 股關節ヲ屈曲シ膝關節ヲ伸展セシメ外側脱臼ニアリテハ内方ニ内側脱臼ニアリテハ外方ニ直下脱臼ニアリテハ直上方ニ壓迫シテ還納セシムヘシ

足關節脱臼 内側外側又ハ前後ニ脱臼スルモノアリト雖トモ内外脱臼最も多ク前後ノ脱臼ハ之レニ次ク然レトモ前脱臼ハ極メテ稀ナリ足蹠ニ向テ強ク屈曲セシムレハ後脱臼ヲ生ス足背ニ強屈スレハ前脱臼ヲ生スヘシ

症狀 下脚ト足部トノ連接部ヲ健側部ニ比較シ精査スレハ容易ニ判

定シ得ヘシト雖トモ前脱臼ニアリテハ足ノ前部延長シテ跟骨部短ク又ク後脱臼ニアリテハ之レニ反シテ足ノ前部短ク跟骨部長シ

處置 前脱臼ニアリテハ足背ニ向ケ強屈シテ足尖ヲ鉛直ノ位置ニアラシメ脛骨ヲ前方ニ向ケ足部ヲ前方ヨリ後方ニ移動セシメ次テ足趾ニ向ケテ屈曲セシムヘシ又後脱臼ニアリテハ之レニ反シ足趾ニ向テ強屈セシメ足尖ヲ鉛直ノ位置ニアラシメテ脛骨ヲ後方ニ足跟部ヲ前方ニ移轉セシメ次テ足背ニ向テ屈曲スヘシ

内外脱臼ハ内踝及ヒ外踝ノ骨折ヲ併發スルコト多シ之レ脱臼ノ原因モ他ノ脱臼ノ如ク打撲衝突等ノ外力ニ因スルモノナリ

跗前骨脱臼 多クハ背側ニ脱臼スルモノニシテ一箇ノ跗前骨ナルカ又ハ總跗前骨脱臼ナルカ又ハ側方又ハ足趾ニ向ケ脱臼スルコトアリト雖トモ極メテ稀ナリ

症狀 跗前骨ノ末端跗背ニ隆起ス

處置 相互ニ反對ノ方向ニ牽引スレハ還納スルモノナリ

趾脱臼 此ノ關節脱臼ハ跗前骨脱臼ニ比スレハ稀ニ發起スルモノニシテ足背ニ向テ脱臼スルコト多シ其局部ヲ精査スレハ容易ニ判明スルモノニシテ又其處置モ他ノ關節ニ施スモノト殆ト同一ナリ

**關節ノ轉振(捻挫)**

關節轉振即チ捻挫ハ打撲衝突跌倒等ノ外力ノ爲メニ囊韌帶牽強シ次テ破裂シ將ニ脱臼セントシテ外力ノ去ルヤ再ヒ舊位ニ復スルモノヲ云フ故ニ囊韌帶ノミナラス關節韌帶又ハ其周圍軟部組織ノ挫壓牽扯展張破裂等ヲ發起スルモノナリ

症狀 局部ノ疼痛運動不能腫起等ニシテ殊ニ一二日ノ後ニ著シク發現スルモノトス

處置 患部ヲ安靜ニシ高位ニ保持シ制腐的濕布法ヲ施シ既ニ炎症消散シタル後ハ按摩法ヲ行フヘシ

**凍死**

凍死ハ寒氣最モ甚シキトキ又ハ雪中旅行スルモノ等ニ於テ發見スル

モノナリト雖トモ又々輕キ寒氣ニ於テモ發スルコトアリ殊ニ長途ノ歩行ニヨリ疲勞シタルトキ或ハ空腹ナルカ或ハ酩酊昏倒睡眠スルニ依リ體溫ノ奪却セラル、コト甚シキ時ニ罹リ易シ雪中ニ埋沒セラレタルトキハ却ツテ幸福ナルコトアリ之レ雪ハ溫ノ不良導體ナレハナリ

饑餓ハ酸化作用衰へ溫ノ生出ヲ減シ酒ヲ飲テ一時溫暖ヲ感スルハ亞爾箇兒ノ爲メニ皮膚ノ血管擴張スルニ依ルモノニシテ内部ニ於テハ却テ體溫下降スルモノナリ

症狀 凍死ニ罹ルトキハ初メ體溫下降シ知覺ヲ失ヒ次テ失神ヲ來スモノニシテ全身蒼白寒冷トナリ鼻尖指趾等ハ暗紫色ヲ呈シ四肢強直ス甚シキトキハ鼻手足ノ尖端全ク氷ノ如クナルコトアリ而シテ呼吸絶へ脈搏ハ觸知スルヲ得ス

處置 凍死者ヲ救助スルニハ常ニ忘ルヘカラサルニ要件アリ

(一)凍死者ヲ移動スルニハ注意シテ四肢ノ破折セサル様ニシ

(二)決シテ直チニ温室ニ移スヘカラサルコト之レナリ

凍死者ヲ運搬スルカ又ハ脱衣セシムルトキハ決シテ粗暴ノコトナク靜カニ靜置スヘシ然ラサレハ強直シタル四肢ノ如キハ折傷スルコトアリ又々直ニ温室ニ移ストキハ蘇生スヘキモノモ爲メニ眞死ニ陥ルコトアリ故ニ先ツ寒冷ナル室内ニ入レ雪又ハ雪水ヲ布片ニ浸シタルモノヲ以テ皮膚ヲ摩擦スルカ又ハ最初ニ冷水ヲ布片ニ浸シテ摩擦シ次テ漸々溫湯ヲ用ヒ最後ニ熱湯ヲ以テ摩擦スヘシ(此等ノ摩擦法ハ凡ソ三十分時以上施行スヘシ)或ハ又冷水ニ浴セシメ漸々熱湯ヲ加へ攝氏ノ三十二度二分ニ至ラシムルモ可ナリト雖トモ時トシテ危險ナルコトアレハ廣ク行ヒ難シ而シテ多少ノ溫ヲ生シタルトキハ適度ニ溫メタル室内ニ移シ乾衣ヲ纏ヒ又ハ毛布等ニテ被包シ漸次體溫ヲ恢復セシムルコトヲ計ルヘシ

身體稍々柔軟トナリタルトキハ人工呼吸ヲ施スヘシ

呼吸運動ヲ現ハストキハ嗅入藥例ハ強アンモニア水ヲ嗅入セシメ若

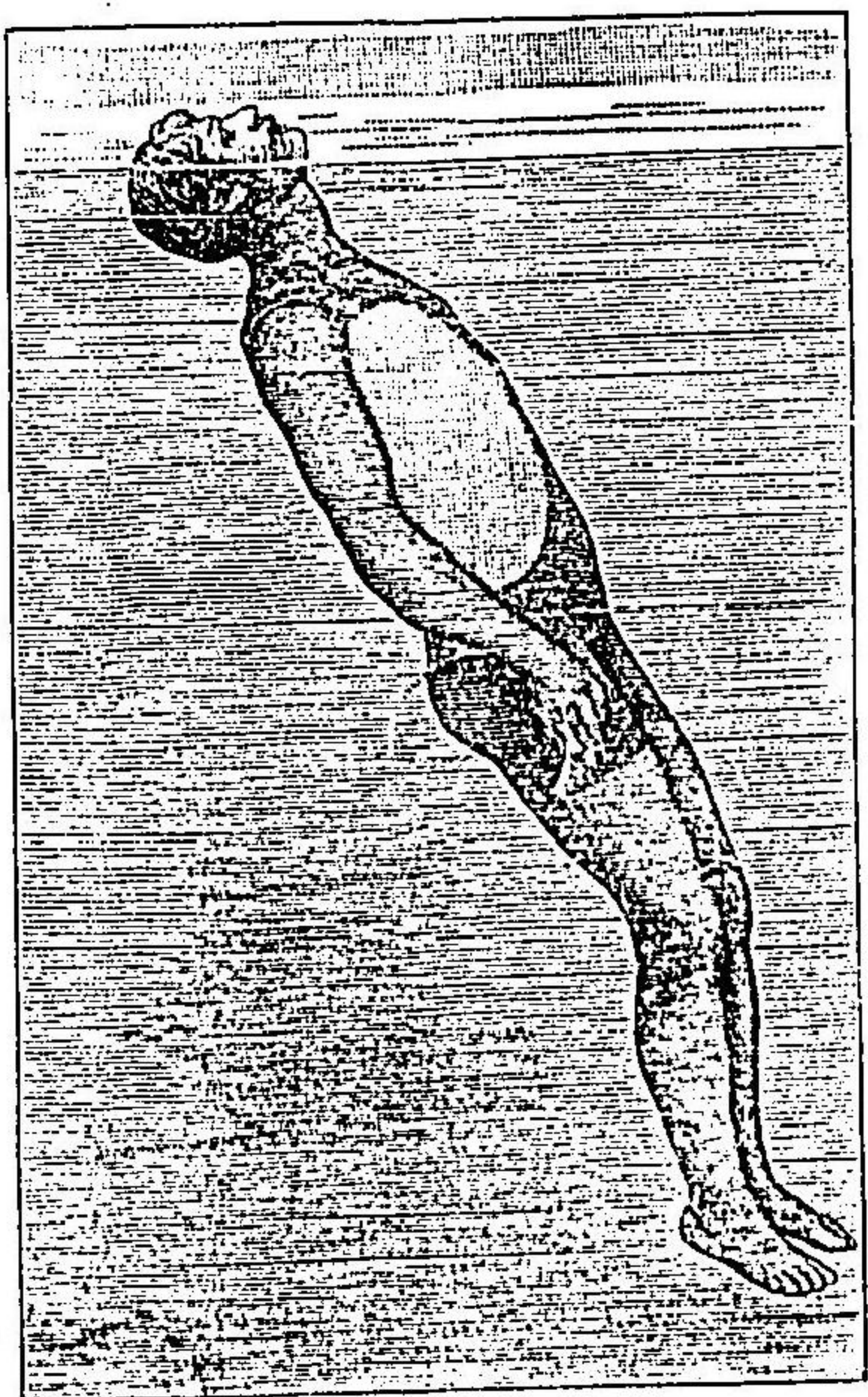
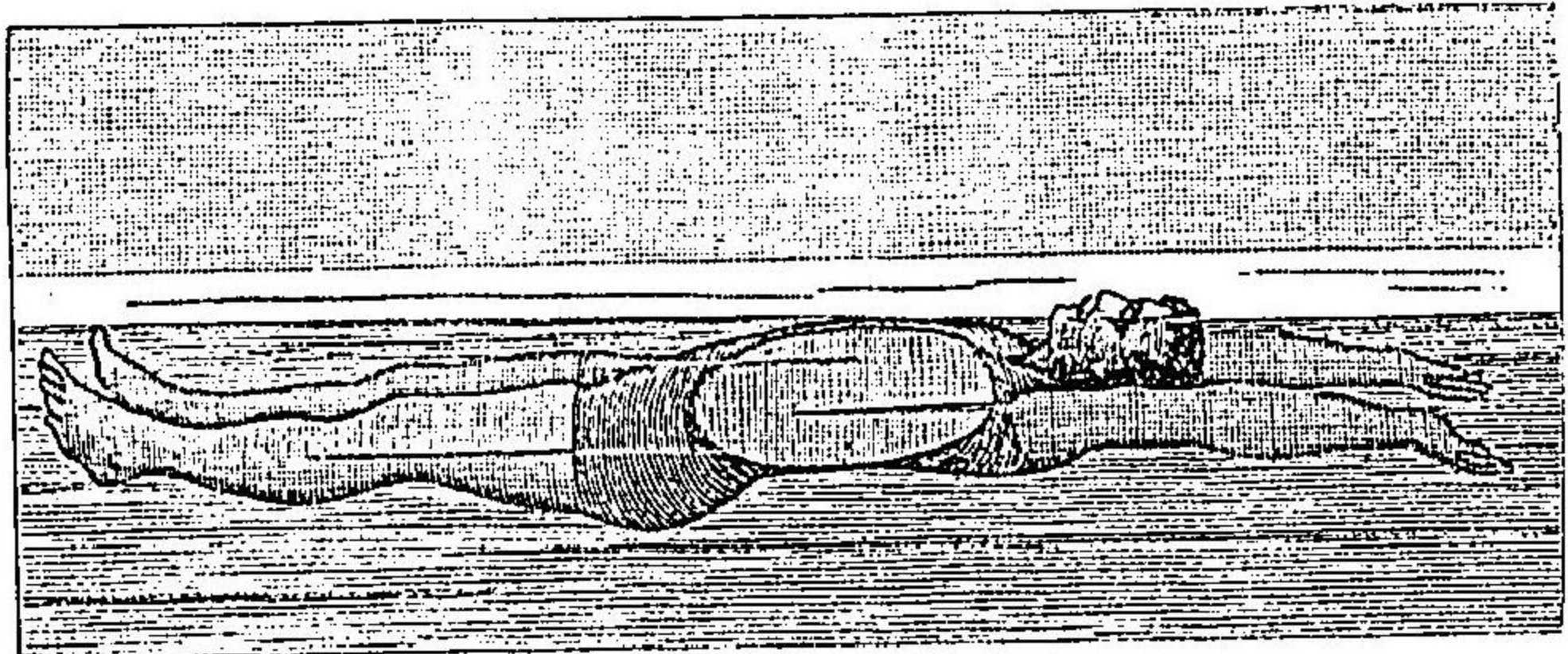


シ嚙下シ得ルニ至ラハ依的兒「ホフマン」又ハ咖啡濃厚ノ茶武蘭堊葡萄  
 酒ヲ與ヘテ仰臥セシメ各部ニ溫婆ヲ入レテ溫保シ流動性滋養物ヲ給  
 シ二十四時間以内ハ最モ注意シテ看護ヲ要スヘキモノナリ  
 豫防法 溫帶地ヨリ寒帶地ニ急速移轉スルトキノ如キハ多量ノ脂肪  
 ト肉類ヲ給シ溫キ珈琲ヲ自由ニ得セシメ且ツ被服ノ整理ヲ忘ルヘカ  
 ラス

### 溺死

人身體ハ其比重水ト稍々同シキモノナレハ水中ニ没スヘキモノニア  
 ラス(第五十四圖ノ如シ)然ルニ往々溺死スルモノアルハ畢竟水泳術ノ  
 知識ナキカ爲メニ只々周章狼狽煩悶シ水ヲ飲ミ且ツ浮泳ニ不適當ナ  
 ル状態ヲ呈スルニ依ルナリ故ニ海員タルヘキ者ハ宜シク水泳術ヲ練  
 習スルヲ可トス之レ自身ノミナラス他ノ水難者ヲ救助スルコトヲ得  
 レハナリ  
 溺死ニ二様アリ各其原因症狀ヲ異ニス

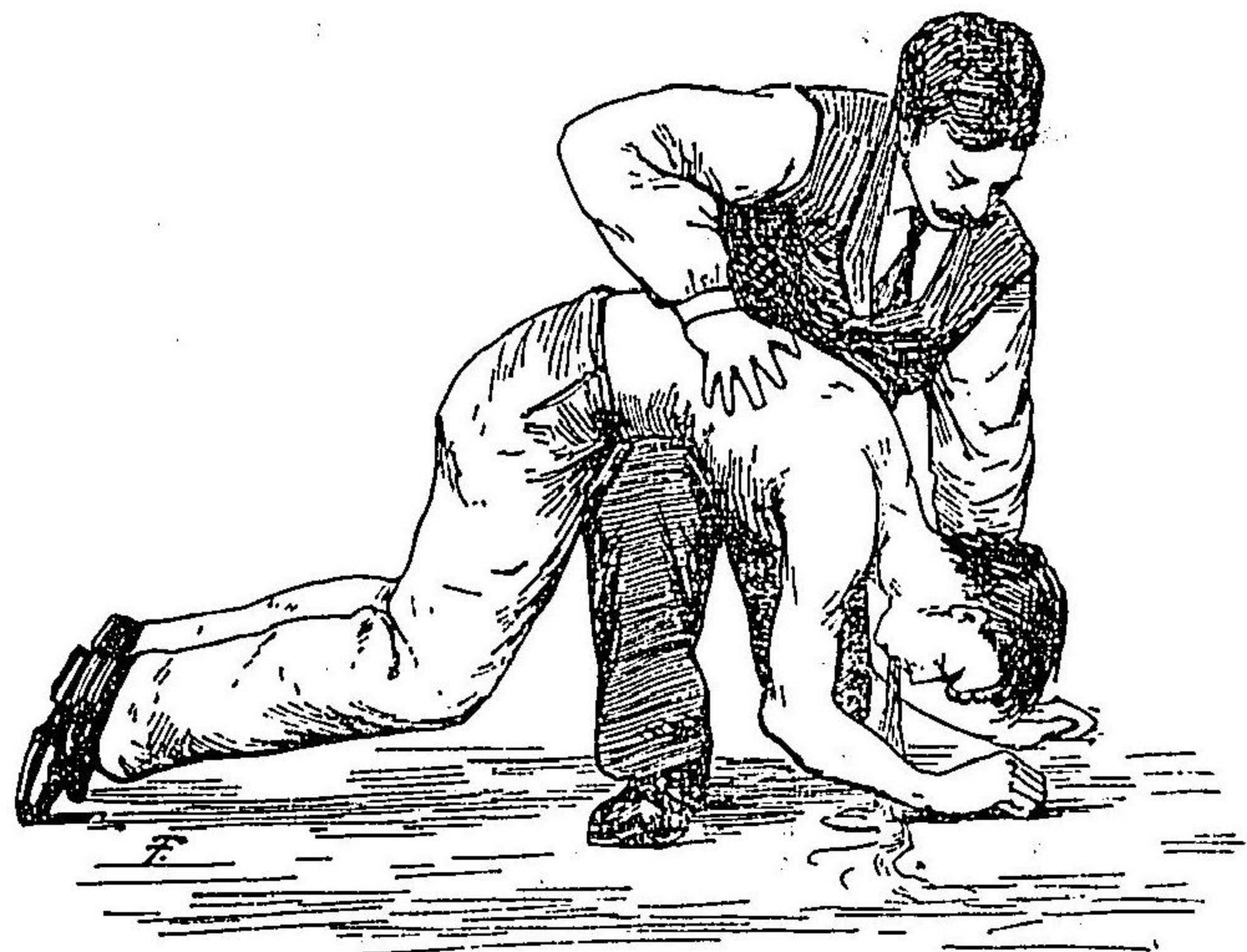
圖四十五第



(一) 窒息シテ死スル者 水液肺中ニ吸入セラレ大氣ヲ吸取スルコト能ハサルニ依ルモノニシテ最モ多ク見ル所ナリ  
 症状 顔面及ヒ口唇暗紫色ヲ呈シ腫脹シ眼球ハ充血シ肺胃ニ多量ノ水液ヲ吸飲シ口内ニ泡沫ヲ滿シ或ハ泥土ヲ以テ口鼻ヲ閉塞スルコトアリ

(二) 昏倒シテ死スル者 其水中ニ落没スルヤ甚シク恐怖シ或ハ打撲シテ震盪症ヲ起シ爲メニ心臟及ヒ呼吸運動ノ停止スルニ依ルモノニシテ水ハ少ク肺胃中ニ進入スルカ或ハ全ク進入セス之レ聲門ノ痙攣ヲ起スニ依ル此ノ種ニ屬スルモノハ稀ニ見ル所ナリ  
 症状 顔面蒼白ヲ呈シテ弛緩シ口内少シク泡沫ヲ見ル此ノ如キ状態ニ依ルモノハ數時間水中ニアルモ生命全ク絶ヘサルコトアリ  
 處置 鼻口ヲ檢シ泥土等ノ爲メニ塞カル、モノハ之レヲ去リ吸飲シタル水ヲ吐出セシム即チ溺没者ノ腹部ヲ己レノ膝ニ當テ、俯臥セシメ胸部ヲ低クシ且ツ左手ヲ以テ溺者ノ前額ヲ支ヘ頭部ヲ反張セシム

第五十五圖



ルトキハ水液自ラ流出スルモノナリ(第五十五圖ノ如シ)次ニ衣服ヲ脱シ乾衣ヲ纏ヒ人工呼吸法ヲ行フヘシ但シ少クモ一時間ハ持續スルヲ要ス

呼吸運動ヲ喚起セシムルノ補助トシテ礫砂精強アンモニア水ヲ嗅カシメ或ハ寶丹薄荷等ヲ口鼻ニ入レ或ハ羽毛ノ如キモノヲ以テ鼻咽喉腔ヲ刺戟シ其他顔面部ヲ摩擦スルカ又ハ冷水温水ヲ交々噴キ注クヘシ又タ濕布ヲ以テ胸部ヲ輕打スルモ可ナリ

既ニ呼吸運動喚起スルトキハ興奮藥ヲ與ヘ且ツ温包スヘシ總テ假死者ハ何時間内ニ蘇生スルモノナルヤ否ヤノ問題ハ自然起ルヘキモノナリ然レトモ未タ一定セス短キハ二分時四五分時ヨリ後ニアリテハ其目途ナキモノアリト雖トモ時トシテ十分乃至十二分時又ハ三十分時ニ至ルモ蘇生スルモノアリト云フ

自身水中ニ陷落シタル時 若シ過リテ水中ニ陷落シタルトキハ決シテ狼狽スルコトナク靜ニ仰向トナリ口ヲ上方ニ後頭部ヲ後下方ニ向

第五十六圖



ケ充分ニ大氣ヲ吸引シテ肺臟ヲ膨脹セシムルコトヲカメ上下肢ハ水面ニ沿フテ伸展シ水流ニ順ヒテ浮流シ救助者ノ來ルヲ待ツヘシ猶ホ能フヘクンハ其衣服ヲ脱シ安全ヲ計ルヘシ

溺水者ヲ救助スルノ法 溺者ヲ救助スルニハ其岸ト船中ニアルヲ問ハス直ニ竿繩網或ハ上衣ヲ脱シ一袖ヲ把リテ之レヲ投シ其一端ニ把

握セシメテ引上クヘシ(或ハ又タ帶ヲ解テ投スルモ可ナリ)(第五十六圖ノ如シ)

游泳シテ救助ニ赴クニハ迅速ニ必ス衣服ヲ脱シ且ツ能フヘクンハ自身ニ繩ヲ結ヒ付ケ相圖ニヨリテ引キ上クル様一端ハ岸上ノ人ニ托シ置クヘシ若シ注意スルコト

ナク輕忽水中ニ飛入ルトキハ共ニ溺没スルコトアリ  
 溺没者水中ニアリテ轉輾煩悶スル間ハ決シテ手ヲ下スヘカラス只タ  
 其近傍ニ接シ大聲汝ヲ救助スヘシト呼ヒ安意ヲ與ヘ其靜トナリタル  
 ヲ待テ(此時數秒ナリ)最モ速ニ頭髮又ハ耳朶ヲ把握シ仰向ニナシ口鼻  
 ヲ水面上ニ引キ上ケ陸ニ向テ泳キ行クカ又ハ救助者ノ來ルヲ待ツヘ  
 シ

靜カナル水例ハ湖水池水ノ中ニ沈没シタルモノハ其水面ニ氣泡ノ昇  
 ルヲ見ルコトアリ故ニ之レヲ救助スルニハ其水底ニ溺没者ノアルコ  
 トヲ推知シ沈ミ入ルヘシ河流潮流等ニアルトキハ氣泡其下流ニ見ル  
 ヘシ而シテ溺者ニ達シタルトキハ一手ヲ以テ頭髮ヲ握リ引キ上ケル  
 コト前述ノ如クスヘシ  
 船舶ノ往來頻繁ナル場所又ハ船中ニハ常ニ救助器ヲ備ヘ置カサルヘ  
 カラス即チ繩ニ浮球ヲ結ヒ付ケタルモノ(救助球又ハコルク)ノ類ヲ入  
 レタル布囊(浮囊)帆布ヲ以テ製シタル輪ニ紐ヲ附ケタルモノ(救助輪)等

圖七十五第



之ナリ

薄氷破碎シテ陷落シタルト  
 キノ救助法、薄氷ノ破レテ  
 陷落シタルトキハ其破口漸  
 ヲ破碎スルカ故ニ裂氷中ヨ  
 リ脱出シ能ハサルコトアリ  
 此ノ如キトキハ長キ梯子又  
 ハ板或ハ竿條ヲ與フヘシ然  
 ルトキハ自己(陷落者)ノ重量  
 ハ大ナル面積上ニ分配セラ  
 レ裂氷縁ヲ壓スル力減スル  
 ニ依リ容易ニ脱出シ得ヘシ  
 (第五十七圖ノ如シ)  
 又タ此ノ如キ人ニ近ツキ救

助セント欲スルトキハ水上ニ板又ハ梯子ヲ置キ其上ヲ俯伏匍匐シテ

之レヲ捕フルカ或ハ又タ長  
キ一杆又ハ橈ヲ横ニ己レノ  
背部ニ當テ兩膊ヲ後ニ送り  
肘ノ肩側ト背部ノ間ニ之ヲ  
挟ミテ近クヘシ(第五十八圖  
ノ如シ)

窒息

窒息トハ概シテ大氣ノ肺中  
ニ吸引スルコト能ハサルニ  
依リテ起ルモノナリ  
症状 顔面暗紫色トナリ眼  
球ハ突出シ一種ノ聲音ヲ發  
シ空中ヲ把握スルノ狀ヲ呈

圖八十五第



シ遂ニ失神ニ陥リ呼吸全ク絶シ心動亦幽微トナリ適當ノ處置ヲ施ス  
ニアラサレハ終ニ死ニ陥ルモノナリ而シテ窒息ニハ氣道ノ硬塞ニヨ  
ルモノト有毒瓦斯ノ吸引ニヨルモノアリ

(一)硬塞ニヨル者 之レ肉片餅團子等ノ食物若シクハ義齒等ヲ過リテ  
氣道ニ嚥下シ空氣ノ肺ニ進入スルヲ妨クルニ依ルモノナリ

處置 小ナル異物ノ氣道ニ嵌塞スルモノハ咳嗽ヲ頻々ナサシムルト  
キハ排出スルコトヲ得ヘシ若シ能ハサルトキハ咽頭ヲ刺戟シテ嘔吐  
ヲ起サシメ兼テ背部ヲ打ツテ排出スルコトヲ力ムヘシ又タ咽頭部ニ  
嵌止スルモノハ示指ヲ咽頭ニ送り釣狀ニ曲ケテ引キ出スカ或ハ示指  
ト拇指トヲ以テ摘ミ出スヘシ

(二)有毒瓦斯ニヨル者 船舶ニアリテハ二重底防水區域又ハ深奥ナル  
船底(酸素缺乏シ)陸上ニテハ葡萄酒麥酒ヲ醸造スル密室古キ井坑衆人  
群居ノ室内ニハ炭酸瓦斯ヲ發生シ坑内ニハ其他硫化水素坑穴瓦斯又  
室内ニハ街燈瓦斯ノ浸入又出火ニ際シ烟ノ爲メニ窒息ヲ來スコトア

リ殊ニ我國ノ如キハ烟ノ爲メニ死スルモノ屢々見ル所ナリ其他密室ニ於テ炭火ニ暖ヲ取ルトキハ殊ニ有燐ノ燧燼ヲ供用スルトキハ酸化炭素ノ中毒ヲ起スコトアリ

炭酸瓦斯、酸化炭素等ヲ吸入スレハ直ニ眩暈頭痛ヲ覺ヘ顔面暗紫色、或ハ青赤色ヲ呈シ鼻翼呼吸ヲ營ミ脈搏間歇シ呼吸ハ幽微トナリ遂ニ絶止シ失神ノ狀ニ陥リ又ハ痙攣ヲ發ス

處置 密室ニ於テ窒息シタルモノアルトキハ救助者ハ直ニ其中ニ入ルコトナク必ス先ツ窓及ヒ戸ヲ開キ新鮮ナル空氣ヲ流通セシメ或ハ又其他ノ方法ヲ以テ充分換氣ヲ行ヒタル後ニ進入セサルヘカラス然レトモ若シ急速ヲ要スルトキハ酢ト水トヲ等分ニ和シタルモノ又ハ充分冷水ヲ布片ニ浸シ鼻口ヲ塞キ充分吸氣シタル後進ミ入ルヘシ

火災ノ時ニアリテハ煙ヲ排泄シテ空氣ヲ通シタル後救助ノ方法ヲ講スヘシ

古キ井坑ニ於テ窒息シタルモノアルトキハ先ツ蠟燭ニ點火シ其中ニ

靜ニ送ルヘシ而シテ若シ火焰ノ消滅スルトキカ又ハ火力充分ナラザルトキハ其中ニ入ルヘカラス之レ有毒瓦斯ノ存在スル徵ナレハナリ故ニ傘ヲ開キ把柄ニ紐ヲ附シ井内ニ下シ數回上下シテ大氣ヲ流通セシメ或ハ石灰乳ヲ製シテ其中ニ撒布シタル後酢ト水ト等分ノモノヲ浸シタル布片ヲ以テ鼻口ヲ被ヒ一條ノ繩ヲ持チ又タ一條ノ繩ヲ腰ニ結ヒ付ケ井坑内ニ下ルヘシ此ノ腰ニ結ヒ付ケタル繩ノ一端ハ他人ニ托シ相圖ニ依リテ引キ上クルノ用ヲナシ他ノ一條ハ窒息者ニ達シタルトキ固ク之レニ結ヒ付ケ引キ上クルノ用ヲナスモノナリ(此際更ニ信號用ノ繩ヲ持スルモ可ナリ又タ相圖ナクモ進ミ入りタル救助者ノ働作ヲ監督シ若シ活潑ナラサルトキハ速ニ引キ上クルヲ要ス)

炭坑内ニアリテハ坑穴瓦斯ノ爲メニ爆發スルコトアリ故ニ其内ニ入ルニハ安全燈ヲ用ヒ決シテ裸火ヲ用ユヘカラス

絞縊

自縊(自殺)或ハ絞殺(他殺)ノ爲メニ假死ニ陥リタルモノアルトキハ速カ

ニ紐繩等ノ頸部ニ纏絡シアルモノヲ解除スヘシ自縊者ニアリテハ靜  
 カニ抱キ降シ決シテ地上ニ撞突セシムヘカラス其他衣帶等ノ呼吸ヲ  
 妨クルモノヲ盡ク去リ冷室ニ移シ人工呼吸法ヲ施シ且ツ羽毛ヲ以テ  
 鼻中及ヒ咽喉ヲ刺戟シ嘔吐及ヒ嘔吐ヲ起サシムルコトヲ力メ猶ホ胸  
 部四肢等ハ溫布ヲ以テ摩擦スルヲ可トス

昏倒

原因 昏倒症ハ震盪症例ハ頭部脊推部腹部ノ打撲衝突ニ於ケルカ如  
 キ又ハ疲勞後ノ劇働饑餓不眠等ニヨリテ發起スルモノナリ  
 症狀 昏倒症ノ輕キモノハ眩暈ヲ覺ヘ精神朦朧トシテ四界暗黒トナ  
 リ談話ヲ聽取スルコト能ハス呼吸淺表トナルモ暫時ニシテ恢復ス然  
 レトモ重症ニアリテハ顔面蒼白全身厥冷シテ冷汗ヲ流シ精神機能廢  
 絶シ呼吸殆ト絶ヘ脉搏觸ルヘカラス死者ノ狀ヲ呈スルニ至ルモノナ  
 リ  
 處置 震盪症ニ就テハ既ニ記載セリ其他衣帶ヲ解キ冷所ニ運搬シ冷

水ヲ顔面ニ澀キ心部ヲ濕布ニテ輕打シ興奮劑ヲ與ヘ或ハ礮砂精ヲ嗅  
 入セシム若シ猶ホ醒覺セサルトキハ人工呼吸法ヲ行フヘシ

中毒

身體内ニ入り生命ヲ危險ナラシムル毒物ヲ大別シテ二種トス(甲)腐蝕  
 毒(乙)麻醉毒之レナリ

(甲)腐蝕毒 此ノ種ニ屬スル毒物ハ硫酸、鹽酸、硝酸、石炭酸、硫酸銅、硝酸銀、  
 昇汞、第二鹽化水銀、苛性加里、苛性那篤倫、砒石等ナリトス

症狀 若シ此等ノ藥物ヲ誤リテ服用シタルトキハ口唇及ヒ口内糜爛  
 シ胃部ニ激烈ナル灼痛ヲ發シ且ツ嘔吐ヲ起ス其吐物ハ酸性(酸類ナル  
 トキ)或ハ亞爾加里性(亞爾加里類ナルトキ)ナリトス其他此等ノ稀薄液  
 或ハ其藥物ヲ含有スルモノヲ攝取スルニヨリテ發起スル慢性中毒症  
 狀ハ其藥物ノ異ナルニ依リテ一様ナラス

處置 第一其原因ノ何ナルヤヲ調査スルヲ要ス時トシテ藥物ノ容器  
 ヲ身邊ニ發見スルコトアルモノナレハ宜シク注意スヘシ

硫酸、硝酸、鹽酸等ヲ服用シタルモノナルトキハ亞爾加里性劑ヲ多量ニ  
 飲用セシムヘシ即チ重碳酸那篤留謨(重碳酸曹達)炭酸麻偏涅失亞、炭酸  
 石灰、卵殼、卵白、石鹼水、乳汁、壁土等ノ最モ得易キモノヲ用ユヘシ  
 砒石ヲ服用シタルトキハ乳汁、卵白、脂油類又ハ鐵鏽ヲ水ニ和シテ與フ  
 若シ解毒劑ヲ用ユレハ一層有效ナリトス

砒石解毒劑製法

過硫酸鐵一〇〇〇 水二五〇〇(ノ混合液ト)煨性麻偏涅失亞一五  
 ○ 水二五〇〇(親密ニ研和セルモノ)以上二品ヲ均等ノ糜粥狀ト  
 ナル迄振盪シテ製スヘシ但シ用ニ臨テ製スルヲ要ス故ニ常ニ過  
 硫酸鐵一〇〇〇煨性麻偏涅失亞一五〇ヲ各別ニ貯藏シ置クヘシ  
 世上砒石ノ中毒ハ最モ多ク發見スルモノナリ  
 昇汞ヲ服用シタルトキハ乳汁、卵白又ハ小麥粉ヲ水ニ攪和シテ與フヘ  
 シ  
 石炭酸ヲ服用シタルトキハ總テ粘液、乳汁、油類、糖、石灰ノ濃厚液ヲ與フ

又硫酸那篤留謨(芒硝)ヲ解毒劑トシテ用ユルヲ有効トス  
 硝酸銀ヲ服用シタルトキハ卵白、乳汁、食鹽水等ヲ服用セシムヘシ  
 亞爾加里性ノモノヲ服シタルトキハ食酢、枸橼酸、酒石酸、其他ノ酸味ア  
 ル果實或又多量ノ牛乳、粘滑飲料、油類等ヲ與フヘシ  
 腐蝕藥ノ口内咽頭等ヲ腐蝕スルモノニハ總テ多量ノ粘滑飲料ヲ與フ  
 ルヲ法トス即チ澱粉漿、葛湯、油類、牛乳、卵白或ハ砂糖等ヲ用ユルモノナ  
 リ

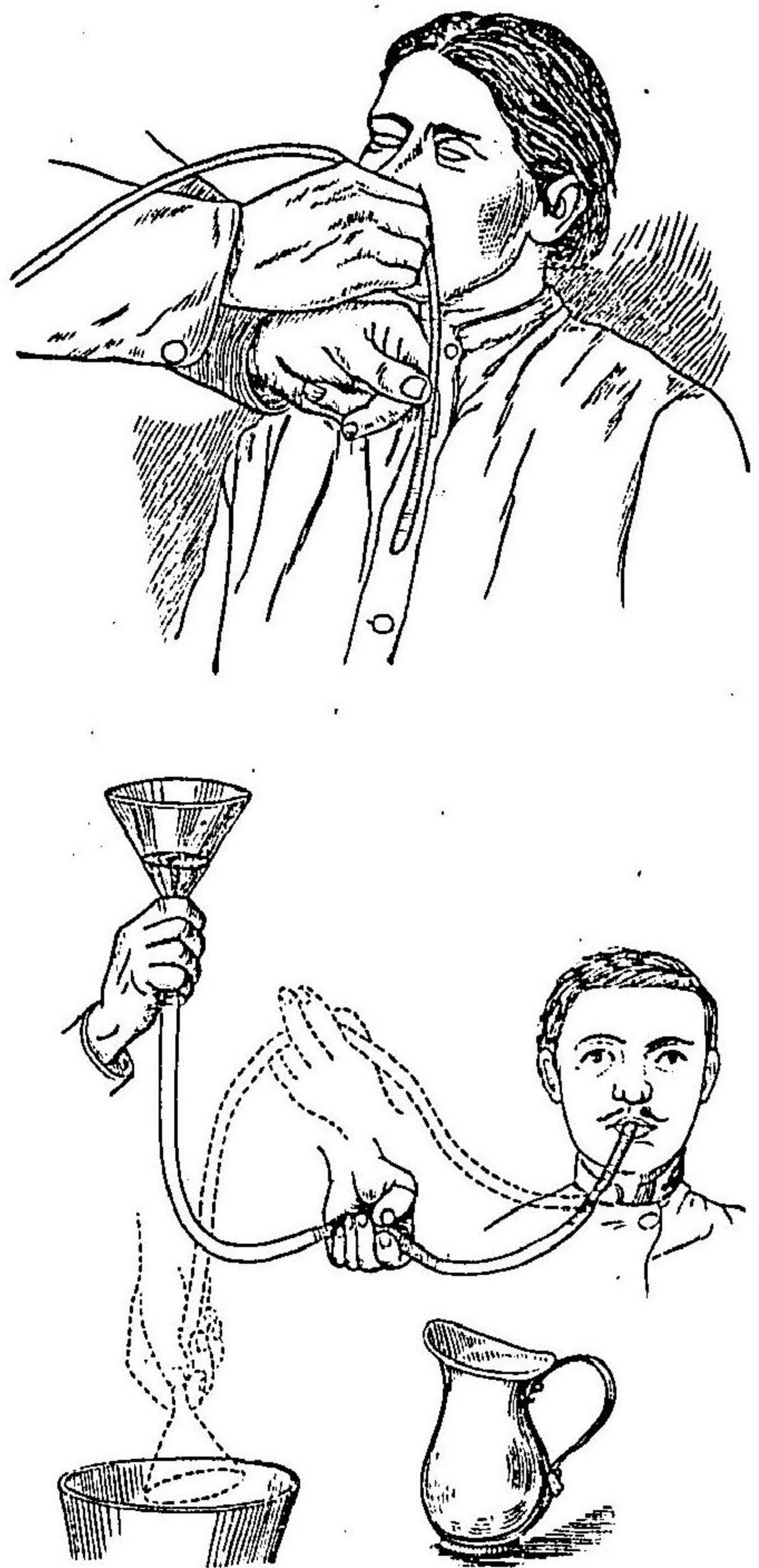
(乙) 麻醉毒 此ノ種ニ屬スル毒物ハ阿片、莫爾比涅、斯萬利規尼涅、青酸、莨  
 菪、失鳩答、雙蘭菊、酒精、煙草等ニシテ其他魚介及ヒ菌類等ナリ

症狀 此等ノ藥物ノ中毒症狀ハ其種類ニヨリテ各異ナル症狀ヲ呈ス  
 ルモノナレトモ多クハ最初興奮ノ狀態ヲ呈シテ顔面潮紅、譫語等ヲ發  
 シ後チ身體麻痺シテ人事不省トナリ、肝聲ヲ發シ呼吸淺表不正トナリ  
 脈搏幽微ニシテ殆ト觸知スヘカラサルニ至ル例ヘハ阿片、莫爾比涅、莨  
 菪、青酸等ノ如キ麻醉藥ニ於テハ特ニ之ヲ見ル



處置 總テ麻酔毒ヲ服シタルコトヲ知ラハ直ニ吐出セシムルコトヲ  
 力ムヘシ即チ手指又ハ羽毛等ヲ以テ咽喉ヲ刺戟シ或ハ又多量ノ食鹽  
 水ヲ飲マシメ若クハ之レニ芥子末ノ一茶匙ヲ混シテ飲用セシムヘシ  
 此ノ如ク處置シタル後チ頭面部ニ冷水ヲ灌キ濃厚ノ茶咖啡「ブラン  
 デー」コンナツク「ラ」飲マシムルカ又ハ鞣酸、含鞣酸ノ植物煎汁ヲ與ヘ礮  
 砂精(強アンモニア水)ヲ嗅カシメ時々高聲ニ呼ヒテ醒覺セシムヘシ其  
 他膀胱部足部ニ芥子泥ヲ貼付シ又ハ冷濕布ヲ以テ全身ヲ拭フヘシ  
 或ハ又第五十九圖ノ如キ胃唧筒ヲ用ヒテ胃内容液ヲ排除シ且ツ清淨  
 ニ洗滌スヘシ其法介者ヲシテ頭部ヲ鉛直ニ固持セシメ術者ハ左手ノ  
 示指ト中指ヲ舌根部ニ送り稍々前方ニ牽引シ右手ニ把筆狀ニ胃消息  
 子ヲ持チ其先端ヲ指間ニ送達シ徐々ニ食道(胃管)ヲ經テ胃内ニ達セシ  
 ム而シテ其唧筒ニ附スル護謨管凡ソ長サ一メートル(ノ)末端ニ嵌入セ  
 ル漏斗内ニ微溫湯ヲ入レ徐々ニ「メ」ートル以内ノ高サニ舉上スルト  
 キハ水ハ壓力ノ爲メニ胃内ニ流入スヘシ而シテ漏斗ノ嘴部迄ニ水ノ

圖九十五第



流下シタルトキハ直ニ舉上シタル漏斗ヲ胃部ヨリ以下ニ低下スルト

キハ胃内容液逆流シ(運通器ノ原理ニ依リテ處置スヘシ)若シ逆流スル  
 胃内容液ノ忽然停止スルコトアレハ其際ハ漏斗ヲ適宜ノ位置ニ上下  
 シテ其流出ヲ待ツヘシ之レ唧筒先端ノ孔眼カ飲食物ノ塊片ニ依リテ

充塞セラレハコトアレハナリ  
猶ホ醒覺セスシテ呼吸運動絶止スルノ状態アルトキハ直ニ人工呼吸  
法ヲ行フヘシ

### 中暑

炎熱ノ候殊ニ無風濕熱ノ時ニ際シ勞働スル者飲料水ヲ得難キトキ往  
々中暑症ヲ發スルモノトス  
症状 頻リニ渴ヲ覺ヘ冷汗淋漓皮膚灼熱舌乾燥シ倦怠眩暈胸内窘迫  
ヲ感シ脈搏疾數幽微ニシテ呼吸不正トナリ甚シキニ至レハ人事不省  
トナリ顔面暗赤眼球充血ヲ呈シ顔面及ヒ四肢ニ搖擗ヲ發シ瞳孔散大  
呼吸心動殆ト絶止スルモノナリ  
處置 上述ノ如キ症状ヲ發スルモノアラハ速ニ冷涼ナル場所例ハ森  
林及ヒ人家若クハ樹木ノ蔭ニ移シ衣帶等ノ胸部ニ纏フモノヲ解キ去  
リ頭部顔面ニ冷水ヲ灌キ胸部ハ冷濕布ヲ以テ輕打シ冷水ヲ多量ニ與  
フヘシ若シ呼吸絶止シタルトキハ人工呼吸法ヲ施行スヘシ

### 人工呼吸法

人工呼吸法ハ一時絶止シタル呼吸機能ヲ喚起シ自然ノ呼吸ヲ得セシ  
ムル法ニシテ起止回生ノ術ナルモ能ク熟練セサレハ其効ヲ望ムヘカ  
ラサルモノトス而シテ人工呼吸法ニ數種ノ式アリト雖トモ其中シル  
ウエスター氏ノ法式ヲ以テ最モ良トス

(一)シルウエスター氏ノ法 患者ノ上身ヲ裸露シ床下ニ毛布又ハ布團  
ヲ敷キ仰臥セシメ低キ枕ヲ以テ頭部及ヒ上身ヲ微ニ高クシ兩脚ヲ伸  
展セシム若シ屋外ナルトキハ地面ノ高低ヲ應用スヘシ  
患者ノ舌ハ稍々口外ニ牽キ出シ布片ニ包ミ拇指ト示指ニテ撮ミ齒列  
外ニ固持シ其退縮シテ氣道ヲ閉塞スルヲ防クヘシ若シ之ヲナスヘキ  
介者ナキトキハ牽出シタル舌ヲ細キ布片ニテ締結シ顎ヲ過キテ項後  
ニ他端ヲ結ヒテ固定スヘシ又喉頭口ヲ開張セシムルニハ兩手ヲ以テ  
下顎ヲ把リ前方ニ引キ下齒列ヲシテ上齒列ノ前方ニ來ラシムヘシ  
是ニ於テカ氣道ハ開張ス然ルトキハ術者ハ患者ノ頭邊ニ跪キ體ヲ稍

圖十六第



(法ノ氏 - クスエウルシ)  
(一)

圖一十六第



(二)

々前方ニ曲ケ兩手ヲ以テ左右肘關節ノ上部ヲ握リタルマ、舉上シテ  
 頭ノ兩側ニ至ル此ノ時胸廓擴張シテ空氣進入ス即チ吸氣ヲ營ムナリ  
 然ル後二秒時ヲ經テ再ヒ臂ヲ胸側ニ向ケテ下送シ且ツ強ク胸廓ヲ壓  
 迫シテ肺ヲ縮小セシメ肺内ノ空氣ヲ流出セシムレハ即チ呼氣ヲ促ス  
 ナリ(第六十圖及ヒ第六十一圖)ノ如シ若シ介者アルトキハ臂ヲ下送シ  
 テ胸廓ヲ壓スルト同時ニ其ノ右手掌ヲ心窩部ニ貼シ後上方ニ向テ壓  
 迫セシムヘシ此ノ如ク吸氣及ヒ呼氣ノ運動ヲ交互反覆シ例ヘ息ノ呼  
 吸運動恢復セサルモ一時間ハ此ノ法ヲ持續セサルヘカラス又其一分  
 時間ニ行フヘキ回数ハ健康體ノ呼吸回数ト同クシテ可ナリ  
 呼吸恢復スルトキハ颯然タル一種ノ音ヲ發シ且ツ蒼白ノ顔面ハ漸々  
 血色ヲ帶フルニ至ル此ノ時ニ當リテハ乾キタル布團毛布等ヲ以テ包  
 ミ四肢ヲ摩擦シ湯婆等ヲ與ヘ可及的溫保スヘシ其他興奮劑トシテ茶  
 咖啡葡萄酒日本酒武蘭垚等ヲ服用セシム  
 (二)ホワート氏ノ法 患者ヲ仰臥セシメ兩手ヲ交叉シテ背後ニアラシ

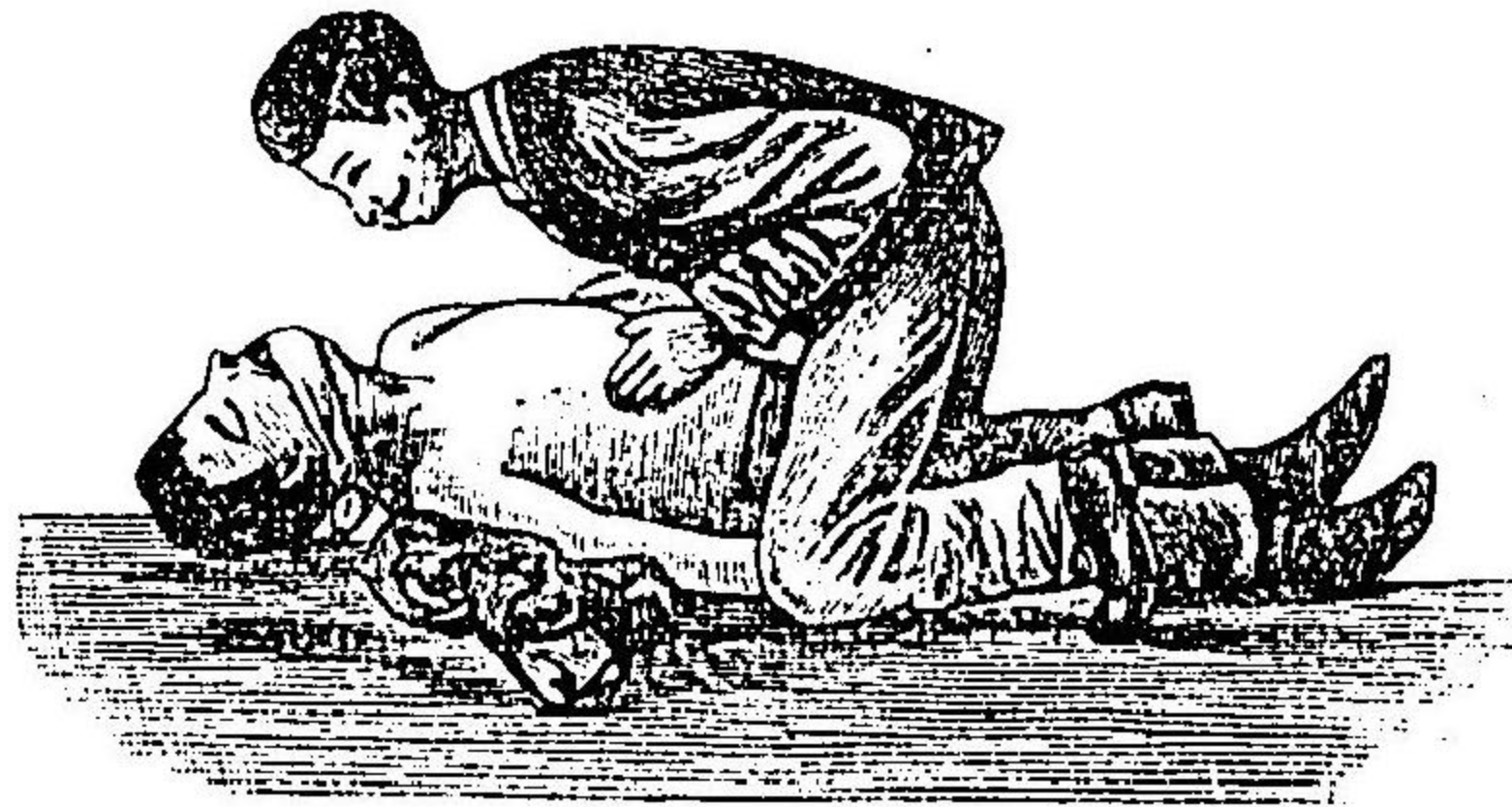
メ腰下ニ枕ヲ置キ微ニ高クシ術者ハ患者ノ股部ニ跨リ兩手掌ヲ以テ強ク胸側ヲ壓シ肺中ノ空氣ヲ驅出セシム(即チ呼吸ナリ)而シテ後チ速

圖二十六第



(法ノ氏トーワホ)  
(一)

圖三十六第



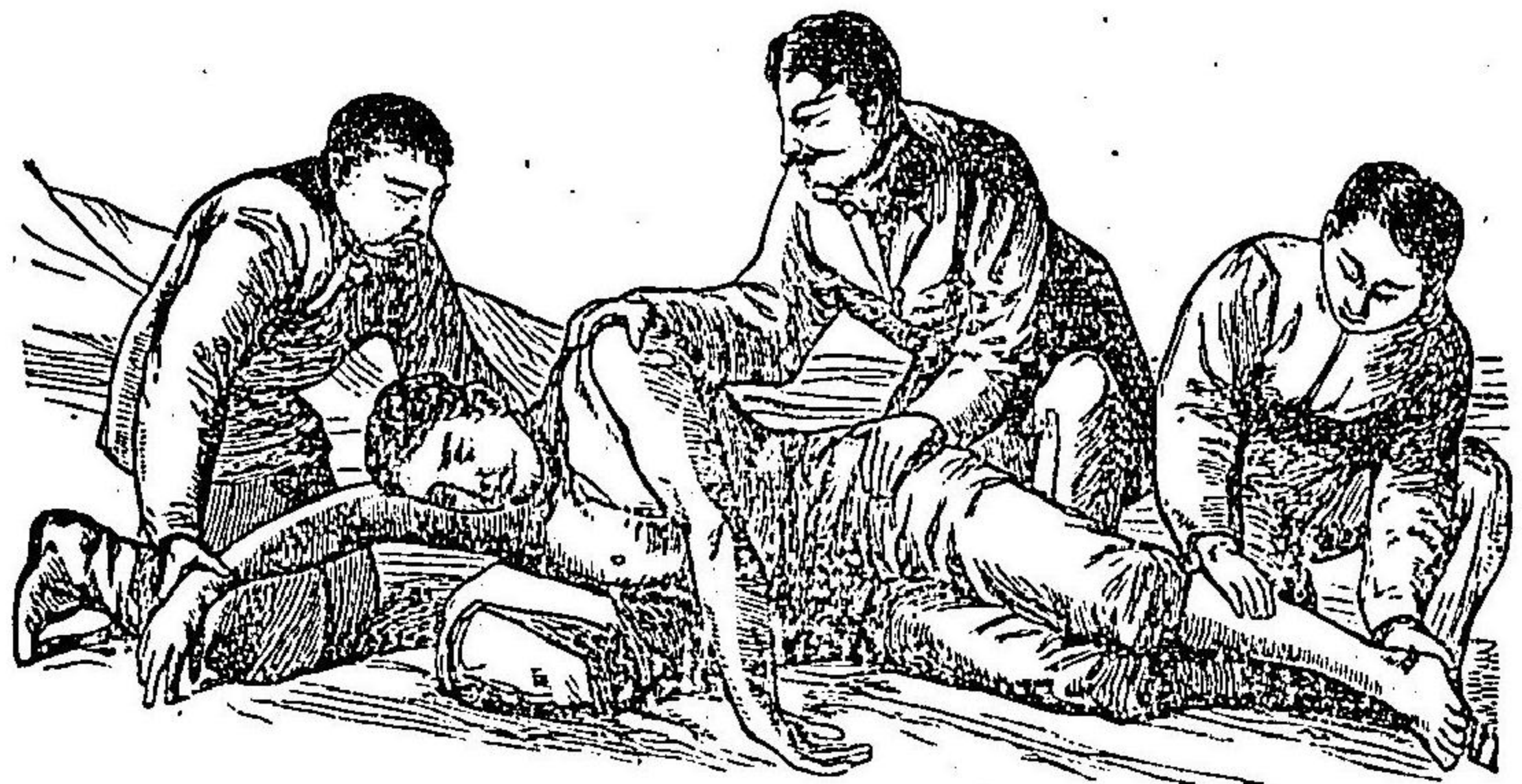
(二)

カニ手ヲ放テハ胸廓ハ自然ノ位置ニ擴張スヘシ此時空氣肺中ニ進入ス(即チ呼吸ナリ)此ノ如ク反覆働作スル時間及ヒ度數ハシルウエスタ  
 一氏ノ法ニ於ケルガ如シ但シ口ヲ開キ舌ヲ牽出スルカ如キ準備ノ必要アルハ勿論ナリトス(第六十二圖及ヒ第六十三圖ノ如シ)

(三)ラボテ氏ノ法 患者ヲ仰臥セシメ乾キタル布片ヲ以テ舌尖ヲ持チ一回ハ強ク口外ニ牽キ次回ハ退縮セシムルコト一分時間十五回乃至二十回ナルヘシ然ルトキハ喉頭神經ノ刺戟ニヨリ呼吸ヲ恢復セシムヘシ

(四)マルシャール、ホール氏ノ法 患者ヲ初メ俯臥セシメ次テ身體ヲ横臥ノ位置ニアラシメ而シテ後チ敏速ニ又舊位俯臥ニ臥セシムヘシ又介者ヲシテ頭部及ヒ頭下ニアル上膊ノ動搖ヲ制止セシムルヲ要ス甲位ニ於テハ呼吸ヲ爲サシメ乙位ニアリテハ呼吸ヲ營マシム此ノ法モ前法ト同シク一分時間十五六回ヲ行フモノトス(第六十四圖及ヒ第六十五圖ノ如シ)

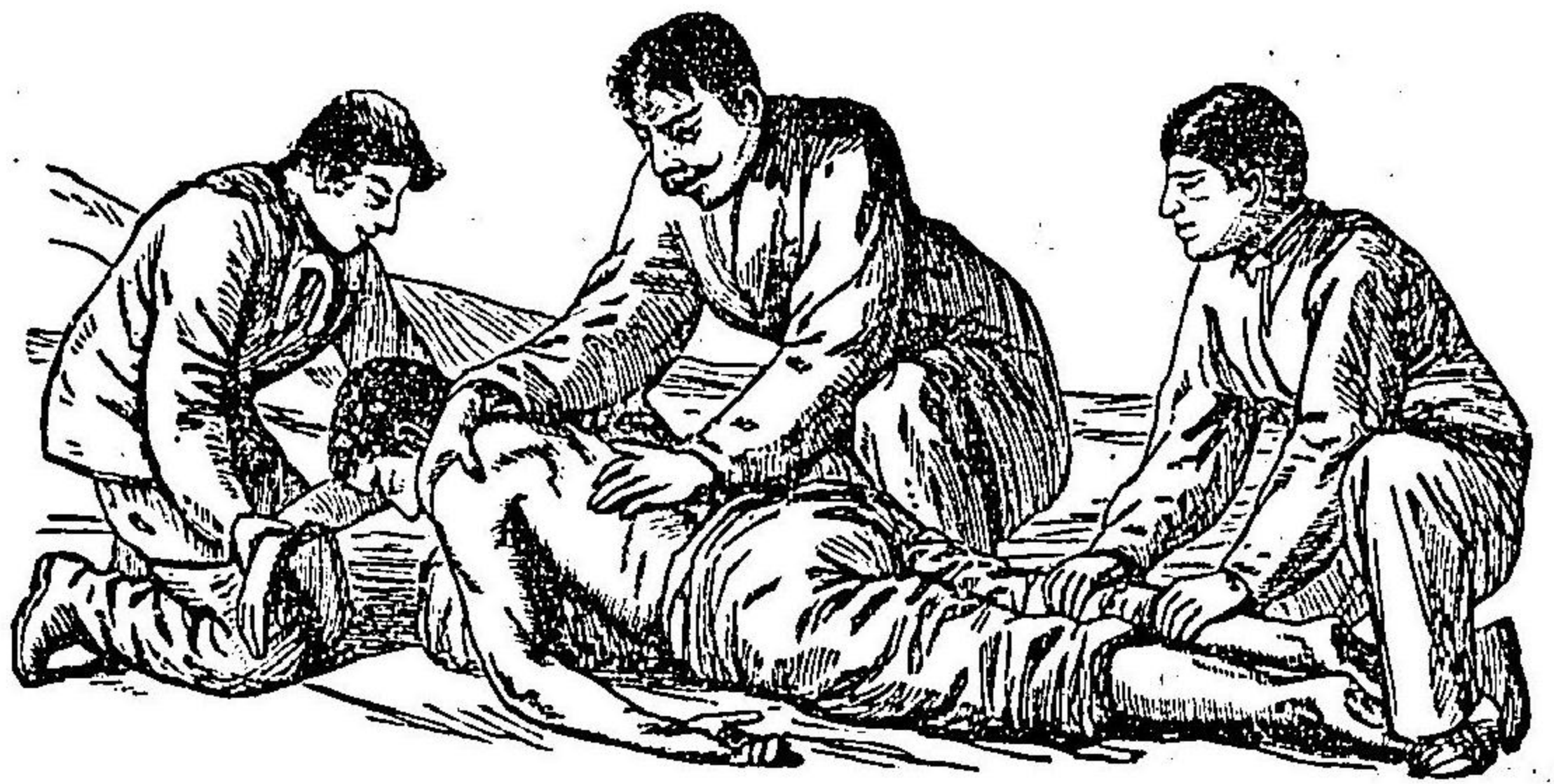
圖四十六第



(法氏ルーホルーヤシルマ)

(一)

圖五十六第



(二)

(五) シユルレル氏ノ法 其他小兒若シクハ麻瘦シタル人ニアリテハ助骨ノ下縁ヲ皮膚上ヨリ握リテ一縮一弛セシムルノ方法ナリ

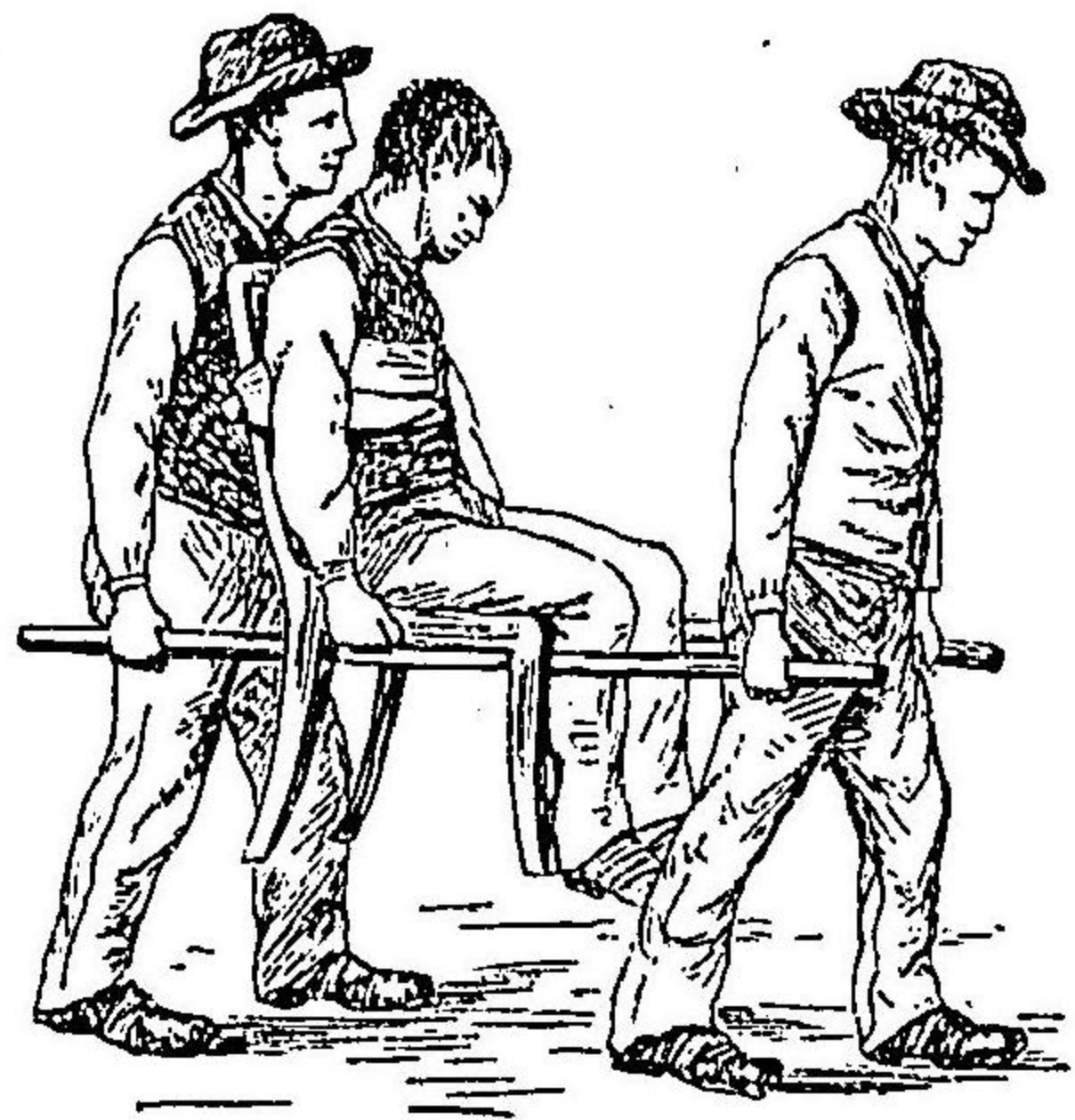
運搬法

傷病者ヲシテ一定ノ治療所例ハ醫師又ハ病院野戰隊ニアリテハ繃帶所野戰病院ニ運搬スルニハ通例ハ擔架或ハ運搬車ヲ用ユ然レトモ山間僻地或ハ森林原野等ニ於テ不時ノ災害ニ遇フトキハ此等ノ成規ノ運搬具アルコトナシ宜シク機ニ臨ミ症ニ應シ相當ノ運搬具ヲ製シ運搬ノ方法ヲ講セサルヘカラス而シテ此ノ法ノ適否ハ傷病者ノ預後ニ大ナル關係ヲ及ホスモノナリ  
擔架ハ通例帆布ヲ以テ作り其兩側ニ竹桿ヲ貫通シタルモノナリ然レトモ急速ノ場合ニ於テハ急速擔架ヲ用ヒサルヘカラス則チ戸板梯子モツコ俵筵寢蓐椅子上衣外套等ヲ以テ作り其上ニ布團若シクハ藁ヲ敷キ運搬スヘシ又遠カラサル所ニ運フニハ手ヲ組ミ或ハ俗ニ所謂肩車ヲナサシメ運搬スルコトアリ之レヲ徒手運搬法ト云フ

擔架ヲ以テ運搬スルノ注意

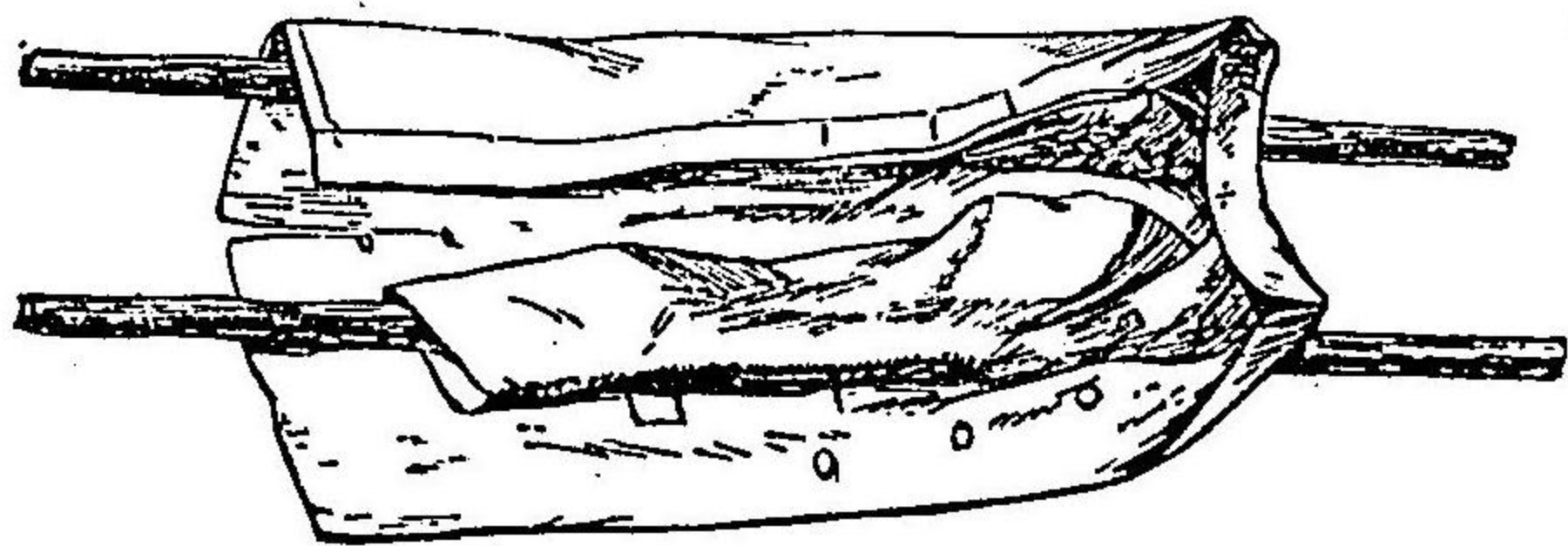
- (一) 擔架ハ運搬者ノ兩手又ハ肩胛ニ紐ヲ掛ケテ運搬スヘキモノナリ決シテ肩胛上ニ擔フヘカラス之レ顛落スルカ又ハ不注意ノ爲メニ死亡スルコトアレハナリ
- (二) 運搬者ハ同一ノ歩足ヲ取ラス必ス不同ノ歩行ヲナシ臀部ノ運動ヲ減少スヘシ其行進スヘキ速度ハ二十秒時ニ半メートルナルヲ要ス決シテ飛走跳躍スヘカラス
- (三) 諸種ノ衝突輕忽ノ運動生垣堤防堀溝等ヲ飛越ユル等ノコトハ深ク戒ムヘシ
- (四) 運搬者ノ體尺可及的同一ナルモノヲ選フヘシト雖モ若シ得能ハサルトキハ肩胛ニ掛ケタル紐ヲ以テ適度ナラシムヘシ
- (五) 高處ニ登ル際ハ頭部ヲ前行セシメ低處ニ至ルトキハ足部ヲ前進セシムヘシ下肢骨折者ハ之レニ反ス
- (六) 總テ負傷者ハ擔架上ニ安靜ニ運搬セラレヘキモノナリ

圖六十六第



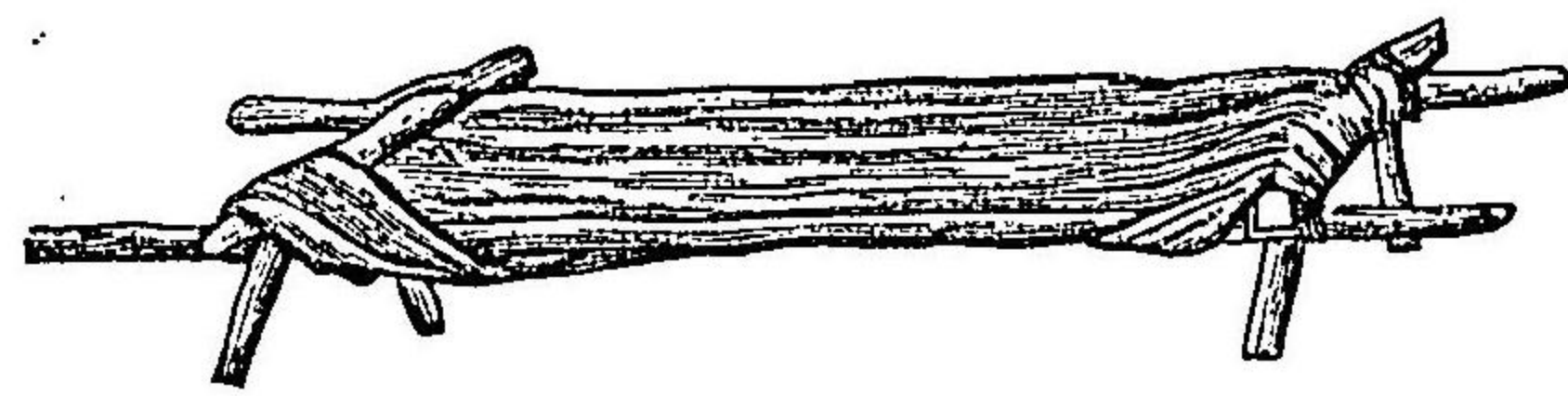
(圖ルス搬運テ以ヲ子椅)

圖七十六第



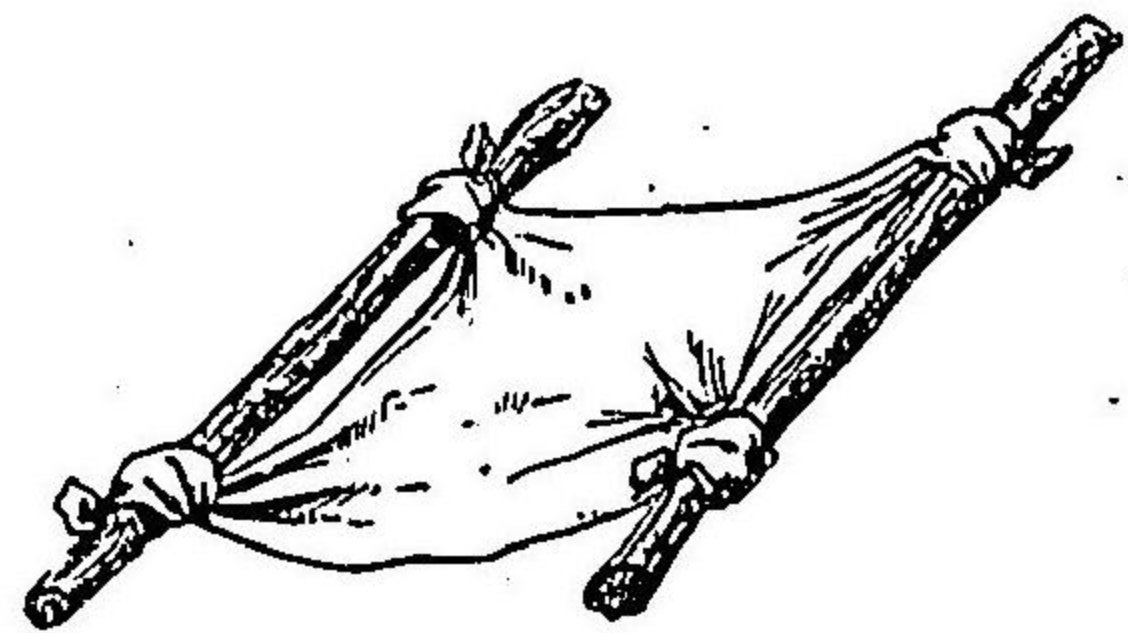
(圖ルス製作ヲ架擔テ以ヲ套外)

圖十七第



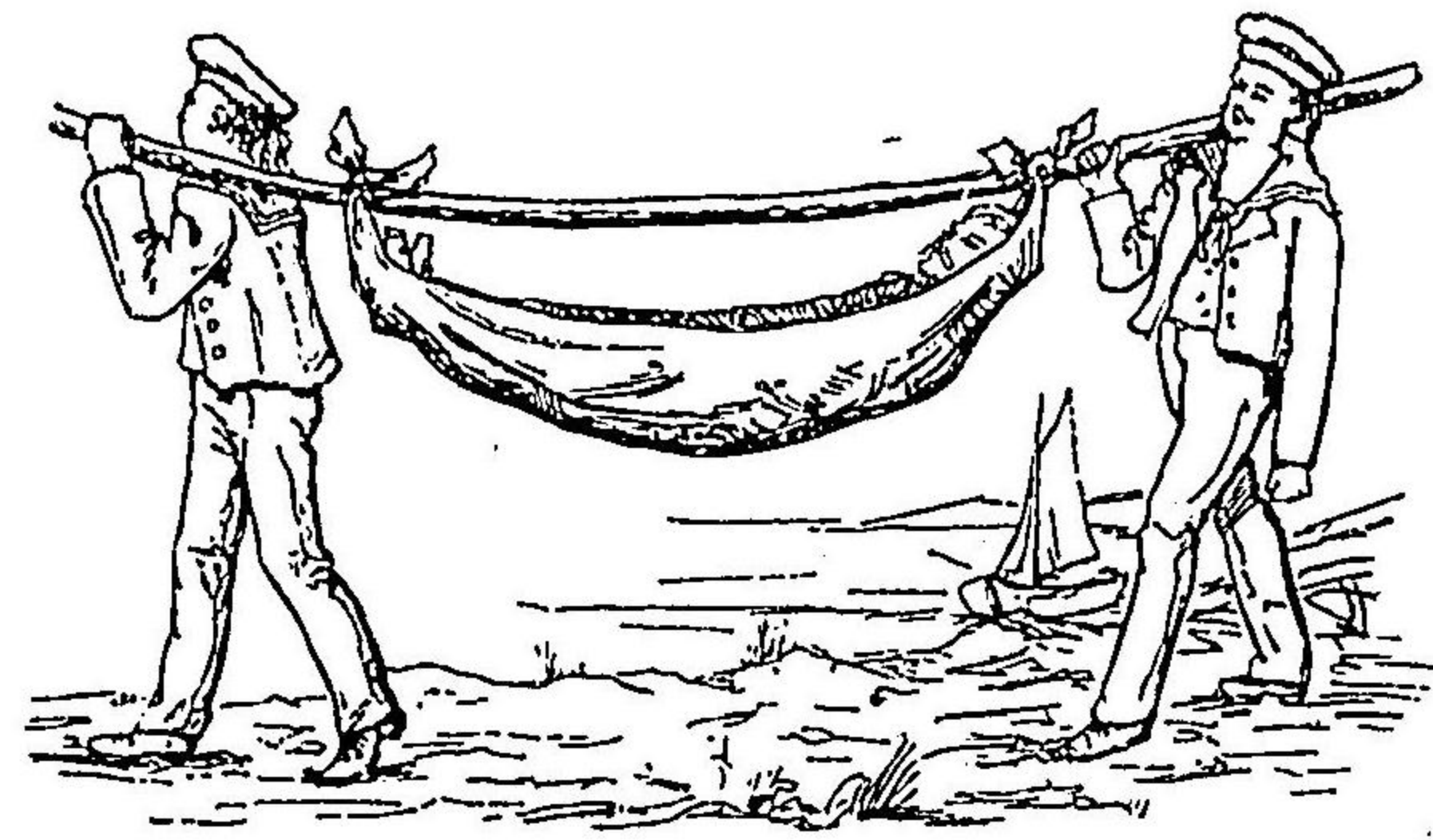
(圖ルス製作ヲ架擔テ以ヲ枝樹)

圖一十七第



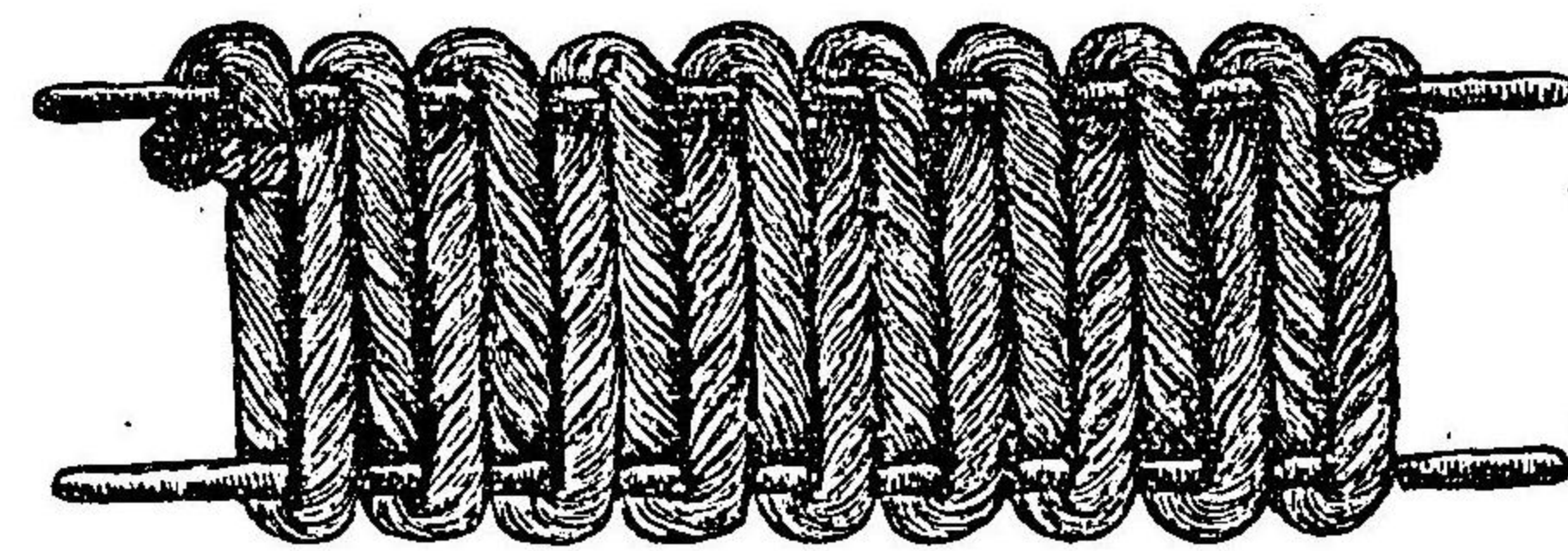
(圖ルス製作ヲ架擔テ以ヲ布)

圖八十六第



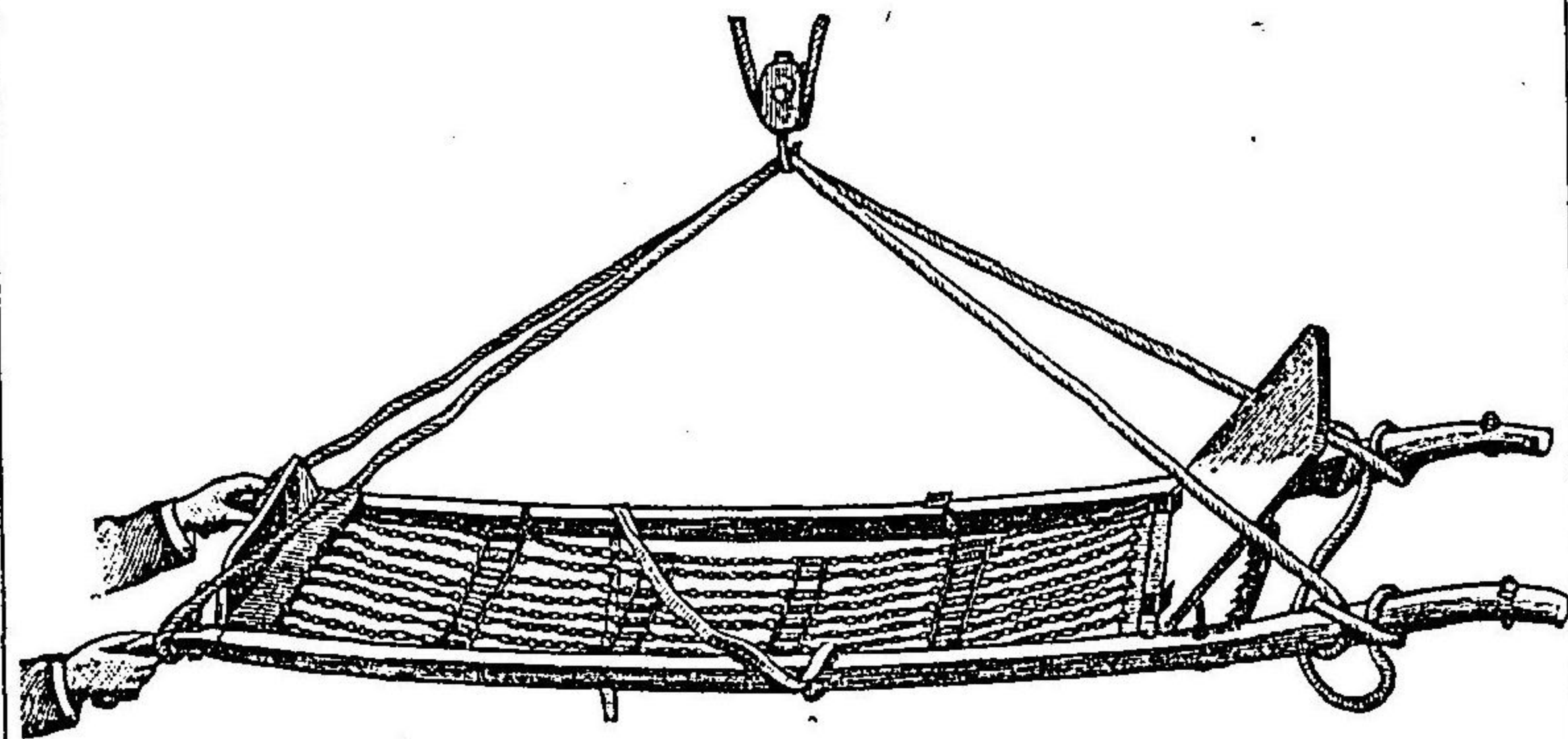
(圖ルス搬運テ以ヲ床釣)

圖九十六第



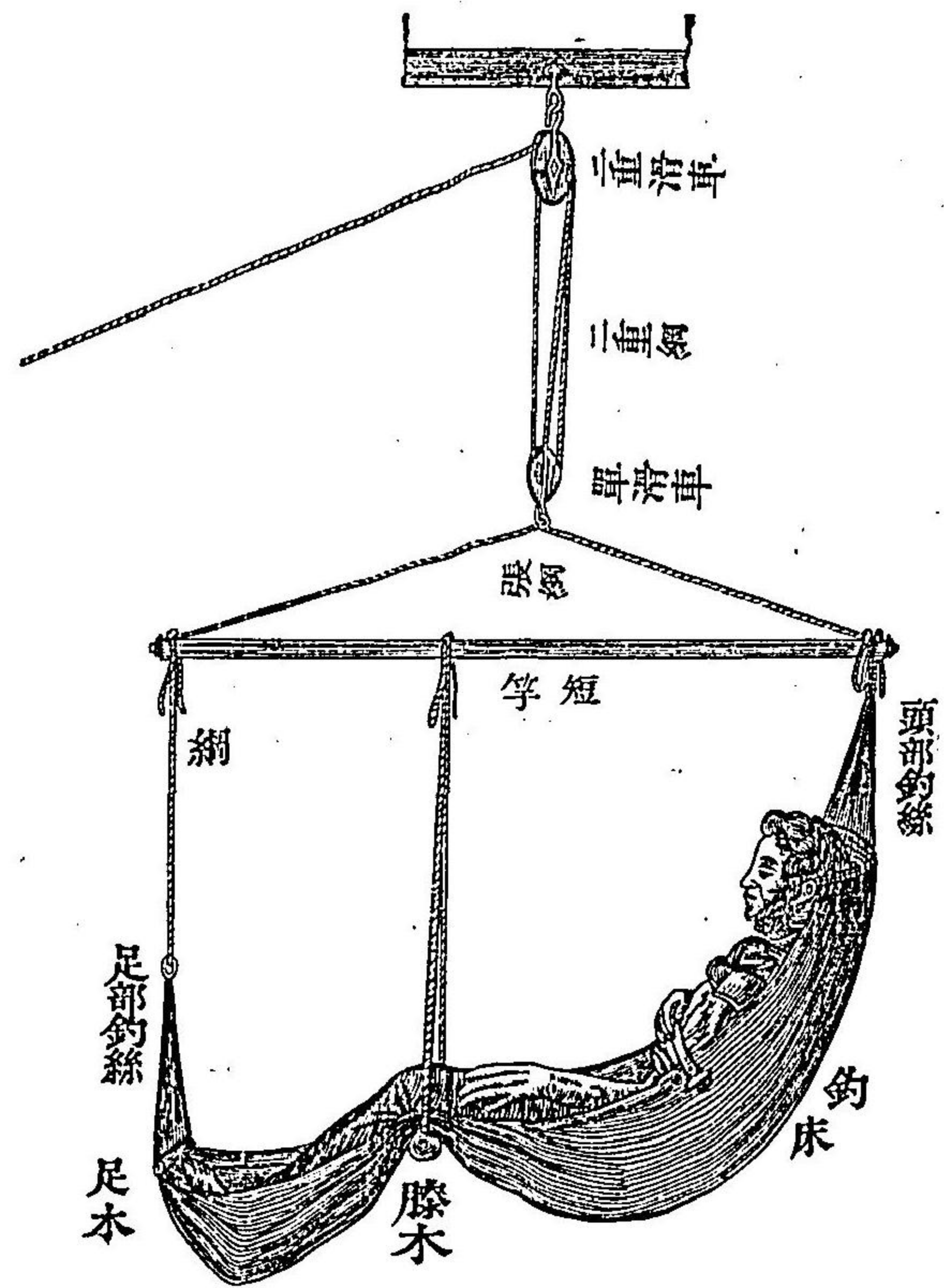
(圖ルス製作ヲ架擔テ以ヲ繩藻)

圖三十七第



(器搬運氏グンロトスムーア)

圖二十七第



(器搬運ノ氏ドルナドクマ)



一人ニテ運搬スル法

(一) 傷者ハ兩手ヲ以テ運搬者ノ頸ニ纏ハシメ運搬者ハ之レヲ抱キテ運

フヘシ

圖四十七第

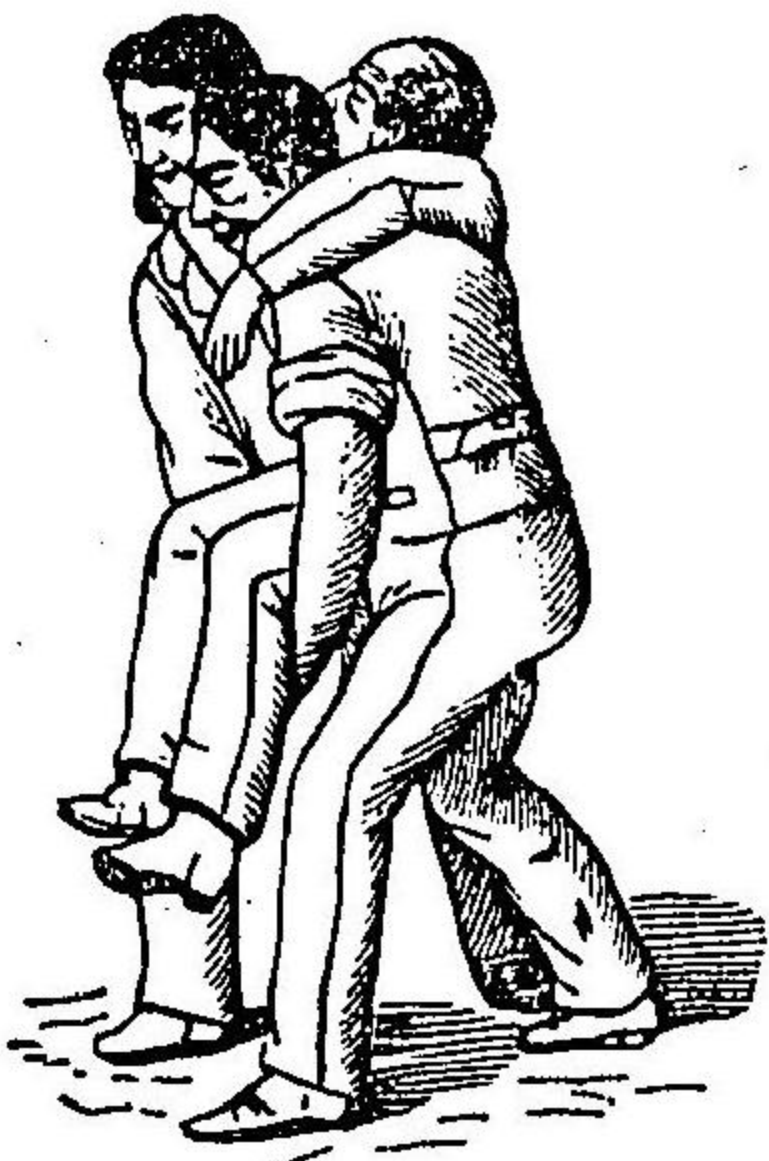


(二) 傷者少シク歩行シ得ルモノナル

トキハ一手ヲ運搬者ノ頸ニ掛ケシメ運搬者ハ其手ヲ把リ他手ヲ以テ傷者ノ背後ヨリ臀部ヲ支フルヲ良トス(第七十四圖)ノ如シ

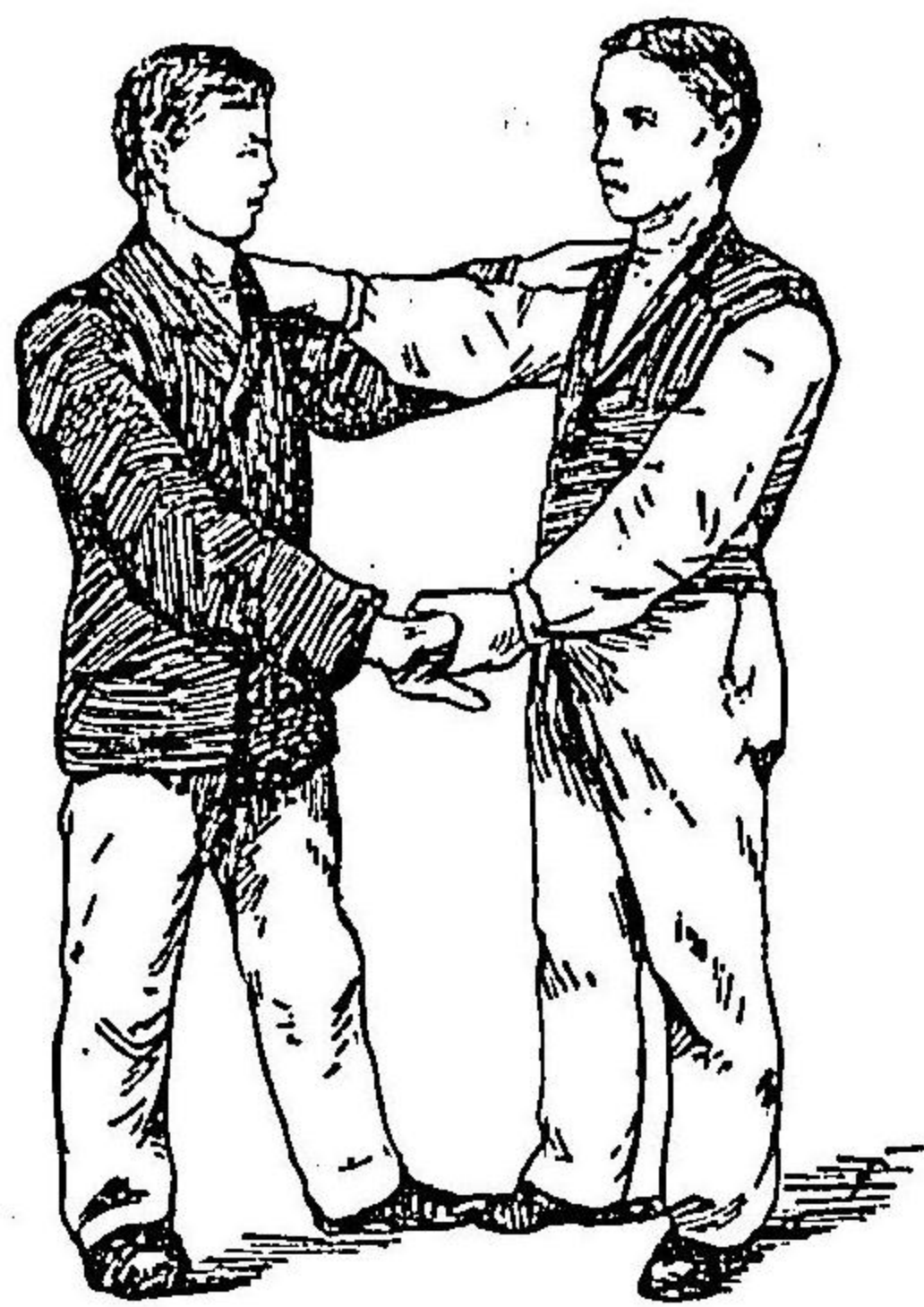
二人ニテ運搬スル法

圖五十七第



(一) 二人ニテ運搬スルトキハ傷者ノ兩側ニアリテ各一手ヲ伸シテ傷者ノ上腿下部ニ送リテ支持シ一手ハ傷者ノ腰部ヲ經テ他側ニ至リ傷者ヲシテ手ヲ以テ各運搬者

圖六十七第



ノ頸部ニ纏ハシメ運搬スヘシ(第七十五圖)ノ如シ

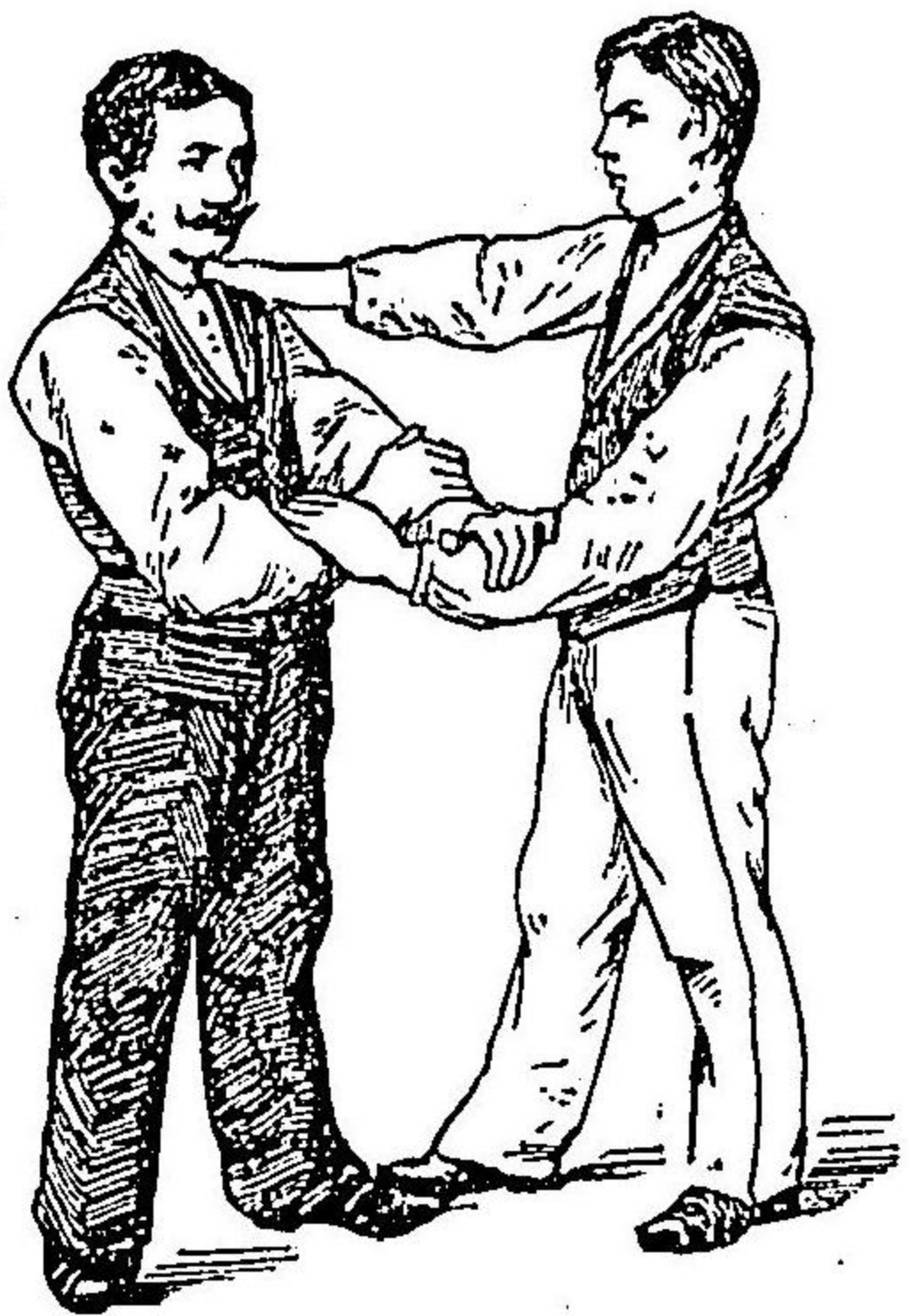
(二) 兩人相對シテ甲ノ右手

ハ乙ノ左手ト互ニ合掌シ他ノ手ハ相互ニ甲乙ノ肩胛上ニ置キテ負傷者ヲ其上ニ仰臥セシメテ運搬スルモノナリ(第七十六圖)ノ如シ

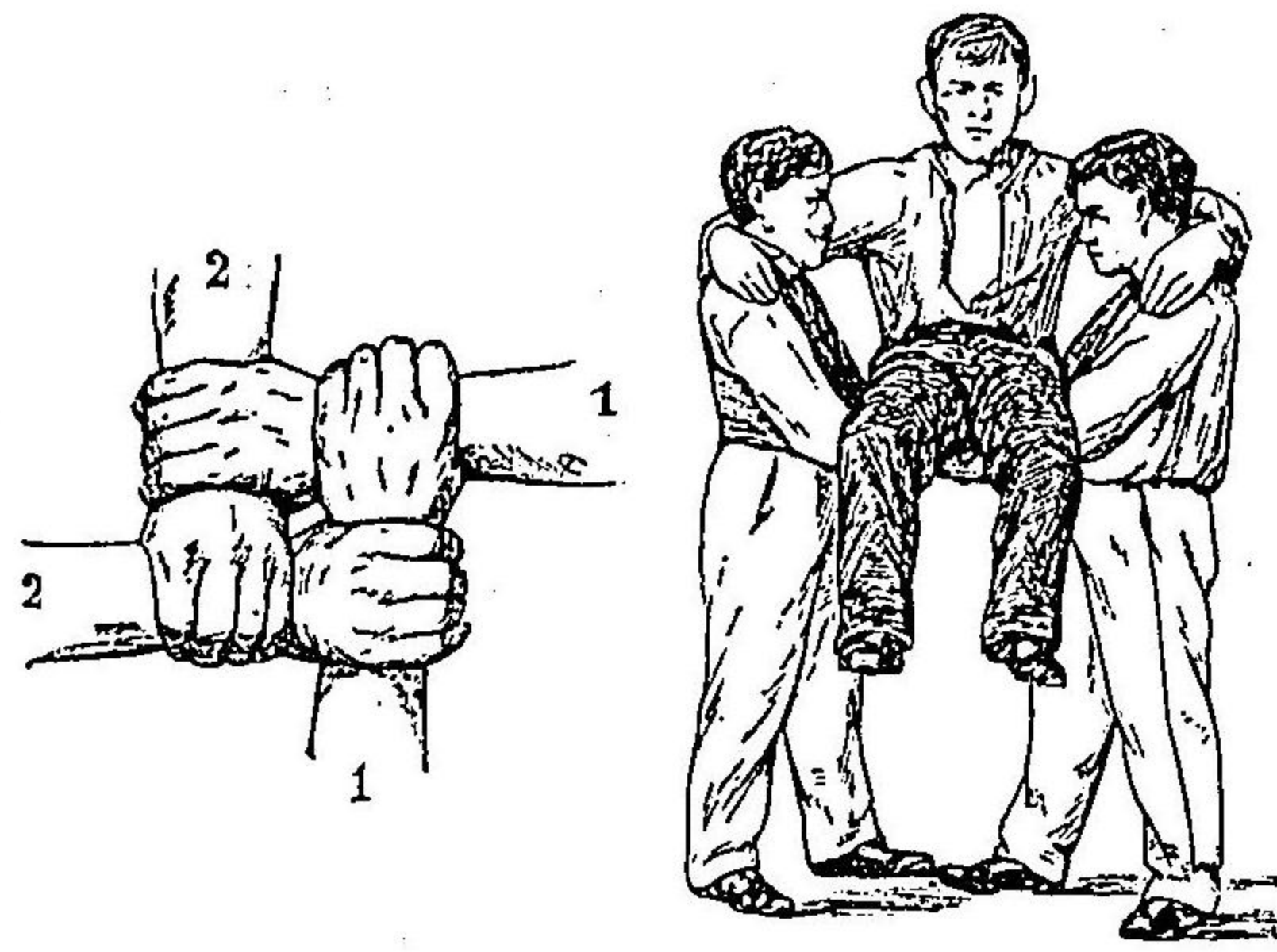
(三) 甲者ハ自己ノ右手ヲ以

テ左前膊ノ中央部(稍々下部以下皆ナ同シ)ヲ把リ又左手ヲ以テ乙者ノ

圖七十七第



圖八十七第



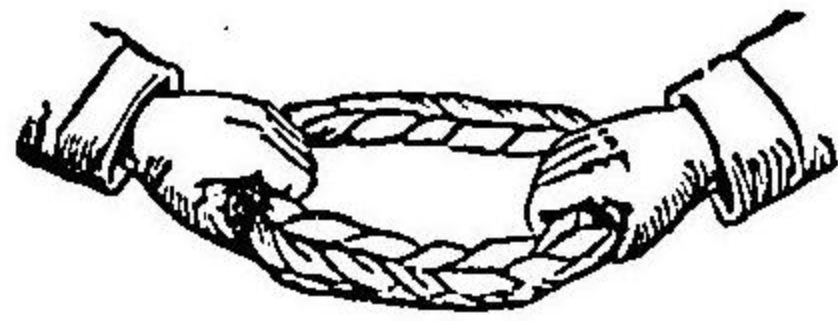
左前膊部ヲ把リ而シテ乙者ハ其左手ヲ以テ甲者ノ右前膊部ヲ把リ  
 他ノ右手ハ甲者ノ肩胛上ニ置キテ運搬スルモノナリ之レヲ三手乘  
 座法式ト云フ(第七十七圖ノ如シ)

- (四) 兩人對立シテ甲者及ヒ乙者ハ各自己ノ右手ヲ以テ左手腕關節上部ヲ把リ而シテ相互ニ把握シ(第七十八圖ノ如ク)井字形ヲ造リテ傷者ノ後方ニ屈居シテ之レニ乗セ傷者ハ左右兩手ヲ甲乙ノ頸部ニ掛ケシメテ運搬スルモノナリ此ノ法ハ失神者ニハ不適當ナリ
- (五) 一人ハ傷者ノ後側ニアリテ兩腋下ヨリ兩手ヲ胸部ニ至ラシ

圖九十七第



圖十八第



車ニヨリテ運搬スルニハ可及的動搖ヲ避ケシムヘシ  
 運搬車ハ最モ之ニ注意シテ製造セシモノナリ  
 荷車ハ彈飛ノ強キモノナルヲ以テ可及的耐用ヒサル  
 ヲ可トス若シ止ムヲ得サルトキハ厚ク藁ヲ敷クカ

メテ把握シ一人ハ股間ニ入  
 リテ兩手ヲ以テ膝關節ヲ支  
 持シ運搬スヘシ之レ失神者  
 ニ用ユル所ノモノナリ(第七  
 十九圖ノ如シ)  
 又藁若シクハ麻ノ如キモノ  
 ヲ以テ運搬輪ヲ造リ之ニ座  
 セシメテ運搬スルコトアリ  
 (第八十圖ノ如シ)

圖一十八第



或ハ劇動ヲ及ホサ、ル特別ノ装置ヲ要ス  
 一輛ノ車ヲモ得難キトキハ二條ノ長竿或ハ嫩弱ナル樹幹ヲ以テ穩ヲ造リ牛馬ヲシテ之ヲ牽カシメテ運搬スヘシ(第八十一圖ノ如シ)  
 汽車ニアリテハ擔架ノ儘長徑ニ沿テ兩腰掛上ニ安置スルカカハ腰掛間ニ板ヲ架シ厚ク藁等ヲ敷クヘシ  
 雪中又ハ氷上ニ於テハ撮

ヲ用ヒ水利アルトキハ小艇又ハ底ノ平カナル川船ヲ用ヒテ運搬ス

繃帶術

繃帶ノ効タルヤ(一)疾病又ハ損傷部ヲ保護シテ外來ノ刺戟ヲ避ク例之ハ摩擦塵埃及微菌等ノ侵入ヲ防クカ如シ(二)一定ノ位置ニ固定ス例ハ脱臼又ハ骨折アルトキハ其部位並ニ狀態ニヨリ特殊ノ位置ニ固定スルカ如シ(三)創縁ヲ接合シ且出血ヲ制止ス例ハ切創アルトキハ可及的創縁ヲ密接セシメ且ツ小出血ハ繃帶ノ壓迫ニヨリテ止血スルカ如シ(四)外用藥ヲ身體ノ表面ニ作用セシム例ハ石炭酸水ノ濕布繃帶ヲ施行スル時ノ如シ  
 繃帶材料ノ主要ナルモノハ綿紗綿花綿布麻布「フラネル」等ナリ其他油紙副木等之ニ屬ス  
 綿紗ハ綿絲ヲ以テ織リ成セル輕粗ナル布ニシテ其質柔軟且水分ヲ吸收スルノ性著大ナルヲ以テ創所ヲ被ヒテ之ヲ保護シ創液ヲ吸收シ創傷ヲシテ良經過ヲ取ラシム又外用藥ヲ吸收セシメ罌法ヲ施スニ適ス

蓋シ哆開創ヲ被フニハ必ス消毒藥ヲ含マシメタル綿紗ヲ用フヘキモ  
 ノトス其ノ他綿紗ヲ以テ卷軸帶ヲ作ルヲ得脱脂綿紗ヲ用ユルヲ良ト  
 ス)  
 通常綿花ハ只ク損傷部ヲ保護スルニ用ユ其脂肪ヲ脱シタルモノ即チ  
 脱脂綿ハ其質軟ニ能ク水分ヲ吸收スルヲ以テ綿紗ニ代用シ得ヘキモ  
 ノナリ  
 綿布ハ普通ノ晒木綿ニシテ縦ニ裂キテ卷軸帶トナシ或ハ種々ノ形ニ  
 縫成シ損傷部ニ貼シタル綿紗綿花等ヲ固定シ又ハ其部ヲ纏絡シテ適  
 當ノ壓迫並ニ適宜ノ位置ニ固定スルノ用ニ供ス麻布「フラネル」モ略之  
 ニ同シ

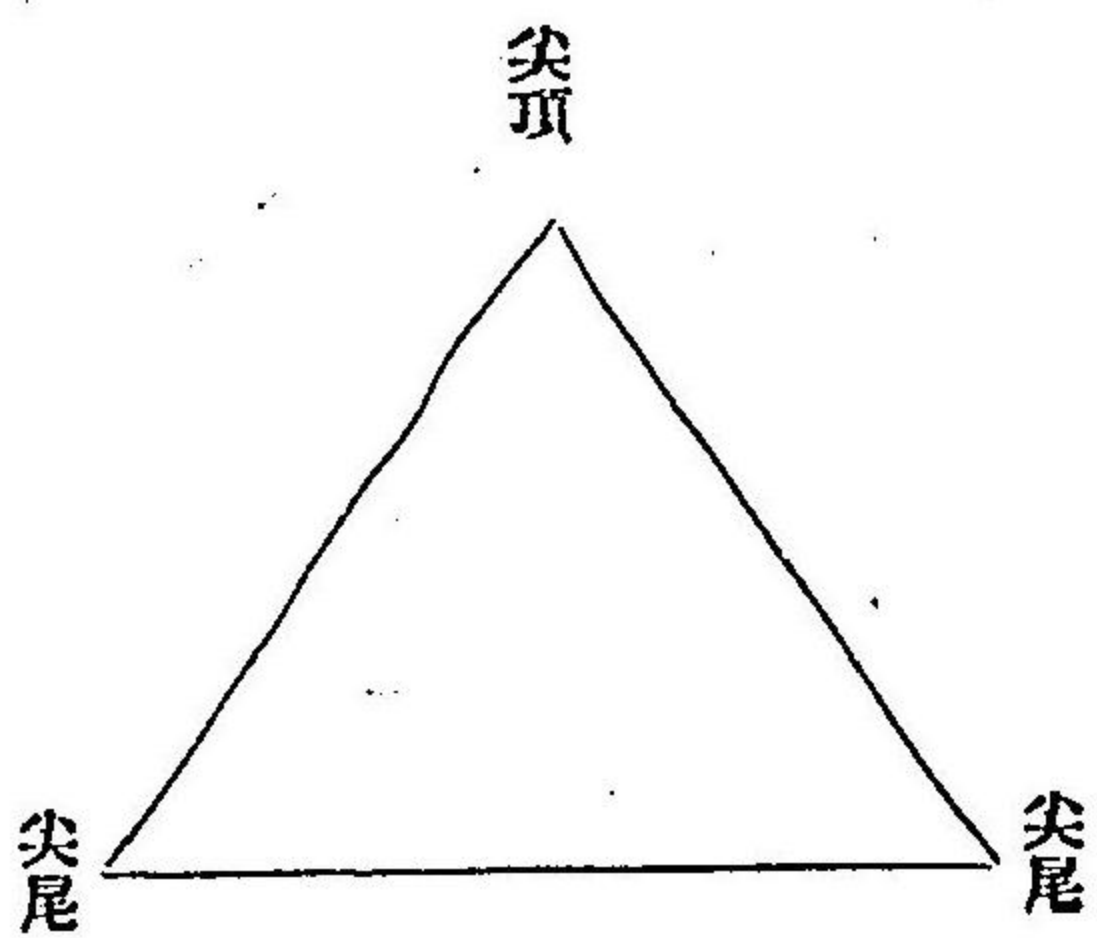
三角巾ノ用法

三角巾トハ三角形ノ綿布ニシテ(正方形ノ綿布ヲ對角線ニヨリ二分ス  
 ルトキハ二枚ノ三角巾ヲ得ヘシ)全身體中何レノ部ヲ問ハス之ヲ以テ  
 被包スルコトヲ得ヘク救急處置ヲ施スニ當リ欠クヘカラサルモノト

圖三十八第



圖二十八第



ス卷軸帶ノ如キハ更ニ完全ナルモノナリト雖トモ三角巾ヲ用ユルニ  
 比スレハ時ヲ要スルコト多ク以テ應急ノ場合ニ適セス故ニ先ツ茲ニ  
 ハ三角巾ノ使用法ヲ記セントス

三角巾ニ尖頂、尖尾、邊緣、基底ヲ區別ス之ヲ  
 用ユルニハ或ハ頸巾狀ニ疊ミ或ハ其儘擴  
 ケタルモノヲ用ユ頸巾狀トナスニハ初メ  
 尖頂ヲ基底ノ中央ニ折リ返シ更ニ此ノ如  
 ク反折スヘシ

一、頭部ノ創傷ヲ被フニハ三角巾ノ中央ヲ  
 頭蓋上ニ置キ基底ハ前額ニ當テ尖頂ハ  
 頂部ニ垂レシム而シテ基底ヲ取り耳上  
 ヲ經テ頂部ニ送り茲ニ互ニ交叉シテ再  
 ヒ前額ニ歸リ兩尖尾ヲ固結シ頂部ニ垂  
 レタル尖頂ハ上方ニ反折シ頭上ニテ安

全針ニテ固定シ或ハ前額ニ結ヒタル尖尾ノ一端ト固結スルモ可ナリ(第八十三圖ノ如シ)

二額眼額頂其他手足ノ創傷ニハ三角巾ヲ頸巾狀ニ疊ミ纏絡シテ固結

スヘシ其他副木ヲ貼用

スルニモ此ノ如キ形ト

ナシテ用ユルモノナリ

三、手足ノ離斷部ニハ小三

角巾ヲ用ユ即チ之ヲ展

開シ創處ニ其ノ中央ヲ

當テ尖頂ヲ折リ返シテ

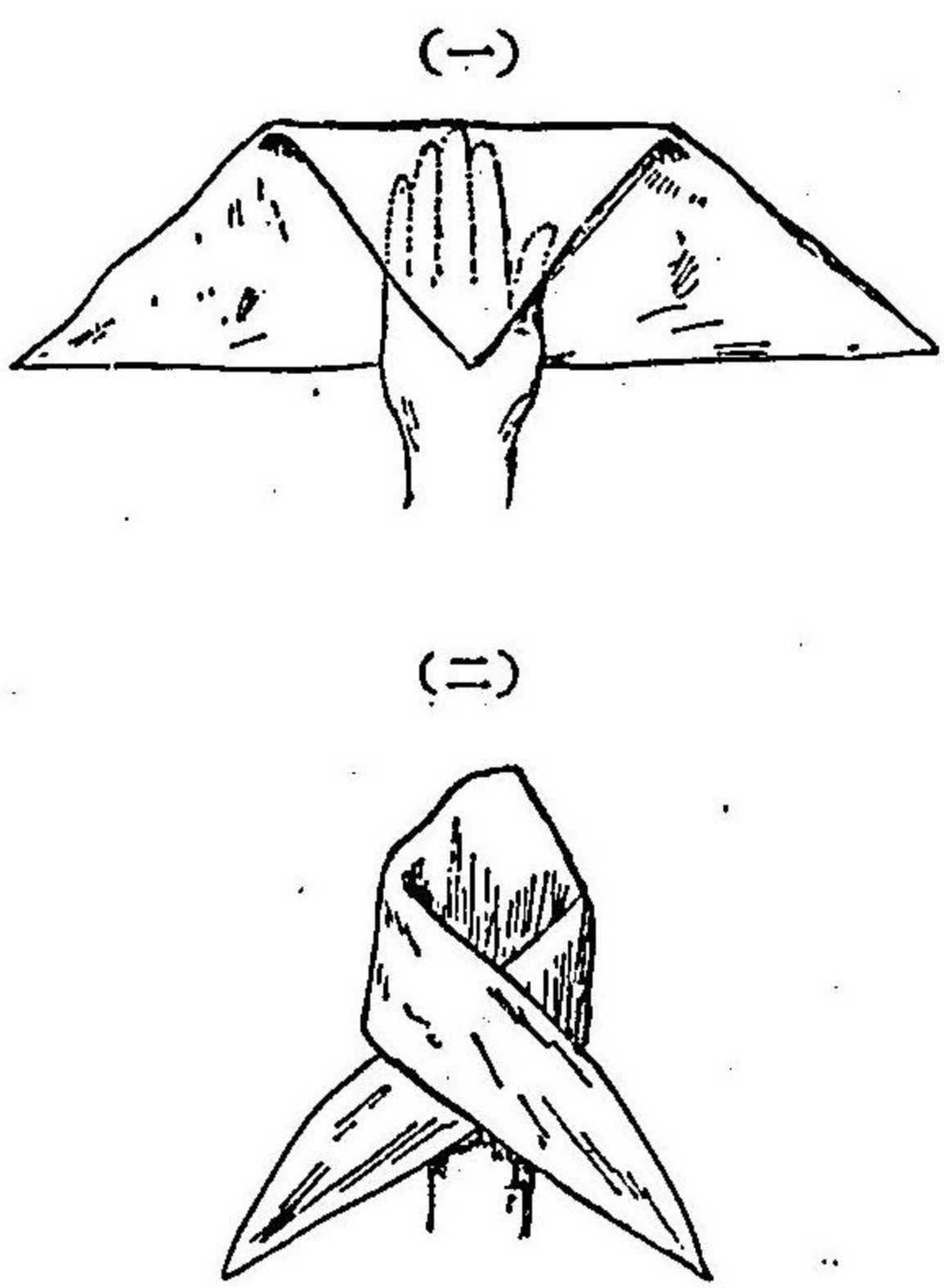
之ヲ被ヒ尖尾ハ互ニ交

又シテ之ヲ固結シ以テ

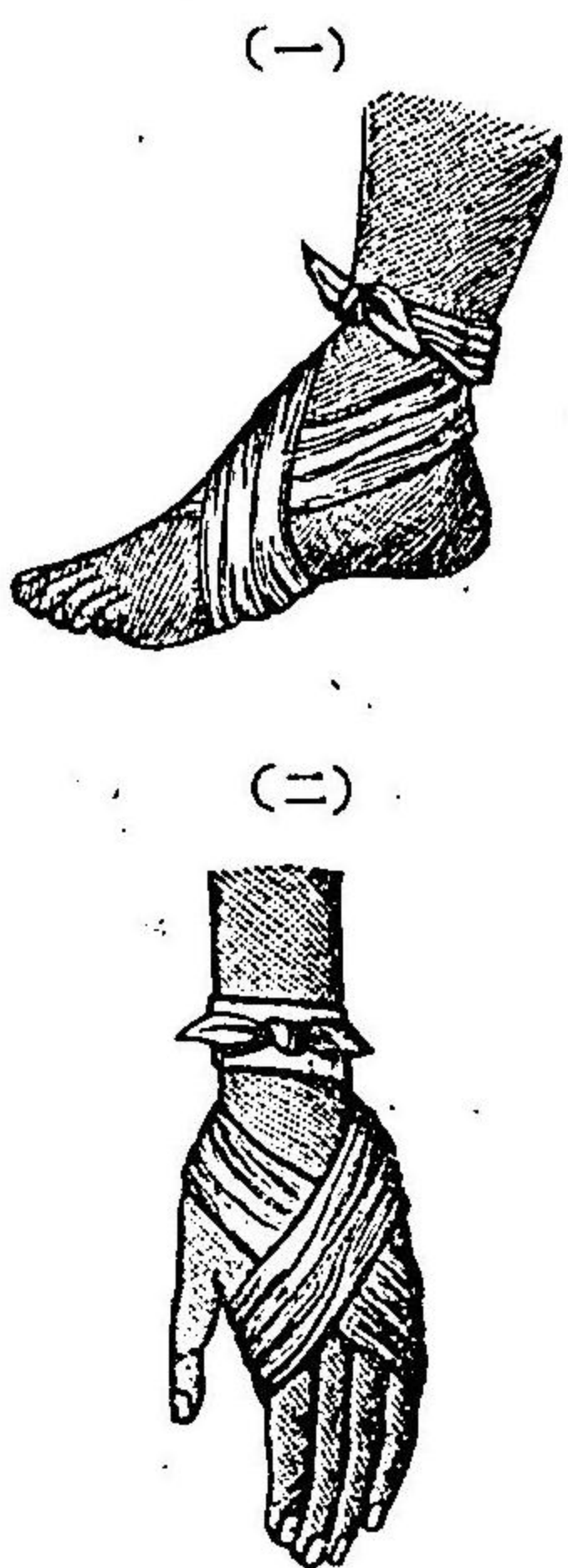
適宜纏包スヘシ(第八十四圖ノ如シ)其他手腕部及ヒ足部ニ應用スル

コト(第八十五圖ノ如シ)

圖四十八第



圖五十八第



四、胸部ノ創傷ニハ

大三角巾ノ中央

ヲ創面ニ當テ尖

頂ハ患側ノ肩ニ

掛ケ尖尾ハ背後

ニ送リテ結ヒ更

ニ其一端ヲ尖頂ト締結スヘシ(第八十六

圖ノ如シ)

五、背部ノ創傷ニアリテハ前項ニ同シ只三

角巾ヲ胸部ニ當ツルト背部ニ當ツルト

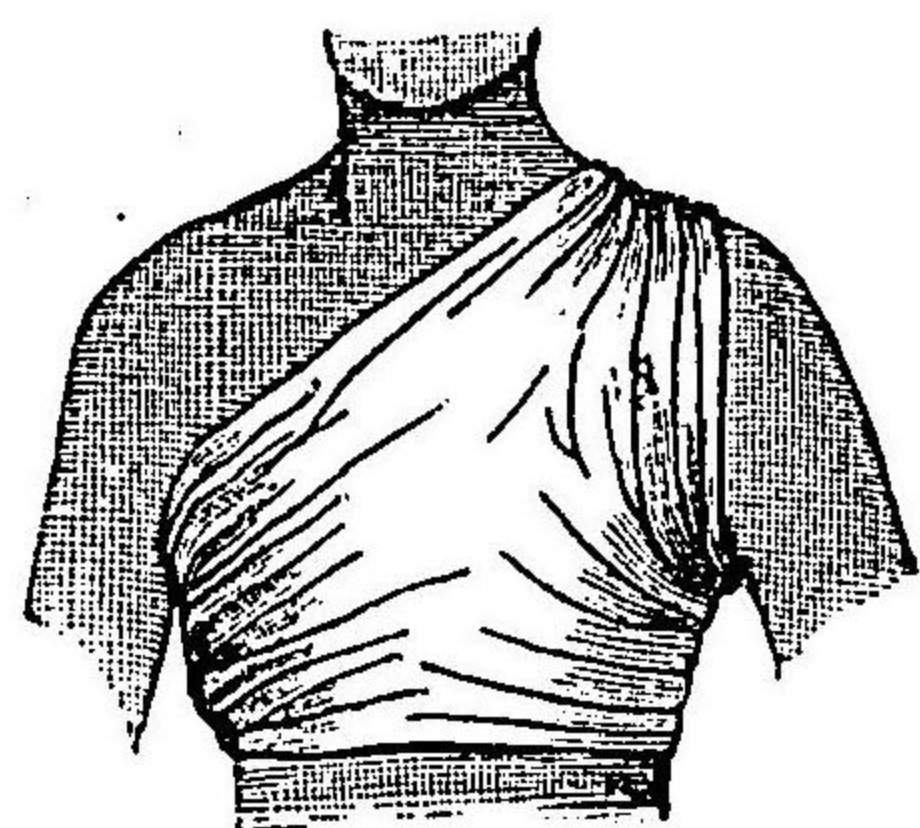
ノ別アルノミ

六、肩胛部ノ創傷ニハ二個ノ小三角巾ヲ要

ス即チ一ハ頸巾狀ニ疊ミ患側ノ前膊ニ

掛ケ兩尖尾ハ頂部ニ固結シ以テ患肢ヲ

圖六十八第



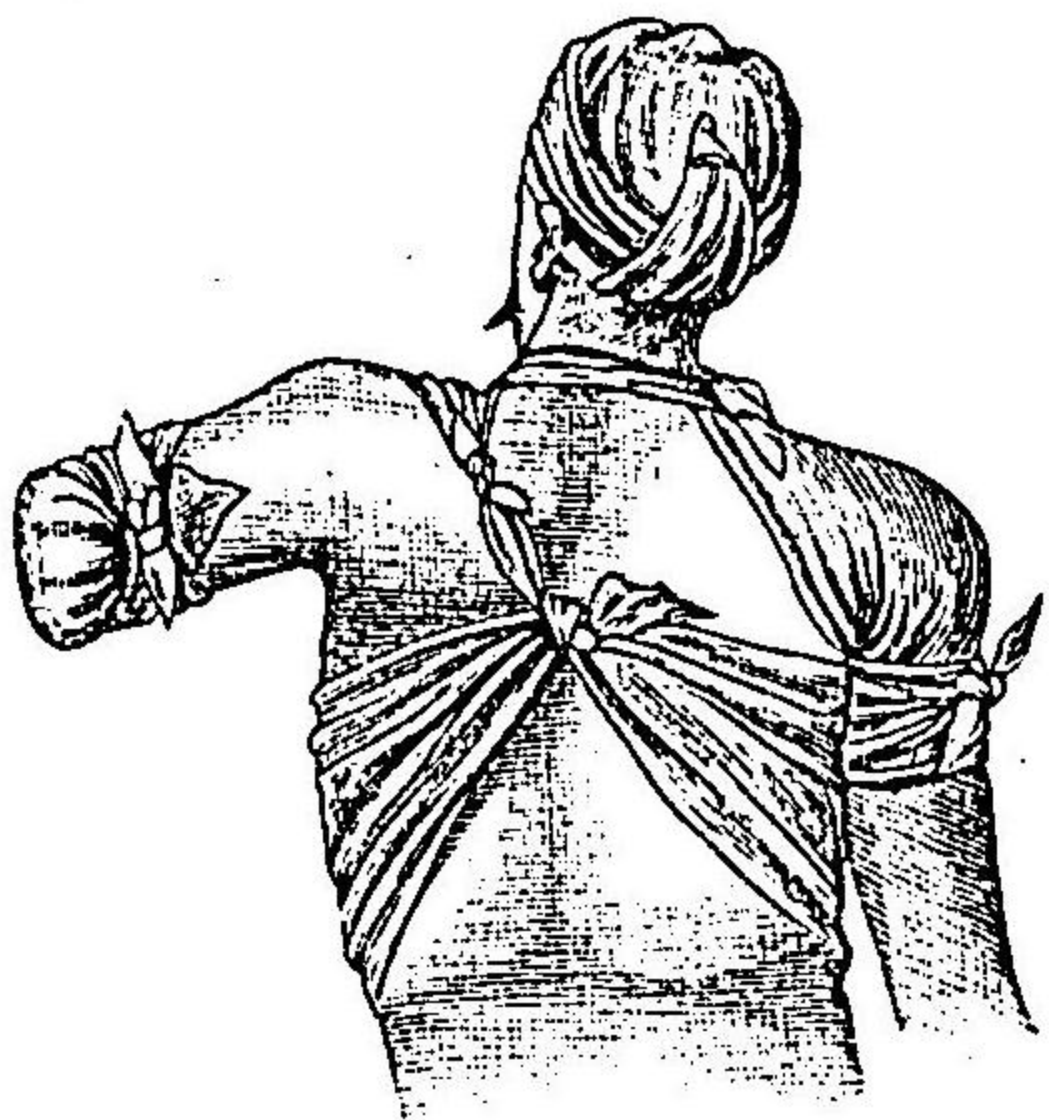
固定シ他ノ一ハ尖頂ヲ上ニシ基底ハ上膊ニ當テ尖尾ハ互ニ交錯シテ結締シ尖頂ハ前巾ノ下ヲ通シテ折り返シ安全針ニテ固定ス(第八十七圖ノ如シ)

圖七十八第



(圖ノルタシ川應ニ節關節手ヒ及肘他其肘肩)

(二)



(圖ノルタシ川應ニ巾角三ニ部肘肩及部胸部頭)

七、臀部ヲ被フニハ二個ノ大三角巾ヲ要ス即チ一ハ頸巾狀トナシテ腰圍ヲ纏絡シ他ノ一ハ尖頂ヲ上ニシ基底ハ股ニ當テ、纏絡シ尖頂ヲ固定スルコト肩胛部ニ於ケルカ如クス(第八十八圖ノ如シ)

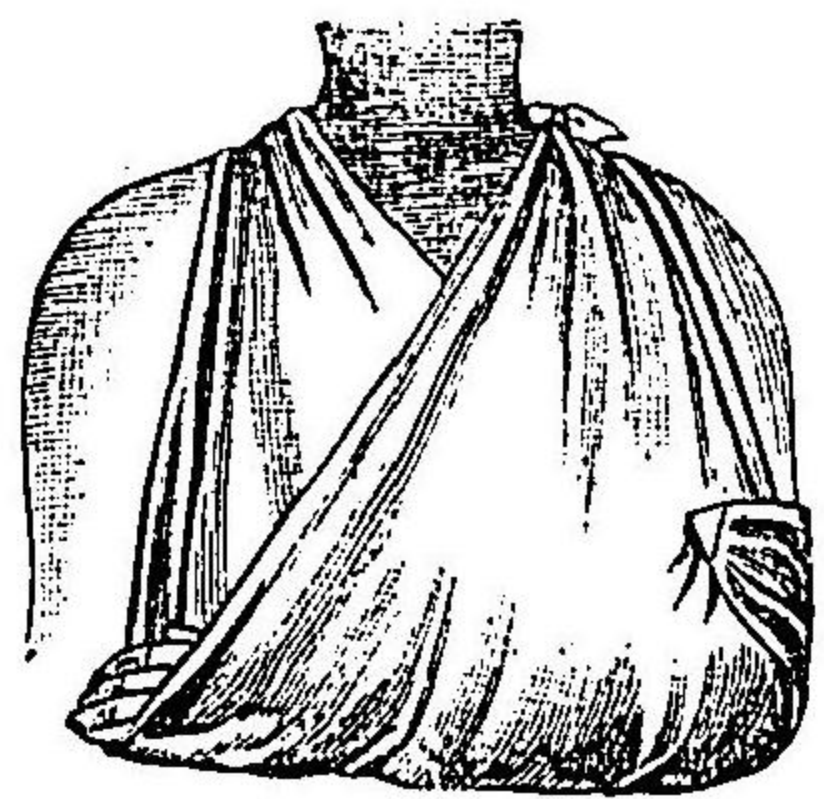
圖八十八第



八、擔布トシテ用ユルトキハ即チ損傷ヲ被リタル上肢ヲ適宜ノ位置ニ支持ス大三角巾ノ一尖尾ヲ健側ノ肩ニ掛ケ尖頂ハ病側ニ向ハシメテ胸前ニ垂レ肘ヲ屈シテ適宜ノ位置トナシ前膊ヲ三角巾ノ中央ニ當テ尖尾ヲ繙轉シテ之ヲ

圖九十八第

(一)



(二)

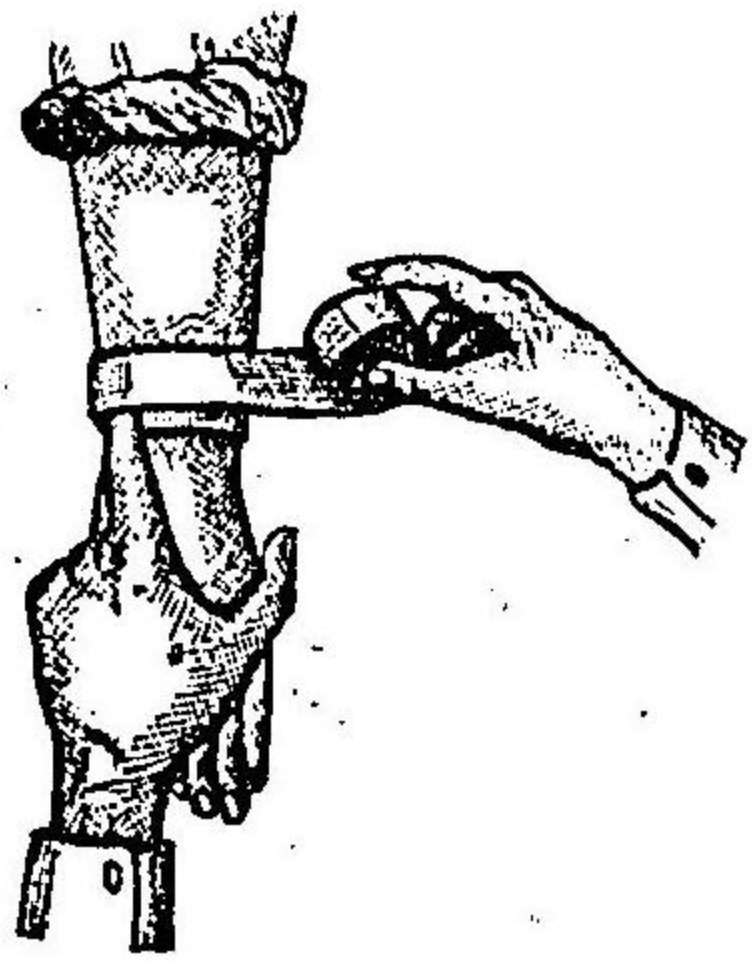


被ヒ患側ノ肩上一ニ送り頂部ニ於テ兩尖尾ヲ固結シ尖頂ハ肘ノ前面ニ折リ返シテ安全針ニテ固定スヘシ(第八十九圖ノ如シ)  
 總テ繃帶ヲ施スニ當リテハ其壓迫強キニ過キ或ハ弱キニ失スルコトナク全部平等ノ壓ヲ與フヘシ強キニ過クレハ鬱血疼痛等ヲ發シ弱キニ失スレハ脱落シテ創傷部ヲ暴露シ繃帶ノ用ヲナサハルモノナリ  
 蓋シ以上記載スル處唯其法式ノミ要ハ夫レ熟練ニアリ

卷軸帶ノ用法

一頭軸ヲ取リ其始端ノ外面ヲ纏絡セントスル部ニ當テ左手ニテ之ヲ押ヘ軸頭ノ兩端ヲ右手ノ拇指ト他ノ四指トノ間ニ挾ミテ固持シ(第九十圖ノ如ク)身體表面ニ沿ヒテ滑過セシメ一所ヲ數回廻轉纏絡シテ始端ヲ固定シ後特殊ノ法式ニ移ル其法終ルヤ其部ニ於テ二三回同一所ヲ纏絡シ末端

圖十九第

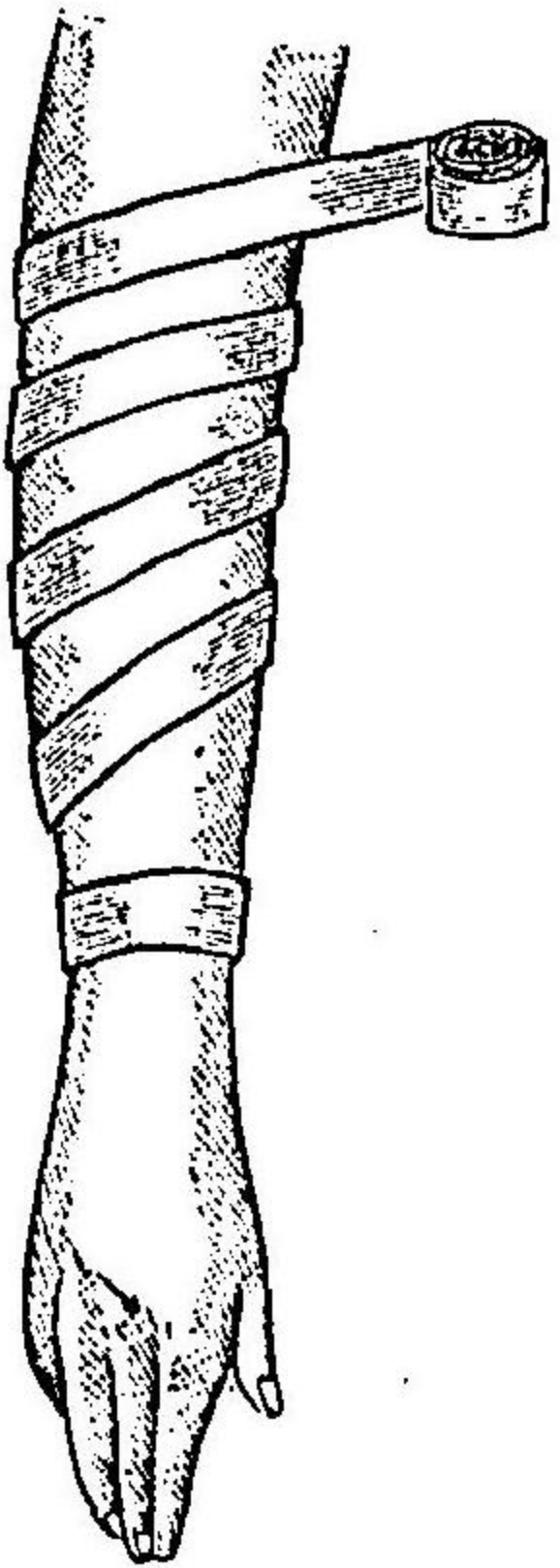


ヲ固定シ然ル後安全針或ハ帽子針ニテ固定スヘシ但シ指趾ニ於ケルカ若ハ針ナキトキハ末端ヲ縱ニ分裂シ其兩端ヲ反對ニ廻轉シ結締スルモノ可ナリ而シテ此繃帶ノ要訣亦三角巾ニ於ケルカ如シ  
 一環行帶 前項ノ如ク毎回前片ヲ被テ纏絡スルナリ  
 總テ繃帶術式ハ皆此法ニ依リテ始メ又此法ニ依リテ終結スルモノナリ

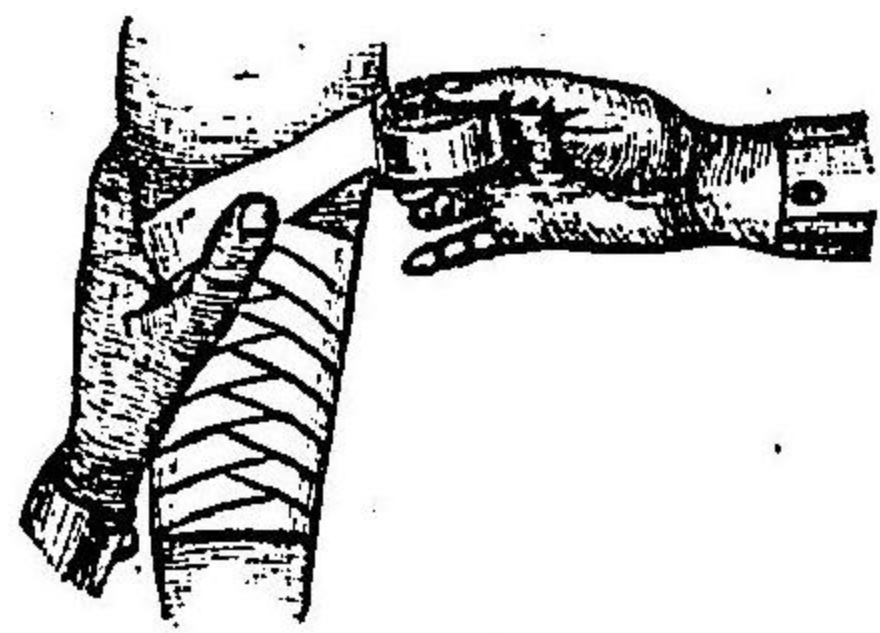
二螺旋帶 螺旋狀ニ順次

前片ノ半若シクハ三分ノ二ヲ重襲シテ上方ニ昇ルモノナリ又毎廻轉前片ヲ重襲スルコトナク其間ニ皮膚ノ一部ヲ現ハスモノアリ之ヲ走行螺旋帶ト云フ(第九十一圖ノ如シ)  
 三折轉帶 之レ四肢ノ如キ大小平等ナラサル部ニ施スモノニシテ若

圖一十九第



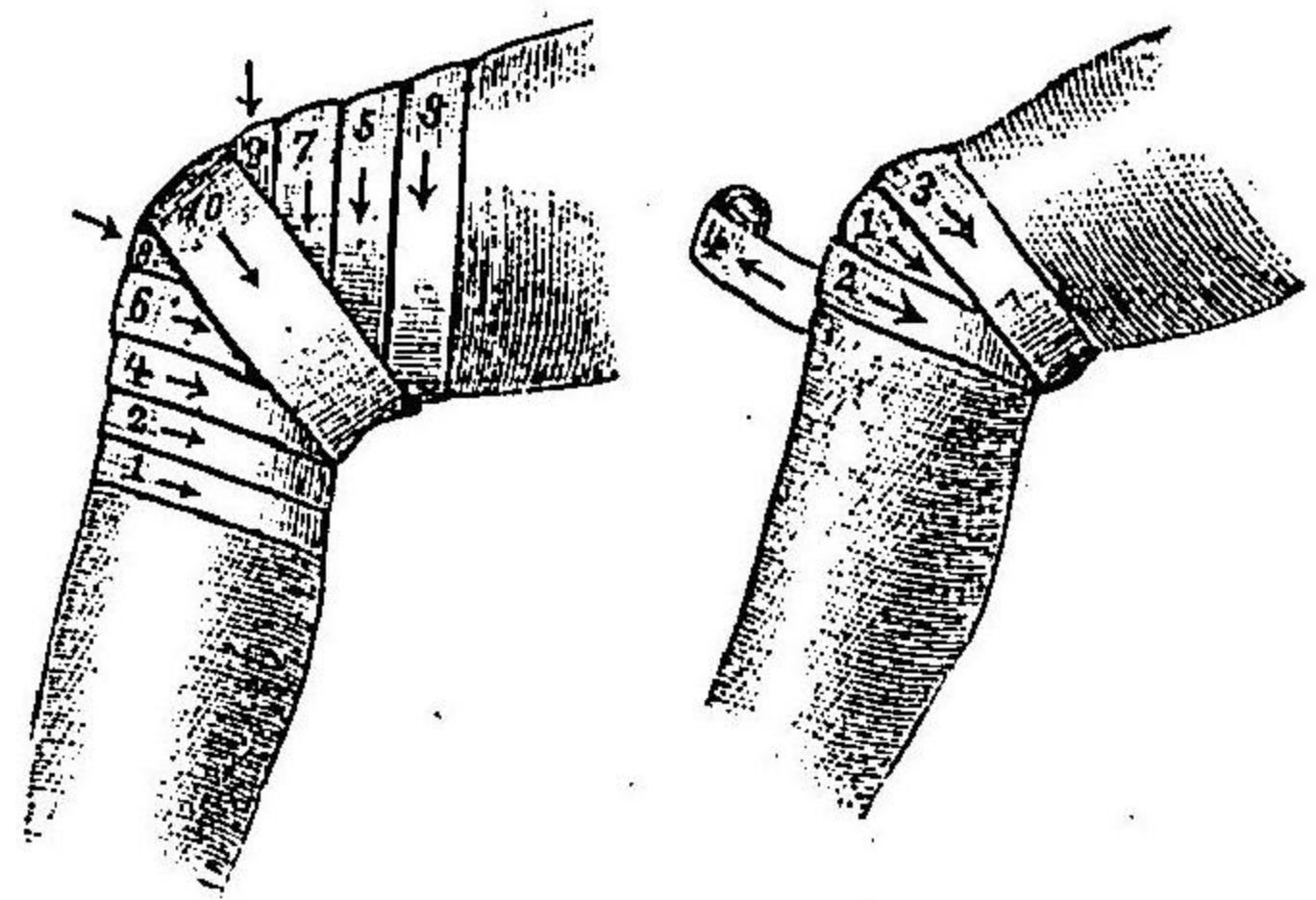
圖二十九第



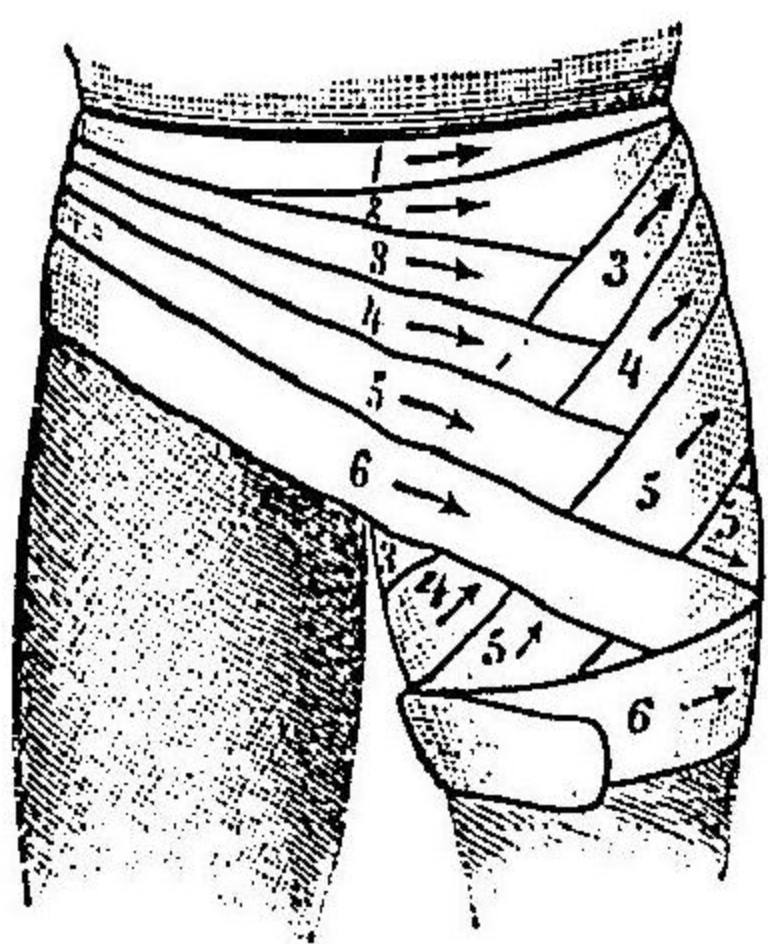
シ單一ノ螺旋帶ヲ施シタランニハ每廻轉一縁ハ緩ク一縁ハ堅ク壓迫シ綱帶ノ要ニ適ハサルヘシ故ニ每廻轉綱帶ノ方向ヲ轉シ上縁ヲ下縁トナシ外面ヲ内面トナシテ纏絡スヘシ即チ先ツ左ノ拇指ヲ以テ帶ノ上縁ヲ押ヘ右手ヲ前轉シ後片ノ半ヲ重襲シテ漸々上行シ終ルモノナリ(第九十二圖ノ如シ)

四交叉帶 S字形ニ纏絡スルモノニシテS字帶トモ稱シ肘又ハ膝ノ如ク屈伸スル部ニ施行ス即チ膝ニアリテハ帶ノ始端ヲ膝蓋ノ上部ニ當テ茲ニ環行帶ヲ施スコト二三回ニシテ斜メニ膝臑ヲ過キ降りテ下腿ニ至リ一回廻轉シ更ニ斜メニ膝臑ヲ過キ前片ト交叉シ昇リテ大腿ニ至リ一周シ再ヒ前ノ如ク上下スルコト數回ニシテ毎回前片ノ半ヲ重襲シ後環行帶ヲ施シテ固定ス(第九十三圖ノ如シ)其他左ノ圖ノ如ク施行スルコトアリ

圖三十九第



圖四十九第



五、人字帶 之レ肩胛又ハ鼠蹊部ニ施スモノナリ例ヘハ鼠蹊部ニ於テハ始端ヲ健側ノ腸骨前上棘ノ直下ニ置キ茲ニ環行帶ヲ施シ後斜メニ患側ノ鼠蹊ヲ降り大腿ノ外面ヨリ後側ヲ廻リ再ヒ昇リテ腸骨部ニ至リ腰圍ヲ一周シ數回前法ヲ反覆シ而シテ昇降毎ニ前片ノ半ヲ重襲シ最後ニ腰圍ニ環行帶ヲ施シテ終ルモノナリ(第九十四圖ノ如シ)

六、反覆帶 之レ頭蓋ノ創傷ニ施ス即チ頭圍ニ環行帶ヲ施シテ始端ヲ固定シ後頭部ニ於テ反轉シ頭蓋ノ中央ヲ過キテ前額部ニ達ス(或ハ前額



圖五十九 第



ヨリ始ムルモ可ナリ茲ニ於テ又後方ニ反轉シ毎回前片ノ三分ノ一  
 或ハ半ヲ重襲シ最後ニ環行帶ニテ固定  
 ス而シテ其反轉スルヤ左指ニテ反轉部  
 ヲ押ヘ右手ニテ纏絡スルナリ(第九十五  
 圖ノ如シ)

正中ヲ前額ニ當テ兩軸ヲ左右ニ送り後頭結節下ニ至リ相交又シ一  
 ハ頭上ニ昇リ頭蓋ヲ踰エ前額ニ至リ一ハ周圍ヲ半回シテ前額ニ來  
 リシ綱帶上ヲ過キ又後頭部ニ至ル而シテ前額ニ來リシ一軸ハ更ニ  
 反轉シテ頭頂ノ他側ヲ踰ヘ後頭ニ返ス此ノ如ク一ハ環行或ハ反轉  
 ノ用ヲナシ以テ頭蓋ヲ被フヘシ

綱帶解除ノ注意 綱帶ヲ去ルニハ頗ル注意ヲ要ス若シ粗暴ニ處置ス  
 ルトキハ出血創ニ在リテハ再ヒ出血ヲ來シ骨折ニアリテハ骨端ノ轉  
 位ヲ招クコトアリ其他新生組織ヲ剝離シ或ハ創面ヲ汚シテ不良ノ經

圖六十九 第



ヲ作り一軸ハ頭頂ヲ踰ヘ一軸ハ顛下ヲ廻リ他側ノ顛部ニ至リ上

過ヲ來スコトアリ若シ膿又ハ血液ノ爲ニ綱帶凝着シテ去リ難キトキ  
 ハ微温ノ石炭酸水或ハ昇汞水ヲ以テ濕潤シ後徐々ニ解クヘシ又卷軸  
 帶ハ之ヲ解クニ從テ之ヲ一手ニ集握シ左右交換シ可及的患部ニ接シ  
 テ解除スヘシ

以下身體各部ニ於ケル綱帶術式並ニ其效用ヲ述ヘン

一 頭部反覆帶 其ノ式前記スルカ如シ其効タル頭蓋ノ綱帶品ヲ固定  
 シ又適宜ノ壓迫ヲ施スニアリ

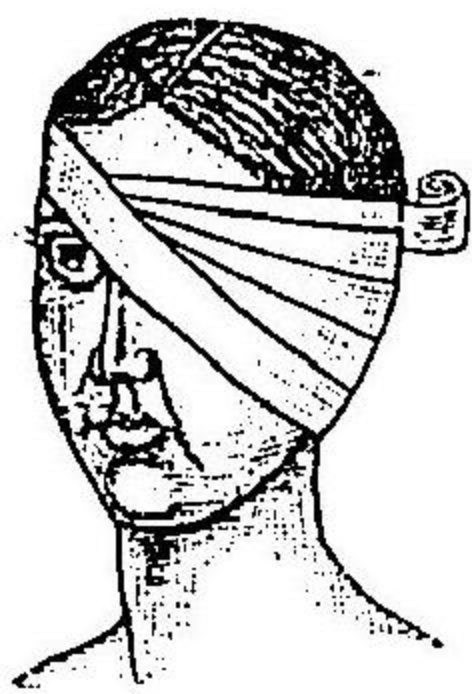
二 結節帶 之レ顛顛動脈ヲ壓迫スルカ爲ニ施スモノニシテ適宜ノ壓  
 定巾ヲ動脈上ニ置キ兩頭軸ノ中央ヲ該  
 巾上ニ當テ一軸ハ前頭一軸ハ後頭部ニ  
 向ヒテ廻轉シ他側ノ顛顛部ニ於テ前後  
 交叉シ再ヒ壓定巾上ニ返ス茲ニ於テ兩  
 軸ヲ交叉スルニ當リ一回捻轉シテ結節

下交叉シテ後壓定巾上ニ返シ第二ノ結節ヲ作り後頭項ヲ環行ス而シテ此ノ如ク同法ヲ反覆スルコト數回ニシテ環行帶ニ終ル効用ハ顚顚動脈ノ出血ヲ制止ス(第九十六圖ノ如シ)

三、偏眼帶

其法先ツ頭ノ周圍ニ環行帶ヲ施シ後項部ヨリ患側耳ノ耳

圖七十九第



下ヲ過キ斜ニ上リテ患眼ヲ被ヒ前頭及顚頂骨ヲ過キテ環行帶ト交叉シ再ヒ頂部ニ至ル此ノ如クスルコト數回後環行帶ニ終リ以テ偏眼ノ繃帶品ヲ固定ス

四、兩眼帶

偏眼帶ノ如ク始メ一眼ヲ被ヒ終

リ前頭及顚頂上ヲ經テ環行帶ト會スレハ之ト交叉スルコトナク環行帶ニ沿ヒ頭圍ヲ一周シテ頂部ニ至リ之ヨリ上行シテ他側ノ顚頂ヲ過キ斜ニ下リテ他ノ一眼ヲ被フコト前回ノ如クシ最後ニ環行帶ヲ施シ以テ兩眼ノ繃帶品ヲ固定ス

五、下顎帶

其法始端ヲ後頭結節下ニ置キ斜ニ左側顚頂骨ノ中央ヲ經

圖八十九第

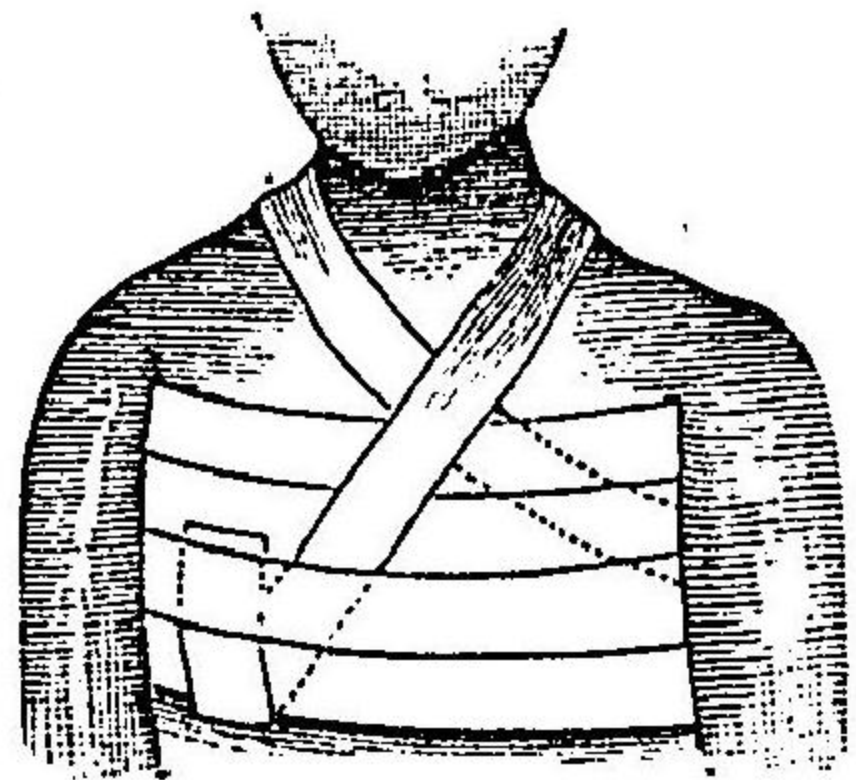


テ頭頂ニ至リ右顚顚ヲ過キテ下行シ顚下ヨリ顚ノ左側ニ出テ左顚顚ヨリ頭頂ニ上リ右側ノ顚頂骨中央ヲ經テ再ヒ起點ニ返リ之ヨリ左側ノ下顎下緣ニ沿ヒ顚尖ヲ經テ又後頭部ノ起點ニ至ル茲ニ於テ更ニ前法ヲ反覆シ最後ニ頭圍ニ環行帶ヲ施スコト法ノ如シ之レヲ下顎ノ骨傷又ハ脫臼等ニ用ユ第九十八圖ノ如シ

六、胸部環行帶

胸部ニ於テ單ニ環行帶ヲ施ストキハ暫時ニシテ脱落

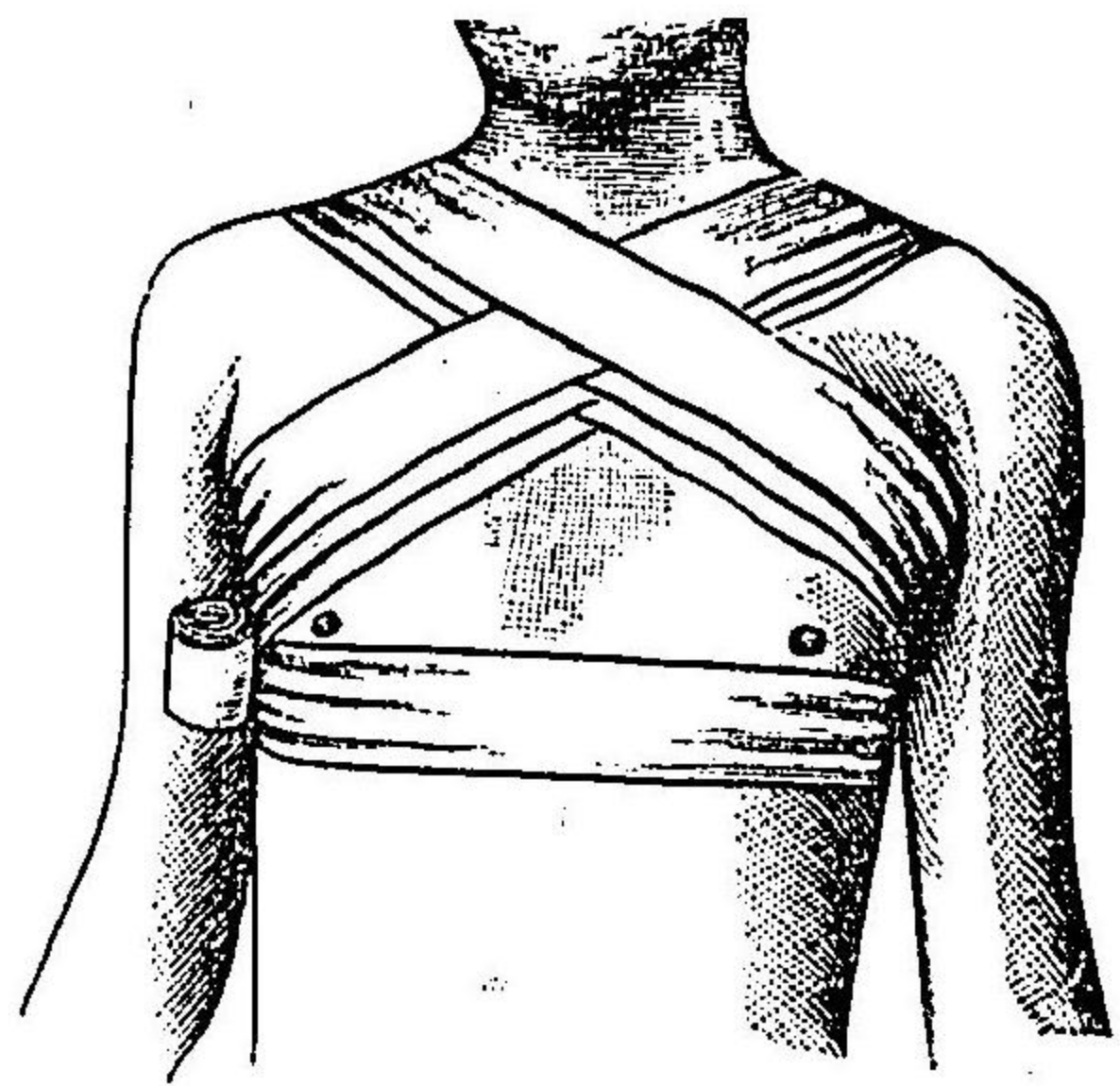
圖九十九第



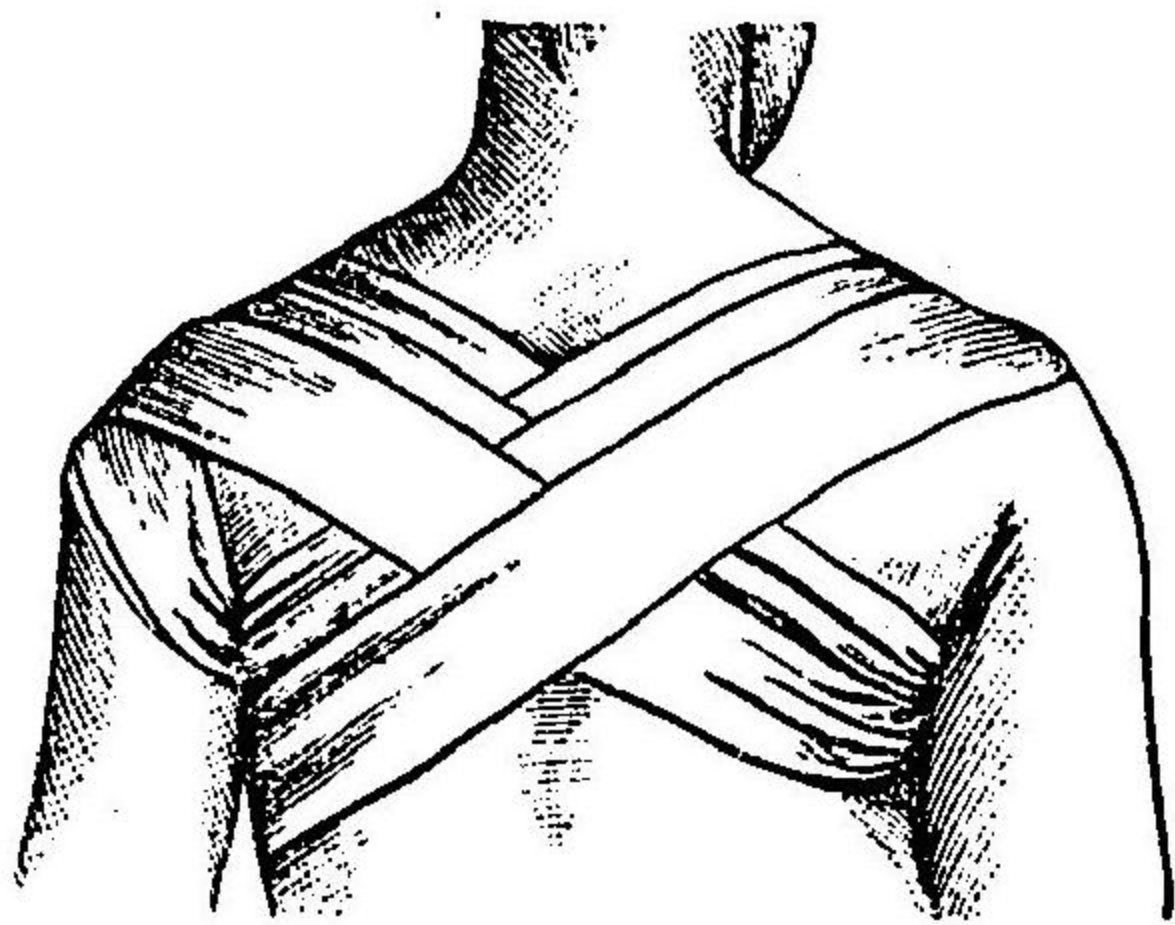
シ其効ヲナサス故ニ特殊ノ法ヲ要ス始端ヲ解キ健側ノ肩ニ掛ケ背部ニ垂レシムルコト三尺餘ニシテ帶ハ斜ニ下リテ病側ノ腋下ヲ過キ胸圍ヲ環行スルコト二三回以テ背後ニ垂ル、所ノ始端ヲ固定シ然ル後順次前片ノ三分ノ一ヲ重襲シテ胸圍ヲ上

リ轉シテ肩上下ヨリ腋下ヲ繞リ8字形ヲナシ再ヒ環行帶ヲ施シテ終ル而シテ背後ニ垂レタル始端ハ病側ノ肩ヲ踰ヘテ前胸部ニ翻轉シ環行帶ノ下部ニ針刺シテ固定ス効ハ胸部ノ創傷ニ於テ繃帶ヲ固定シ又肋骨ノ骨折ニ於テ骨端ノ移動ヲ防クニ用ユ(第九十九圖ノ如シ)七胸部十字帶 兩肩ヲ胸部ニ向テ戔合セシメント欲セハ胸前ニ於テ

圖百第



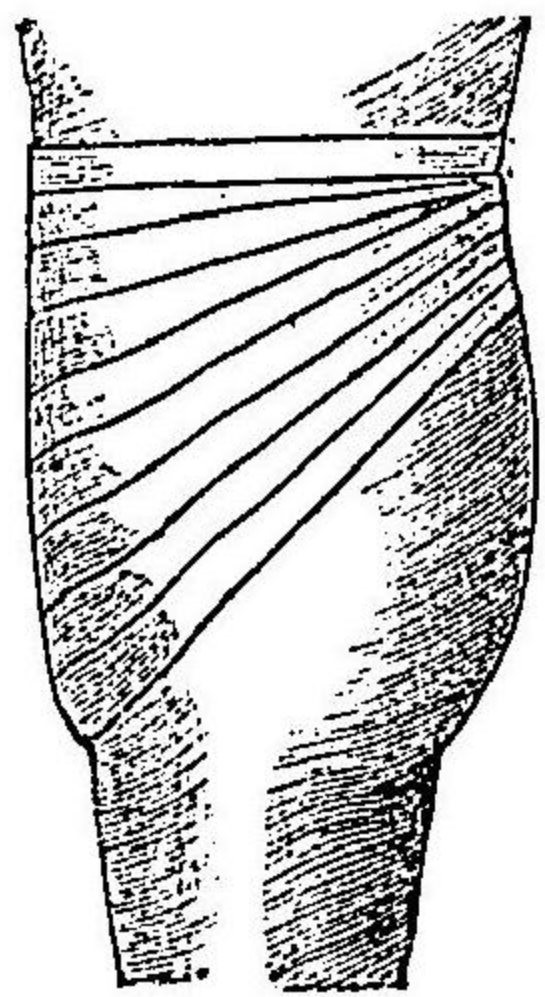
(圖ノ帶字十部胸)



(圖ノ帶字十部背)

交叉シ又兩肩ヲ排開セシメント欲セハ背部ニ於テ交叉スヘシ甲ニ於テハ先ツ始端ヲ一側ノ腋下ニ置キ胸圍ニ環行帶ヲ施シ次ニ綿花ヲ腋窩ニ當テ介者ヲシテ兩肩ヲ胸骨ニ向テ壓迫セシメ後ヨリ左肩ヲ踰ヘテ斜ニ前胸部ヲ下リ右腋下ニ至リ後ヨリ右肩ヲ踰ヘ斜ニ胸部ヲ下リ十字形ニ交叉シ左腋下ニ至ル此ノ如クスルコト數回後環行帶ヲ施シテ終ルコト法ノ如クス効ハ創傷ノ位置ニヨリ兩肩ヲ排開若シクハ戔合シ又鎖骨腋下等ノ繃帶品ヲ固定ス(第百圖ノ如シ)

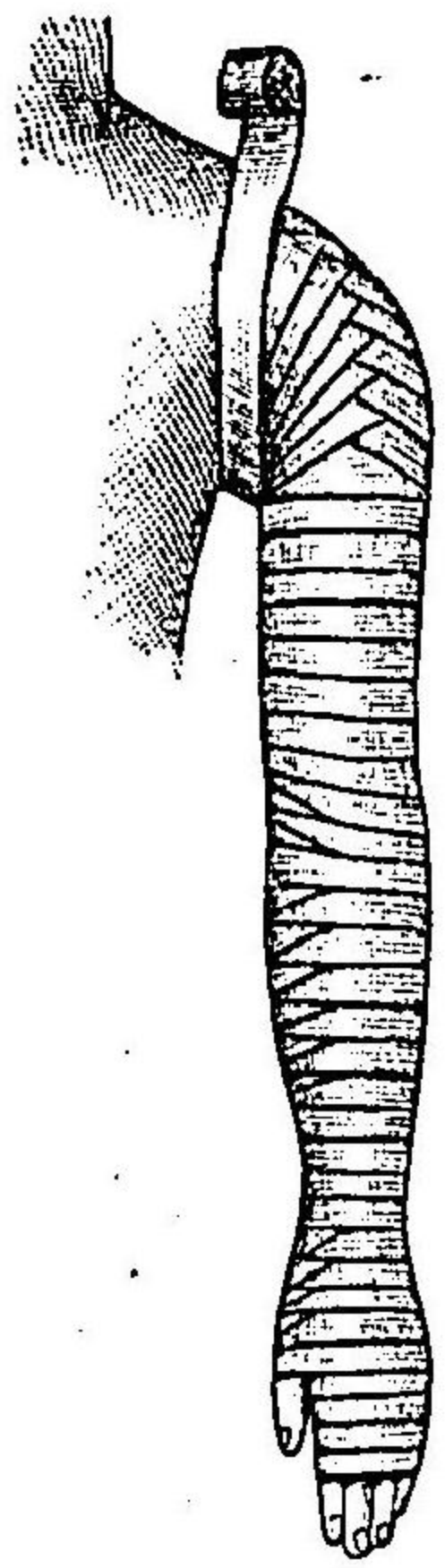
圖一百第



八腹部扇狀帶 始端ヲ第五腰椎部ニ置キ斜ニ下腹ニ向ヒ一周シテ起點ニ歸リ以テ始端ヲ固定シ再ヒ下腹ニ向テ周擁スルコト前ノ如クシ毎片前腹面ニ於テハ前片ノ三分ノ一ヲ重襲シ背面ニ於テハ殆ト全片ヲ重襲ス其効ハ腹部ニ適宜ノ壓迫ヲ與ヘ又其

部ノ縲帶品ヲ固定スルニアリ  
 九上肢螺旋帶 其法先ツ病臂ヲ外轉ノ位置ニ保チ始端ヲ手腕部ニ當  
 テ撓骨側ヨリ尺骨側ニ向テ纏絡スルコト二三回而シテ後斜ニ手掌  
 或ハ手背ヲ下リテ指尖ニ至リ更ニ螺旋狀ニ纏絡シツ、上昇シ示指

圖二百第

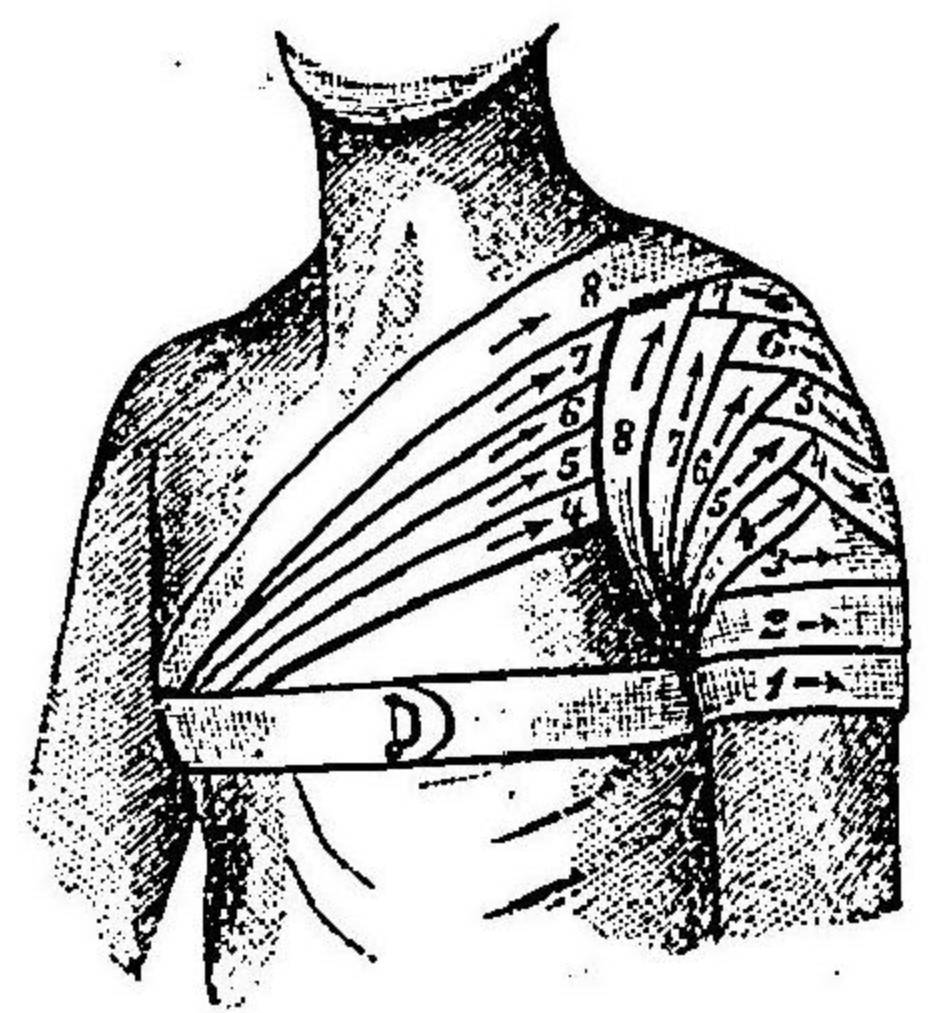
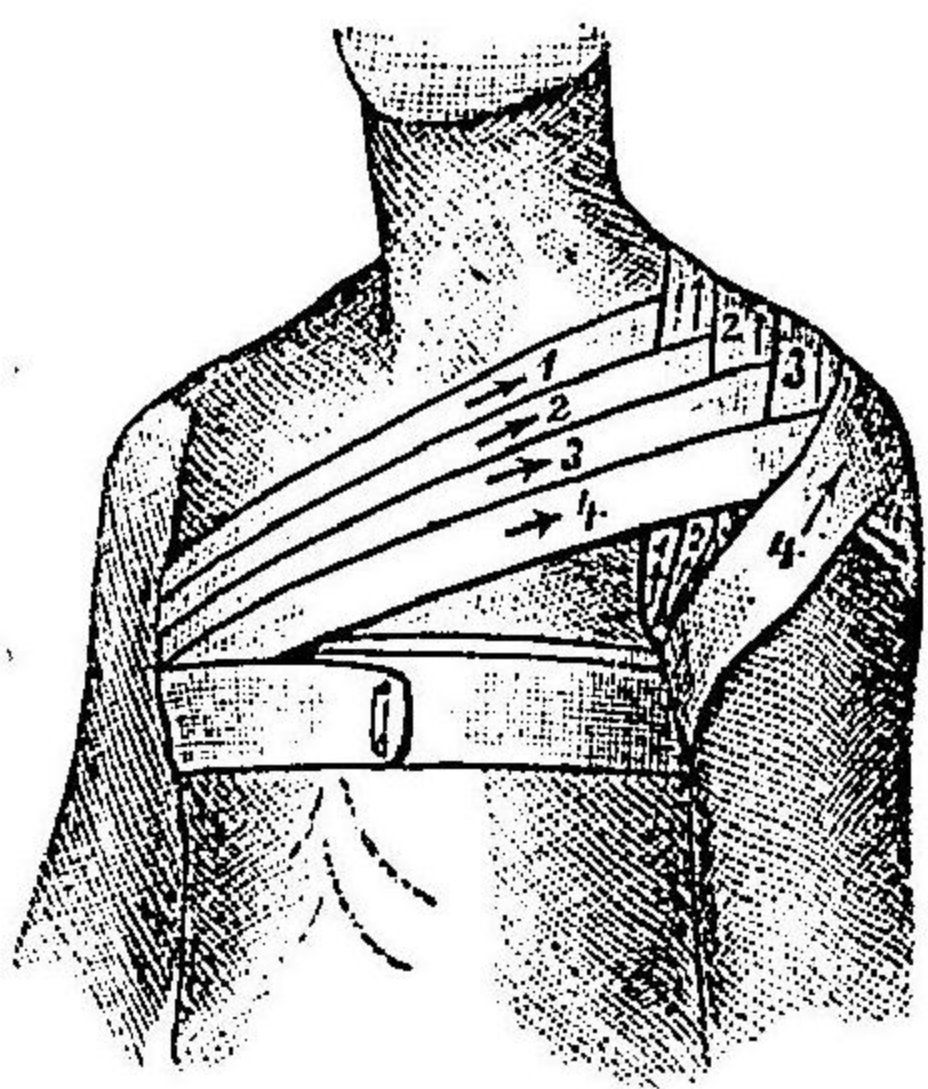


ト拇指ノ間ヨリ手腕  
 ニ於テS字形ニ交叉  
 纏絡シ更ニ前膊部ヲ  
 螺旋狀ニ纏絡シツ、  
 上リ肘部ニ至ル肘關

節ヲ即チ屈曲ノ位置ニ保タント欲セハS字形ニ交叉纏絡シ又之ヲ  
 伸展ノ位置ニ保タント欲セハ其儘螺旋狀ニ纏絡シ肩ニ至ルヘシ其  
 効ハ手臂ノ縲帶品壓定巾等ヲ固定シ或ハ副木ヲ貼スルニアリ(第百  
 二圖ノ如シ)

十肩胛人字帶 例ヘハ右肩ニ於テスルモノハ先ツ卷軸帶ヲ取リ上膊

圖三百第



上部ヨリ内方ニ向テ螺旋狀ニ回轉スルコト二三回ニシテ肩峰外面  
 ニ上リ斜ニ胸前ヲ過キ左腋下ニ至リ背部ニ出テ斜ニ病側肩ニ至

リ其前  
 面ヲ下  
 リ同腋  
 下ヲ過  
 キ又後  
 面ヨリ  
 更ニ肩

峰ヲ踰ヘ胸前ヲ經テ左腋下ニ至ル此ノ如クスルコト數回ニシテ末  
 端ヲ固定ス(第百三圖ノ如シ)  
 但シ兩腋窩ニハ摩擦ヲ防ク爲メ綿花ヲ貼用スヘシ効ハ上膊上部及  
 肩胛ヲ壓定スルニ用ユ  
 十一拇指帶 指趾ニアリテハ總テ幅ノ狭キ縲帶ヲ使用スルコト勿論